Nikon

使用説明書 Jp

User's Manual En

Benutzerhandbuch De

Manuel d'utilisation Fr

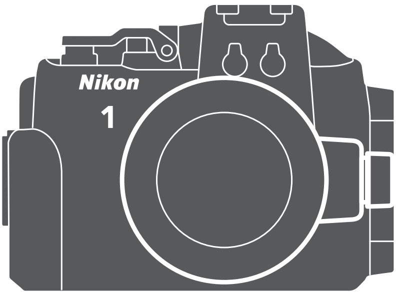
Manual del usuario Es

Manuale d'uso It

使用说明书 Sc

使用說明書 Tc

사용설명서 Kr



WP-N3

Waterproof Case

1

ウォータープルーフケース
WP-N3

使用説明書

ウォータープルーフケース WP-N3 を J4 および S2 に装着すると、雨や雪などの悪天候時や海辺での撮影のほか、水深 45 m以内での水中撮影を楽しむことができます。ご使用の前に、必ず本製品およびカメラの使用説明書をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくご使用ください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次のマークを使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

☑	本製品やデジタルカメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。
📎	本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。
📖	本書上で関連情報が記載されているページです。

☑ 重要：お使いになる前に

ご使用の前に、カメラが正常に作動すること、水漏れしないことを必ずご確認ください(📖 11、17)。誤った使い方をしたり、事前チェックをおこたると、水漏れによりケース内部のカメラが破損し、修理不能となる場合がありますのでご注意ください。

⚠ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは 📖 iii ～ vii をご覧ください。

Jp

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

Jp

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠ 警告

分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと
破損などによるケガの原因となります。

接触禁止 / すぐに修理依頼を

落下などによって破損した時は、破損部に手を触れないこと
破損部でケガをする原因となります。
ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

電池を取る / すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、使用を中止し、内部のカメラの電池を取り出すこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

⚠ 警告

使用禁止

引火、爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。

使用禁止

可燃性スプレーなどを吹き付けたり、可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと
爆発や火災の原因となります。

発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しない
事故の原因となります。

発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない
視力障害の原因になります。撮影時には、1m 以上離れてください。特に乳幼児の撮影には注意してください。

⚠ 警告

⚠ 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
⚠ 警告	**ストラップが首に巻き付かないようにする** **特に幼児・児童の首にストラップをかけない** 首に巻き付くと窒息の原因になります。
🛇 禁止	**本製品を持ったまま水中に飛び込まないこと** 飛び込むと機材が体に当たり、ケガの原因となります。
⚠ 警告	**本製品の中に入れるデジタルカメラには、破損していない電池を使用すること** 破損していないニコンリチャージャブルバッテリー EN-EL22 をご使用ください。本製品は密閉構造になっているため、破損した電池を使用すると、ガスが異常発生して製品内に充満し、破裂や発火などの原因となります。
⚠ 保管注意	**本製品にデジタルカメラを入れたまま保管しないこと** 製品は密閉構造になっているため、デジタルカメラ内の電池からガスが発生して製品内に充満し、破裂や発火などの原因となります。
⚠ 警告	**浸水したら使用をやめる** カメラの電源部からガスが発生し、破裂や爆発の原因になります。 カメラを取り出して電池を抜いてください。
🛇 禁止	**本製品用のシリカゲルおよびシリコングリスを口に入れないこと** 本製品用のシリカゲルおよびシリコングリスは食べられません。

⚠ 注意

⚠ 保管注意	**製品は、幼児の手の届くところに置かない** ケガの原因になることがあります。
⚠ 保管注意	**使用しないときは、カメラを取り出し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
⚠ 移動注意	**三脚に本製品を取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりして、ケガの原因になることがあります。
🛇 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。
🛇 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない** 故障や火災の原因になることがあります。
🛇 禁止	**水深 45m を超える水中では使用しないこと** 動作不良や水漏れの原因となることがあります。
🛇 禁止	**洗浄する際、ウォータープルーフケースに水道水を勢いよく当てないこと** 水漏れの原因となることがあります。
🛇 禁止	**O リングやその接触面に傷を付けたり、異物（砂やゴミ、頭髪など）をはさみ込まないこと** 水漏れの原因となることがあります。
🛇 禁止	**40℃を超える温水の中では使用しないこと** 熱によって変形し、水漏れの原因となることがあります。
🛇 水かけ禁止	**電池の電極を濡らさないこと** 故障や、事故の原因となることがあります。
🛇 禁止	**砂、ほこり、塵の多いところで開閉しない** 防水性能が損なわれ、水漏れの原因となることがあります。

防水性能についてのご注意

- ウォータープルーフケースを水中や水際でご使用になる前は、必ず本使用説明書11、17ページに記載の方法で水漏れテストを行ってください。
- 真水（プール、河川、湖など）と海水のみを防水の対象としています。
- ウォータープルーフケースは水深45m以内での水圧に耐えるように設計されております。水深45mより深いところに持ち込まないでください。水漏れのほか、ケースの破損や変形が起こるおそれや、内部のデジタルカメラの故障の原因となるおそれがあります。
- 急流、滝などの強い水圧がかかるところに持ち込まないでください。
- 水道などからの水を勢いよく当てないでください。強い水圧がかかり、浸水の原因となる場合があります。
- 温泉には持ち込まないでください。
- 水辺や水中にいるとき、およびウォータープルーフケースや手がぬれているときは、ケースを開けないでください。浸水や故障の原因となります。
- 水しぶきのかかる場所や、風の当たる場所、ほこりや砂の多い場所でウォータープルーフケースの開閉を行わないでください。
- ぬれたデジタルカメラをウォータープルーフケースにいれないでください。
- ウォータープルーフケースを密閉する前、およびOリングをケースに装着するときは、ケースの内側やOリング、およびケースのOリングと接する部分（水滴ガードおよびOリング接触面）に汚れや髪の毛、繊維、ほこりや砂粒、液体などの異物が付着していないことを念入りにご確認ください。付着しているときは、すぐに柔らかい乾いた布やブロアーなどで取り除いてください。また、Oリングがねじれたり、はみ出したり、外れたりしていないか、ご確認ください。
- ウォータープルーフケースの外側に異物が付着したときは、柔らかい乾いた布で拭き取ってください。
- 日焼けオイル、日焼け止め、温泉、入浴剤、洗剤、石けん、有機溶剤、油脂、アルコール類などが付着したときは、すぐに拭き取ってください。
- ウォータープルーフケース本体外観部にシールを貼らないでください。
- 曇り止めや接着剤を使用しないでください。
- 専用のシリカゲル以外の乾燥剤を使用しないでください（🕮 25）。
- 寒冷地での低温下または直射日光の当たる場所、車内、船上、砂浜、暖房装置の近くなど、高温になる場所に長時間放置しないでください。防水性能が劣化するおそれがあります。
- ウォータープルーフケースに外部から力を加えると、変形して気密性が失われ、水漏れの原因となります。重いものを載せたり、落としたり強く押したりしないでください。
- ぶつけたり落としたりして、強い衝撃や振動、圧力を与えた場合、防水性能の保証対象外となります。ウォータープルーフケースに衝撃が加わった場合は、ご購入店かニコンサービス機関にご相談の上、防水性能の点検（有料）を依頼されることをおすすめします。
- 万一、水漏れが確認された場合は、ただちに使用を中止し、ウォータープルーフケース内部とデジタルカメラの水分を充分に拭き取り、ニコンサービス機関にお持ちください。
- お客様の誤った取り扱いが原因の浸水などによる故障は、保証の対象外です。

衝撃・振動についてのご注意

ウォータープルーフケースは、内部のデジタルカメラを衝撃から保護するためのものではありません。落としたり、岩など固いものにぶつけたり、水面に投げたり、持ったまま水に飛び込んだりしないでください。また、振動のある場所に置かないでください。衝撃を加えると、ケースやデジタルカメラの故障や破損の原因となります。

使用環境についてのご注意

- 寒冷地では、電池の性能が一時的に低下します。低温時には保温した予備の電池を複数個用意して、暖めながら交互に使用してください。
- 寒冷地では、カメラの電源を ON にした直後に性能が一時的に低下することがあります。
- 寒冷地でウォータープルーフケースの外側に雪や水滴などが付着したときは、すぐに取り除いてください。ボタンやスイッチ類などが凍結すると、動きにくくなる場合があります。
- 寒冷地でウォータープルーフケースの金属部に長時間直接触れると、皮膚に傷害を与える原因となります。長時間ご使用の場合は手袋などをお使いください。
- ウォータープルーフケースを自動車の中や海辺、直射日光があたる場所など、高温になる場所や火気の近くで使用、保管すると、劣化や変形が起こるおそれがあり、内部のデジタルカメラの故障の原因となります。また、急激な温度変化は、ケース内部に水滴を生じ、内部のデジタルカメラの故障の原因となります。水滴の発生を防ぐために、以下の注意を守ってご使用ください。
  - 短時間で寒暖の差が大きい場所へ移動する場合は、移動後、充分にウォータープルーフケースを周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
  - ウォータープルーフケースにデジタルカメラを入れる際に、付属のシリカゲルを所定の位置に入れてください（□ 14）。
  - 水中に入れる前に、砂浜や直射日光があたる場所など温度の高い場所に放置しないでください。

Jp

O リングについてのご注意

- O リングは消耗品です。劣化した O リングは使用しないでください。O リングに傷やヒビが入っている場合や、変形したり弾力がなくなったりしている場合は、新しい O リングに交換してください。使用頻度にかかわらず、少なくとも 1 年に 1 回は新品に交換してください。また、指定以外の O リングやシリコングリスは使用しないでください。
- O リングをウォータープルーフケースから取り外すときは、O リングに傷を付けないように O リングリムーバーを使用して外してください。先のとがったものや、金属などはご使用にならないでください。
- O リングの取り付け、取り外しの際には、O リングを強く引っ張らないでください。O リングがのびて、水漏れの原因になります。
- O リングの摩耗を防ぐため、O リングに専用のシリコングリスを塗布してください。**専用シリコングリス以外は使用しないでください（□ 25）。なお、ニコノス（ニコン製 水陸両用フィルムカメラ）用 O リング油（グリス）や COOLPIX 専用 O リンググリスは使用できません。**

その他のご注意

- 飛行機などを利用する際には、できるだけ手荷物としてお持ちください。機内に預ける場合は、ウォータープルーフケースを密閉しないか、O リングを取り外してください。密閉した状態で預けると、気圧差により、ケースが開きにくくなったり、破損したりするおそれがあります。
- 登山などでウォータープルーフケースを高所で開閉した場合は、ケース内外の気圧差を調整するために、下山の途中で適宜、ケースを開閉してください。開閉せずに下山すると、ケースが開きにくくなったり、破損したりするおそれがあります。

重要

ウォータープルーフケース WP-N3 の中に、対応したデジタルカメラ以外は入れないでください。

ご確認ください

☑ 重要 ご使用になる前に必ずお読みください

ご使用の前に、必ず本製品およびカメラが正常に機能するか、水漏れしないか、確認してください。万一、取り扱い上の不注意により、水没（水漏れ）事故を起こした場合、内部機材（デジタルカメラ、バッテリー、メモリーカードなど）の損害、記録内容や撮影に要した諸費用などの補償は、ご容赦ください。また、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償もご容赦ください。

●保証書について

この製品には保証書が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

Jp

カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録ができます。

https://reg.nikon-image.com/

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●使用説明書について

- 使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書および活用ガイドの内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書の PDF ファイルをダウンロードできます。
  http://www.nikon-image.com/support/manual/
  ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、対応のカメラおよびアクセサリー（O リング、シリコングリス、シリカゲルなど）に適合するように作られておりますので、対応製品との組み合せでご使用ください。

●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や行業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

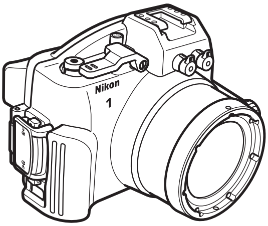
目次

Jp

はじめに

付属品の確認

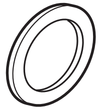
お使いになる前に、本体と付属品が全てそろっていることを確認してください。万一、不足のものがありましたら、ご購入店にご連絡ください。



❑ WP-N3 本体
- 本体には O リング WP-O1100 が装着されています。ご購入時に損傷がないことをご確認ください（🕮 22）。



❑ ズームギア
WP-ZG1020



❑ 写り込み防止シール
WP-IS1000

（1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM をお使いの場合に使用）

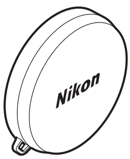


❑ ズームギア
WP-ZG1010

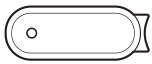


❑ 写り込み防止リング
WP-IR1010

（1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 をお使いの場合に使用）



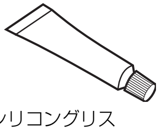
❑ フロントキャップ
WP-LC1000



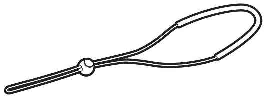
❑ O リングリムーバー
WP-OR1000



❑ シリカゲル WP-S1000
5 個入 1 袋（開封後はチャックをしっかり閉じて保管してください。）



❑ シリコングリス
WP-G1000



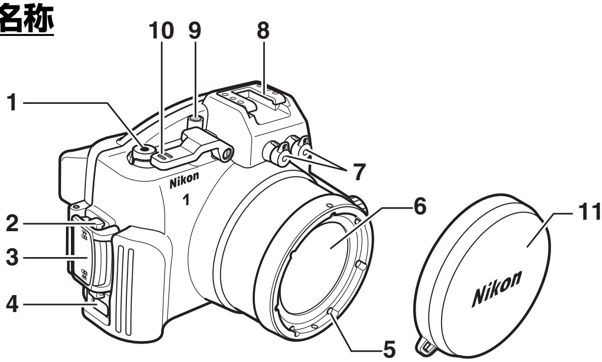
❑ ストラップ WP-AN1000

❑ フロントキャップストラップ WP-AN2000

❑ 使用説明書（本書）

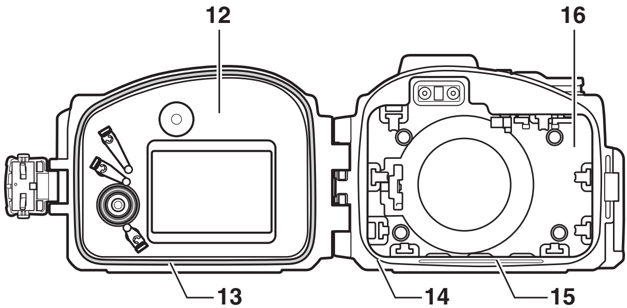
❑ 保証書

各部の名称



- **1** 動画撮影ボタン 18
- **2** バックルロック解除ボタン 4
- **3** バックル 4
- **4** ストラップ穴 3
- **5** φ 67 フィルターネジ
- **6** レンズ窓 14
- **7** 光ファイバーコネクターキャップ * 16
- **8** アクセサリーシュー
- **9** 電源スイッチ 18
- **10** シャッターレバー 18
- **11** フロントキャップ .... 3、25

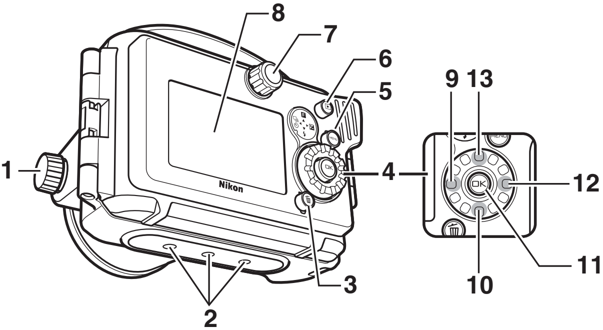
* 別売の水中スピードライト SB-N10 をご使用の場合は、このキャップを取りはずしてください。



- **12** ウォータープルーフケース裏ぶた 4
- **13** O リング/O リング溝 .... 15、22、25
- **14** O リング接触面 .... 15、22
- **15** 水滴ガード .... 15、22
- **16** ウォータープルーフケース前ぶた 4

アクセサリーシューについて

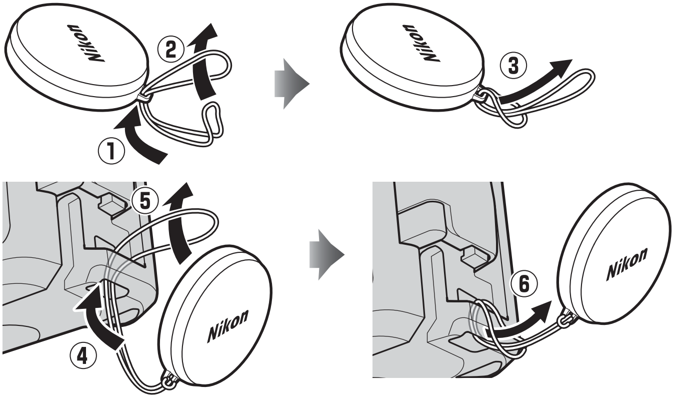
- アクセサリーシューには、水中用フラッシュなどのアクセサリーを取り付けることができます。
- アクセサリーシューにアクセサリーを取り付けて使用する場合、陸上での移動時は取りはずしてください。
- アクセサリーシューにアクセサリーを取り付ける際は、必ずアクセサリーの取扱説明書をお読みください。



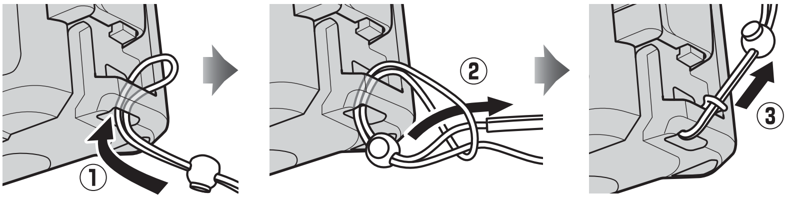
1	ズームダイヤル..........15、18	8	液晶モニター窓
2	三脚ネジ穴	9	(連写 / セルフタイマー)
3	削除ボタン	10	(フラッシュモード)
4	ロータリーマルチセレクター	11	OK ボタン
5	MENU メニューボタン	12	(露出補正)
6	再生ボタン	13	(フィーチャー)
7	撮影モードダイヤル *..........18		

* J4 をご使用の場合のみ使用します。

フロントキャップ用ストラップの取り付け方



ストラップの取り付け方

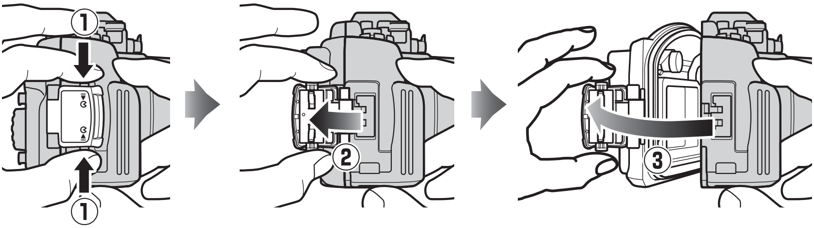


Jp

ウォータープルーフケースを開閉する

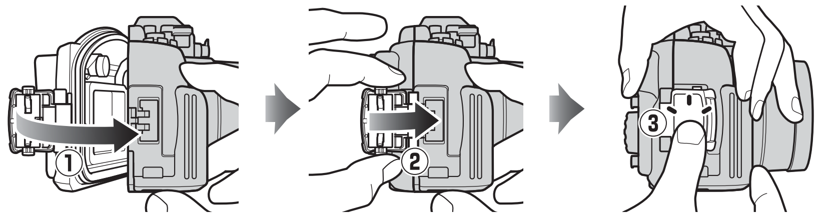
ウォータープルーフケースを開ける

バックルロック解除ボタンを押しながら (①)、バックルを開け (②)、裏ぶたを開きます (③)。



ウォータープルーフケースを閉める

裏ぶたを前ぶたに合わせてから (①) バックルを前ぶた側に倒し (②)、カチッとロックされるまでバックルを押し込んで閉じます (③)。



- O リングが外れないように注意しながら、静かに閉じてください。
- バックルが完全にロックしているか確認してください。
- 水漏れを防止するために O リングがはみ出したり、ケースに異物がはさまっていないか、再度確認してください (🕮 23)。

☑ ウォータープルーフケース開閉時のご注意

- ウォータープルーフケースを開ける前に、本製品が完全に乾いているか、また汚れていないかを確認してください。汚れているときは必ず真水（水道水など）で洗い、乾いた布で水分をよく拭き取ってから開けてください。
- 絶対にバックルロック解除ボタンやバックルを水中で操作しないでください。
- 水中での使用後にウォータープルーフケースを開けるときは、残った水滴や砂などが内部に入らないよう、十分にご注意ください。
- ウォータープルーフケースを開けてカメラを取り出すときは、カメラが落下しないようにご注意ください。

使用するカメラに合わせて内部パーツを確認する

本製品は、お買い上げ時の状態では J4 用のパーツ構成となっています。内部パーツを付け換えることで、S2 にも対応できるようになります。

• 付け換えるときにパーツを落としてなくさないようにご注意ください。

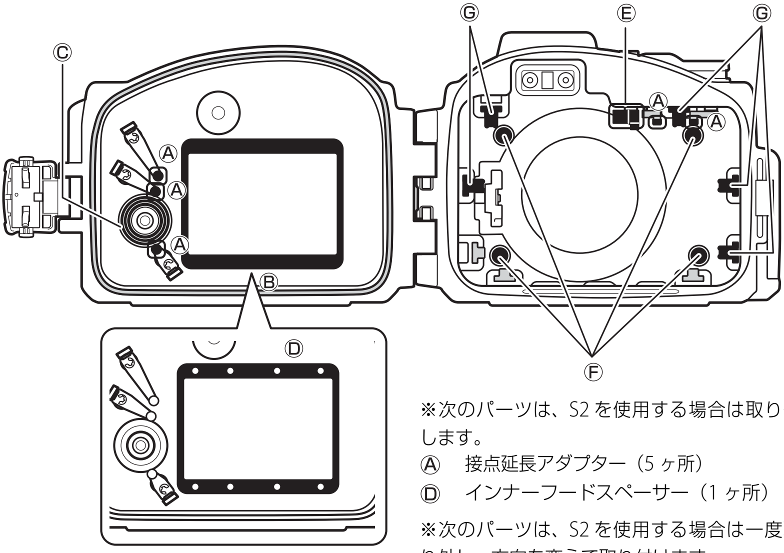
J4 を使用する場合

J4 を使用する場合は、お買い上げ時の状態のままご使用ください。

S2 を使用する場合

S2 を使用する場合は、ウォータープルーフケース内部の以下のパーツを付け換えます。

Jp



※次のパーツは、S2 を使用する場合は取り外します。

Ⓐ　接点延長アダプター（5 ヶ所）

Ⓓ　インナーフードスペーサー（1 ヶ所）

※次のパーツは、S2 を使用する場合は一度取り外し、方向を変えて取り付けます。

Ⓒ　マルチセレクター接点（1 ヶ所）

Ⓑ　インナーフード（1 ヶ所）

Ⓔ　電源スイッチ接点（1 ヶ所）

Ⓕ　フロントクッション（4 ヶ所）

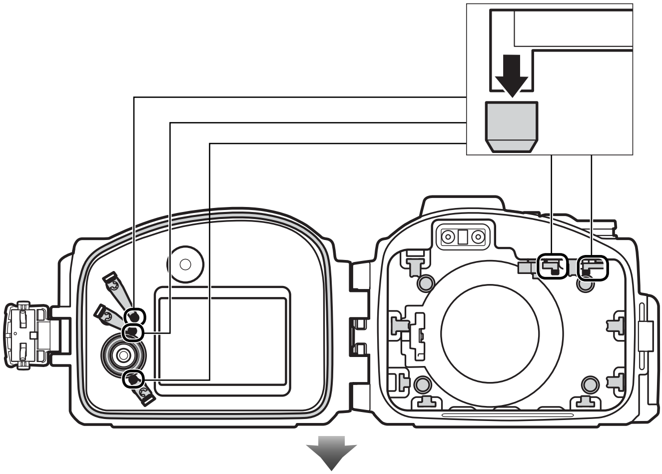
Ⓖ　サイドクッション（5 ヶ所）

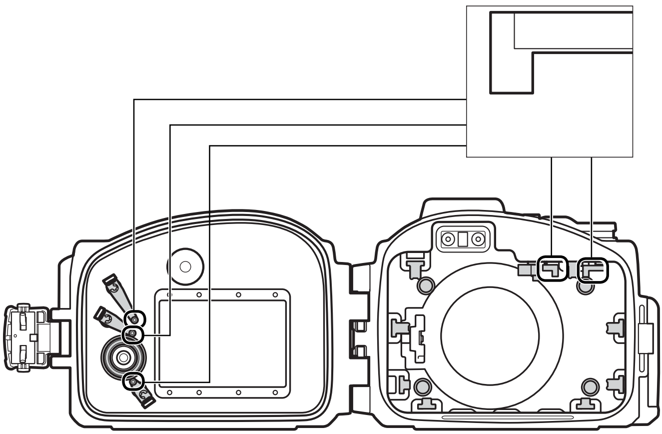
S2 を使用する場合（続き）

S2 を使用する場合は、接点延長アダプターおよびインナーフードスペーサーを取り外します。

Ⓐ 接点延長アダプター（5 ヶ所）

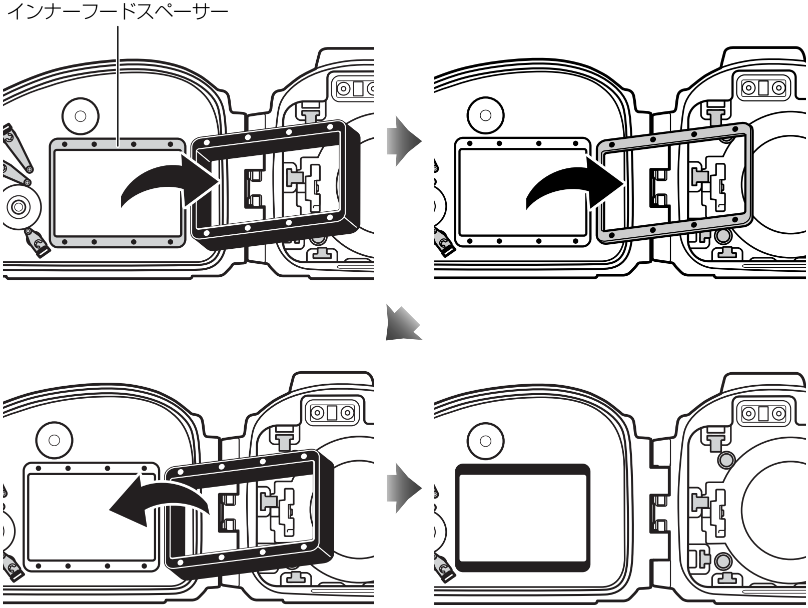
- 接点延長アダプターを取り外します。





Ⓑ インナーフード / Ⓓ インナーフードスペーサー（1 ヶ所）

• インナーフードとインナーフードスペーサーを取り外した後、再度インナーフードのみを取り付けます。



☑ 重要

• 各パーツはしっかりと奥まで差し込んでください。しっかりと差し込まれていない場合、水漏れやカメラの故障、パーツ紛失の原因となります。
• パーツを付け換えるときは、指や爪を傷つけないようにご注意ください。
• パーツの付け換えは必ず明るい室内で行ってください。
• S2 を使用する場合は、接点延長アダプターおよびインナーフードスペーサーは使用しません。なくさないように大切に保管してください。

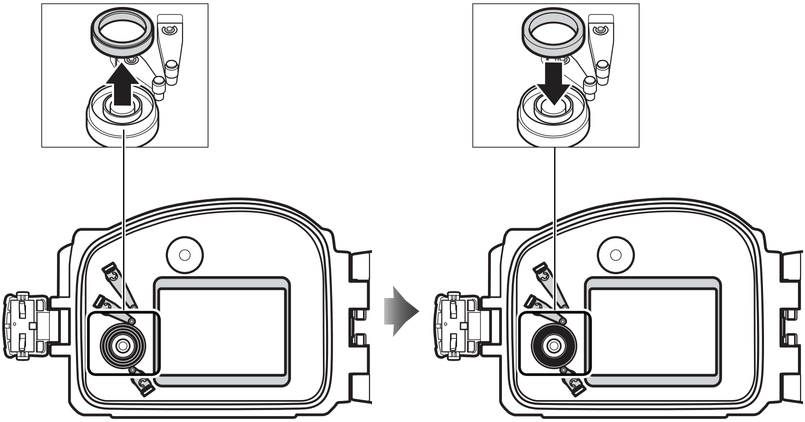
Jp

S2 を使用する場合（続き）

S2 を使用する場合は、マルチセレクター接点、電源スイッチ接点、フロントクッション、サイドクッションを一度取り外し、向きを変えて取り付けます。

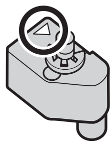
Ⓒ マルチセレクター接点（1 ヶ所）

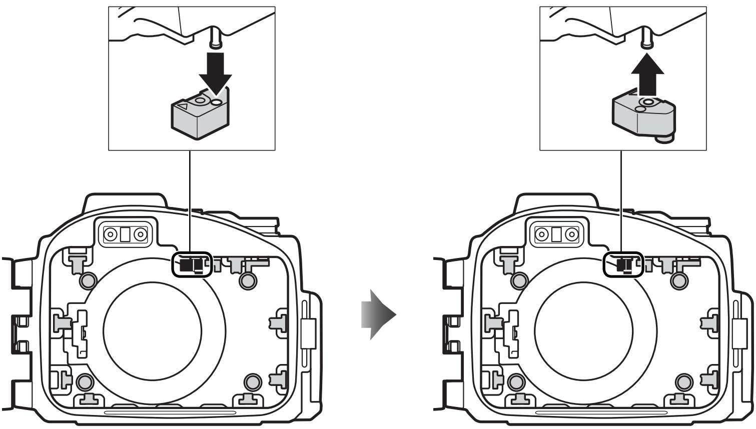
- マルチセレクター接点を一度取り外し、図の向きにして差し込みます。



Ⓔ 電源スイッチ接点（1 ヶ所）

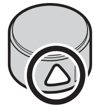
- 電源スイッチ接点を一度取り外し、三角形のマークの頂点側にある穴に差し込みます。

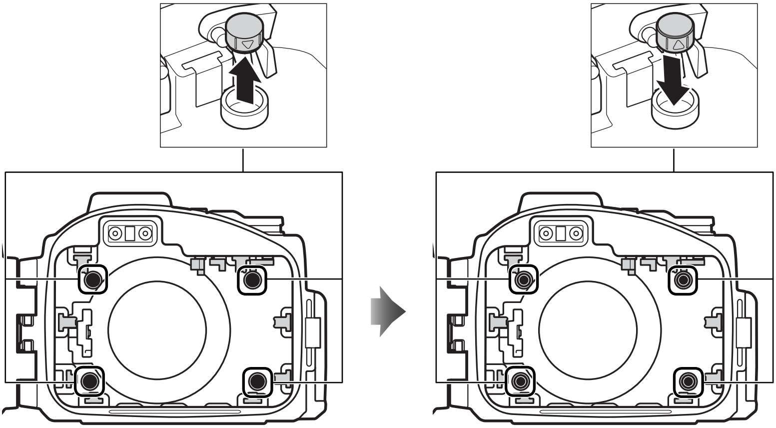




Ⓕ フロントクッション（4 ヶ所）

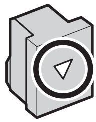
- フロントクッションを一度取り外し、三角形のマークの頂点側を上にして差し込みます。

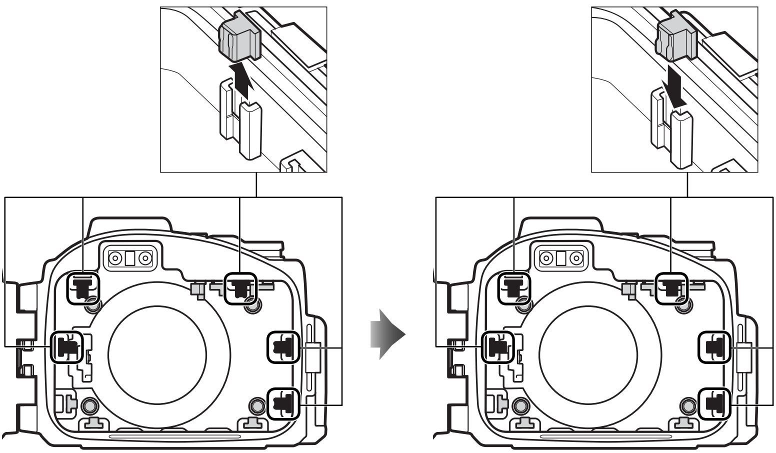




Ⓖ サイドクッション（5 ヶ所）

- サイドクッションを一度取り外し、三角形のマークの頂点側を下にして差し込みます。

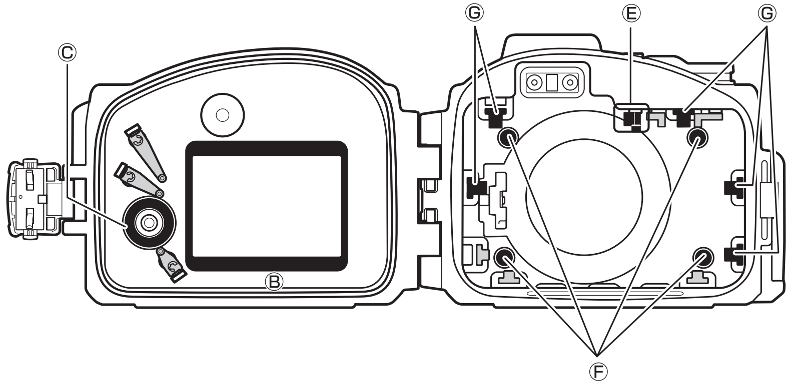




Jp

S2 を使用する場合（続き）

パーツの付け換えが完了すると、以下の図のような構成になります。



Ⓒ　マルチセレクター接点（1 ヶ所）
Ⓑ　インナーフード（1 ヶ所）
Ⓔ　電源スイッチ接点（1 ヶ所）
Ⓕ　フロントクッション（4 ヶ所）
Ⓖ　サイドクッション（5 ヶ所）

- J4 用の構成に戻す場合は、各パーツが元の状態になるように再度付け換えてください。

Jp

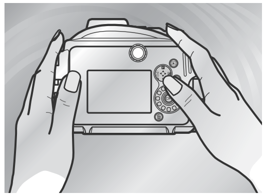
カメラを入れる前の水漏れチェックをする

重要

ご使用の前に、カメラが正常に作動すること、および水漏れしないことを必ずご確認ください。誤った使い方をしたり、事前チェックをおこたると、水漏れによりケース内部のカメラが破損し、修理不能となる場合がありますのでご注意ください。

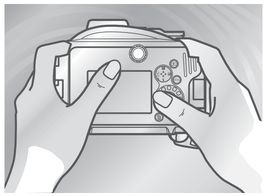
カメラを入れる前に、空のウォータープルーフケースを密閉した状態で水の中に入れて、水漏れチェックを行います。

1 ウォータープルーフケースを閉めて、水の中に入れる



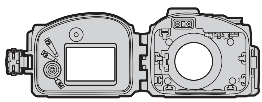
- ケースから気泡が出ていないことを確認しながら、ゆっくりと入れてください。
- 2 ～ 3 秒間、水の中につけ、ケースから気泡が出ていないことを確認してください。
- 水漏れチェックは、浅い水深（1m 程度）や、常温の水を入れたバスタブなどで行ってください。使用温度範囲（0 ～ 40℃）を超える可能性がありますので、お湯の中では行わないでください。

2 2 ～ 3 分間、水の中につけ、各ボタンやダイヤルなどを操作する



- ケースから気泡が出ていないことを確認してください。

3 水の中から出してケースを開け、内部に水が溜まっていないか確認する



- ケースを開ける前に乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- ケース内部に水が溜まっている場合は、O リングに原因がある可能性があります。O リングの状態を確認してください（□ 15、22 ～ 23）。万一、正常な取り扱いで水漏れが確認された場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

Jp

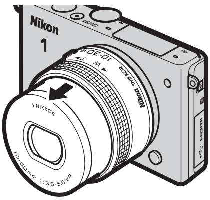
レンズの準備をする

レンズは 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM または 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 を取り付けてください。それ以外のレンズは使用できません。

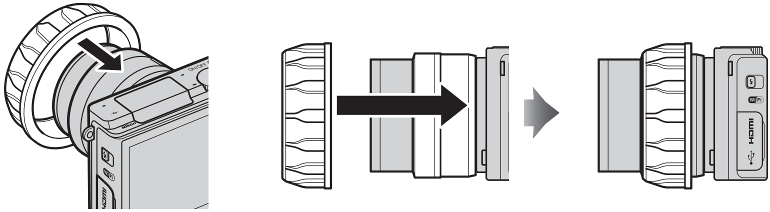
1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM を取り付けた場合

1 カメラにレンズを取り付け、鏡筒を繰り出す

- カメラの電源を ON にすると、自動的にレンズの鏡筒が繰り出します。



2 ズームギアを取り付ける

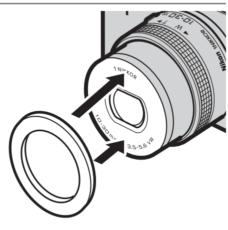


ズームギアをレンズに対してまっすぐに、突き当たるところまで合わせて装着してください。

- ズームギアを装着した状態で、ズームリングが滑らかに回ることを確認してください。ズームリングが滑らかに回らない場合は、ズームギアの取り付け位置を調整してください。

3 レンズに写り込み防止シールを貼る

- 図のように、レンズの先端に写り込み防止シールを貼ってください。
- 写り込み防止シールを貼らずに撮影した場合、レンズ前面の文字がウォータープルーフケースのレンズ窓に反射して写り込むことがあります。
- 写り込み防止シールは繰り返し使用できます。レンズから剥がした後は、台紙に貼って保管してください。
- 写り込み防止シールの粘着力が弱くなった場合は、ウェットティッシュなどで貼付け面の汚れを取り除いてください。



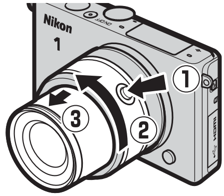
4 カメラの電源を OFF にして、鏡筒を収納する

- カメラの電源を OFF にすると、自動的にレンズの鏡筒が収納されます。

1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 を取り付けた場合

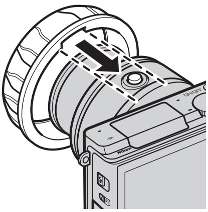
1 カメラにレンズを取り付け、鏡筒を繰り出す

- ズームリングボタンを押しながら (①) ズームリングを矢印の方向に回します (②)。ズームリングのロックが解除され、レンズが繰り出します (ズームリングのロックを解除するとカメラの電源が自動で ON になるため、電源スイッチを押して OFF にしてください)。

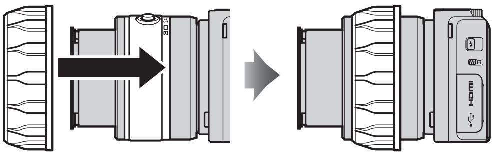


Jp

2 ズームギアを取り付ける



ズームギア内側の溝が、レンズのズームリングボタンに合うように位置を合わせてください。

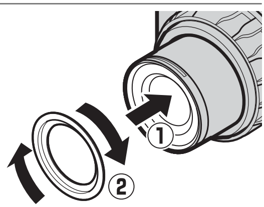


ズームギアをレンズに対してまっすぐに、突き当たるところまで合わせて装着してください。

- ズームギアを装着した状態で、ズームリングが滑らかに回ることを確認してください。ズームリングが滑らかに回らない場合は、ズームギアの取り付け位置を調整してください。

3 レンズに写り込み防止リングを取り付ける

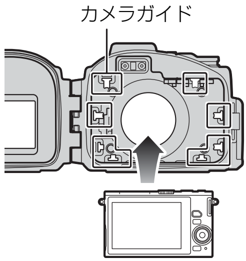
- 図のように、レンズの先端に写り込み防止リングを取り付けてください。
- 写り込み防止リングを取り付けないで撮影した場合、レンズ前面の文字がウォータープルーフケースのレンズ窓に反射して写り込むことがあります。



カメラをウォータープルーフケースに入れる

1 **メモリーカードと、残量が充分にあるバッテリーをカメラに入れる**

2 **カメラを入れる**

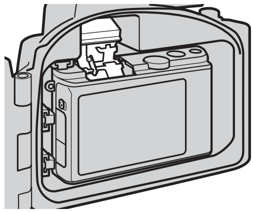


- レンズがウォータープルーフケースのレンズ窓に合うように入れてください。
- カメラがウォータープルーフケース内のカメラガイドの中に正しく収まっているか、確認してください。

☑ カメラを入れる場合のご注意

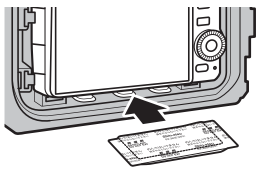
カメラにストラップを付けたままウォータープルーフケースに入れると、ケースの開閉時にカメラのストラップを挟み込み、水漏れの原因となります。カメラのストラップは必ず取り外してください。

☑ 別売水中スピードライト SB-N10 を使用する場合のご注意



- ウォータープルーフケースにカメラを入れる前に、内蔵フラッシュを上げてください。ウォータープルーフケースにカメラを入れてから内蔵フラッシュを上げると、内蔵フラッシュが正常に上がらないおそれがあります。

3 **シリカゲルを入れる**



- 付属のシリカゲルを、カメラの底面とウォータープルーフケースの間に入れます。図の方向に、奥まで入れてください。
- シリカゲルが奥まで入っていなかったり、場所をまちがえると、ウォータープルーフケースの開閉時に挟み込んで水漏れの原因になります。シリカゲルが正しく入っているか、ご確認ください。
- シリカゲルを入れ忘れると、ウォータープルーフケースの内側が曇ったり、水滴が発生しやすくなりますので、ご注意ください。

☑ シリカゲルの交換について

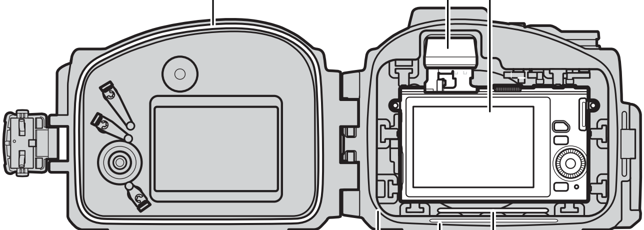
一度使用したシリカゲルは吸湿性能が低下します。ご使用ごとに交換することをおすすめします（🕮 25）。

4 閉じる前のチェックをする

O リングのチェック
- O リングにヒビや傷がある場合は、新しい O リングに交換してください。
- O リングがはみ出したりねじれたりしている場合は、はめ込み直してください。
- 髪の毛やゴミ、砂粒などの異物が付着している場合は、取り除いてください。

内蔵フラッシュの状態は使用する用途に合っていますか？　水中スピードライトを使用する場合は内蔵フラッシュを上げ、使用しない場合は内蔵フラッシュを収納してください。

カメラのチェック
- カメラの入れ方が間違っている場合は、入れ直してください (□ 14)。
- ストラップは取り外してください。



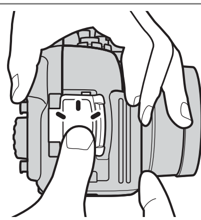
O リング接触面や水滴ガードに髪の毛やゴミ、砂粒、液体などの異物が付着している場合は、取り除いてください。

シリカゲルの方向が間違っている場合は、入れ直してください (□ 14)。

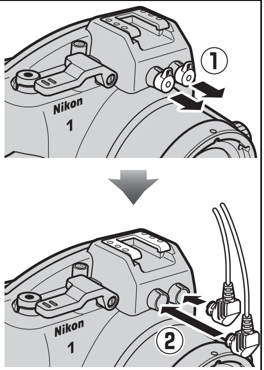
レンズのチェック
- ズームリングは滑らかに回りますか？　ズームリングが滑らかに回らない場合やズームダイヤルを回してもズーミングしない場合は、ズームギアの取り付け位置を調整してください。
- レンズに写り込み防止シールを貼るか、写り込み防止リングを取り付けてください (□ 12、13)。

5 ウォータープルーフケースを閉める

- ウォータープルーフケースをしっかり閉じてください。



☑ 水中スピードライト SB-N10 を使用する場合について



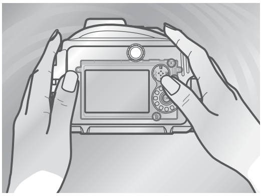
- 本製品には、光ファイバーコネクター（2 箇所）が装備されています。カメラの内蔵フラッシュの発光を利用して水中スピードライトを発光させる場合、光ファイバーコネクターキャップを取り外し（①）、別売の水中光ファイバーケーブル SC-N10A でウォータープルーフケースとスピードライトを接続してください（②）。
- 水中光ファイバーケーブルを 1 本のみ接続する場合、ケーブルを接続しない光ファイバーコネクターは、キャップを取り付けたまま使用してください。
- 水中で水中光ファイバーケーブルや光ファイバーコネクターキャップがはずれても、浸水の恐れはありません。
- 水中スピードライトをウォータープルーフケースに接続した場合、水中でご使用になる前に、必ずスピードライトが確実に動作（発光）することを確認してください。
- 水中スピードライト SB-N10 の使用方法についてはスピードライトの使用説明書を、フラッシュ撮影についてはカメラの使用説明書を参照してください。

カメラを入れた後の水漏れ最終チェックをする

☑ 重要

ご使用の前に、カメラが正常に作動すること、水漏れしないことを必ずご確認ください。誤った使い方をしたり、事前チェックをおこたると、水漏れによりケース内部のカメラが破損し、修理不能となる場合がありますのでご注意ください。

カメラをウォータープルーフケースに入れて密閉した状態で、撮影前の最終的な水漏れチェックを行います。



カメラを入れたウォータープルーフケースを水の中に入れて、水漏れチェックを行います。

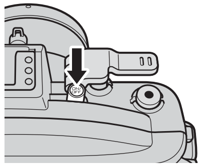
- 「カメラを入れる前の水漏れチェックをする」(📖 11)と同じ手順で、水漏れチェックを行います。
- ケースを開け、内部のシリカゲルが濡れていないことを確認してください。
- 万一、水漏れが確認された場合は、ただちに水の中から引き上げ、カメラやケースについた水分をよく拭き取ってから、O リングやケースの密閉状態を再度確認してください。正常な取り扱いで水漏れが確認された場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。

Jp

撮影する

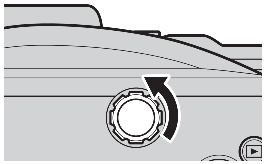
1 カメラの電源を ON にする

- ウォータープルーフケースの電源スイッチを押してカメラの電源を ON にします。
- 電源ランプ（緑色）が一瞬点灯した後、液晶モニターが点灯します。
- もう一度電源スイッチを押すと、電源が OFF になります。電源が OFF になると、液晶モニターが消灯します。



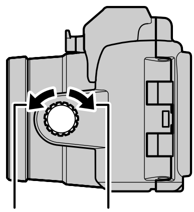
2 使用する撮影モードを選択する

- J4 の場合は、撮影モードダイヤルを回して撮影モードを切り換えます。S2 の場合は、メニューボタンを押して表示される画面から撮影モードを選択します。
- 各撮影モードについては、カメラの使用説明書を参照してください。



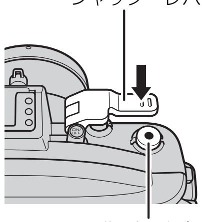
3 構図を決める

- 被写体を大きく写したいときはズームダイヤルを望遠側に、広い範囲を写したいときはズームダイヤルを広角側に回してください。



4 撮影する

- シャッターレバーを軽く押すと、カメラのシャッターボタンが半押しされてピント合わせが行われます。
- そのままシャッターレバーを押し込むと、シャッターがきれます。
- 動画撮影モードの場合、動画撮影ボタンを押して動画撮影を開始してください。



Jp

☑ 撮影時のご注意

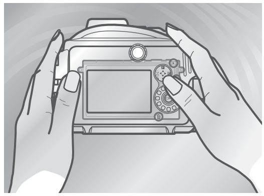
- ウォータープルーフケース前面のレンズ窓に指や髪、ストラップがかからないように充分に注意してください。
- 太陽光などの強い光が入り込むと、その角度によっては、画像に反射光が写り込むことがあります。このような状況で撮影するときは、液晶モニターで画像を確認して、反射光が入らないようにカメラの向きを調整してください。
- 太陽が真上にある時間帯が水中撮影に適しています。
- 水中で撮影する場合、被写体の色が青みがかって見えることがあります。
- 撮影者の吐いた息が気泡となって画像に写り込まないように注意してください。
- ウォータープルーフケースの構造上、AF 補助光は使用できません。
- 撮影しないときは、レンズ部の先端にフロントキャップを取り付けてください。

節電機能について（オートパワーオフ）

カメラを操作しない状態が一定時間続くと、液晶モニターが自動的に消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。そのままさらに一定時間経過すると、電源が自動的に OFF になります。オートパワーオフ機能については、カメラの使用説明書を参照してください。

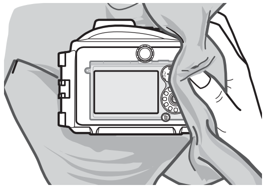
使用後のお手入れについて

1 カメラを入れて密閉したまま、真水（水道水など）をためた容器の中で洗う



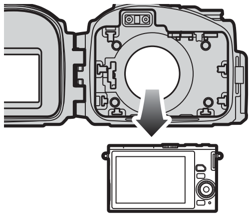
- ウォータープルーフケースを使用した後は、できるだけ早く洗ってください。

2 ウォータープルーフケースに付いている水滴をよく拭き取る



- 乾いた柔らかい布を使用してください。
- バックルなどに水がたまっている可能性がありますので、よく注意して拭き取ってください。

3 ウォータープルーフケースを開け、中のカメラを取り出す



- ウォータープルーフケースの内部は、乾いた柔らかい布で拭き、水洗いはしないでください。

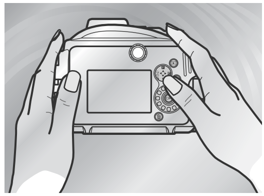
※カメラを取り出す際に、カメラが落下しないようにご注意ください。

☑ カメラの故障や水漏れを防ぐために

- 絶対にバックルロック解除ボタンやバックルを水中で操作しないでください。
- カメラを取り出す際に、髪の毛や体、マスク、ウェットスーツなどからの水滴がカメラやウォータープルーフケース内部に落ちないように注意してください。カメラやウォータープルーフケース内部に水滴が落ちた時は、柔らかい布ですみやかに拭き取ってください。
- 砂や水しぶきのかかる場所や、異物が付着した手でウォータープルーフケースの開閉をしないでください。
- ウォータープルーフケースを開けてカメラを取り出すときは、カメラが落下しないようにご注意ください。
- 海水など、塩分や水分の付着した手で、カメラやバッテリーに触れないでください。
- ウォータープルーフケースを開けたときに O リングや O リング接触面を下に向けて置かないでください。

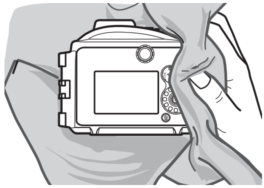
4 **空のウォータープルーフケースを再度密閉し、真水（水道水など）をためた容器の中に 2 〜 3 時間浸ける**

- 水の中で各ボタンやダイヤルなどを数回操作して、各部に付着した塩分を落としてください。塩分がついたままにしておくと、塩分が固まって動かなくなったり、金属部分がさびたりして水漏れの原因になることがあります。



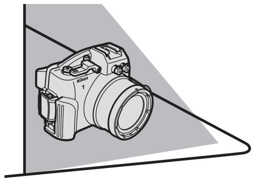
5 **ウォータープルーフケースに付いている水滴をよく拭き取る**

- 乾いた柔らかい布を使用してください。塩分の付着した布は使用しないでください。



Jp

6 **ウォータープルーフケースを風通しのよい日陰で乾燥させる**



☑ 乾燥時のご注意

ウォータープルーフケースを乾燥させるときに、ヘヤードライヤーなどを使用したり、直射日光に当てたりしないでください。ウォータープルーフケースや O リングが劣化し、水漏れの原因となります。

☑ ウォータープルーフケース内部のクリーニングについて

ウォータープルーフケースの内部に異物が付着したときは、エアースプレーで吹き飛ばす、刷毛で払い落とす、柔らかい湿らせた布で傷がつかない程度の強さで拭くなどして除去してください。液体が付着したときは、柔らかい湿らせた布で傷がつかない程度の強さで拭いてください。水や洗剤、薬品などは絶対に使用しないでください。レンズ窓の内側に水分が触れると、特殊なコーティングに悪影響を及ぼすことがあります。

メンテナンス

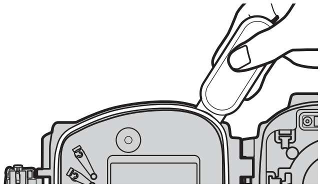
O リングについて

ウォータープルーフケースは、O リングを使用して防水性を保っています。O リングのお手入れが不適切だと水漏れの原因になります。O リングのお手入れは、ご使用ごとに行ってください。バッテリーやメモリーカードの交換などを行って、すぐに次の撮影を行う場合でも、O リングにゴミや異物が付着していないか必ず確認してください。

Jp

1 O リングを取り外す

- 図のように、O リングリムーバーを使用して本体から O リングを取り外します。

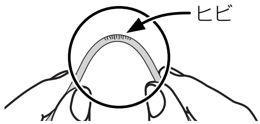


☑ O リングの取り付け / 取り外しの際のご注意

- O リングの取り外しに、とがったものや金属を使用したり、つめを立てたりしないでください。O リングに傷が付き、水漏れの原因になります。
- O リングの取り付け、取り外しの際には、O リングを強く引っ張らないでください。O リングがのびて、水漏れの原因になります。

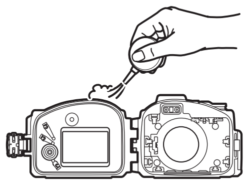
2 O リングを点検する

- 外した O リングに付着している古いグリスや異物を、柔らかい布で拭き取ってください。その際、O リング上に繊維が残らないようにご注意ください。
- O リングの表面にヒビや傷がないか、またゴミや異物が残っていないか確認します。O リング上のヒビは、O リングをやさしく折り曲げてみるとよくわかります。



3 O リング溝を点検する

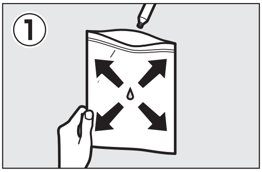
- O リングを取り外した O リング溝の異物は、エアースプレーで吹き飛ばすか、綿棒でていねいに取り除きます（綿棒の繊維が残らないようにご注意ください）。

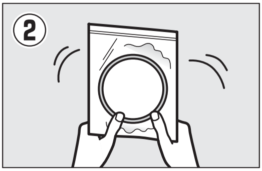


- O リング接触面や水滴ガードの表面の異物も取り除きます。

4 O リングに専用シリコングリスを塗る

- O リングの表面が乾いたように見えるときは、グリス切れです。乾いたまま使用すると､O リングがヒビ割れたり、ささくれたりし、水漏れの原因となります。
- シリコングリスを 1 cm 程度絞り出して市販のビニール袋に入れ、ビニール袋全体になじませた後（①）、O リングを入れます。シリコングリスが O リング全体になじむようにもんで塗布してください（②）。

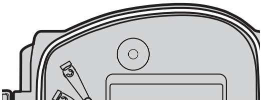


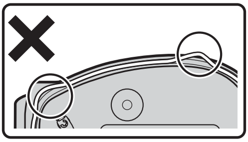


- 布や紙で塗布すると、O リングに繊維が付着する場合があるので、使用しないでください。
- シリコングリスを塗りすぎると、ほこりや繊維などの異物が付着しやすくなり、水漏れの原因となりますのでご注意ください。

5 O リングを O リング溝にはめ込む

- 異物が付着しないようご注意ください。
- ねじれたり高さが違ったりしないよう、無理に引っ張らず、均一にはめ込んでください。
- O リングが O リング溝からはみだしていないか、ご確認ください。





☑ 洗浄についてのご注意

O リングやウォータープルーフケースのお手入れには、揮発性の薬品（アルコール、シンナーなど）や、化学薬品を使用しないでください。O リングやウォータープルーフケースが損傷したり、劣化の原因となります。

Jp

ウォータープルーフケースの保管について

ウォータープルーフケースを保管する場合は、次のことに注意してください。

- O リングの劣化を防ぐため、ウォータープルーフケースを開けた状態で保管してください。
- 長期間使用しない場合は、O リングの変形を避けるため、O リングをはずして古いグリスを拭き取り、薄くシリコングリスを塗って、清潔なビニール袋などに入れて保管してください。
- 日陰などの涼しいところで保管してください。高温多湿の場所や、直射日光が当たる場所、極端に温度差がある場所に置かないでください。
- 火気のある場所や、揮発性物質のある場所に保管しないでください。
- ウォータープルーフケースにものを載せたり、無理な力を加えないでください。
- ナフタリンなどの防虫剤は、ウォータープルーフケースや O リングを傷めますので、使用しないでください。

Jp

☑ オーバーホールについて

防水性能を維持するため、1 年に 1 回はウォータープルーフケースをオーバーホールされることをおすすめします（有料）。ニコンサービス機関にお申し付けください。

主な仕様

耐圧	水深 45m 以内
デジタルカメラ動作環境温度	0℃～ 40℃
寸法（W × H × D）	約 156.4 × 115.8 × 113.0 mm（突起部を含まず）
質量	約 735 g（本体のみ）

- 本文および仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、全て CIPA（カメラ映像機器工業会）規格による温度条件（23℃（± 3℃））のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

別売アクセサリー

- ズームギア WP-ZG1020（1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 用）
- ズームギア WP-ZG1010（1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 用）
- 写り込み防止シール WP-IS1000（1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 用）
- 写り込み防止リング WP-IR1010（1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 用）
- O リング WP-O1100
- O リングリムーバー WP-OR1000
- フロントキャップ WP-LC1000
- ストラップ WP-AN1000
- フロントキャップストラップ WP-AN2000
- シリコングリス WP-G1000
- シリカゲル WP-S1000
- 水中スピードライト SB-N10
- 水中光ファイバーケーブル SC-N10A
- 水中ブラケット SK-N10A

ニコンプラザ、サービスセンターのご案内

■ニコンプラザ

ショールーム、サービスセンター、ニコンサロンを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。充実したサポートサービスを通して、お客さまのデジタルイメージングの世界を拡げ、写真文化の普及、向上に資することを目指しています。

ニコンプラザ銀座

〒104-0061　東京都中央区銀座 7-10-1　ストラータ ギンザ 1・2 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第1土曜日とその翌日、8月の第2土曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ新宿

〒163-1528　東京都新宿区西新宿 1-6-1　新宿エルタワー 28 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月11日・12日、8月の第3日曜日とその翌日を除く毎日）

ニコンプラザ大阪

〒530-0001　大阪市北区梅田2-2-2　ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー 13 階

営業時間：10:30～18:30（年末年始、2月の第3土曜日とその翌日、8月の第3土曜日とその翌日を除く毎日）

携帯OK ニコンプラザショールーム（ナビダイヤル）

0570-02-8080

携帯OK ニコンプラザサービスセンター（ナビダイヤル）

0570-02-8060

* 音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

■サービスセンター

ニコン映像製品のメンテナンスサポートの窓口です。カメラ製品の展示の他、ご質問、ご相談もお受けしています。お気軽にご来所ください。

札幌サービスセンター

〒060-0807　札幌市北区北 7 条西 4-3-1　新北海道ビルヂング 2 階

名古屋サービスセンター

〒460-0002　名古屋市中区丸の内 3-20-17　中外東京海上ビル 6 階

福岡サービスセンター

〒812-0011　福岡市博多区博多駅前 1-4-1　博多駅前第一生命ビル 1 階

（各サービスセンター共通）

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏季休業など弊社定休日を除く毎日）

携帯OK （ナビダイヤル）

0570-02-8050

* 音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるサービスセンターをお選びください。

- ナビダイヤルは一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、(03)6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

Jp

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

携帯OK

営業時間：9:30 ～ 18:00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 にお送りください。

修理サービスのご案内

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。全国一律の料金にて承ります。

※宅配便で扱える大きさや重さには制限があるため、取り扱いできない製品もございます。

0120-02-8155

営業時間：9:00～18:00（年末年始12/29～1/4を除く毎日）

※上記のフリーダイヤルはピックアップサービス専用です。ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。
製品や修理に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンター、または修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

携帯OK

営業時間：9:30～18:00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

インターネットご利用の方へ

＜ニコンイメージング／サポートページ＞

- http://www.nikon-image.com/support/
  最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデートに関する情報がご覧いただけます。
  ※製品をより有効にご利用いただくために、定期的にアクセスされるようおすすめします。
- http://www.nikon-image.com/support/repair/
  「ニコン　ピックアップサービス」のお申し込みや修理見積もり金額の確認、インターネットを利用して修理を申し込まれた場合の修理状況や納期の確認などがご覧いただけます。

※お問い合わせや修理を依頼をされるときには、「アフターサービスについて」も参照ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Jp

アフターサービスについて

■この製品の使い方や修理に関するお問い合わせは

- 使い方に関するご質問は、前のページに記載の「ニコン　カスタマーサポートセンター」にお問い合わせください。
- 修理に関するご質問は、前のページに記載の「（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター」にお問い合わせください。

【お願い】

- お問い合わせいただく場合には、おわかりになる範囲で結構ですので、次の内容をご確認の上、お問い合わせください。
  「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、「問題が発生したときの症状」、「症状の発生頻度」など。
- ファクシミリや郵送でお問い合わせの場合は「ご住所」、「お名前」、「フリガナ」、「電話番号」、「FAX番号」を（会社の場合は会社名と部署名も）明確にお書きください。

Jp

■修理を依頼される場合は

- ニコンサービス機関（ニコンプラザ、サービスセンター、修理センター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。
- ニコンサービス機関（ニコンプラザ、サービスセンター、修理センター）については、前のページおよび「ニコンプラザ、サービスセンターのご案内」をご覧ください。

■補修用性能部品について

このウォータープルーフケースの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ニコンサービス機関またはご購入店へお問い合わせください。火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

En

WP-N3 Waterproof Case

User's Manual

Placing a Nikon 1 J4 or S2 in a WP-N3 waterproof case protects the camera from rain and snow and allows it to be used for underwater photography at depths of up to 45 m (147 ft). Keep this manual where all those who use the product will read it, and be sure to read both it and the camera manual thoroughly before use.

Symbols and Conventions

To make it easier to find the information you need, the following symbols and conventions are used:

✔	This icon marks cautions, information that should be read before use to prevent damage to the camera or waterproof case.
📎	This icon marks notes, information that should be read before using the product.
📖	This icon marks references to other pages in this manual.

✔ Important: Read Before Use

Before using the waterproof case in or near water, test for leaks as described on pages 11 and 17 of this manual.

⚠ For Your Safety

Before using this product for the first time, read the safety instructions in "For Your Safety" (📖 iii–vii).

En

📎 Life-Long Learning

As part of Nikon's "Life-Long Learning" commitment to ongoing product support and education, continually-updated information is available on-line at the following sites:

- **For users in the U.S.A.**: *http://www.nikonusa.com/*
- **For users in Europe and Africa**: *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **For users in Asia, Oceania, and the Middle East**: *http://www.nikon-asia.com/*

Visit these sites to keep up-to-date with the latest product information, tips, answers to frequently-asked questions (FAQs), and general advice on digital imaging and photography. Additional information may be available from the Nikon representative in your area. For contact information, visit ***http://imaging.nikon.com/***

For Your Safety

To prevent damage to your Nikon product or injury to yourself or to others, read the following safety precautions in their entirety before using this equipment. Keep these safety instructions where all those who use the product will read them.

The consequences that could result from failure to observe the precautions listed in this section are indicated by the following symbol:

⚠ This icon marks warnings. To prevent possible injury, read all warnings before using this Nikon product.

WARNINGS

⚠ ***Do not disassemble***. Failure to observe this precaution could result in injury or product malfunction. Should the product break as the result of a fall or other accident, take it to a Nikon-authorized service representative for inspection, being careful not to injure yourself on the broken parts.

⚠ ***Turn the camera off immediately in the event of malfunction***. Should you notice smoke or an unusual smell coming from the equipment, remove the battery from the camera immediately, taking care to avoid burns. Continued operation could result in injury. After removing the battery from the camera, take the equipment to a Nikon-authorized service representative for inspection.

⚠ ***Do not use in the presence of flammable gas***. Do not use electronic equipment in the presence of flammable gas, as this could result in explosion or fire.

⚠ ***Do not expose to high temperatures***. Do not leave the product where it will be exposed to extremely high temperatures, such as in an enclosed automobile or in direct sunlight. Failure to observe this precaution could cause damage or fire.

⚠ ***Observe caution when using the flash***.

- Using the flash close to your subject's eyes could cause temporary visual impairment. Particular care should be observed if photographing infants, when the flash should be no less than one meter (39 in.) from the subject.
- Do not aim the flash at the operator of a motor vehicle. Failure to observe this precaution could result in accidents.

⚠ ***Keep out of reach of children***. Failure to observe this precaution could result in injury. In addition, note that small parts constitute a choking hazard. Should a child swallow any part of this equipment, consult a physician immediately.

⚠ ***Do not place the strap around the neck of an infant or child***. Placing the strap around the neck of an infant or child could result in strangulation.

⚠ ***Do not dive while holding***. To prevent injury caused by the case striking the body, do not jump or dive into water while holding the waterproof case.

⚠ ***Observe proper precautions when handling camera batteries***. Batteries may leak or explode if improperly handled. Observe the following precautions when handling camera batteries:

- Use only batteries approved for use in the camera.
- Batteries are prone to leakage when fully discharged. Remove the camera from the case when not in use.
- Should water enter the case, remove the battery from the camera immediately.
- Keep the battery terminals dry. Failure to observe this precaution could result in injury or product malfunction.

En

⚠ ***Do not leave in direct sunlight***. The case could focus sunlight, causing fire.

⚠ ***Do not use at depths in excess of 45 m (147 ft)***. Failure to observe this precaution could result in leakage or other malfunction.

⚠ ***Keep the case watertight***. Do not clean the case with a high-pressure jet. Do not open the case where it would be exposed to dust or sand, and be sure to remove any foreign objects from the O-ring and any parts of the case that are in contact with the O-ring before closing the case. Failure to observe these precautions could result in leakage.

⚠ ***Do not exposure to high temperatures***. Do not expose the product to temperatures over 40 °C (104 °F). Failure to observe this precaution could cause the product to warp, resulting in leakage.

⚠ ***Do not cover the product during use***. The build-up of heat could deform the case or cause fire.

⚠ ***Do not store the camera in the case***. Gases released by the camera battery could build up in the case, causing explosion or fire.

⚠ ***Do not eat silicon grease or silica gel***. These products are not edible.

Cautions

To ensure continued enjoyment of your Nikon product, observe the following precautions when storing or using the device.

Waterproofing

Observe the following precautions when using the case in or around water:

- Before use, test the case for leaks as described on pages 11 and 17 of this manual.
- The case is proof only against fresh water (such as pools, rivers, and lakes) and seawater. Do not take into hot springs or baths.
- Do not expose to depths greater than 45 m (147 ft) or to rapids, waterfalls, water flowing at full force from a tap, or other water under high pressure. Failure to observe these precautions could expose the case to pressures high enough to cause damage, deformation, and water entry.
- Exposure to water will damage the camera. To prevent water entry, do not open the case with wet hands, when the case is wet, or in, on, or by the water or in locations exposed to spray, wind, sand or dust. Ensure that the camera is dry before insertion. Should the case leak, cease use immediately, dry the camera and the interior of the case, and take the camera and case to a Nikon-authorized service representative.
- Before sealing the case or when installing the O-ring, make sure that the O-ring is not twisted or out of position and examine the interior of case and the O-ring, watertight channel, and any parts of the case that are in contact with the O-ring carefully to ensure that they are free of liquid, dirt, hair, lint, dust, sand, and other foreign objects. Water and other liquids on these surfaces should be removed immediately with a soft, dry cloth. Other foreign matter should be removed with a blower, taking care to remove any small particles from the sides and corners of the watertight channel. Foreign matter on the exterior of the case can be removed with a soft, dry cloth. Do not use soap, cleansers, or other chemicals, and be sure to remove suntan oil, sunblock, bath salts, detergent, soap, organic solvents, oil, alcohol, and the like immediately.
- Do not apply stickers to the case or use sealants, anti-fog chemicals, or O-ring lubricants or silica gels not specifically designated for use with the WP-N3 (📖 25).
- Do not leave the case for extended periods in locations that are exposed to freezing temperatures or in hot locations such as enclosed vehicles, on board boats, on the beach, in direct sunlight, or near heating equipment. Failure to observe this precaution may make the case vulnerable to water entry.
- The case is not guaranteed waterproof if struck, dropped, placed under heavy objects, or otherwise subjected to strong pressure or violent physical shocks or vibration. If the case does suffer a fall or other physical shock, take it to Nikon-authorized service personnel and have it tested to make sure that it is still waterproof. Note that a fee will be charged for this service.
- Damage due to user error is not covered under warranty.

■ Shock-Proofing

The waterproof case is not designed to protect the camera from blows or vibration. Do not drop the case, strike it against hard objects, throw it into the water, jump into the water holding the case, or leave the case in an area subject to extreme vibration. Failure to observe these precautions could result in damage to the camera.

■ Operating Environment

Note the following precautions:

- At low temperatures, the camera may not perform as expected immediately after being turned on and battery performance may drop. Keep spare batteries in a warm location and exchange as necessary.
- In cold environments, remove any snow or rain immediately. The controls may become difficult to operate if allowed to freeze.
- Prolonged contact with cold metal can damage exposed skin. Wear gloves when handling the case for extended periods at low temperatures.
- Do not leave the case in areas exposed to high temperatures, such as inside a car, near a heater, on a beach, or in direct sunlight. Failure to observe this precaution could weaken or warp the case, resulting in damage to the camera. Sudden changes in temperature could result in condensation inside the case, which could also damage the camera. To prevent condensation:
  - When moving from one location to another that is noticeable warmer or colder, leave the camera in the case until it has reached the same temperature as its surroundings.
  - Place the supplied desiccant (silica gel) in the case with the camera as directed on page 14 of this manual.
  - Do not expose the case to high temperatures by leaving it on the beach or in direct sunlight before entering the water.

En

O-Rings

Observe the following precautions when handling O-rings:

- The O-ring requires periodic replacement. Replace the O-ring immediately if it is damaged, cracked, warped, or has lost elasticity. O-rings should be replaced at least once a year; do not use a worn O-ring or a type of O-ring not designated for use in this product.
- To prevent damage to the O-ring, use the O-ring remover when removing the ring from the case. Do not use metal objects or objects with sharp points when removing the O-ring.
- Do not use force when removing or positioning the O-ring. Excessive force may permanently stretch the ring, causing the case to leak.
- To prevent wear, use only silicon grease designated for use with this product (□ 25). *Do not use COOLPIX or NIKONOS O-ring lubricant (grease) or other types of silicon grease.*

Changes in Altitude

Changing air pressure due to changes in altitude may damage case or prevent the case from opening. Observe the following precautions:

- If possible, include the case in your carry-on baggage when travelling by air. When packing the case with checked luggage, leave the case open or remove the O-ring.
- When travelling from high to low altitudes, open the case periodically to equalize the pressure.

En

Important!

The WP-N3 waterproof case is for use with compatible cameras only. Do not place other cameras in the WP-N3.

Table of Contents

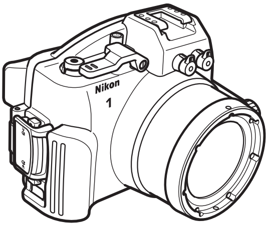
En

Introduction

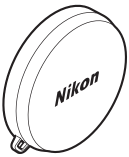
Refer to this section for the names of the supplied accessories and the parts of the waterproof case.

Package Contents

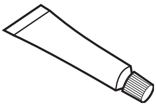
Confirm that the package contains the items listed below. Contact your retailer if anything is missing.



☐ *WP-N3 (with WP-O1100 O-ring in place; before use, check that O-ring is undamaged as described on page 22)*



☐ *WP-LC1000 front cap*



☐ *WP-G1000 silicon grease*



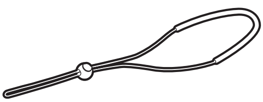
☐ *WP-ZG1020 zoom gear sleeve (for 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM lenses)*



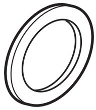
☐ *WP-ZG1010 zoom gear sleeve (for 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 lenses)*



☐ *WP-OR1000 O-ring remover*



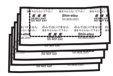
☐ *WP-AN1000 strap*



☐ *WP-IS1000 inner-reflection prevention sticker (for 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM lenses)*



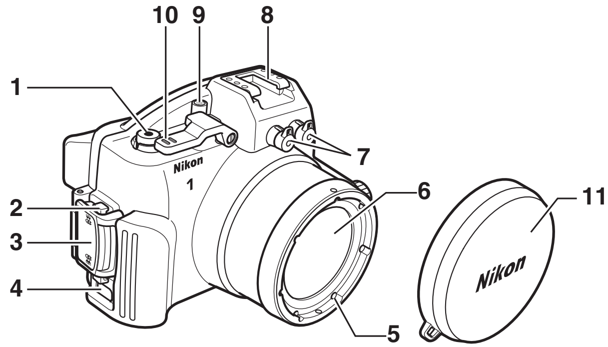
☐ *WP-IR1010 inner-reflection prevention ring (for 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 lenses)*



☐ *WP-S1000 silica gel desiccant (1 package of 5; reseal after opening)*

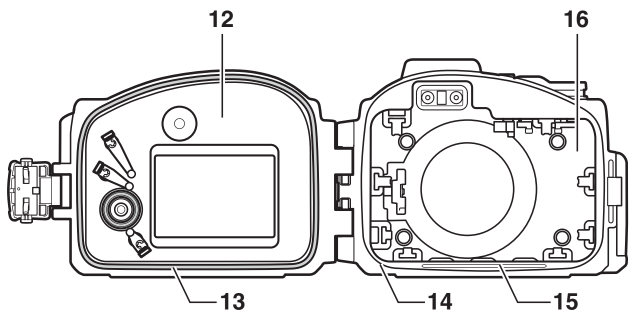
☐ *WP-AN2000 front cap strap*
☐ User's Manual *(this manual)*
☐ *Warranty*

Parts of the WP-N3



1. Movie-record button 18
2. Buckle release button 4
3. Buckle 4
4. Eyelet for strap 3
5. ⌀67 mm filter attachment thread
6. Lens window 14
7. Fiber-optic cable socket caps * 16
8. Accessory shoe
9. Power switch 18
10. Shutter lever 18
11. Front cap 3, 25

* Remove when using optional SB-N10 underwater flash units.

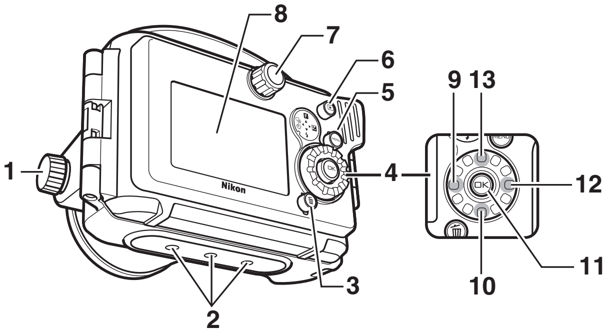


12. Rear cover 4
13. O-ring/O-ring guide 15, 22, 25
14. O-ring seal 15, 22
15. Watertight channel 15, 22
16. Front cover 4

The Accessory Shoe

The accessory shoe is used for underwater flash units and other accessories; see the documentation provided with the accessories for information on attachment and removal. Remove accessories from the accessory shoe when transporting the waterproof case on land.

En

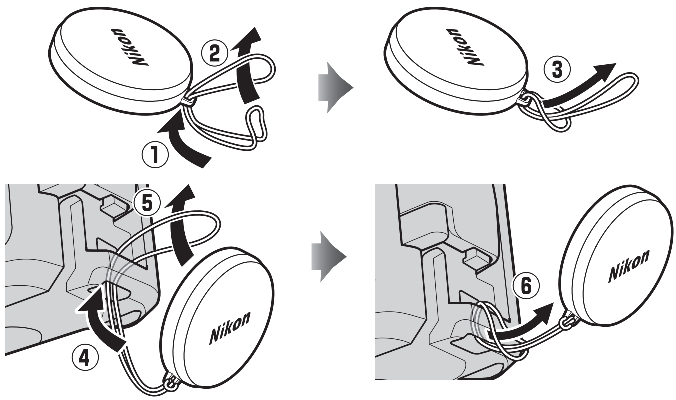


1 Zoom dial 15, 18
2 Tripod sockets
3 🗑 (delete) button
4 Multi selector
5 MENU button
6 ▶ (playback) button
7 Mode dial* 18

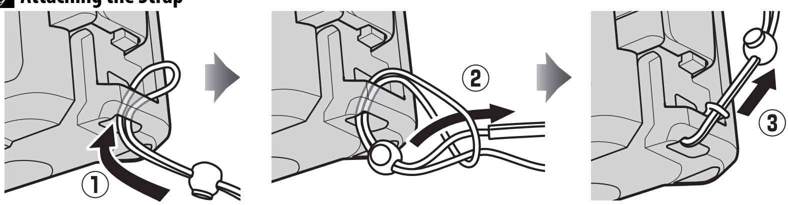
* For use with J4 only

8 Monitor window
9 (continuous shooting/self-timer) button
10 ⚡ (flash mode) button
11 Ⓞ (OK) button
12 (exposure compensation) button
13 F (feature) button

Attaching the Front Cap Strap



Attaching the Strap

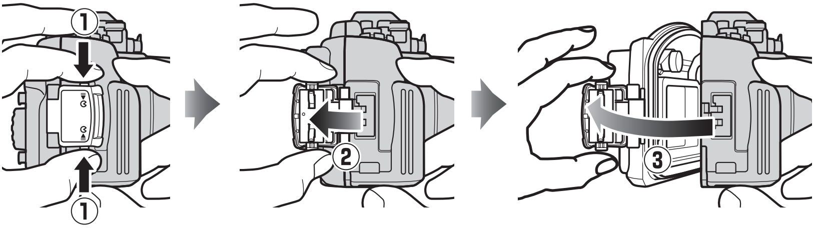


Using the Buckle

Follow the steps below to unlatch or latch the case.

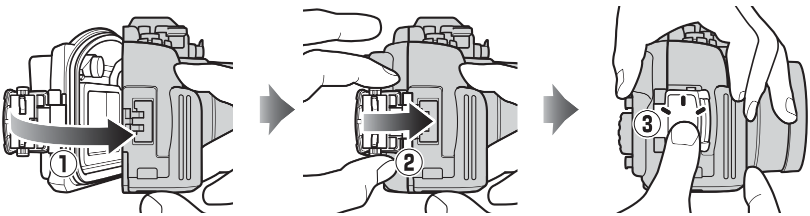
Unlatching the Case

Keeping the buckle release button pressed (①), open the buckle (②) and then open the rear cover (③).



Latching the Case

Close the case (①) and flip the buckle onto the front half (②), then press the buckle closed until it clicks into place (③). Check that the case is properly sealed, that the O-ring is in place, and that no foreign objects are caught in the seal (📖 23).



☑ Opening the Case

Before opening the case, be sure it is completely dry and free of dirt. After using the case underwater, wash it in fresh water to remove any sand or other foreign objects and then dry it thoroughly with a soft, dry cloth. Be sure that any water, sand, or other foreign objects left on the case do not fall into the interior when the case is opened. Never operate the buckle or buckle release button underwater.

Be careful not to drop the camera when removing it from the case.

Configuration

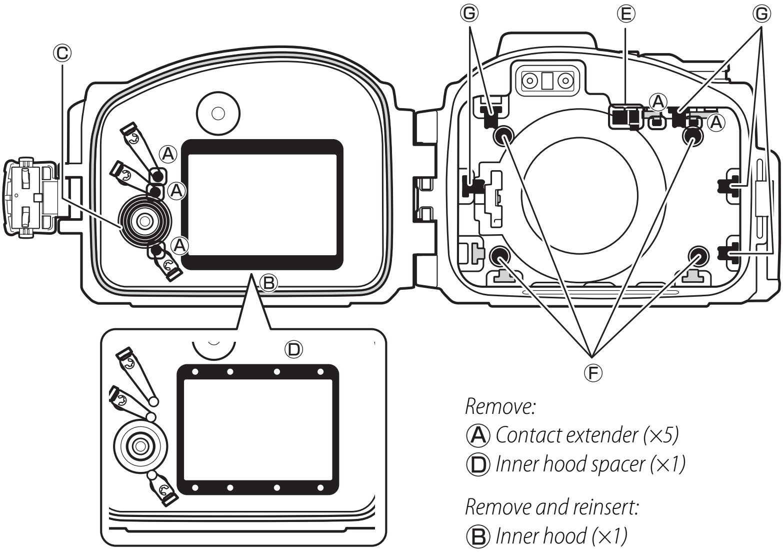
At shipment, the case is configured for use with the J4. Removable parts allow the case to be configured for use with the S2. Be careful not to drop the parts during replacement.

Configuring the Case for the J4

The case is configured for use with the J4 at shipment. Do not change the configuration when using the case with the J4.

Configuring the Case for the S2

For use with the S2, configure the case as shown below.



Remove:
Ⓐ *Contact extender (×5)*
Ⓓ *Inner hood spacer (×1)*

Remove and reinsert:
Ⓑ *Inner hood (×1)*

Remove, reverse, and reinsert:
Ⓒ *Multi selector contact (×1)*
Ⓔ *Power switch contact (×1)*
Ⓕ *Front cushion (×4)*
Ⓖ *Side cushion (×5)*

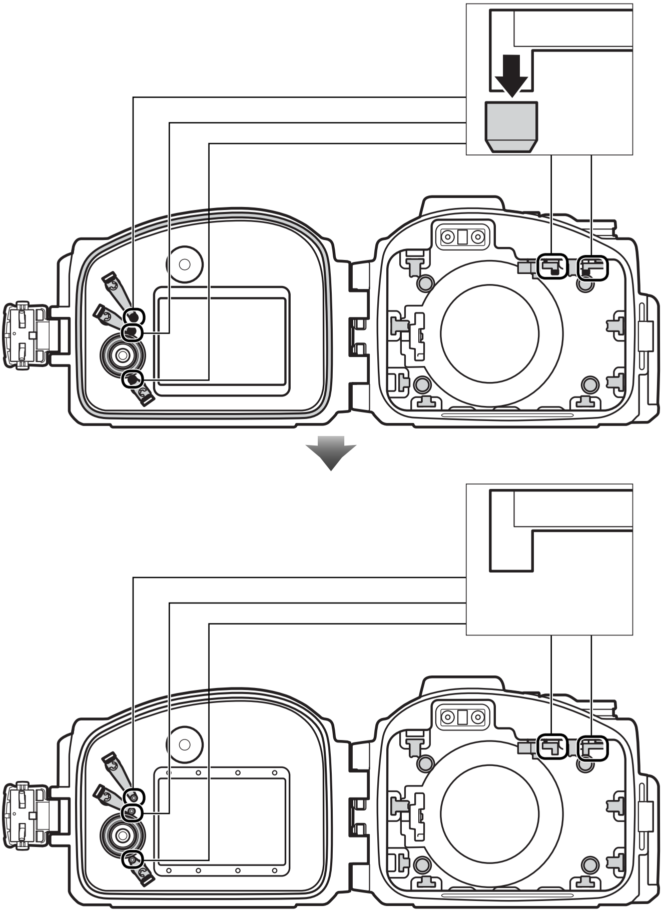
Important!

Be sure all parts are securely installed. Failure to fully insert removable parts may result in loss or in leaks and damage to the camera. When replacing parts, choose a brightly-lit location and be careful not to hurt your fingers or damage your fingernails.

En

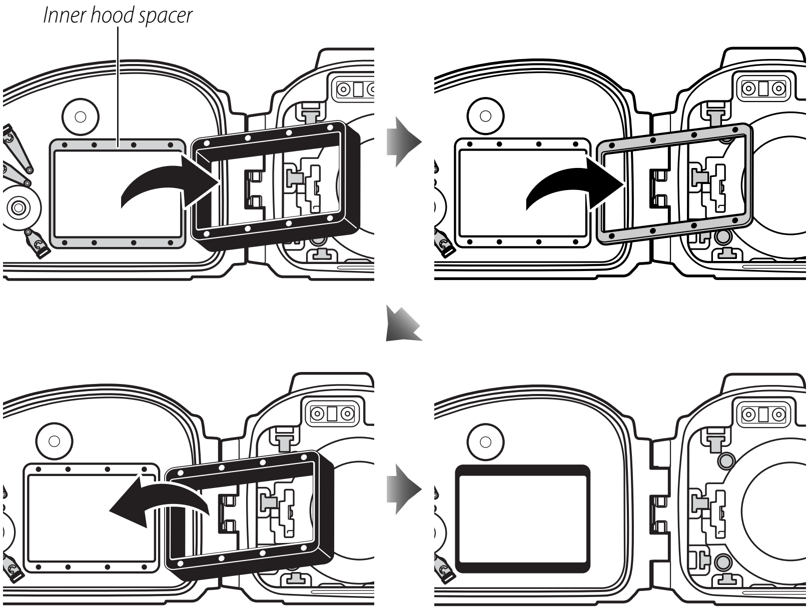
When using the case with the S2, remove the contact extenders, inner hood, and inner hood spacer, and then reinsert the inner hood.

Ⓐ **Contact Extender** (×5)
Remove the contact extenders.



Ⓑ Inner Hood (×1)/Ⓓ Inner Hood Spacer (×1)

When using the case with the S2, remove the inner hood and inner hood spacer and then reinsert the inner hood.



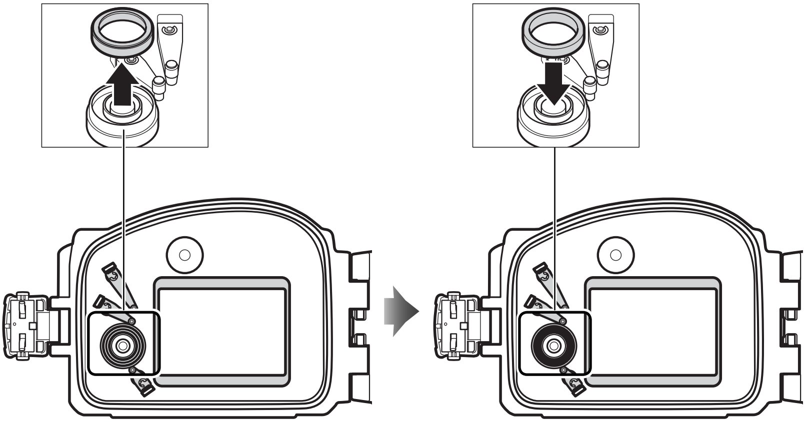
En

> **Important!**
> The contact extenders and inner hood spacer are not required when the case is used with the S2. Remove them and keep them in a safe place.

Users of the S2 will also need to remove, reverse, and reinsert the multi selector and power switch contacts and front and side cushions.

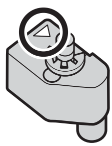
Ⓒ **Multi Selector Contact** (×1)

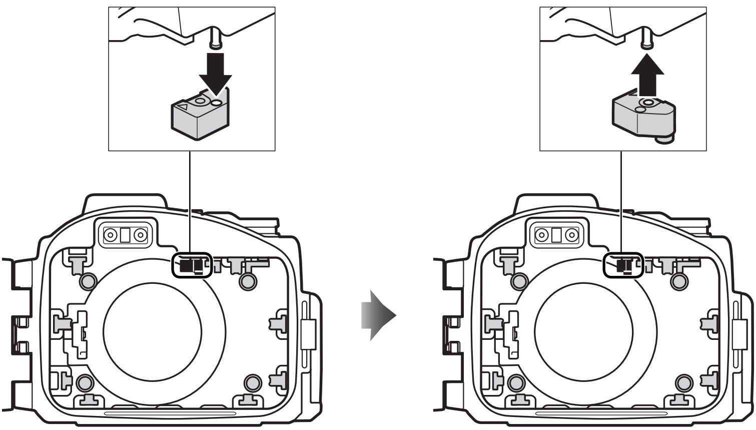
Remove the contact and reinsert in the orientation shown.



Ⓔ **Power Switch Contact** (×1)

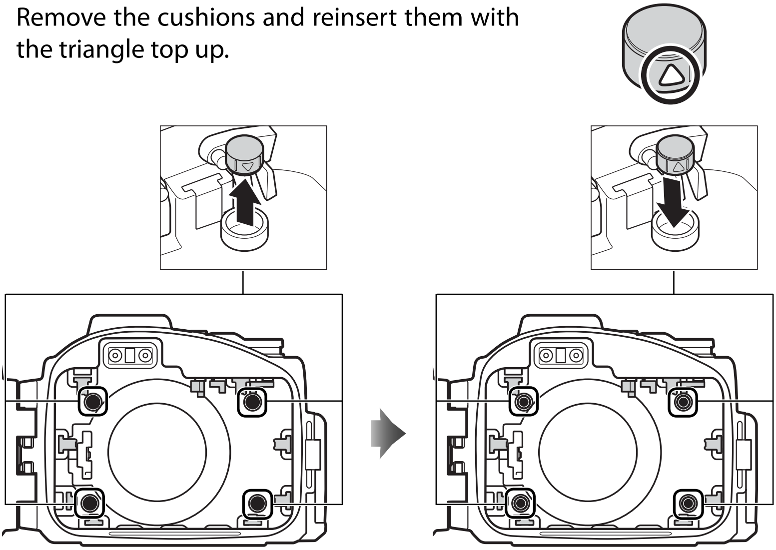
Remove the contact and reinsert it in the hole at the top of the triangle.





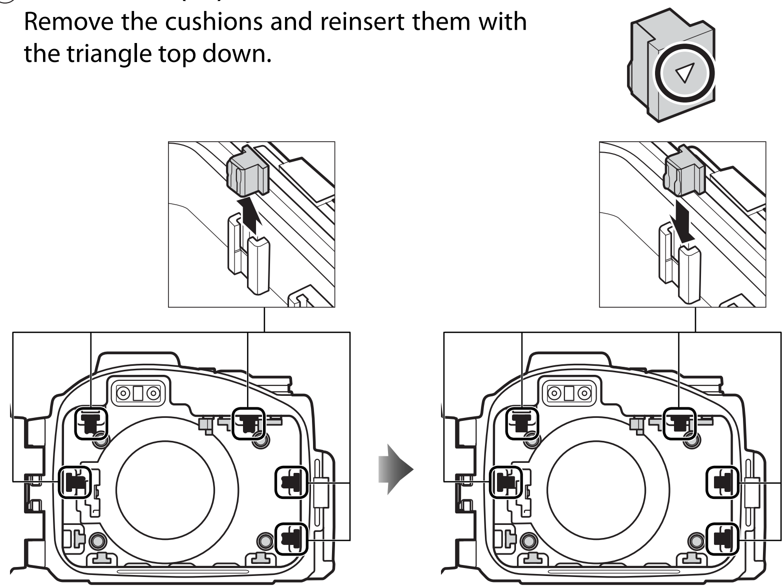
Ⓕ **Front Cushion (×4)**

Remove the cushions and reinsert them with the triangle top up.

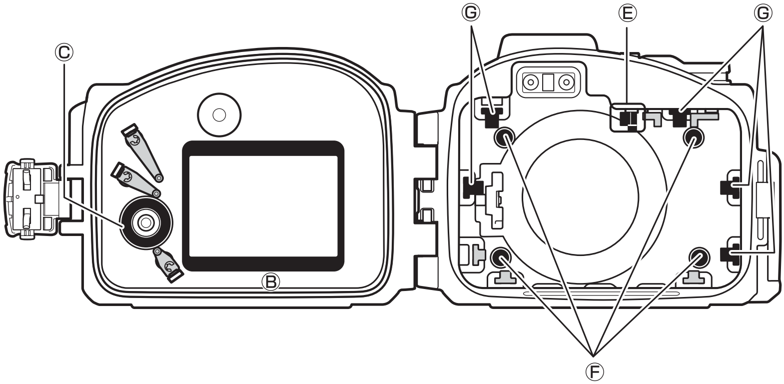


Ⓖ **Side Cushion (×5)**

Remove the cushions and reinsert them with the triangle top down.



The figure below shows the case after it has been configured for use with the S2.



Ⓐ *Multi selector contact (×1)*
Ⓑ *Inner hood (×1)*
Ⓔ *Power switch contact (×1)*
Ⓕ *Front cushion (×4)*
Ⓖ *Side cushion (×5)*

To use the case with the J4, return the parts to their original configuration.

En

The Preliminary Leak Test

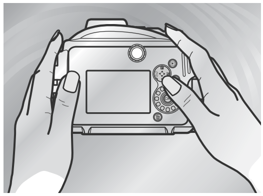
Before placing the camera in the case, latch the case and immerse it in water to check for leaks as described below.

Important!

Before placing the camera in the case, be sure that the camera is functioning normally and that the case does not leak. Failure to check for leaks before use could result in irreparable damage to the camera. Note that leaks may result if the case is cracked or damaged. Check the case for cracking and other damage before use, and consult with a Nikon-authorized service representative in the event that any cracking or damage is found.

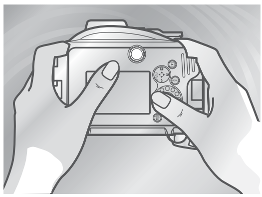
1 Latch and immerse the case.

Latch the case and then slowly immerse it in water, stopping if air is expelled from inside the case. Keep the case immersed for 2 or 3 seconds and check for bubbles escaping. Test the case in a shallow area at a depth of about 1 m (3 ft) or in a tub or bucket. Do not use hot water, as this could exceed the operating temperature range of 0–40 °C (32–104 °F).



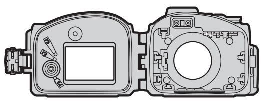
2 Test the controls.

Immerse the case and operate the controls underwater for 2 to 3 minutes, checking whether bubbles escape.



3 Check for water inside the case.

Take the case out of the water and dry it thoroughly with a soft, dry cloth, then open the case and check for water. If water has entered the case, check the O-ring (📖 15, 22–23). If the cause of the leak can not be determined, take the case to a Nikon-authorized service representative.



En

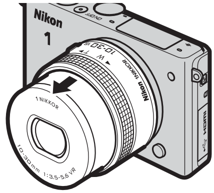
Preparing the Lens

Use a 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM or 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 lens. Other lenses can not be used.

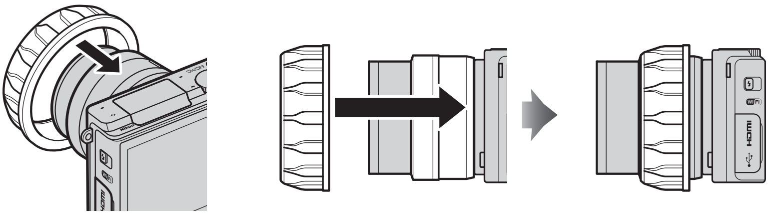
1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM Lenses

Attach the WP-ZG1020 zoom gear sleeve and WP-IS1000 inner-reflection prevention sticker.

1 Attach and extend the lens.
The lens extends automatically when the camera is turned on.

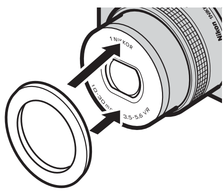


2 Attach the zoom gear sleeve.
Slide the sleeve straight onto the lens until it stops.



After attaching the sleeve, adjust its position so that the zoom ring rotates freely.

3 Attach the inner-reflection prevention sticker.
Affix the sticker to the front of the lens as shown (if the sticker does not adhere, clean the adhesive surface with a wipe or damp cloth). If the sticker is not attached, the lettering on the front of the lens may appear in photographs, having been reflected from the inside of the waterproof case lens window. The sticker can be reused; when it is not in use, reapply it to the original backing.



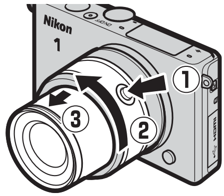
4 Turn the camera off.
The lens will retract automatically.

1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 Lenses

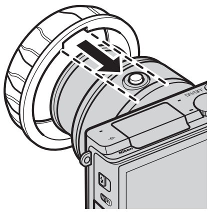
Attach the WP-ZG1010 zoom gear sleeve and WP-IR1010 inner-reflection prevention ring.

1 Attach and extend the lens.

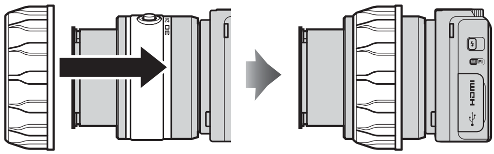
Keeping the retractable lens barrel button pressed (①), rotate the zoom ring to extend the lens (②). Note that the camera will turn on automatically when the lens is extended; turn the camera off before proceeding to Step 2.



2 Attach the zoom gear sleeve.



Align the slot on the inside of the sleeve with the retractable lens barrel button.

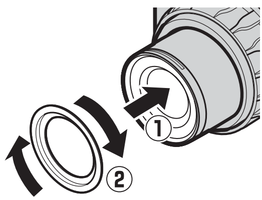


Slide the sleeve straight onto the lens until it stops.

After attaching the sleeve, adjust its position so that the zoom ring rotates freely.

3 Attach the inner-reflection prevention ring.

Attach the ring to the front of the lens as shown. If the ring is not attached, the lettering on the front of the lens may appear in photographs, having been reflected from the inside of the waterproof case lens window.

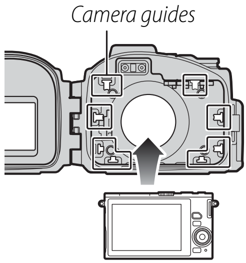


Placing the Camera in the Case

Prepare the camera for underwater photography.

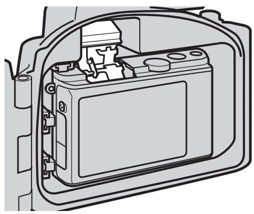
1 Insert the battery and memory card.
Insert a memory card and fully-charged battery.

2 Insert the camera.
Center the camera in the camera guides with the lens positioned in the lens window.

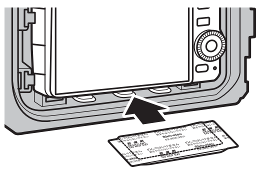


The Camera Strap
To ensure that the camera strap does not get caught in the seal and cause a leak, be sure to remove the strap before placing the camera in the case.

Underwater Flash Units
If you will be using an optional SB-N10 underwater flash unit, raise the camera's built-in flash before placing the camera in the case, as once placed in the case the flash may fail to pop up on its own.



3 Insert desiccant.
To prevent condensation from forming inside the case, insert the supplied silica gel desiccant between the bottom of the camera and the case. Slide the desiccant to the front, where it will not interfere with the case closing. Improper placement could cause the case to leak.



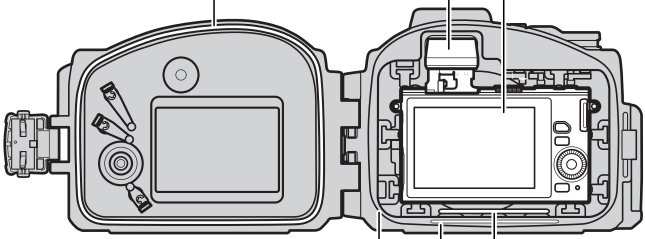
Replacing the Desiccant
Used desiccant loses its capacity to absorb moisture. We recommend replacing the desiccant each time the case is used (📖 25).

4 Perform a final check.

Check the O-ring:
- *Is it cracked or damaged? Replace it.*
- *Is it twisted or out of position? Reposition it.*
- *Remove any hair, dust, sand, and other foreign objects.*

Check the built-in flash: *If you are using an underwater flash unit, check that the built-in flash is raised; otherwise, be sure the flash is lowered.*

Check the camera:
- *Be sure the camera is in the correct orientation (📖 14).*
- *Remove the camera strap.*



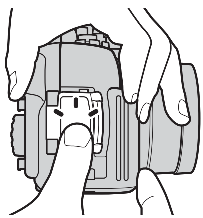
Check the O-ring seal and watertight channel: *Remove any liquid, hair, dust, sand, and other foreign objects.*

Check the desiccant: *Check that the desiccant is correctly placed (📖 14).*

Check the lens:
- *Does the zoom ring rotate smoothly and does it adjust zoom? If not, reposition the zoom gear sleeve.*
- *Confirm that the inner-reflection prevention sticker or ring is in place (📖 12, 13).*

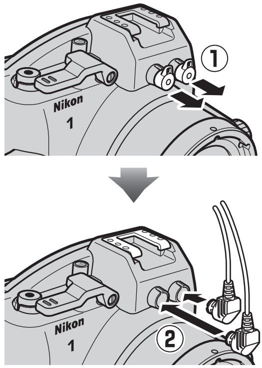
5 Close the case.

Close and latch the case.



Underwater Flash Units

The waterproof case is equipped with 2 fiber-optic cable sockets, permitting optional SB-N10 underwater flash units to be connected via optional SC-N10A underwater fiber-optic cables and controlled by the camera's built-in flash. When using an underwater flash unit, remove either of the fiber-optic cable socket caps (①; note that although there is no risk of leaks when the caps are removed, the caps for unused sockets should be left in place) and connect the underwater fiber-optic cable (②). Before using the flash underwater, take a test shot and confirm that the flash is functioning normally. For more information, see the camera manual and the documentation provided with the flash unit.



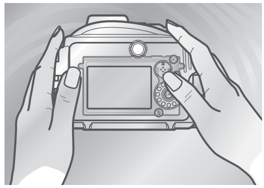
En

The Final Leak Test

After inserting the camera and closing the case, perform a final check for leaks.

Important!

Before use, be sure that the camera is functioning normally and that the case does not leak. Failure to check for leaks before use could result in irreparable damage to the camera.



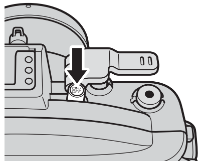
Immerse the case in water and check for leaks as described in "The Preliminary Leak Test" (11). After completing the test, open the case and check that the desiccant is dry and that no water has entered. If a leak is detected, immediately dry the camera and case thoroughly and check that the O-ring is intact and the case properly sealed. If the cause of the leak can not be determined, take the case to a Nikon-authorized service representative.

Taking Pictures

Follow the steps below to take pictures underwater.

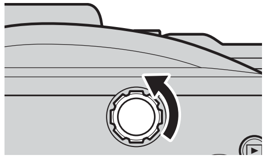
1 Turn the camera on.

Press the power switch on the waterproof case to turn the camera on. The power lamp will light green and the monitor will turn on (to turn the camera off, press the power switch again and confirm that the monitor has turned off).



2 Choose a mode.

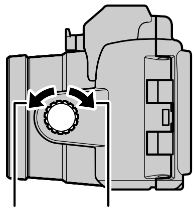
Rotate the mode dial to choose a mode (J4) or press the MENU button and choose a mode from the menus (S2). For more information on choosing a mode, see the camera manual.



En

3 Frame the shot.

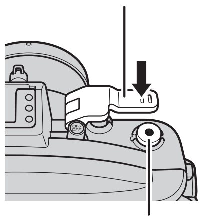
Rotate the zoom dial to zoom in or out.



4 Take the picture.

Photographs: Lightly press the shutter lever to press the camera shutter-release button halfway and focus, then press the shutter lever the rest of the way down to release the shutter and take a photograph.

Movies: Press the movie-record button to start or stop recording.



Underwater Photography

The best time for underwater photography is when the sun is directly overhead (note that pictures taken underwater may have a blue cast). Strong light sources may cause reflections to appear in pictures; check the monitor before shooting and change the angle if necessary. While shooting, keep your fingers and other objects away from the lens window and avoid exhaling bubbles into the frame. Place the front cap over the lens window when the camera is not in use.

The AF-assist illuminator

The AF-assist illuminator can not be used while the camera is in the waterproof case.

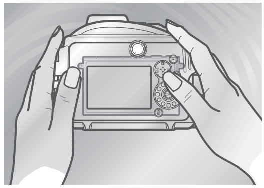
Auto Power Off

If no operations are performed for a set time, the monitor will turn off and the power lamp will flash. If no operations are performed for a set period after the monitor has turned off, the camera will turn off automatically. See the camera manual for more information.

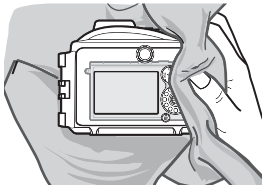
After Use

Clean the case and remove the camera.

1 Wash the case.
Clean the case as soon as possible after use. Without opening the case or removing the camera, wash the case in a basin of fresh water.

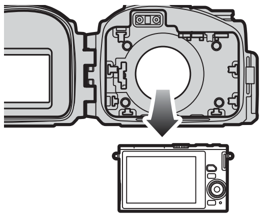


2 Wipe dry.
Dry the exterior of the case thoroughly with a soft, dry cloth.



Drying the Case
Be careful to remove water that may have collected in the buckle, controls, or strap eyelet.

3 Remove the camera.
Remove the camera and wipe the interior of the case with a soft, dry cloth. Do not wash the interior of the case with water.



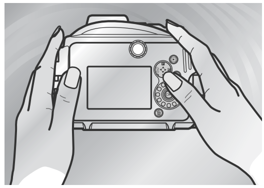
Removing the Camera
Never operate the buckle or buckle release button underwater. Before opening the case, be sure that your hands are dry and free from salt or sand; do not open the case in areas exposed to blown sand or spray. When removing the camera, be careful not to drop the device and make sure that droplets from your hair, body, or other objects do not fall into the case or onto the camera. If water does fall onto the camera or into the waterproof case, dry it immediately with a soft cloth. Be sure that your hands are dry and free from salt or sand before handling the camera or battery.

Keep the case upright; do not place the open case with the O-ring or O-ring seal face down.

En

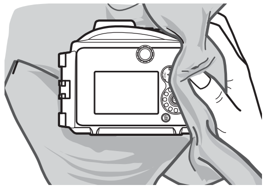
4 Soak the case in fresh water.

Reseal the case and leave it in a basin of fresh water for two to three hours. Operate each of the controls a few times to remove salt. If salt drys on the controls, they may cease to function or their metal parts may rust, causing the case to leak.



5 Wipe dry.

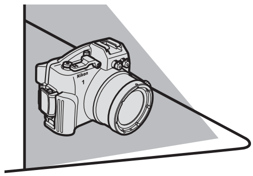
Dry the case thoroughly with a soft, dry cloth. Do not use a cloth to which salt has adhered.



En

6 Let the case dry in the shade.

Leave the case out to dry in a shady, well-ventilated area.



Do Not Expose to Sunlight or Heat

Do not use a hair dryer or other heat source or place the case in direct sunlight. Heat could cause the case or O-ring to deteriorate, resulting in leakage.

Cleaning the Interior of the Case

Use a blower, brush, or a damp, soft cloth to remove foreign objects from the interior of the case. Liquid can be removed with a damp, soft cloth. When using a cloth, be careful not to scratch the case; do not use unnecessary force. Do not use water, detergents, or chemical agents of any kind. Water can damage the coating on the inside of the lens window.

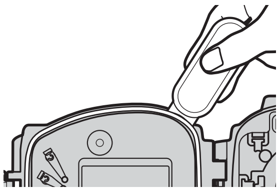
Maintenance

This section describes how to maintain the O-ring and waterproof case.

Caring for the O-Ring

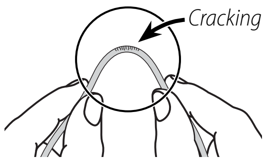
The WP-N3 uses an O-ring to form a watertight seal. Improper handling of the O-ring can produce leaks. Check the condition of the O-ring as described below before each use, and check for the presence of foreign objects on the O-ring each time the case is opened, however briefly.

1 Remove the O-ring.
Use the O-ring remover to remove the O-ring as shown.

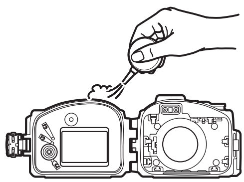


Do Not Use Force or Sharp Objects
The case may leak if the O-ring is forcibly stretched or damaged through the use of edged or pointed objects, including fingernails and metal tools.

2 Inspect the O-ring.
Remove old silicon grease and other foreign objects with a soft cloth, taking care not to leave tissue or threads on the O-ring. Gently bend the O-ring to check for cracking or other damage.



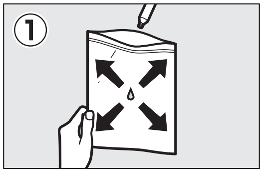
3 Inspect the O-ring guide.
Use a blower or cotton swab to remove any foreign objects from the watertight channel and all parts of the case that come into contact with the O-ring. Be sure to remove any threads left behind by the swab.

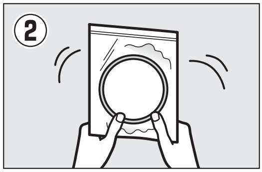


En

4 Grease the O-ring.

If the O-ring is not properly greased, it may crack or peel, causing leaks. Grease the ring if the surface appears dry. First, squeeze about a centimeter (half an inch) of silicon grease into a plastic bag and use your fingers to spread the grease throughout the bag (①). Next, insert the O-ring and massage the bag to coat the ring (②). Use only grease designated for use with the WP-N3. Do not apply grease using cloth or paper, as these may leave fibers on the O-ring. Note that applying too much grease may cause foreign objects to adhere more readily to the ring, preventing the case from sealing properly.

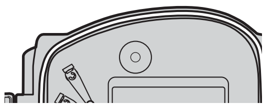


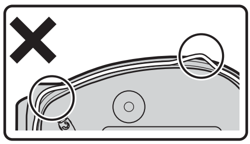


En

5 Replace the O-ring.

Making sure the O-ring and guide are free of foreign objects, place the O-ring so that it runs evenly at the same level all the way round the O-ring guide, without undue stretching or twisting and without protruding from the guide.





☑ O-Rings

The O-ring requires periodic replacement. Replace the O-ring immediately if it is damaged, cracked, warped, or has lost its elasticity. O-rings should be replaced at least once a year. Use only silicon grease designated for use in this product; replacement O-rings and silicon grease can be purchased from a Nikon camera retailer or Nikon-authorized service agent. Do not use COOLPIX or NIKONOS O-ring lubricant (grease).

☑ Cleaning

Do not use detergents or volatile chemicals such as alcohol or thinner when cleaning the case or O-ring. Failure to observe this precaution could result in damage to the case or O-ring.

Storage

Store the case in a cool, well-ventilated area, leaving the case open to prevent the O-ring deteriorating. When leaving the case unused for an extended period, remove the O-ring, remove all old silicon grease, apply fresh silicon grease, and place the O-ring in a clean plastic bag to ensure that it maintains it elasticity. Do not store the case in direct sunlight or where it will be exposed to sudden changes in temperature or high levels of humidity. Do not store the case or O-ring under other objects, close to open flames, in the vicinity of flammable items, or with naphtha or camphor moth balls.

En

Servicing

Nikon recommends that the case be serviced by a Nikon-authorized service representative at least once a year. A fee is charged for this service.

Specifications

Maximum depth	45 m (147 ft)
Camera operating temperature	0 °C–40 °C (+32 °F–104 °F)
Dimensions (W × H × D)	Approx. 156.4 × 115.8 × 113.0 mm (6.2 × 4.6 × 4.4 in.), excluding projections
Weight	Approximately 735 g (1 lb 9.9 oz), body only

*Improvements to this product may result in unannounced changes to specifications and external appearance. Nikon will not be held liable for damages that may result from any errors this manual may contain. Unless otherwise stated, all measurements are performed at the temperature specified by the **C**amera and **I**maging **P**roducts **A**ssociation (CIPA): 23 ±3 °C (73.4 ±5.4 °F).*

Accessories Available for Separate Purchase

Nikon offers the following options and replacement items:

- WP-ZG1020 zoom gear sleeve for 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM lenses
- WP-ZG1010 zoom gear sleeve for 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 lenses
- WP-IS1000 inner-reflection prevention sticker for 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM lenses
- WP-IR1010 inner-reflection prevention ring for 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 lenses
- WP-O1100 O-ring
- WP-OR1000 O-ring remover
- WP-LC1000 front cap
- WP-AN1000 strap
- WP-AN2000 front cap strap
- WP-G1000 silicon grease
- WP-S1000 silica gel desiccant
- SB-N10 underwater speedlight
- SC-N10A underwater fiber-optic cable
- SK-N10A underwater bracket

De

Unterwassergehäuse WP-N3

Benutzerhandbuch

Das Unterwassergehäuse WP-N3 schützt die Nikon 1 J4 oder S2 vor Regen und Schnee und ermöglicht die Unterwasserfotografie bis zu einer Wassertiefe von 45 m. Bewahren Sie dieses Handbuch an einem Ort auf, zu dem alle Benutzer dieses Produkts Zugang haben, und lesen Sie sowohl dieses Handbuch als auch das Kamerahandbuch vor dem Gebrauch aufmerksam durch.

Symbole und Konventionen

Damit Sie die gewünschten Informationen schnell finden, werden in diesem Handbuch folgende Symbole und Konventionen verwendet:

✔	Dieses Symbol kennzeichnet Vorsichtshinweise, Informationen, die vor dem Gebrauch gelesen werden sollten, um eine Beschädigung der Kamera oder des Unterwassergehäuses zu vermeiden.
📎	Dieses Symbol kennzeichnet Anmerkungen, Informationen, die vor dem Gebrauch des Produkts gelesen werden sollten.
📖	Dieses Symbol kennzeichnet Verweise auf andere Seiten in diesem Handbuch.

De

✔ Wichtig: Vor Gebrauch lesen

Bevor Sie das Unterwassergehäuse im oder in der Nähe von Wasser verwenden, prüfen Sie, wie auf den Seiten 11 und 17 in diesem Handbuch beschrieben, ob undichte Stellen vorhanden sind.

⚠ Sicherheitshinweise

Bevor Sie das Gerät zum ersten Mal verwenden, lesen Sie die Sicherheitsanweisungen unter »Sicherheitshinweise« (📖 iii–vii) durch.

📎 Immer auf dem neuesten Stand

Im Rahmen des Nikon-Konzepts »Life-Long Learning« für kontinuierliche Produktunterstützung und -schulung stehen ständig aktualisierte Informationen online zur Verfügung:

- **Für Kunden in den USA**: *http://www.nikonusa.com/*
- **Für Kunden in Europa und Afrika**: *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **Für Kunden in Asien, Ozeanien und dem Nahen Osten**: *http://www.nikon-asia.com/*

Auf diesen Webseiten erhalten Sie aktuelle Produktinformationen, Tipps und Antworten auf häufig gestellte Fragen (FAQ) sowie allgemeine Informationen zu Fotografie und digitaler Bildverarbeitung. Zusätzliche Informationen können bei der Nikon-Vertretung in Ihrer Region verfügbar sein. Kontaktinformationen finden Sie auf ***http://imaging.nikon.com/***

Sicherheitshinweise

Lesen Sie die folgenden Sicherheitshinweise vollständig durch, bevor Sie das Gerät benutzen, um Schaden an Ihrem Nikon-Produkt oder Verletzungen Ihrer selbst und anderer zu vermeiden. Bewahren Sie diese Sicherheitshinweise an einem Ort auf, an dem alle Personen, die das Produkt verwenden, sie lesen können.

Die Folgen, die durch die Missachtung der in diesem Abschnitt beschriebenen Sicherheitsmaßnahmen entstehen können, werden durch das folgende Symbol angezeigt:

⚠ Dieses Symbol kennzeichnet Warnhinweise. Lesen Sie alle Warnhinweise aufmerksam durch, bevor Sie Ihr Nikon-Produkt in Betrieb nehmen, um möglichen Verletzungen vorzubeugen.

WARNHINWEISE

⚠ ***Nehmen Sie das Produkt nicht auseinander***. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme besteht das Risiko von Verletzungen oder einer Produktfehlfunktion. Falls das Gerät durch einen Sturz oder andere äußere Einwirkungen beschädigt wurde, lassen Sie es vom Nikon-Kundendienst überprüfen, achten Sie dabei darauf, sich nicht an den defekten Teilen zu verletzen.

⚠ ***Schalten Sie die Kamera bei einer Fehlfunktion sofort aus***. Wenn Rauch oder ein ungewöhnlicher Geruch aus dem Gerät dringt, nehmen Sie sofort den Akku aus der Kamera heraus, achten Sie dabei darauf, sich nicht zu verbrennen. Die Fortsetzung des Betriebs kann zu Verletzungen führen. Bringen Sie das Gerät zur Überprüfung zum Nikon-Kundendienst, nachdem Sie den Akku aus der Kamera entnommen haben.

⚠ ***Benutzen Sie das Gerät nicht in der Nähe von brennbarem Gas***. Verwenden Sie keine elektronischen Geräte in der Nähe von brennbarem Gas, da dies zu einer Explosion oder zu einem Brand führen kann.

⚠ ***Setzen Sie das Gerät keinen hohen Temperaturen aus***. Bewahren Sie das Produkt nicht an Orten auf, an denen es extrem hohen Temperaturen ausgesetzt ist, wie in einem geschlossenen Auto oder direkt in der Sonne. Das Missachten dieser Vorsichtsmaßnahme könnte einen Schaden oder einen Brand verursachen.

⚠ ***Vorsicht bei Verwendung des Blitzgeräts.***
- Das Blitzen in unmittelbarer Nähe von menschlichen Augen kann zu vorübergehenden Sehstörungen führen. Seien Sie beim Fotografieren von Kleinkindern besonders vorsichtig und halten Sie unbedingt einen Mindestabstand von 1 m zum Motiv ein, wenn Sie das Blitzgerät verwenden.
- Zielen Sie mit dem Blitzlicht nicht auf einen Autofahrer. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme besteht das Risiko von Unfällen.

⚠ ***Achten Sie darauf, dass Kamera und Zubehör nicht in die Hände von Kindern gelangen***. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme besteht das Risiko von Verletzungen. Beachten Sie außerdem, dass Kleinteile ein Erstickungsrisiko darstellen. Sollte ein Kind ein Kleinteil von dieser Ausrüstung verschlucken, suchen Sie sofort einen Arzt auf.

⚠ ***Legen Sie einem Kind nicht den Trageriemen um den Hals***. Wenn der Trageriemen um den Hals eines Kindes gelegt wird, besteht die Gefahr einer Strangulierung.

⚠ ***Tauchen Sie nicht, während Sie das Gerät festhalten***. Um Verletzungen zu vermeiden, die verursacht werden, wenn das Gehäuse den Körper streift, springen oder tauchen Sie nicht ins Wasser ein, während Sie das Unterwassergehäuse festhalten.

⚠ ***Vorsicht im Umgang mit Kamera-Akkus.*** Akkus können bei unsachgemäßer Handhabung auslaufen oder explodieren. Bitte beachten Sie beim Umgang mit Kamera-Akkus die nachfolgenden Vorsichtsmaßnahmen:

- Verwenden Sie nur Akkus, die zur Verwendung in dieser Kamera zugelassen sind.
- Akkus laufen leicht aus, wenn sie vollständig entladen werden. Nehmen Sie die Kamera aus dem Gehäuse heraus, wenn sie nicht verwendet wird.
- Falls Wasser in das Gehäuse eindringt, nehmen Sie sofort den Akku aus der Kamera heraus.
- Halten Sie die Kontakte des Akkus trocknen. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme besteht das Risiko von Verletzungen oder einer Produktfehlfunktion.

De

⚠ ***Setzen Sie das Gerät nicht direktem Sonnenlicht aus***. Das Gehäuse könnte das Sonnenlicht bündeln und einen Brand auslösen.

⚠ ***Verwenden Sie das Gerät nicht in einer Tiefe von mehr als 45 m***. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme besteht das Risiko von Lecks oder anderen Fehlfunktionen.

⚠ ***Halten Sie das Gehäuse wasserdicht.*** Reinigen Sie das Gehäuse nicht mit einem Hochdruckreiniger. Öffnen Sie das Gehäuse nicht an Orten, wo es Staub oder Sand ausgesetzt wäre, und entfernen Sie unbedingt alle Fremdkörper vom O-Ring und allen Teilen des Gehäuses, die mit dem O-Ring in Kontakt kommen, bevor Sie das Gehäuse schließen. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahmen besteht das Risiko von Lecks.

⚠ ***Setzen Sie das Gerät keinen hohen Temperaturen aus***. Setzen Sie das Gerät nicht Temperaturen von über 40 °C aus. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme könnte sich das Gerät verformen und Lecks verursachen.

⚠ ***Decken Sie das Gerät während des Gebrauchs nicht ab***. Ein Hitzestau könnte das Gehäuse verformen oder einen Brand verursachen.

⚠ ***Bewahren Sie die Kamera nicht im Gehäuse auf***. Gase, die vom Kamera-Akku freigesetzt werden, könnten sich im Gehäuse ansammeln und eine Explosion oder einen Brand verursachen.

⚠ ***Essen Sie kein Silikonfett oder Silikagel***. Diese Produkte sind nicht essbar.

Vorsichtshinweise

Damit Sie lange Freude an Ihrem Nikon-Produkt haben, beachten Sie die folgenden Vorsichtsmaßnahmen beim Verstauen oder Verwenden des Geräts.

■■ Wasserdichtigkeit

Beachten Sie bitte die folgenden Vorsichtsmaßnahmen beim Gebrauch des Unterwassergehäuses im und am Wasser:

- Kontrollieren Sie das Gehäuse vor dem Einsatz auf Dichtigkeit, wie auf Seite 11 und 17 in diesem Handbuch beschrieben.
- Das Gehäuse ist nur gegen Süßwasser (wie in Schwimmbecken, Flüssen und Seen) und Meereswasser resistent. Benutzen Sie es nicht in heißen Quellen oder Bädern.
- Bringen Sie das Produkt nicht in größere Tauchtiefen als 45 m und setzen Sie es nicht Wasser unter hohem Druck aus (z. B. Stromschnellen, Wasserfall, starker Wasserstrahl). Beim Missachten dieser Vorsichtsmaßnahmen könnte der auf das Gehäuse ausgeübte Wasserdruck so hoch sein, dass er eine Beschädigung, Verformung und das Eindringen von Wasser zur Folge hat.
- Die Kamera wird durch Wasser beschädigt. Um das Eindringen von Wasser zu verhindern, dürfen Sie das Gehäuse nicht öffnen, wenn die Hände oder das Gehäuse nass sind; außerdem nicht öffnen im oder in unmittelbare Nähe von Wasser sowie an Orten mit Sprühnebel, Wind, Sand oder Staub. Stellen Sie sicher, dass die Kamera vor dem Einsetzen ins Gehäuse trocken ist. Sollte das Gehäuse undicht sein, beenden Sie sofort die Benutzung, trocknen Sie die Kamera und das Gehäuse-Innere, und bringen Sie Kamera und Gehäuse zu einem Nikon-Kundendienst.
- Bevor Sie das Gehäuse schließen oder wenn Sie den O-Ring einlegen, vergewissern Sie sich, dass der O-Ring nicht verdreht oder verrutscht ist. Kontrollieren Sie außerdem sorgfältig das Innere des Gehäuses, den O-Ring, die Auffangrinne und alle Gehäuseteile, die mit dem O-Ring in Kontakt kommen, um sicherzustellen, dass sie frei von Flüssigkeiten, Haaren, Fusseln, Staub, Sand und anderen Fremdkörpern sind. Wasser und andere Flüssigkeiten auf diesen Flächen sollten sofort mit einem weichen, trockenen Tuch beseitigt werden. Entfernen Sie andere Fremdkörper mit einem Blasebalg, wobei darauf zu achten ist, dass auch kleinste Schmutzteilchen aus den Seiten und Ecken der Auffangrinnen beseitigt werden. Fremdkörper auf der Außenseite des Gehäuses lassen sich mit einem weichen, trockenen Tuch entfernen. Verwenden Sie keine Seife, Reinigungsmittel oder andere Chemikalien, und entfernen Sie Sonnenöl, Sunblocker, Badesalz, Reinigungsmittel, Seife, organische Lösungsmittel, Öle, Alkohol und ähnliche Substanzen schnellstens.
- Bringen Sie keine Aufkleber auf dem Gehäuse an, und verwenden Sie keine Dichtmittel, Antibeschlag-Mittel und keine O-Ring-Schmierfette sowie Silikagel-Trocknungsmittel, die nicht für das WP-N3 vorgesehen sind (📖 25).
- Belassen Sie das Gehäuse nicht für längere Zeit an Plätzen, an denen Frost oder hohe Temperaturen herrschen (wie z. B. in geschlossenen Autos, auf Booten, am Strand, im direkten Sonnenlicht oder nahe an Heizgeräten). Das Missachten dieser Vorsorgemaßnahmen kann das Gehäuse für das Eindringen von Wasser anfällig machen.
- Die Wasserdichtigkeit kann nicht gewährleistet werden, falls das Gehäuse Schläge abbekommt, fallen gelassen wird, unter schwere Gegenstände gelegt wird oder in anderer Weise starkem Druck, übermäßigen mechanischen Kräften oder heftigen Erschütterungen ausgesetzt wird. Sollte das Gehäuse einen Sturz oder sonstige starke Stöße erleiden, lassen Sie die Wasserdichtigkeit vom Nikon-Kundendienst überprüfen. Für diesen Service fällt eine Gebühr an.
- Schäden aufgrund von Handhabungsfehlern der Benutzer sind nicht von der Garantie abgedeckt.

Stoßfestigkeit

Das Unterwassergehäuse wurde nicht dafür konstruiert, um die Kamera vor Stößen oder Erschütterungen zu schützen. Lassen Sie das Gehäuse nicht fallen, stoßen Sie es nicht gegen harte Gegenstände, werfen Sie es nicht ins Wasser, springen Sie mit dem Gehäuse in der Hand nicht ins Wasser, und lassen Sie das Gehäuse nicht an einem Ort, wo es extremen Vibrationen ausgesetzt ist. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahmen könnte die Kamera beschädigt werden.

Betriebsumgebung

Beachten bitte Sie die folgenden Vorsichtsmaßnahmen:

- Bei niedrigen Temperaturen arbeitet die Kamera direkt nach dem Einschalten eventuell nicht wie erwartet und die Akkuleistung fällt ab. Halten Sie einen warmgehaltenen Ersatzakku zum Austauschen bereit.
- Entfernen Sie Schnee und Regentropfen in kalter Umgebung so rasch wie möglich. Die Bedienelemente können schwer zu betätigen sein, wenn sie einfrieren.
- Langanhaltender Kontakt mit kaltem Metall kann unbedeckte Haut schädigen. Tragen Sie Handschuhe, wenn Sie das Gehäuse längere Zeit bei niedrigen Temperaturen anfassen.
- Belassen Sie das Gehäuse nicht an Orten, wo es hohen Temperaturen ausgesetzt ist, wie in einem Auto, nahe an Heizgeräten, am Strand oder im direkten Sonnenlicht. Andernfalls könnte die Stabilität leiden oder das Gehäuse sich verformen, wodurch die Kamera beschädigt werden kann. Plötzliche Temperaturänderungen können das Kondensieren von Feuchtigkeit innerhalb des Gehäuses bewirken, wodurch die Kamera ebenfalls Schäden davontragen kann. So vermeidet man die Kondensation:
  - Wenn Sie sich an einen Ort begeben, der spürbar wärmer oder kälter als der vorherige ist, lassen Sie die Kamera im Unterwassergehäuse, bis sich die Temperatur an die Umgebungstemperatur angeglichen hat.
  - Legen Sie das mitgelieferte Trocknungsmittel (Silikagel) in das Gehäuse mit der Kamera, wie auf Seite 14 dieses Handbuchs beschrieben.
  - Setzen Sie das Gehäuse keinen hohen Temperaturen aus, indem Sie es am Strand oder im direkten Sonnenlicht liegen lassen, bevor Sie damit ins Wasser gehen.

O-Ring

Befolgen Sie bitte die nachstehenden Hinweise für den Umgang mit O-Ringen:

- Der O-Ring muss regelmäßig ersetzt werden. Tauschen Sie den O-Ring unverzüglich aus, wenn er beschädigt, eingerissen oder verzogen ist oder an Elastizität verloren hat. O-Ringe sollten mindestens einmal im Jahr ersetzt werden; verwenden Sie keine O-Ringe, die verschlissen oder nicht für dieses Produkt bestimmt sind.
- Um eine Beschädigung des O-Rings zu vermeiden, benutzen Sie den O-Ring-Entferner, wenn Sie den Ring vom Gehäuse abnehmen. Verwenden Sie dazu keine metallischen Gegenstände oder spitzen Werkzeuge.
- Wenden Sie beim Entfernen oder Einlegen des O-Rings keine Gewalt an. Übermäßige Krafteinwirkung kann den Ring dauerhaft dehnen und dadurch das Gehäuse undicht werden lassen.
- Verwenden Sie zur Vermeidung von Abnutzung nur Silikonfett, das für dieses Produkt bestimmt ist (📖 25). *Benutzen Sie kein O-Ring-Schmiermittel (Schmierfett) für COOLPIX oder NIKONOS und auch keine sonstigen Silikonfette.*

Änderung der Höhenlage

Luftdruckänderungen aufgrund des Wechsels in andere Höhenlagen können möglicherweise das Gehäuse beschädigen oder das Öffnen verhindern. Befolgen Sie die nachstehenden Vorsorgemaßnahmen:

- Führen Sie das Gehäuse bei Flugreisen wenn möglich im Handgepäck mit. Falls Sie das Gehäuse im aufgegebenen Gepäck verstauen, lassen Sie das Gehäuse offen oder nehmen Sie den O-Ring heraus.
- Öffnen Sie beim Übergang von großen zu niedrigen Höhen regelmäßig das Gehäuse, um den Druck auszugleichen.

✔ Wichtig!

Das Unterwassergehäuse WP-N3 ist nur für die Verwendung mit kompatiblen Kameras vorgesehen. Setzen Sie keine andere Kamera in das WP-N3 ein.

Inhaltsverzeichnis

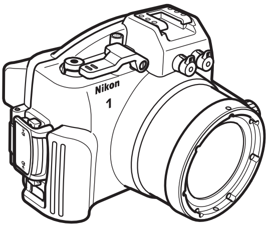
De

Einleitung

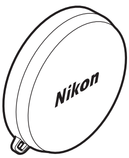
Beziehen Sie sich für die Namen des beiliegenden Zubehörs und die Teile des Unterwassergehäuses auf diesen Abschnitt.

Verpackungsinhalt

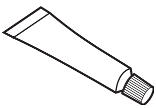
Überprüfen Sie, ob die Verpackung die unten aufgeführten Dinge enthält. Wenden Sie sich an Ihren Händler, wenn etwas fehlt.



☐ *WP-N3 (mit eingesetztem O-Ring WP-O1100; vor der Verwendung wie auf Seite 22 beschrieben prüfen, ob der O-Ring unbeschädigt ist)*



☐ *WP-LC1000 Vorderer Deckel*



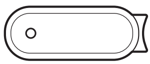
☐ *WP-G1000 Silikonfett*



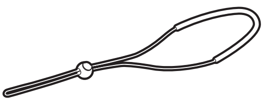
☐ *WP-ZG1020 Zoomring-Manschette (für Objektiv 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM)*



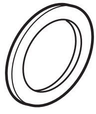
☐ *WP-ZG1010 Zoomring-Manschette (für Objektiv 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6)*



☐ *WP-OR1000 O-Ring-Entferner*



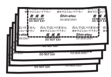
☐ *WP-AN1000 Trageriemen*



☐ *WP-IS1000 Anti-Reflexions-Aufkleber (für Objektiv 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM)*



☐ *WP-IR1010 Ring zur Verhinderung interner Reflexion (für Objektiv 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6)*

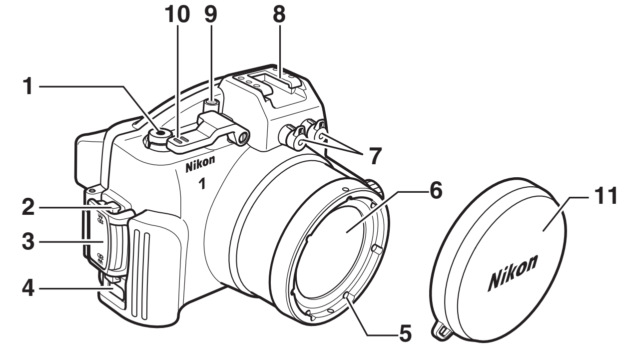


☐ *WP-S1000 Silikagel-Trockenmittel (1 Packung von 5; nach dem Öffnen neu abdichten)*

☐ *WP-AN2000 Befestigungsband für Objektivfrontdeckel*

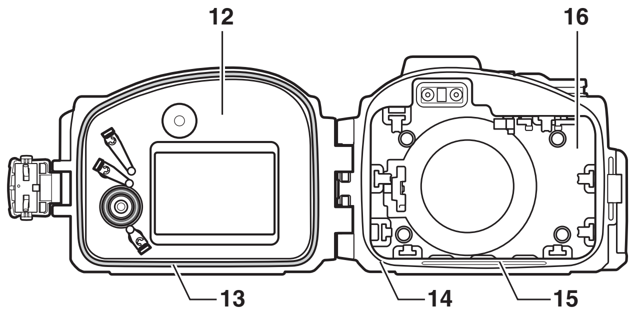
☐ Benutzerhandbuch (dieses Handbuch)

☐ *Garantieschein*



1 Taste für Filmaufzeichnung 18
2 Verschluss-Entriegelungstaste 4
3 Verschluss 4
4 Öse für Trageriemen 3
5 ⌀67 mm Filterbefestigungsgewinde
6 Objektivfenster 14
7 Kappe für LWL-Kabelanschluss* 16
8 Zubehörschuh
9 Ein-/Ausschalter 18
10 Auslösehebel 18
11 Vorderer Deckel 3, 25

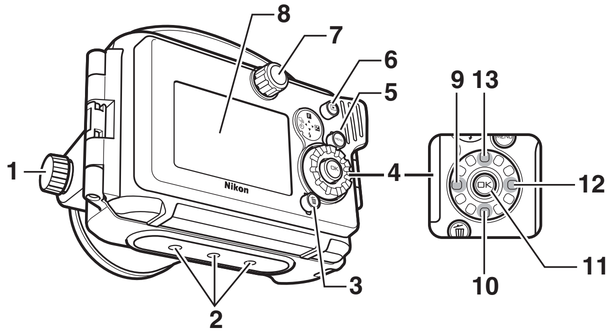
* Bei Verwendung eines optionalen Unterwasser-Blitzgeräts SB-N10 entfernen.



12 Hintere Gehäusehälfte 4
13 O-Ring/Nut für O-Ring 15, 22, 25
14 O-Ring-Dichtung 15, 22
15 Auffangrinne 15, 22
16 Vordere Gehäusehälfte 4

Der Zubehörschuh

Der Zubehörschuh wird für Unterwasser-Blitzgeräte und sonstiges Zubehör verwendet; in der Dokumentation des Zubehörs finden Sie Informationen zum Anbringen und Abnehmen. Entfernen Sie das Zubehör vom Zubehörschuh, wenn Sie das Unterwassergehäuse an Land transportieren.

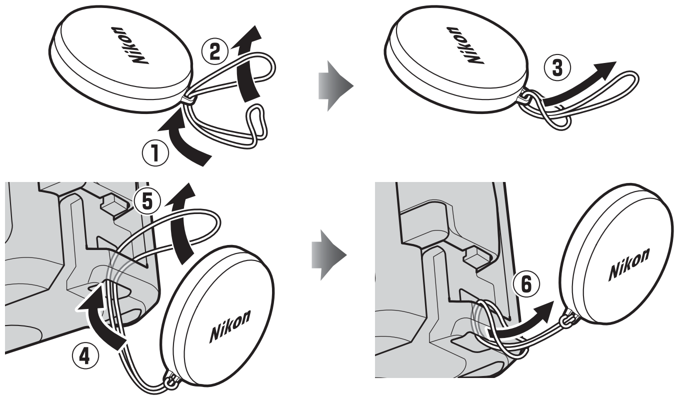


1 Zoomrad 15, 18
2 Stativgewinde
3 🗑 -Taste (Löschen)
4 Multifunktionswähler
5 MENU -Taste (Menü)
6 ▶ -Taste (Wiedergabe)
7 Funktionswählrad* 18
8 Monitorfenster
9 ⏱ -Taste (Serienaufnahme/Selbstauslöser)
10 ⚡ -Taste (Blitzmodus)
11 OK -Taste (OK)
12 ± -Taste (Belichtungskorrektur)
13 F -Taste (Feature)

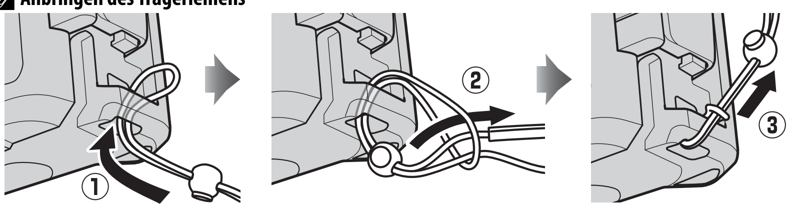
* Nur zur Verwendung mit der J4

De

Anbringen des Befestigungsbandes für Objektivfrontdeckel



Anbringen des Trageriemens

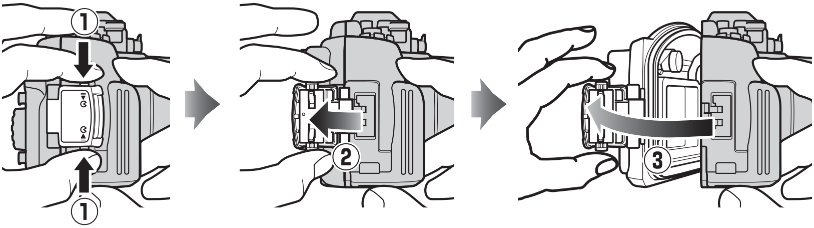


Verwendung des Verschlusses

Befolgen Sie die untenstehenden Schritte, um das Gehäuse zu entriegeln oder verriegeln.

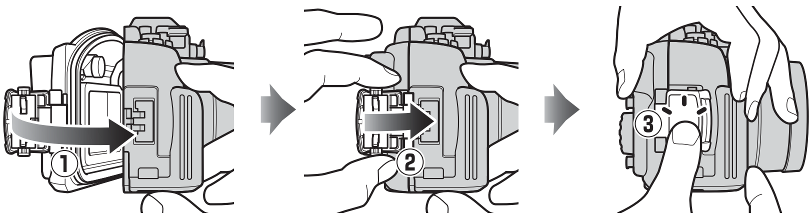
Entriegeln des Gehäuses

Halten Sie die Verschluss-Entriegelungstaste (①) gedrückt, öffnen Sie den Verschluss (②) und öffnen Sie anschließend die hintere Gehäusehälfte (③).



Verriegeln des Gehäuses

Schließen Sie das Gehäuse (①) und klappen Sie den Verschluss auf die vordere Hälfte um (②), drücken Sie anschließend den Verschluss hinein (③). Check that the case is properly sealed, that the O-ring is in place, and, bis er hörbar einrastet. Prüfen Sie, dass das Gehäuse ordnungsgemäß abgedichtet ist, dass der O-Ring richtig sitzt und dass sich keine Fremdkörper in der Dichtung befinden (📖 23).



✔ Öffnen des Gehäuses

Achten Sie vor dem Öffnen des Gehäuses darauf, dass es vollständig trocken und frei von Schmutz ist. Waschen Sie das Gehäuse nach dem Einsatz unter Wasser mit Frischwasser, um Sand oder andere Fremdkörper zu entfernen, und trocknen Sie es anschließend gründlich mit einem weichen, trockenen Tuch ab. Achten Sie darauf, dass kein Wasser, Sand oder andere Fremdkörper, die sich auf dem Gehäuse befinden, in das Innere des Gehäuses fallen, wenn es geöffnet wird. Bedienen Sie den Verschluss oder die Verschluss-Entriegelungstaste niemals unter Wasser.

Achten Sie darauf, die Kamera nicht fallen zu lassen, wenn Sie sie aus dem Gehäuse nehmen.

Konfiguration

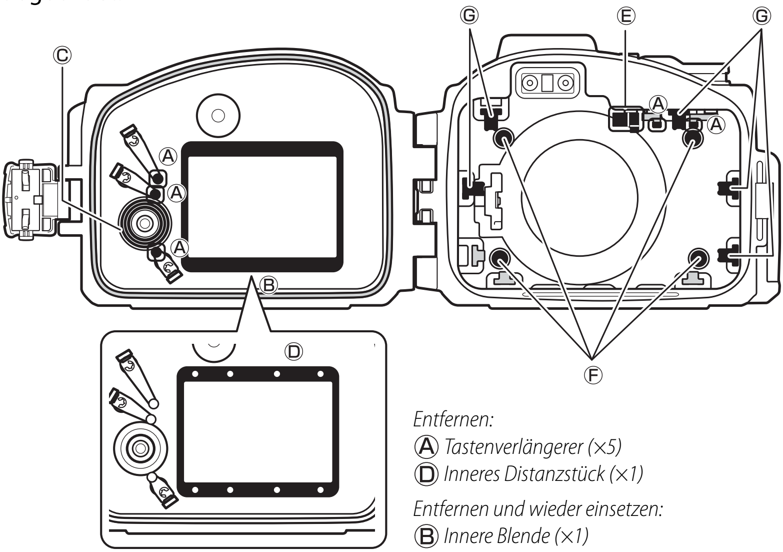
Ab Werk ist das Unterwassergehäuse für die Verwendung mit der J4 konfiguriert. Indem herausnehmbare Komponenten aus dem Gehäuse entfernt werden, kann das Unterwassergehäuse für die Verwendung mit der S2 konfiguriert werden. Achten Sie darauf, dass Sie diese Komponenten nicht fallenlassen, wenn Sie sie wieder einsetzen.

Konfiguration des Unterwassergehäuses für die J4

Ab Werk ist das Unterwassergehäuse für die Verwendung mit der J4 konfiguriert. Ändern Sie die Konfiguration nicht, wenn Sie es mit der J4 verwenden.

Konfiguration des Unterwassergehäuses für die S2

Um das Gehäuse mit der S2 zu verwenden, konfigurieren Sie es wie unten abgebildet.



Entfernen:
Ⓐ *Tastenverlängerer (×5)*
Ⓓ *Inneres Distanzstück (×1)*

Entfernen und wieder einsetzen:
Ⓑ *Innere Blende (×1)*

Entfernen, umdrehen und wieder einsetzen:
Ⓒ *Multifunktionswähler-Kontaktstück (×1)*
Ⓔ *Ein-/Ausschaltkontakt (×1)*
Ⓕ *Vorderes Polster (×4)*
Ⓖ *Seitliches Polster (×5)*

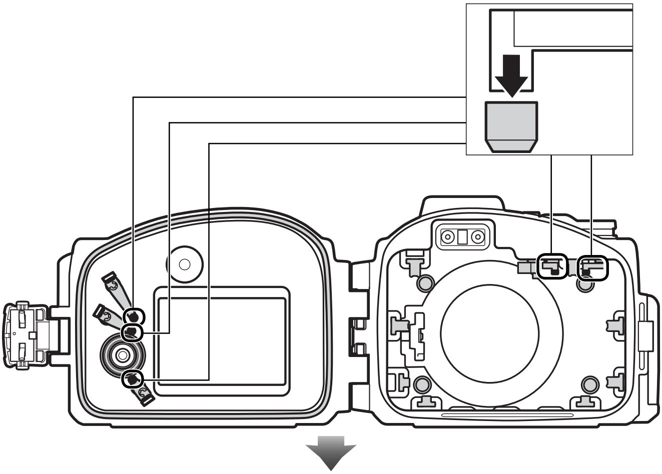
Wichtig!

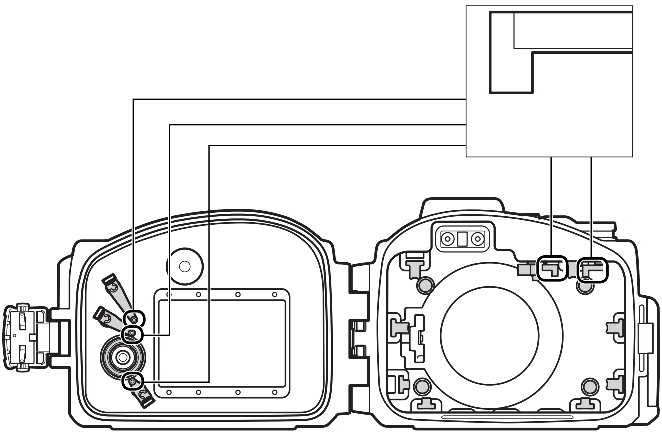
Stellen Sie sicher, dass alle Komponeten fest eingebaut sind. Wenn herausnehmbare Komponenten nicht fest eingesetzt werden, können sie verloren gehen oder es können Undichtigkeiten entstehen, sodass die Kamera beschädigt wird. Zum Einsetzen dieser Komponenten sollten Sie einen gut beleuchteten Ort aufsuchen und darauf achten, dass Sie nicht Ihre Finger verletzen oder Ihre Fingernägel beschädigen.

De

Wenn Sie das Unterwassergehäuse mit der S2 verwenden, entfernen Sie die Tastenverlängerer, die innere Blende und das innere Distanzstück. Setzen Sie anschließend wieder die innere Blende ein.

Ⓐ **Tastenverlängerer (×5)**
Entfernen Sie die Tastenverlängerer.

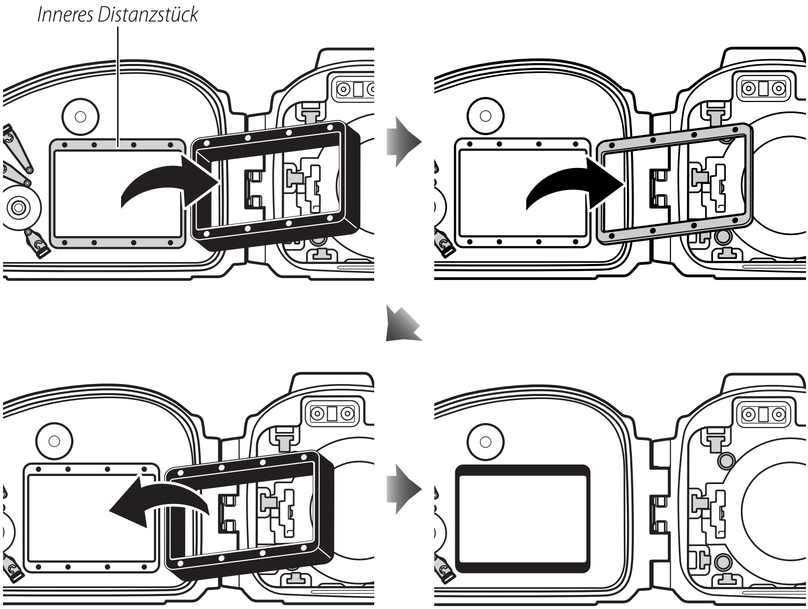




De

Ⓑ Innere Blende (×1)/Ⓓ Inneres Distanzstück (×1)

Wenn Sie das Unterwassergehäuse mit der S2 verwenden, entfernen Sie die innere Blende und das innere Distanzstück. Setzen Sie anschließend wieder die innere Blende ein.



Wichtig!

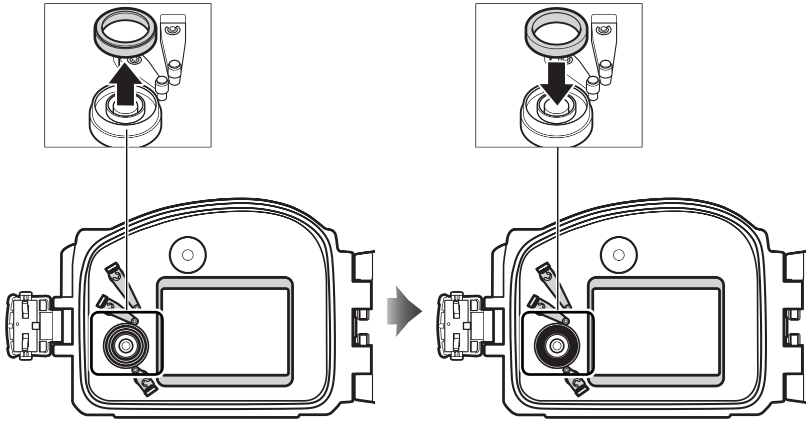
Die Tastenverlängerer und das innere Distanzstück werden nicht benötigt, wenn Sie das Unterwassergehäuse mit der S2 verwenden. Entfernen Sie diese Teile und verwahren Sie sie an einem sicheren Ort.

De

Benutzer der S2 müssen außerdem die Kontaktstücke für Multifunktionswähler und Ein-/Ausschalter sowie die vorderen und seitlichen Polster entfernen, umdrehen und wieder einsetzen.

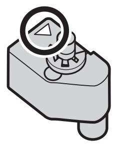
Ⓒ Multifunktionswähler-Kontaktstück (×1)

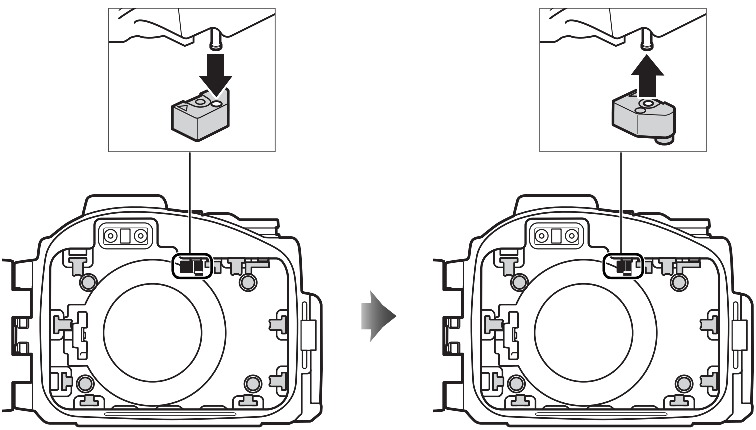
Nehmen Sie das Kontaktstück heraus und setzen Sie es in der gezeigten Ausrichtung wieder ein.



Ⓔ Ein-/Ausschaltkontakt (×1)

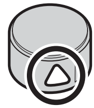
Ziehen Sie den Kontakt ab und stecken Sie ihn mit der Öffnung an der Spitze des Dreiecks erneut auf.

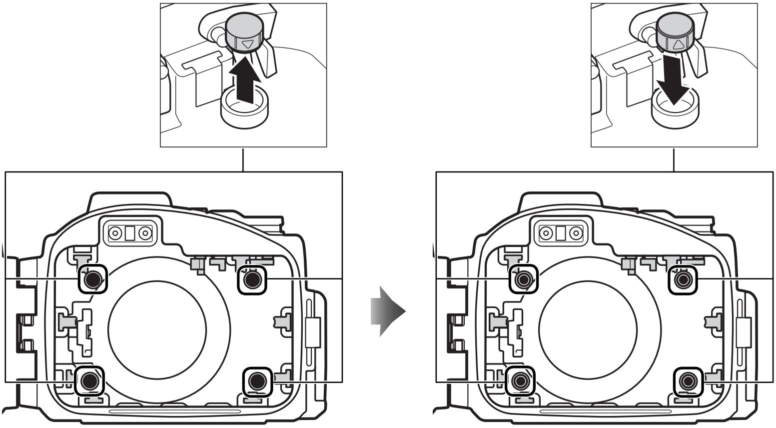




Ⓕ **Vorderes Polster (×4)**

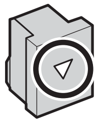
Nehmen Sie die Polster heraus und setzen Sie sie mit der Spitze des Dreiecks nach oben weisend wieder ein.

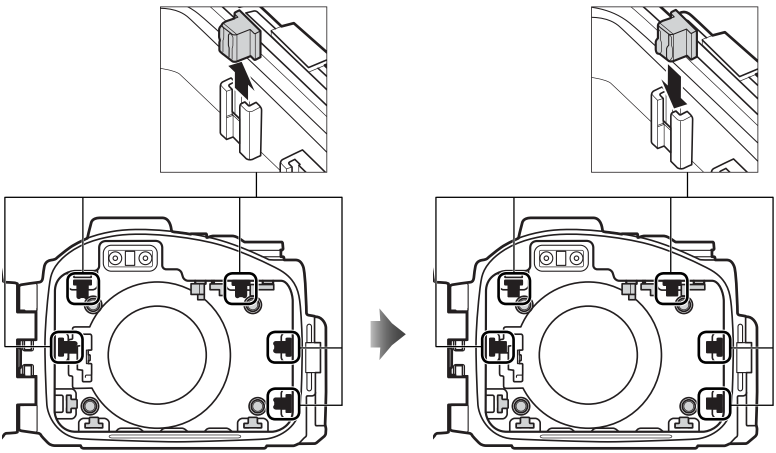




Ⓖ **Seitliches Polster (×5)**

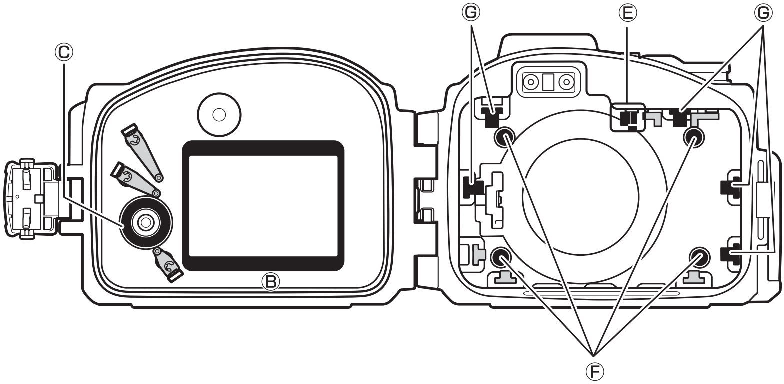
Entnehmen Sie die Polster und setzen Sie sie mit der Spitze des Dreiecks nach unten weisend erneut ein.





De

Die untere Abbildung zeigt das Unterwassergehäuse, nachdem es für die Verwendung mit der S2 konfiguriert wurde.



De

Ⓐ *Multifunktionswähler-Kontaktstück (×1)*
Ⓑ *Innere Blende (×1)*
Ⓔ *Ein-/Ausschaltkontakt (×1)*
Ⓕ *Vorderes Polster (×4)*
Ⓖ *Seitliches Polster (×5)*

Um das Gehäuse wieder mit der J4 zu verwenden, stellen Sie die ursprüngliche Konfiguration der Komponenten wieder her.

Die Vorprüfung auf undichte Stellen

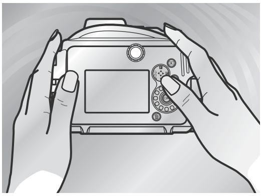
Bevor Sie die Kamera in das Gehäuse legen, verriegeln Sie das Gehäuse und tauchen Sie es in Wasser unter, um wie nachfolgend beschrieben auf undichte Stellen zu prüfen.

Wichtig!

Bevor Sie die Kamera in das Gehäuse legen, stellen Sie sicher, dass die Kamera normal funktioniert und dass das Gehäuse nicht undicht ist. Wenn vor dem Gebrauch versäumt wird, auf undichte Stellen zu prüfen, könnte dies zu irreparablen Schäden an der Kamera führen. Beachten Sie, dass undichte Stellen auftreten können, wenn das Gehäuse gesprungen oder beschädigt ist. Kontrollieren Sie das Gehäuse vor dem Gebrauch auf Sprünge und andere Beschädigungen und wenden Sie sich an den Nikon-Kundendienst, wenn Sie Sprünge oder Beschädigungen finden.

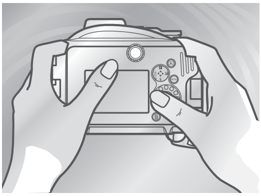
1 Verriegeln Sie das Gehäuse und tauchen Sie es in Wasser unter.

Verriegeln Sie das Gehäuse und tauchen Sie es langsam in Wasser unter, hören Sie auf, falls Luft aus dem Inneren des Gehäuses austritt. Halten Sie das Gehäuse 2 oder 3 Sekunden lang unter Wasser gedrückt und kontrollieren Sie, ob Blasen austreten. Testen Sie das Gehäuse in einem flachen Bereich in einer Tiefe von etwa 1 m oder in einer Badewanne oder einem Eimer. Verwenden Sie kein heißes Wasser, da dies den Betriebstemperaturbereich von 0–40 °C überschreiten könnte.



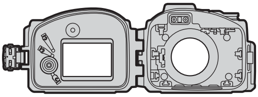
2 Testen Sie die Bedienelemente.

Tauchen Sie das Gehäuse unter und bedienen Sie die Bedienelemente 2 bis 3 Minuten lang unter Wasser, kontrollieren Sie dabei, ob Blasen austreten.



3 Prüfen Sie, ob sich Wasser im Gehäuse befindet.

Nehmen Sie das Gehäuse aus dem Wasser und trocknen Sie es gründlich mit einem weichen, trockenen Tuch ab, öffnen Sie anschließend das Gehäuse und kontrollieren Sie, ob sich Wasser darin befindet. Wenn Wasser in das Gehäuse gelangt ist, kontrollieren Sie den O-Ring (📖 15, 22–23). Wenn die Ursache für die undichte Stelle nicht bestimmt werden kann, bringen Sie das Gehäuse zum Nikon-Kundendienst.



De

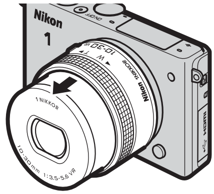
Vorbereiten des Objektivs

Verwenden Sie ein Objektiv 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM oder 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6. Andere Objektiv lassen sich nicht einsetzen.

Objektiv 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM

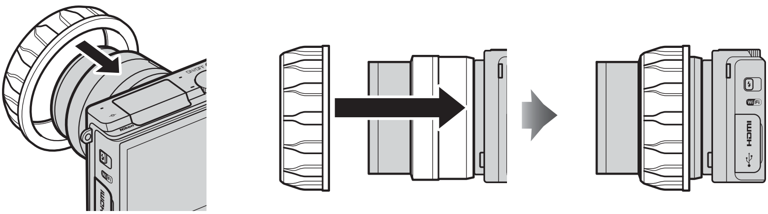
Bringen Sie die Zoomring-Manschette WP-ZG1020 und den Anti-Reflexions-Aufkleber WP-IS1000 an.

1 Bringen Sie das Objektiv an und fahren Sie es aus.
Das Objektiv fährt beim Einschalten der Kamera automatisch heraus.



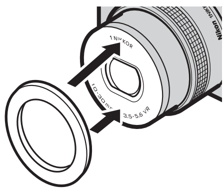
De

2 Bringen Sie die Zoomring-Manschette an.
Schieben Sie die Manschette gerade auf das Objektiv, bis sie stoppt.



Die Position der Manschette nach dem Anbringen so anpassen, dass sich der Zoomring frei dreht.

3 Bringen Sie den Anti-Reflexions-Aufkleber an.
Befestigen Sie den Anti-Reflexions-Aufkleber wie gezeigt an der Vorderseite des Objektivs (falls der Anti-Reflexions-Aufkleber nicht haften bleibt, säubern Sie die selbsthaftende Oberfläche mit einem Wischtuch oder feuchten Lappen). Wenn der Anti-Reflexions-Aufkleber nicht angebracht ist, erscheint die Objektivbeschriftung eventuell auf den Fotos, weil sie von der Innenseite des Objektivglases im Unterwassergehäuse reflektiert wurde. Der Anti-Reflexions-Aufkleber lässt sich wiederverwenden; bei Nichtgebrauch sollte er wieder auf die Original-Trägerfolie geklebt werden.

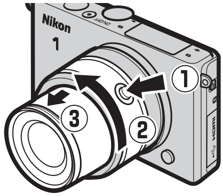


4 Schalten Sie die Kamera aus.
Das Objektiv fährt automatisch zurück.

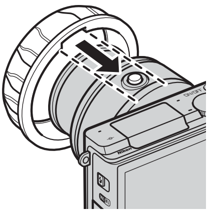
Objektiv 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6

Bringen Sie die Zoomring-Manschette WP-ZG1010 und den Ring zur Verhinderung interner Reflexion WP-IR1010 an.

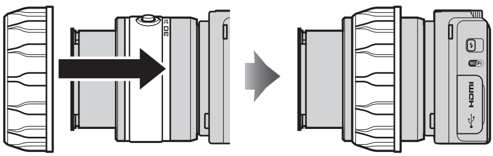
1 Bringen Sie das Objektiv an und fahren Sie es aus.
Halten Sie die Tubusentriegelung gedrückt (①) und drehen Sie den Zoomring, um das Objektiv auszufahren (②). Beachten Sie, dass sich die Kamera automatisch einschaltet, wenn das Objektiv ausgefahren wird; schalten Sie die Kamera aus, bevor Sie mit Schritt 2 fortfahren.



2 Bringen Sie die Zoomring-Manschette an.



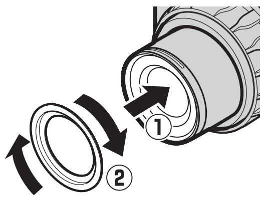
Richten Sie die Nut an der Innenseite der Manschette mit der Tubusentriegelung aus.



Schieben Sie die Manschette gerade auf das Objektiv, bis sie stoppt.

Nachdem Sie die Manschette angebracht haben, passen Sie sie so an, dass sich der Zoomring frei dreht.

3 Bringen Sie den Ring zur Verhinderung interner Reflexion an.
Bringen Sie den Ring wie abgebildet an der Vorderseite des Objektivs an. Wenn der Ring nicht angebracht ist, kann die Beschriftung vorn am Objektiv, die von der Innenseite des Objektivfensters des Unterwassergehäuses reflektiert wurde, auf Fotos erscheinen.



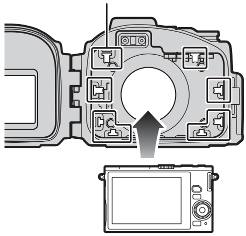
De

Kamera in das Gehäuse einsetzen

Bereiten Sie die Kamera für Unterwasserfotografien vor.

1 Setzen Sie den Akku und die Speicherkarte ein.
Setzen Sie eine Speicherkarte und einen vollständig aufgeladenen Akku ein.

2 Setzen Sie die Kamera ein.
Richten Sie die Kamera in den Führungen für die Kamera mittig aus, achten Sie dabei darauf, dass sich das Objektiv im Objektivfenster befindet.



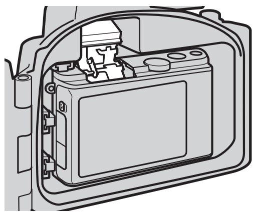
De

Der Schulterriemen

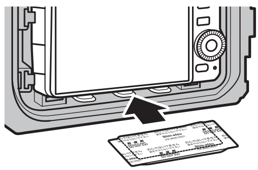
Um sicherzustellen, dass sich der Schulterriemen nicht in der Dichtung verfängt und ein Leck verursacht, achten Sie darauf, den Schulterriemen abzunehmen, bevor Sie die Kamera in das Gehäuse legen.

Unterwasser-Blitzgeräte

Wenn Sie ein optionales Unterwasser-Blitzgerät SB-N10 verwenden möchten, öffnen Sie das integrierte Blitzgerät der Kamera, bevor Sie die Kamera ins Gehäuse einsetzen. Denn wenn die Kamera bereits eingesetzt ist, klappt das Blitzgerät unter Umständen nicht selbsttätig hoch.



3 Legen Sie Trockenmittel hinein.
Legen Sie das beiliegende Silikagel-Trockenmittel zwischen der Kameraunterseite und dem Gehäuse hinein, um zu verhindern, dass sich Kondensation im Inneren des Gehäuses bildet. Schieben Sie das Trockenmittel nach vorn, sodass das Gehäuse problemlos geschlossen werden kann. Wird es falsch hineingelegt, kann es undichte Stellen am Gehäuse verursachen.



Austauschen des Trockenmittels

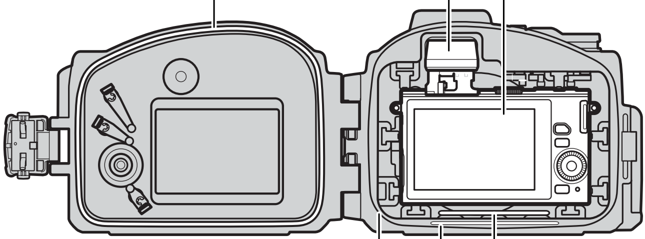
Gebrauchtes Trockenmittel verliert seine Fähigkeit, Feuchtigkeit aufzusaugen. Wir empfehlen, das Trockenmittel nach jedem Gebrauch des Gehäuses auszutauschen (25).

4 Führen Sie eine abschließende Prüfung durch.

Kontrollieren Sie den O-Ring:
- *Ist er eingerissen oder beschädigt? Ersetzen Sie ihn.*
- *Ist er verdreht oder verrutscht? Bringen Sie ihn in die richtige Position.*
- *Entfernen Sie Haare, Staub, Sand und andere Fremdkörper.*

Prüfen Sie das integrierte Blitzgerät: Bei Verwendung eines Unterwasser-Blitzgeräts muss das integrierte Blitzgerät aufgeklappt sein, andernfalls muss es geschlossen sein.

Überprüfen Sie die Kamera:
- *Die korrekte Ausrichtung der Kamera prüfen (📖 14).*
- *Nehmen Sie den Trageriemen ab.*



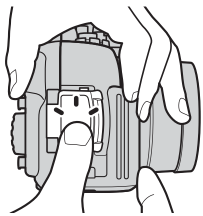
Prüfen Sie die O-Ring-Dichtung und die Auffangrinne: Beseitigen Sie Flüssigkeiten, Haare, Staub, Sand und andere Fremdkörper.

Prüfen Sie das Trockenmittel: Prüfen, ob das Trockenmittel korrekt platziert ist (📖 14).

Kontrollieren Sie das Objektiv:
- *Dreht sich der Zoomring problemlos und verstellt er die Brennweite? Falls nicht, verändern Sie die Position der Zoomring-Manschette.*
- *Vergewissern Sie sich, dass der Ring zur Verhinderung interner Reflexion bzw. der Anti-Reflexions-Aufkleber angebracht ist (📖 12, 13).*

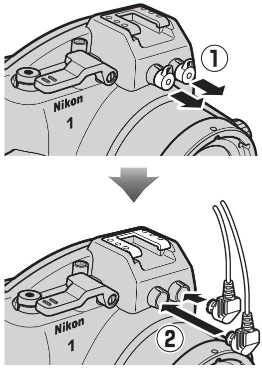
5 Schließen Sie das Gehäuse.

Schließen und verriegeln Sie das Gehäuse.



Unterwasser-Blitzgeräte

Das Unterwassergehäuse ist mit 2 LWL-Kabelanschlüssen ausgestattet, sodass optionale Unterwasser-Blitzgeräte SB-N10 mit einem optionalen Unterwasser-Glasfaserkabel SC-N10A angeschlossen und mit dem integrierten Blitzgerät der Kamera gesteuert werden können. Wenn Sie ein Unterwasser-Blitzgerät verwenden, nehmen Sie eine Kappe vom LWL-Kabelanschluss ab (①; beachten Sie, dass zwar kein Risiko von Lecks besteht, wenn die Kappen abgenommen sind, die Kappen der nicht genutzten Anschlüsse jedoch aufgesetzt sein sollten), und schließen Sie das Unterwasser-Glasfaserkabel an (②). Machen Sie eine Probeaufnahme, bevor Sie das Blitzgerät unter Wasser verwenden, und prüfen Sie, ob das Blitzgerät normal funktioniert. Weitere Informationen finden Sie im Kamerahandbuch und in der Dokumentation des Blitzgeräts.



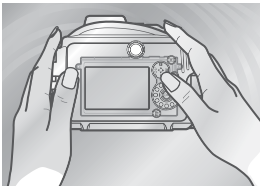
De

Die endgültige Undichtigkeitsprüfung

Nachdem Sie die Kamera eingesetzt und das Gehäuse geschlossen haben, führen Sie eine letzte Prüfung auf undichte Stellen durch.

Wichtig!

Stellen Sie vor Gebrauch sicher, dass die Kamera normal funktioniert, und dass das Gehäuse nicht undicht ist. Wenn vor dem Gebrauch versäumt wird, auf undichte Stellen zu prüfen, könnte dies zu irreparablen Schäden an der Kamera führen.



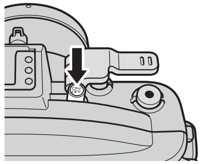
Tauchen Sie das Gehäuse in Wasser ein und prüfen Sie wie bei »Die Vorprüfung auf undichte Stellen« beschrieben auf undichte Stellen (11). Öffnen Sie nach diesem Test das Gehäuse und vergewissern Sie sich, dass das Trockenmittel trocken geblieben und kein Wasser eingedrungen ist. Wenn eine undichte Stelle entdeckt wird, trocknen Sie unverzüglich die Kamera und das Gehäuse gründlich ab und kontrollieren Sie, ob der O-Ring noch intakt und das Gehäuse ordnungsgemäß abgedichtet ist. Wenn sich die Ursache für die undichte Stelle nicht feststellen lässt, bringen Sie das Gehäuse zum Nikon-Kundendienst.

Bilder aufnehmen

Befolgen Sie die untenstehenden Schritte, um Bilder unter Wasser aufzunehmen.

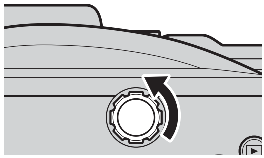
1 Schalten Sie die Kamera ein.

Drücken Sie den Ein-/Ausschalter am Unterwassergehäuse, um die Kamera einzuschalten. Die Ein-/Ausschalterleuchte leuchtet grün und der Monitor schaltet sich ein (drücken Sie den Ein-/Ausschalter erneut, um die Kamera auszuschalten, und vergewissern Sie sich, dass der Monitor ausgeschaltet ist).



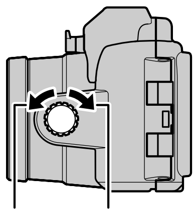
2 Wählen Sie einen Modus.

Drehen Sie das Funktionswählrad, um einen Modus zu wählen (J4) oder drücken Sie die MENU-Taste und wählen Sie den Modus aus den Menüs aus (S2). Weitere Informationen zur Wahl eines Modus finden Sie im Handbuch der Kamera.



3 Wählen Sie den Bildausschnitt.

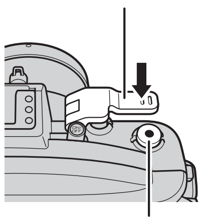
Drehen Sie das Zoomrad, um ein- und auszuzoomen.



4 Nehmen Sie das Bild auf.

Fotos: Drücken Sie sanft auf den Auslösehebel, um den Kameraauslöser bis zum ersten Druckpunkt zu drücken und zu fokussieren, drücken Sie anschließend den Auslösehebel bis zum zweiten Druckpunkt, um den Verschluss auszulösen und ein Foto aufzunehmen.

Filme: Drücken Sie die Taste für Filmaufzeichnung, um die Aufnahme zu starten oder anzuhalten.



De

Unterwasserfotografie
Die beste Zeit für Unterwasserfotografien ist, wenn die Sonne senkrecht am Himmel steht (beachten Sie, dass Bilder, die unter Wasser aufgenommen wurden, möglicherweise einen Blaustich haben). Starke Lichtquellen können Reflektionen verursachen, die auf den Bildern erscheinen; schauen Sie vor der Aufnahme auf den Monitor und ändern Sie falls nötig den Winkel. Halten Sie während der Aufnahme Ihre Finger und andere Gegenstände vom Objektivfenster fern und vermeiden Sie es, Blasen in den Bildausschnitt auszuatmen. Setzen Sie den vorderen Deckel auf das Objektivfenster, wenn die Kamera nicht verwendet wird.

Das AF-Hilfslicht
Das AF-Hilfslicht kann nicht verwendet werden, während sich die Kamera im Unterwassergehäuse befindet.

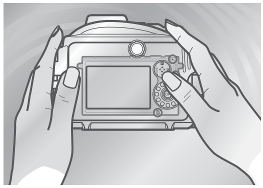
Ruhezustand
Wenn während einer eingestellten Zeitspanne keine Bedienvorgänge getätigt werden, schaltet der Monitor ab und die Ein-/Ausschalterleuchte blinkt. Wenn nach dem Abschalten des Monitors eine vorgewählte Zeit lang keine Bedienvorgänge stattfinden, schaltet sich die Kamera automatisch aus. Weitere Informationen finden Sie im Handbuch der Kamera.

Nach Gebrauch

Reinigen Sie das Gehäuse und nehmen Sie die Kamera heraus.

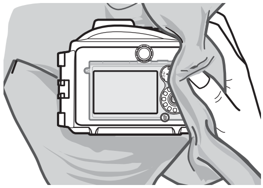
1 Waschen Sie das Gehäuse.

Reinigen Sie das Gehäuse sobald wie möglich nach dem Gebrauch. Waschen Sie das Gehäuse in einem Behälter mit Frischwasser, ohne dabei das Gehäuse zu öffnen oder die Kamera herauszunehmen.



2 Wischen Sie es trocken.

Trocknen Sie das Äußere des Gehäuses gründlich mit einem weichen, trockenen Tuch ab.

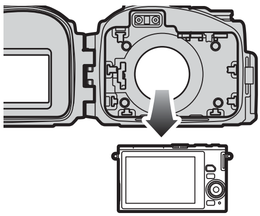


Trocknen des Gehäuses

Achten Sie darauf, Wasser zu entfernen, dass sich im Verschluss, den Bedienelementen oder der Öse des Trageriemens angesammelt haben könnte.

3 Nehmen Sie die Kamera heraus.

Nehmen Sie die Kamera heraus und wischen Sie das Innere des Gehäuses mit einem weichen, trockenen Tuch trocken. Waschen Sie das Innere des Gehäuses nicht mit Wasser.

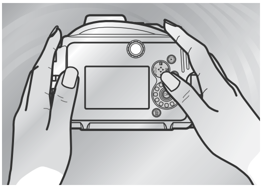


Entnahme der Kamera

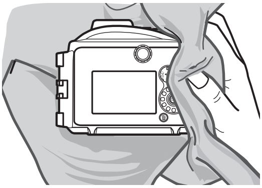
Bedienen Sie den Verschluss oder die Verschluss-Entriegelungstaste niemals unter Wasser. Achten Sie vor dem Öffnen des Gehäuses darauf, dass Ihre Hände trocken und frei von Salz oder Sand sind; öffnen Sie das Gehäuse nicht an Orten, wo es Flugsand oder Spritzwasser ausgesetzt ist. Achten Sie bei der Herausnahme der Kamera darauf, sie nicht fallen zu lassen, und achten Sie darauf, dass keine Wassertropfen von Ihrem Haar, Körper oder anderen Gegenständen in das Gehäuse oder auf die Kamera fallen. Falls Wassertropfen auf die Kamera oder in das Unterwassergehäuse fallen, trocknen Sie sie sofort mit einem weichen Tuch ab. Achten Sie darauf, dass Ihre Hände trocken und frei von Salz oder Sand sind, bevor Sie die Kamera oder den Akku in die Hand nehmen.

Halten Sie das Gehäuse aufrecht; legen Sie das offene Gehäuse nicht mit dem O-Ring oder der O-Ring-Dichtung nach unten zeigend ab.

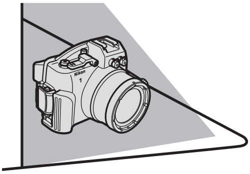
4 Tauchen Sie das Gehäuse in Frischwasser ein.
Dichten Sie das Gehäuse erneut ab und lassen Sie es in einem Behälter mit Frischwasser für zwei bis drei Stunden stehen. Betätigen Sie alle Bedienelemente ein paar Mal, um Salzreste zu entfernen. Wenn Salzreste auf den Bedienelementen eintrocknen, funktionieren sie eventuell nicht mehr oder deren Metallteile rosten und verursachen Lecks.



5 Wischen Sie es trocken.
Trocknen Sie das Gehäuse gründlich mit einem weichen, trockenen Tuch ab. Verwenden Sie kein Tuch mit Salzrückständen.



6 Lassen Sie das Gehäuse im Schatten trocknen.
Lassen Sie das Gehäuse an einem schattigen, gut belüfteten Ort trocknen.



☑ Setzen Sie es nicht Sonnenlicht oder Hitze aus

Verwenden Sie keinen Föhn oder eine andere Wärmequelle und legen Sie das Gehäuse nicht in direktes Sonnenlicht. Durch Hitze könnte sich das Gehäuse oder der O-Ring abnutzen und ein Leck verursacht werden.

☑ Innenreinigung des Gehäuses

Verwenden Sie einen Blasebalg, einen Pinsel oder ein angefeuchtetes weiches Tuch, um Fremdkörper aus dem Inneren des Gehäuses zu entfernen. Flüssigkeiten können mit einem angefeuchtetem weichen Tuch entfernt werden. Bei der Verwendung eines Tuchs sollten Sie darauf achten, dass Sie das Unterwassergehäuse nicht verkratzen. Üben Sie auch keinen unnötigen Druck aus. Verwenden Sie kein Wasser und keine Reinigungsmittel oder chemischen Wirkstoffe jeglicher Art. Wasser kann die Beschichtung an der Innenseite des Objektivfensters beschädigen.

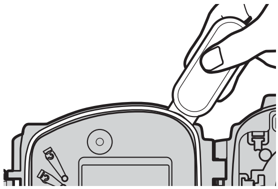
Wartung

In diesem Abschnitt wird die Wartung des O-Rings und des Unterwassergehäuses beschrieben.

Pflege des O-Rings

Das WP-N3 verwendet einen O-Ring, um eine wasserdichte Abdichtung zu erreichen. Eine unsachgemäße Handhabung des O-Rings kann Lecks verursachen. Kontrollieren Sie den Zustand des O-Rings wie nachfolgend beschrieben vor jedem Gebrauch und kontrollieren Sie jedes Mal, wenn das Gehäuse geöffnet wird, egal wie kurz, ob sich Fremdkörper auf dem O-Ring befinden.

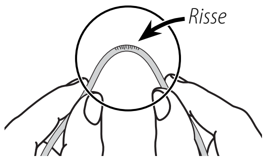
1 Entfernen Sie den O-Ring.
Verwenden Sie den O-Ring-Entferner, um den O-Ring wie abgebildet zu entfernen.



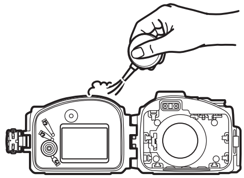
Wenden Sie keine Gewalt an und benutzen Sie keine spitzen Gegenstände
Das Gehäuse könnte undicht werden, wenn der O-Ring gewaltsam gedehnt oder durch die Anwendung von scharfkantigen oder spitzen Gegenständen, einschließlich Fingernägeln und Metallwerkzeugen, beschädigt wird.

De

2 Kontrollieren Sie den O-Ring.
Entfernen Sie altes Silikonfett und andere Fremdkörper mit einem weichen Tuch, achten Sie dabei darauf, keine Stoffreste oder Fäden am O-Ring zu hinterlassen. Biegen Sie den O-Ring leicht, um auf Risse oder andere Beschädigungen hin zu prüfen.

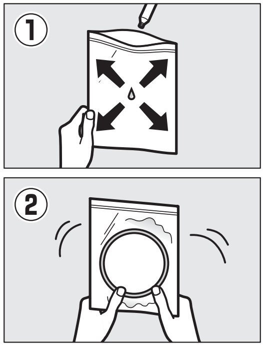


3 Kontrollieren Sie die Nut für den O-Ring.
Verwenden Sie einen Blasebalg oder ein Wattestäbchen, um sämtliche Fremdgegenstände aus der Auffangrinne und von allen Teilen des Gehäuses, die mit dem O-Ring in Kontakt kommen, zu entfernen. Achten Sie darauf, dass Sie alle Fäden, die vom Wattestäbchen zurückgeblieben sind, entfernen.



4 Schmieren Sie den O-Ring.

Wenn der O-Ring nicht richtig eingefettet ist, kann er rissig werden oder Abschälungserscheinungen zeigen und damit Undichtigkeiten verursachen. Fetten Sie den Ring ein, wenn seine Oberfläche trocken erscheint. Drücken Sie zuerst etwa einen Zentimeter des Silikonfetts aus der Tube in ein Plastiktütchen und verteilen Sie es darin mit den Fingern (①). Dann wird der O-Ring hineingetan und das Tütchen durchgeknetet, um den Ring mit dem Fett zu überziehen (②).

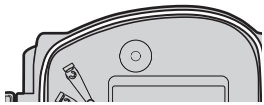


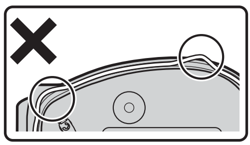
Verwenden Sie ausschließlich für das WP-N3 vorgesehenes Silikonfett. Benutzen Sie kein Papier oder Tuch zum Einfetten, weil andernfalls Fasern am O-Ring haften bleiben können. Beachten Sie außerdem, dass zuviel Fett das Anhaften von Fremdkörpern begünstigt und dadurch die Wasserdichtheit des Gehäuses beeinträchtigen kann.

De

5 Tauschen Sie den O-Ring aus.

Achten Sie darauf, dass der O-Ring und die Nut frei von Fremdkörpern sind, setzen Sie den O-Ring so ein, dass er gleichmäßig um die Nut für den O-Ring läuft, ohne sich auszudehnen oder zu verdrehen und aus der Nut hervorzustehen.





☑ O-Ringe

Der O-Ring muss regelmäßig ausgetauscht werden. Tauschen Sie den O-Ring unverzüglich aus, wenn er beschädigt, zerrissen oder verbogen ist oder seine Elastizität verloren hat. O-Ringe sollten mindestens einmal im Jahr ausgetauscht werden. Verwenden Sie nur Silikonfett, das für den Gebrauch mit diesem Produkt vorgesehen ist; Ersatz-O-Ringe und Silikonfett erhalten Sie beim Nikon-Kamerahändler oder beim Nikon-Servicepartner. Verwenden Sie kein O-Ring-Schmiermittel (Schmierfett) von COOLPIX oder NIKONOS.

☑ Reinigung

Verwenden Sie für die Reinigung des Gehäuses oder des O-Rings keine Reinigungsmittel oder flüchtigen Chemikalien wie Alkohol oder Verdünner. Bei Missachtung dieser Vorsichtsmaßnahme könnte das Gehäuse oder der O-Ring beschädigt werden.

Aufbewahrung

Bewahren Sie das Gehäuse an einem kühlen, gut belüfteten Ort auf; lassen Sie das Gehäuse offen, damit sich die Beschaffenheit des O-Rings nicht verschlechtert. Wenn Sie das Gehäuse längere Zeit nicht verwenden möchten, nehmen Sie den O-Ring heraus, entfernen Sie altes Silikonfett, tragen Sie neues Silikonfett auf und legen Sie den O-Ring in einen sauberen Kunststoffbeutel, um sicherzustellen, dass er seine Elastizität behält. Bewahren Sie das Gehäuse nicht im direkten Sonnenlicht auf, wo es plötzlichen Temperaturänderungen oder hoher Luftfeuchtigkeit ausgesetzt ist. Bewahren Sie das Gehäuse oder den O-Ring nicht unter Gegenständen, in der Nähe von offenen Flammen, in der Nähe von entzündbaren Gegenständen oder mit Naphtha- oder Kampfer-Mottenkugeln auf.

Wartung

Nikon empfiehlt, das Gehäuse mindestens einmal im Jahr vom Nikon-Kundendienst warten zu lassen. Diese Dienstleistung ist kostenpflichtig.

Technische Daten

Maximale Tiefe	45 m
Kamera-Betriebstemperatur	0 °C–40 °C
Abmessungen (H × B × T)	Ca. 156,4 × 115,8 × 113,0 mm, ohne vorstehende Teile
Gewicht	Ca. 735 g, nur Gehäuse

Im Rahmen von Produktverbesserungen können technische Daten und Aussehen des Produkts ohne Vorankündigung geändert werden. Nikon übernimmt keine Haftung für Schäden, die aus eventuellen Fehlern in diesem Handbuch entstehen können. Sofern nicht anders angegeben, wurden alle Messungen im Temperaturbereich durchgeführt, der von der Camera and Imaging Products Association (CIPA) festgelegt ist: 23 ±3 °C.

Zubehör, das optional erworben werden kann

Nikon bietet folgendes Zubehör und folgende Ersatzteile an:

- WP-ZG1020 Zoomring-Manschette
  für Objektive 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM
- WP-ZG1010 Zoomring-Manschette
  für Objektive 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6
- WP-IS1000 Anti-Reflexions-Aufkleber für Objektive 1 NIKKOR VR 10–30 mm 1:3,5–5,6 PD-ZOOM
- WP-IR1010 Ring zur Verhinderung interner Reflexion für Objektive 1 NIKKOR 11–27,5 mm 1:3,5–5,6
- WP-O1100 O-Ring
- WP-OR1000 O-Ring-Entferner
- WP-LC1000 Vorderer Deckel
- WP-AN1000 Trageriemen
- WP-AN2000 Befestigungsband für Objektivfrontdeckel
- WP-G1000 Silikonfett
- WP-S1000 Silikagel-Trockenmittel
- SB-N10 Unterwasser-Blitzgerät
- SC-N10A Unterwasser-Glasfaserkabel
- SK-N10A Unterwasser-Blitzschiene

Fr

Caisson étanche WP-N3

Manuel d'utilisation

Le caisson étanche WP-N3 protège le Nikon 1 J4 ou S2 de la pluie et de la neige et permet de l'utiliser sous l'eau à des profondeurs pouvant atteindre 45 m. Gardez ce manuel à la disposition de tous ceux qui auront à se servir de cet accessoire et veillez à le lire attentivement, ainsi que le manuel de l'appareil photo, avant toute utilisation.

Symboles et conventions

Afin de localiser plus aisément les informations utiles, ce manuel utilise les symboles et conventions suivants :

Cette icône signale les avertissements, des informations à lire impérativement avant d'utiliser l'appareil photo et le caisson étanche afin d'éviter de les endommager.

Cette icône signale les remarques, des informations à lire impérativement avant d'utiliser ce produit.

Cette icône signale les références à d'autres pages de ce manuel.

Fr

Important : À lire avant toute utilisation

Avant d'utiliser le caisson étanche à proximité de l'eau ou dans l'eau, vérifiez l'étanchéité comme décrit aux pages 11 et 17 de ce manuel.

Pour votre sécurité

Avant d'utiliser ce produit pour la première fois, lisez les consignes de sécurité se trouvant dans la section « Pour votre sécurité » (iii–vii).

Formation permanente

Dans le cadre de l'engagement « Formation permanente » de Nikon relatif à l'assistance et à la formation continue, des informations continuellement mises à jour sont disponibles en ligne sur les sites suivants :

- **Pour les utilisateurs résidant aux États-Unis** : *http://www.nikonusa.com/*
- **Pour les utilisateurs résidant en Europe et en Afrique** : *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **Pour les utilisateurs résidant en Asie, en Océanie et au Moyen-Orient** : http://www.nikon-asia.com/

Visitez régulièrement ces sites pour vous tenir informé des dernières informations sur le produit, des astuces, des réponses aux questions fréquentes et des conseils d'ordre général sur l'imagerie et la photographie numériques. Des informations supplémentaires sont aussi disponibles auprès de votre représentant Nikon local. Utilisez l'URL suivante pour obtenir la liste des contacts : *http://imaging.nikon.com/*

Pour votre sécurité

Afin d'éviter d'endommager votre produit Nikon et de vous blesser ou de blesser un tiers, lisez attentivement et intégralement les consignes de sécurité ci-dessous avant d'utiliser ce matériel. Gardez ces consignes de sécurité à la disposition de tous ceux qui auront à se servir de ce produit.

Le non-respect des consignes exposées dans cette section peut entraîner certaines conséquences signalées par le symbole suivant :

⚠ Cette icône signale des avertissements. Pour éviter toute blessure, lisez l'ensemble des avertissements avant d'utiliser ce produit Nikon.

■■ AVERTISSEMENTS

⚠ ***Ne démontez pas votre matériel***. Vous risquez sinon de vous blesser ou de provoquer le dysfonctionnement du produit. Si le produit venait à se briser suite à une chute ou à un accident, apportez-le à un représentant Nikon agréé pour le faire contrôler, en faisant attention de ne pas vous blesser avec les éléments cassés.

⚠ ***Mettez immédiatement l'appareil photo hors tension en cas de dysfonctionnement***. Si vous remarquez la présence de fumée ou une odeur inhabituelle s'échappant du matériel, retirez immédiatement l'accumulateur de l'appareil photo, en prenant soin de ne pas vous brûler. Continuer d'utiliser le matériel risque d'entraîner des blessures. Après avoir retiré l'accumulateur de l'appareil photo, apportez le matériel à un représentant Nikon agréé pour le faire contrôler.

⚠ ***N'utilisez pas ce matériel en présence de gaz inflammable***. N'utilisez pas de matériel électronique en présence de gaz inflammable car cela risque de provoquer une explosion ou un incendie.

⚠ ***Ne l'exposez pas à des températures élevées***. Ne laissez pas votre matériel exposé à des températures excessivement chaudes, comme dans une voiture fermée ou en plein soleil. Le non-respect de cette consigne peut endommager le produit ou provoquer un incendie.

⚠ ***Utilisez le flash avec précaution***.

- L'utilisation du flash à proximité des yeux de votre sujet peut entraîner des troubles visuels temporaires. Soyez particulièrement attentif lorsque vous photographiez des bébés : le flash doit être déclenché à une distance minimale d'un mètre du sujet.
- Ne pointez pas le flash en direction du conducteur d'un véhicule motorisé. Le non-respect de cette consigne peut provoquer des accidents.

⚠ ***Conservez hors de portée des enfants***. Le non-respect de cette consigne peut entraîner un risque de blessure. En outre, notez que les petites pièces présentent un risque d'étouffement. Si jamais un enfant avalait une quelconque pièce de ce produit, consultez un médecin immédiatement.

⚠ ***Ne placez pas la dragonne autour du cou d'un bébé ou d'un enfant***. Placée autour du cou d'un bébé ou d'un enfant, la dragonne présente des risques de strangulation.

⚠ ***Ne plongez pas avec le caisson étanche***. Afin d'éviter de vous heurter avec le caisson étanche, ne sautez pas, ni ne plongez en le tenant à la main.

⚠ ***Suivez attentivement les consignes concernant les accumulateurs de l'appareil photo***. S'ils ne sont pas manipulés correctement, les accumulateurs peuvent fuir ou exploser. Observez les consignes suivantes lors de la manipulation des accumulateurs de l'appareil photo :

- Utilisez uniquement les accumulateurs agréés pour l'appareil photo.
- Les accumulateurs sont plus susceptibles de fuir lorsqu'ils sont entièrement déchargés. Retirez l'appareil photo du caisson lorsque vous ne l'utilisez pas.
- Si pour une raison quelconque, l'eau pénètre dans le caisson étanche, retirez immédiatement l'accumulateur de l'appareil photo.
- Veillez à ce que les contacts de l'accumulateur restent secs. Le non-respect de cette consigne peut entraîner un risque de blessure ou de dysfonctionnement du produit.

Fr

⚠ ***Ne laissez pas le matériel en plein soleil***. Le caisson pourrait concentrer les rayons du soleil et provoquer un incendie.

⚠ ***N'utilisez pas le caisson au-delà de 45 m***.Il risque sinon de perdre son étanchéité ou de présenter un dysfonctionnement.

⚠ ***Veillez à ce que le caisson conserve son étanchéité***. Ne nettoyez pas le caisson avec un jet haute pression. N'ouvrez pas le caisson dans un lieu où il serait exposé à la poussière ou au sable et avant de le fermer, veillez à retirer tout corps étranger éventuellement présent sur le joint torique et sur les parties du caisson en contact avec le joint torique. Le caisson risque sinon de perdre son étanchéité.

⚠ ***Ne l'exposez pas à des températures élevées***. N'exposez pas ce produit à des températures supérieures à 40 °C. Il risque sinon de se déformer et par conséquent, de perdre son étanchéité.

⚠ ***Ne le couvrez pas pendant son utilisation***. L'accumulation de la chaleur pourrait déformer le caisson ou provoquer un incendie.

⚠ ***Ne rangez pas l'appareil photo dans le caisson***. Les gaz émis par l'accumulateur de l'appareil photo pourraient s'accumuler dans le caisson et provoquer une explosion ou un incendie.

⚠ ***Ne mangez pas la graisse de silicone ou le gel de silice***. Ces produits ne sont pas comestibles.

Précautions

Afin de profiter le plus longtemps possible de votre produit Nikon, veuillez prendre les précautions suivantes lors de son utilisation ou de son rangement.

▮▮ Étanchéité à l'eau

Respectez les consignes suivantes lorsque vous utilisez le caisson dans l'eau ou à proximité de l'eau:

- Avant toute utilisation, vérifiez que le caisson ne fuit pas comme décrit aux pages 11 et 17 de ce manuel.
- Ce caisson n'est étanche qu'à l'eau douce (par exemple, celle des piscines, rivières et lacs) et à l'eau de mer. Ne l'utilisez pas dans des sources thermales ou des bains chauds.
- Ne l'exposez pas à des profondeurs supérieures à 45 m ou à des rapides, des cascades, à un robinet qui coule à plein débit ou à une eau sous haute pression. Le non-respect de ces consignes peut exposer le caisson à des pressions suffisamment importantes pour l'endommager, le déformer et provoquer une infiltration d'eau.
- S'il est exposé à l'eau, l'appareil photo sera endommagé. Pour éviter toute infiltration d'eau, n'ouvrez pas le caisson avec les mains mouillées, lorsqu'il est mouillé, ou lorsqu'il se trouve dans l'eau, sur l'eau ou à proximité d'eau ou dans des lieux exposés à des éclaboussures, au vent, au sable ou à la poussière. Vérifiez que l'appareil photo est sec avant de l'insérer. Si le caisson fuit, cessez immédiatement de l'utiliser, séchez l'appareil photo et l'intérieur du caisson, puis apportez l'appareil photo et le caisson à un représentant Nikon agréé.
- Avant de fermer hermétiquement le caisson ou lors de l'installation du joint torique, vérifiez que le joint torique n'est pas tordu ou mal positionné, puis examinez attentivement l'intérieur du caisson, le joint torique, la rainure d'étanchéité et toute partie du caisson en contact avec le joint torique, pour vous assurer qu'aucune trace de liquide, qu'aucun cheveu, saleté, peluche, poussière, grain de sable ou autre corps étranger n'y figurent. L'eau et tout autre liquide éventuellement présents sur ces surfaces doivent être essuyés immédiatement à l'aide d'un chiffon doux et sec. Retirez les autres corps étrangers à l'aide d'une soufflette, en veillant à retirer toutes les petites particules situées sur les côtés et dans les angles des rainures d'étanchéité. Vous pouvez éliminer les corps étrangers présents à l'extérieur du caisson à l'aide d'un chiffon doux et sec. N'utilisez pas de savon, des détergents ou autres produits chimiques et veillez à retirer immédiatement toute trace d'huile ou de crème solaire, sels de bain, détergent, savon, solvants organiques, huile, alcool et autres produits similaires.
- Ne collez pas d'autocollants sur le caisson, n'utilisez pas de produits d'étanchéité, de produits chimiques anti-buée ou de lubrifiants pour joints toriques ou de gel de silice non conçus spécifiquement pour le WP-N3 (📖 25).
- Ne laissez pas le caisson longtemps dans des lieux exposés à des températures glaciales ou dans des endroits chauds comme dans des véhicules fermés, à bord de bateaux, sur la plage, en plein soleil ou à proximité de matériel de chauffage. Le non-respect de cette consigne peut rendre le caisson vulnérable à l'infiltration d'eau.
- L'étanchéité du caisson n'est pas garantie si celui-ci reçoit des coups, tombe, est placé sous des objets lourds ou soumis à une forte pression ou à des vibrations ou des chocs physiques violents. Si le caisson tombe ou reçoit un choc quelconque, apportez-le à un réparateur Nikon agréé et faites-le tester pour vérifier son étanchéité. Notez que des frais vous seront facturés pour cette intervention.
- Les dommages causés par des erreurs de l'utilisateur ne sont pas couverts par la garantie.

Caractère anti-choc
Le caisson étanche n'est pas destiné à protéger l'appareil photo des chocs ou des vibrations. Ne laissez pas tomber le caisson, ne le heurtez pas avec des objets durs, ne le lancez pas dans l'eau, ne sautez pas dans l'eau en le tenant à la main, et ne le laissez pas dans un endroit soumis à de fortes vibrations. Vous risquez sinon d'endommager l'appareil photo.

Conditions de fonctionnement
Veuillez prendre note des consignes suivantes :

- À basse température, l'appareil photo risque de ne pas fonctionner comme prévu immédiatement après sa mise sous tension et les performances de l'accumulateur peuvent être affaiblies. Gardez des accumulateurs de rechange au chaud et utilisez-les le cas échéant.
- Dans les environnements froids, retirez immédiatement toute neige ou pluie. Les commandes risquent d'être difficiles à manipuler si elles gèlent.
- Un contact prolongé avec du métal froid peut affecter la peau exposée. Portez des gants lorsque vous manipulez l'appareil photo pendant de longues périodes à basse température.
- Ne laissez pas le caisson dans des lieux exposés à des températures élevées, comme à l'intérieur d'une voiture, près d'un radiateur, sur la plage ou en plein soleil. Le caisson risque sinon de se détériorer ou de se déformer, endommageant par conséquent l'appareil photo. Des changements brusques de température sont susceptibles de créer de la condensation à l'intérieur du caisson, ce qui peut également endommager l'appareil photo. Pour éviter la condensation :
  - Lorsque vous passez d'un endroit très chaud à un endroit très froid ou vice-versa, laissez l'appareil photo dans le caisson jusqu'à ce qu'il ait atteint la température ambiante.
  - Placez l'absorbeur d'humidité fourni (gel de silice) dans le caisson avec l'appareil photo, comme indiqué à la page 14 de ce manuel.
  - N'exposez pas le caisson à des températures élevées en le laissant sur la plage ou en plein soleil avant de le plonger dans l'eau.

Fr

Joints toriques

Respectez les consignes suivantes lorsque vous manipulez les joints toriques :

- Le joint torique nécessite d'être remplacé périodiquement. Remplacez-le immédiatement s'il est abîmé, craquelé, déformé ou a perdu son élasticité. Les joints toriques doivent être remplacés au moins une fois par an ; n'utilisez pas un joint torique usagé ou un type de joint torique non destiné à ce produit.
- Pour éviter d'endommager le joint torique, utilisez l'extracteur de joint torique lorsque vous retirez ce dernier du caisson. Ne vous servez pas d'objets métalliques ou autres objets tranchants lorsque vous procédez à cette opération.
- Ne forcez pas lorsque vous retirez ou mettez en place le joint torique. Vous risquez sinon de le déformer de manière définitive et par conséquent, le caisson risque de perdre son étanchéité.
- Pour empêcher l'usure, servez-vous de la graisse de silicone destinée à ce produit (25). *Ne recourez pas à la graisse pour joint torique destinée aux appareils photo COOLPIX ou NIKONOS ou à d'autres types de graisse de silicone.*

Changements d'altitude

Les variations de la pression de l'air, dues aux changements d'altitude, peuvent endommager le caisson ou empêcher son ouverture. Respectez les consignes suivantes :

- Si possible, rangez le caisson dans votre bagage à main lorsque vous voyagez par avion. Si vous le rangez dans un bagage enregistré, laissez le caisson ouvert ou retirez le joint torique.
- Lorsque vous passez d'une altitude élevée à une basse altitude, ouvrez le caisson périodiquement pour égaliser la pression.

Fr

Important !

Le caisson étanche WP-N3 est destiné uniquement aux appareils photo compatibles. N'insérez pas d'autres appareils photo dans le WP-N3.

Table des matières

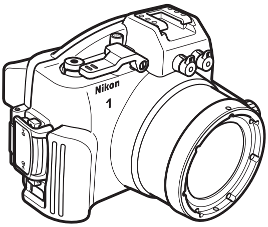
Fr

Introduction

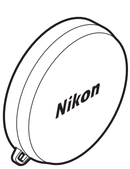
Reportez-vous à cette section lorsque vous souhaitez vérifier le nom des accessoires fournis et des éléments du caisson étanche.

Contenu de la boîte

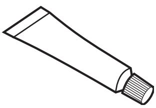
Vérifiez que la boîte contient les éléments indiqués ci-dessous. Prenez contact avec votre revendeur s'il manque quelque chose.



☐ *WP-N3 (avec joint torique WP-O1100 en place ; avant toute utilisation, vérifiez que le joint torique n'est pas endommagé comme décrit à la page 22)*



☐ *Bouchon avant WP-LC1000*



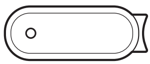
☐ *Graisse de silicone WP-G1000*



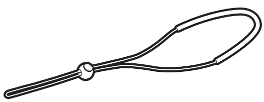
☐ *Bague de zoom pour couronne WP-ZG1020 (destinée aux objectifs 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*



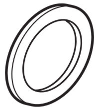
☐ *Bague de zoom pour couronne WP-ZG1010 (destinée aux objectifs 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6)*



☐ *Extracteur de joint torique WP-OR1000*



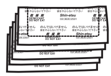
☐ *Dragonne WP-AN1000*



☐ *Autocollant anti-reflet WP-IS1000 (destiné aux objectifs 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*



☐ *Bague anti-reflet WP-IR1010 (destinée aux objectifs 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6)*

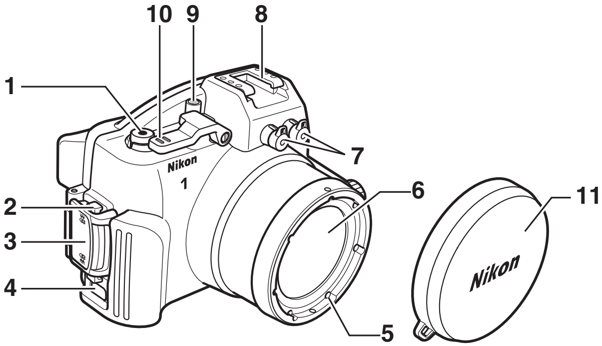


☐ *Gel de silice WP-S1000 (1 pack de 5 ; bien refermer après ouverture)*

☐ *Cordon du bouchon avant WP-AN2000*

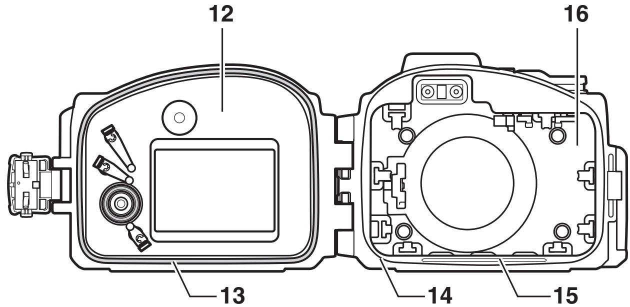
☐ Manuel d'utilisation *(ce manuel)*

☐ *Garantie*



1 Commande d'enregistrement vidéo..............18
2 Commande de déverrouillage du volet 4
3 Volet...4
4 Œillet pour la dragonne..................................3
5 Filetage de fixation pour filtre ⌀67 mm
6 Fenêtre de l'objectif.......................................14
7 Protecteurs des prises pour câbles en fibre optique*...16
8 Griffe flash
9 Commutateur marche-arrêt 18
10 Levier de déclenchement...............................18
11 Bouchon avant...3, 25

* Retirez-les lors de l'utilisation des flashes sous-marins SB-N10 (en option).

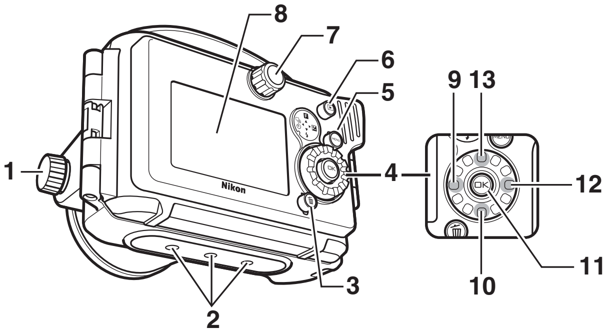


12 Rabat arrière..4
13 Joint torique/logement du joint torique..15, 22, 25
14 Raccord du joint torique.......................... 15, 22
15 Rainure d'étanchéité 15, 22
16 Rabat avant 4

Fr

Griffe flash

La griffe flash permet de fixer des flashes sous-marins et d'autres accessoires ; reportez-vous à la documentation fournie avec les accessoires pour en savoir plus sur leur fixation et leur retrait. Retirez les accessoires de la griffe flash lorsque vous transportez le caisson étanche sur la terre ferme.

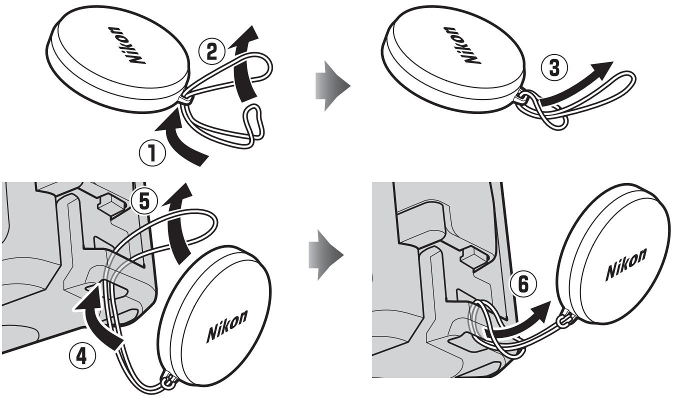


1 Molette de zoom 15, 18	**8** Fenêtre du moniteur
2 Filetages de fixation sur trépied	**9** Commande 🔲 (prise de vue en rafale/ retardateur)
3 Commande 🗑 (effacer)	**10** Commande ⚡ (mode de flash)
4 Sélecteur multidirectionnel	**11** Commande ⓞ (OK)
5 Commande MENU	**12** Commande ☒ (correction d'exposition)
6 Commande ▶ (visualisation)	**13** Commande F (fonction)
7 Sélecteur de mod* 18	

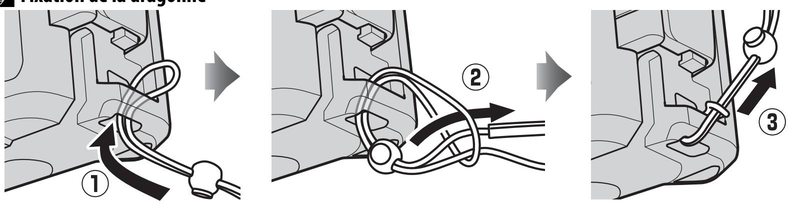
* Utilisation possible uniquement avec le J4

Fr

Fixation du cordon du bouchon avant



Fixation de la dragonne

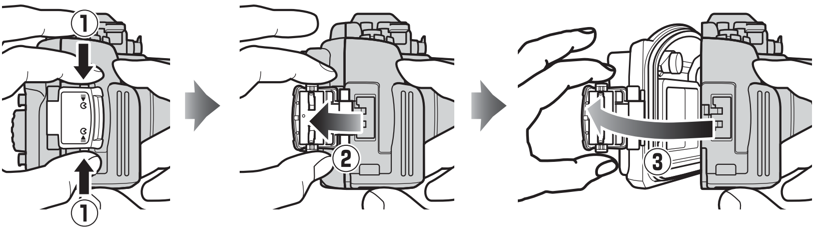


Utilisation du volet

Suivez les étapes ci-dessous pour ouvrir ou fermer le caisson.

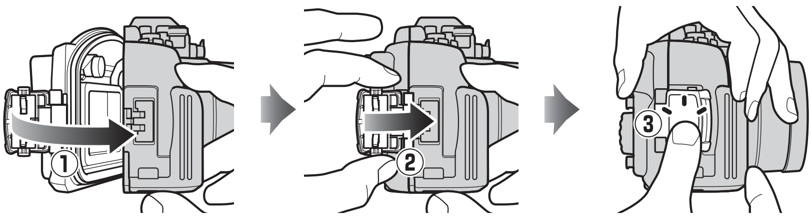
Ouverture du caisson

Appuyez sur la commande de déverrouillage du volet (①), ouvrez le volet (②) puis le rabat arrière (③).



Fermeture du caisson

Fermez le caisson (①), rabattez le volet vers la partie avant (②), puis appuyez sur le volet jusqu'à ce qu'il s'enclenche en émettant un clic (③). Vérifiez que le caisson est fermé hermétiquement, que le joint torique est positionné correctement et qu'aucun corps étranger n'est présent dans la jointure (📖 23).



☑ Ouverture du caisson

Avant d'ouvrir le caisson, vérifiez qu'il est totalement sec et propre. Après avoir utilisé le caisson sous l'eau, rincez-le à l'eau douce pour retirer le sable ou autre corps étranger éventuel, puis séchez-le méticuleusement avec un chiffon doux et sec. Veillez à ce qu'aucun corps étranger (eau, sable ou autre) présent sur le caisson ne s'infiltre à l'intérieur lorsqu'il est ouvert. N'actionnez jamais le volet ou la commande de déverrouillage du volet sous l'eau.

Faites attention de ne pas laisser tomber l'appareil photo lorsque vous le retirez du caisson.

Configuration

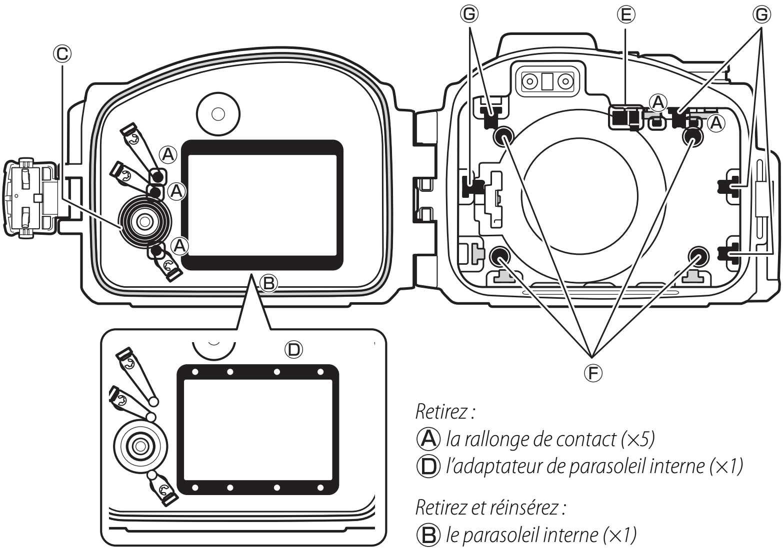
Avant l'expédition, le caisson est configuré pour être utilisé avec le J4. Des pièces amovibles permettent de l'utiliser avec le S2. Faites attention de ne pas perdre ces pièces lorsque vous les retirez.

Configuration du caisson pour le J4

Avant l'expédition, le caisson est configuré pour être utilisé avec le J4. Ne changez rien lorsque vous utilisez ce caisson avec le J4.

Configuration du caisson pour le S2

Pour pouvoir l'utiliser avec le S2, configurez-le de la manière suivante.



Retirez :
Ⓐ *la rallonge de contact (×5)*
Ⓓ *l'adaptateur de parasoleil interne (×1)*

Retirez et réinsérez :
Ⓑ *le parasoleil interne (×1)*

Retirez, inversez et réinsérez :
Ⓒ *le contact du sélecteur multidirectionnel (×1)*
Ⓔ *le contact du commutateur marche-arrêt (×1)*
Ⓕ *l'amortisseur avant (×4)*
Ⓖ *l'amortisseur latéral (×5)*

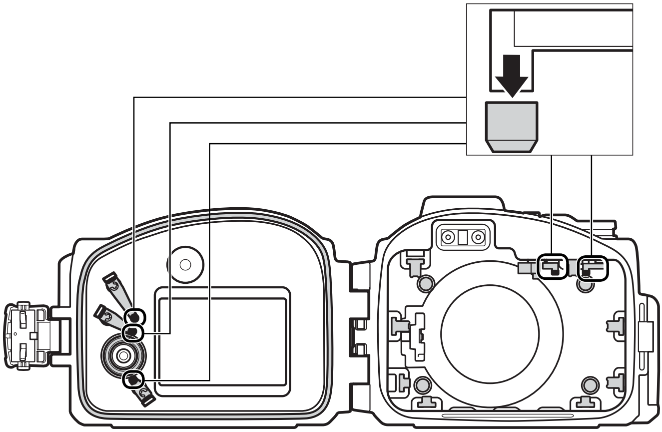
✔ Important !

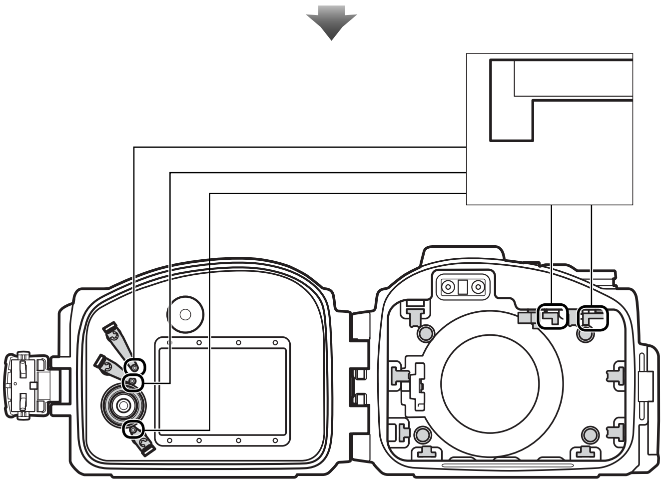
Assurez-vous que toutes les pièces sont installées correctement. Si celles-ci ne sont pas entièrement insérées, vous risquez de les perdre, de provoquer des fuites ou d'endommager l'appareil photo. Lorsque vous insérez ces pièces, placez-vous dans un endroit bien éclairé et faites attention de ne pas vous blesser les doigts ou de ne pas vous abîmer les ongles.

Fr

Lorsque vous utilisez le caisson avec le S2, retirez les rallonges de contact, le parasoleil interne et l'adaptateur de parasoleil interne, puis réinsérez le parasoleil interne.

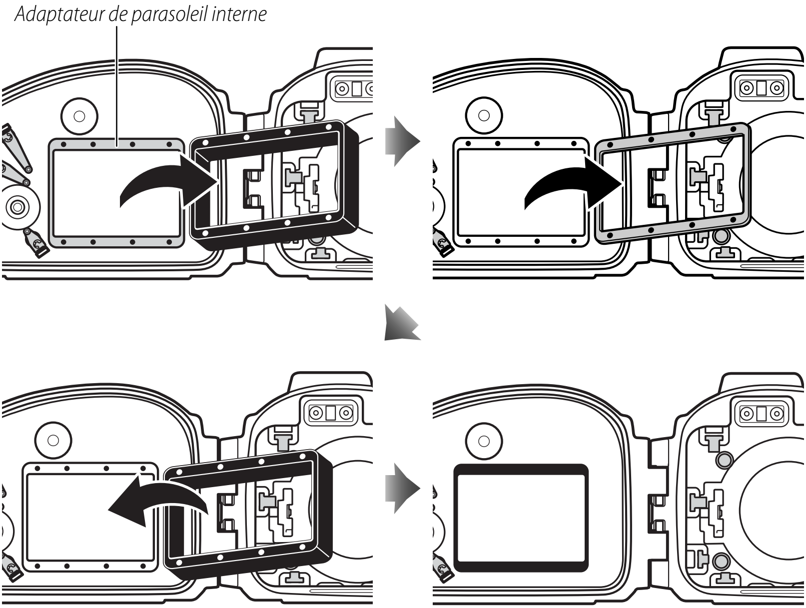
Ⓐ **Rallonge de contact** (×5)
Retirez les rallonges de contact.





Ⓑ Parasoleil interne (×1)/Ⓓ Adaptateur de parasoleil interne (×1)

Lorsque vous utilisez le caisson avec le S2, retirez le parasoleil interne et l'adaptateur de parasoleil interne, puis réinsérez le parasoleil interne.



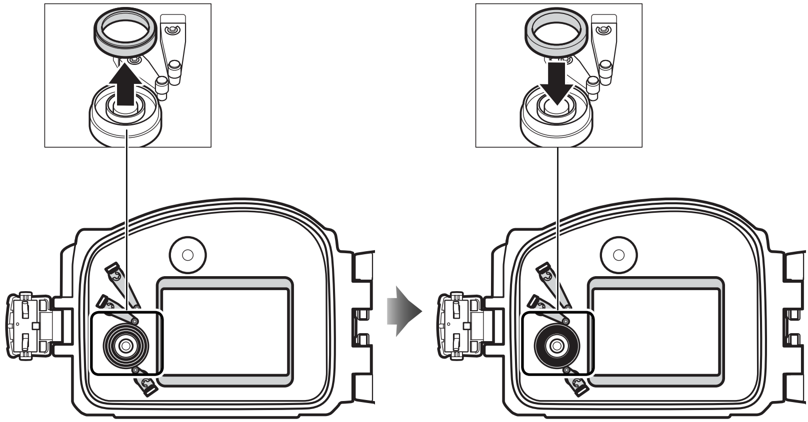
Important !

Les rallonges de contact et l'adaptateur de parasoleil interne ne sont pas nécessaires lorsque le caisson est utilisé avec le S2. Retirez-les et rangez-les dans un endroit sûr.

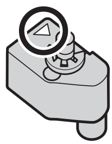
Fr

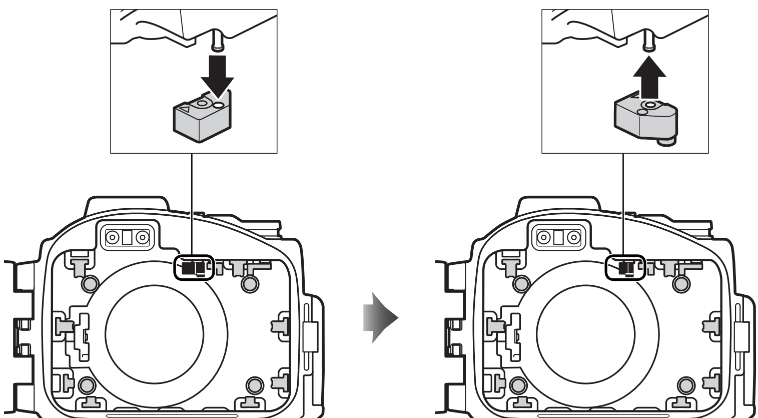
Les utilisateurs du S2 devront également retirer, inverser et réinsérer les contacts du commutateur marche-arrêt et du sélecteur multidirectionnel, ainsi que les amortisseurs avant et latéraux.

Ⓒ Contact du sélecteur multidirectionnel (×1)
Retirez le contact et réinsérez-le dans le sens indiqué sur l'illustration.



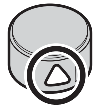
Ⓔ Contact du commutateur marche-arrêt (×1)
Retirez le contact et réinsérez-le dans le trou qui fait face à la pointe du triangle.

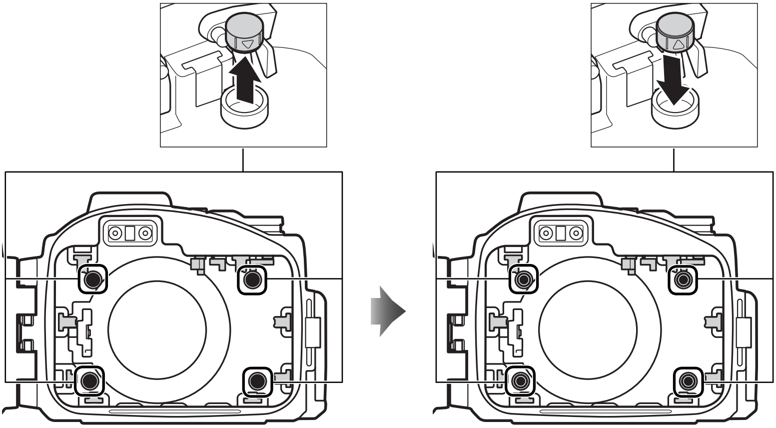




Fr

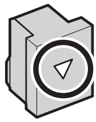
Ⓕ **Amortisseur avant** (×4)
Retirez les amortisseurs et réinsérez-les en plaçant le sommet du triangle vers le haut.

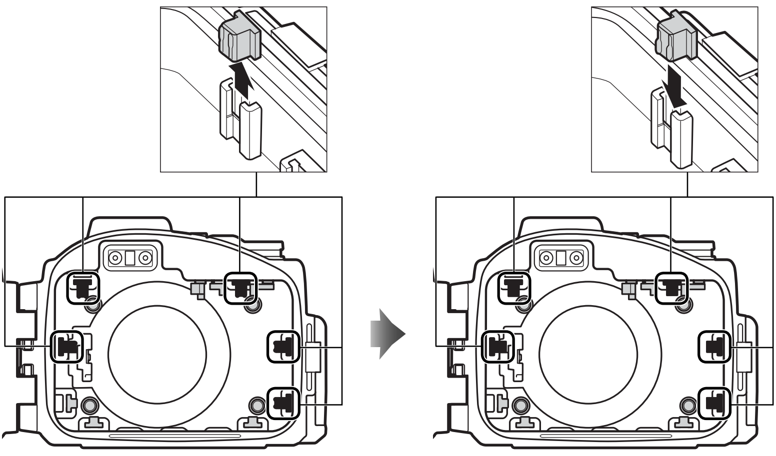




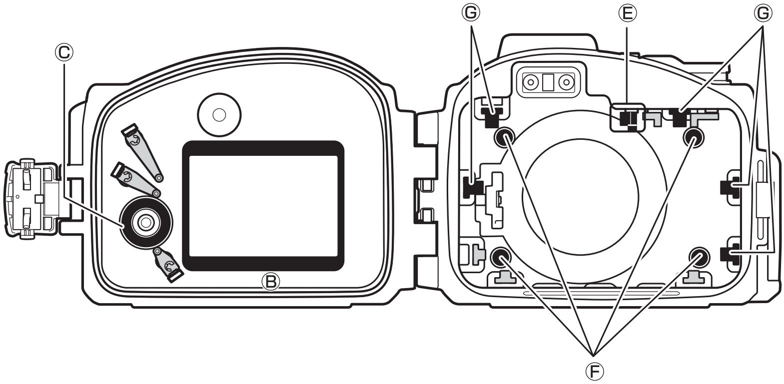
Fr

Ⓖ **Amortisseur latéral** (×5)
Retirez les amortisseurs et réinsérez-les en orientant la pointe du triangle vers le bas.





La figure ci-dessous représente le caisson une fois configuré pour le S2.



Ⓐ *Contact du sélecteur multidirectionnel (×1)*
Ⓑ *le parasoleil interne (×1)*
Ⓔ *Contact du commutateur marche-arrêt (×1)*
Ⓕ *Amortisseur avant (×4)*
Ⓖ *Amortisseur latéral (×2)*

Pour utiliser le caisson avec le J4, replacez les pièces dans leur position d’origine.

Test préliminaire d'étanchéité

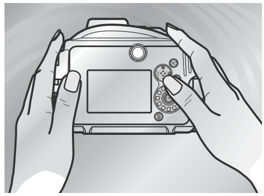
Avant d'introduire l'appareil photo dans le caisson, fermez le caisson et plongez-le dans l'eau pour vérifier son étanchéité comme expliqué ci-dessous.

Important !

Avant d'introduire l'appareil photo dans le caisson, vérifiez que l'appareil photo fonctionne normalement et que le caisson est bien étanche. Si vous ne vérifiez pas l'étanchéité du caisson avant de l'utiliser, vous risquez d'endommager de manière définitive l'appareil photo. Notez que l'étanchéité risque d'être affectée si le caisson présente des craquelures ou est endommagé. Par conséquent, vérifiez le caisson avant toute utilisation et prenez contact avec un représentant Nikon agréé si vous détectez des craquelures ou des anomalies.

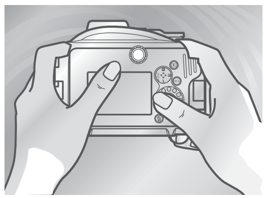
1 Fermez le caisson et plongez-le dans l'eau.

Fermez le caisson, puis plongez-le lentement dans l'eau et arrêtez-vous si de l'air sort du caisson. Maintenez le caisson dans l'eau pendant 2 ou 3 secondes et vérifiez qu'aucune bulle ne s'échappe. Testez le caisson dans une zone peu profonde (1 m ou moins) ou dans une baignoire ou un seau. Ne le plongez pas dans de l'eau chaude car la température pourrait être supérieure aux températures de fonctionnement 0–40 °C.



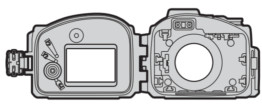
2 Testez les commandes.

Immergez le caisson et actionnez les commandes sous l'eau pendant 2 à 3 minutes, en vérifiant qu'aucune bulle ne s'échappe.



3 Vérifiez qu'il n'y a pas d'eau dans le caisson.

Sortez le caisson de l'eau et séchez méticuleusement l'extérieur avec un chiffon doux et sec, puis ouvrez-le et vérifiez qu'il ne contient pas d'eau. S'il contient de l'eau, vérifiez l'état du joint torique (15, 22–23). Si vous ne parvenez pas à déterminer la cause de la fuite, apportez le caisson à un représentant Nikon agréé.



Fr

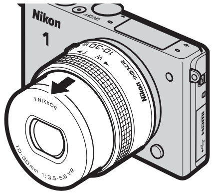
Préparation de l’objectif

Utilisez un objectif 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM ou 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6. Vous ne pouvez pas utiliser d’autres objectifs.

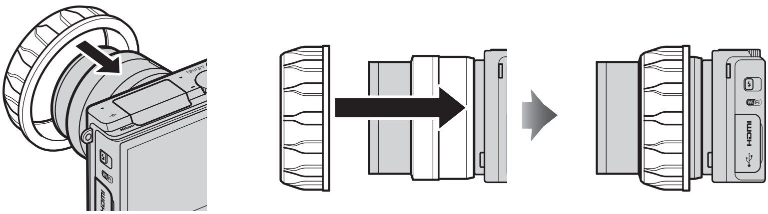
Objectifs 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM

Fixez la bague de zoom pour couronne WP-ZG1020 et l’autocollant anti-reflet WP-IS1000.

1 Fixez l’objectif et sortez-le.
L’objectif sort automatiquement lorsque vous mettez l’appareil photo sous tension.

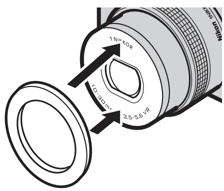


2 Fixez la bague de zoom pour couronne.
Positionnez la bague sur l’objectif en la faisant glisser jusqu’en butée.



Après avoir fixé la bague de zoom pour couronne, positionnez-la de sorte que la bague de zoom tourne aisément.

3 Fixez l’autocollant anti-reflet.
Apposez l’autocollant à l’avant de l’objectif comme illustré (si l’autocollant n’adhère pas, nettoyez la surface adhésive avec une lingette ou un chiffon humide). Si l’autocollant n’est pas apposé, les lettres figurant à l’avant de l’objectif risquent d’apparaître sur les photos (elles sont reflétées par l’intérieur de la fenêtre de l’objectif du caisson). L’autocollant peut être utilisé plusieurs fois ; lorsque vous ne l’utilisez pas, replacez-le sur son support d’origine.



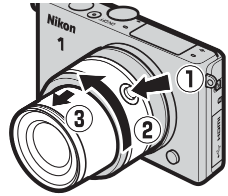
4 Mettez l’appareil photo hors tension.
L’objectif se rétracte automatiquement.

Objectifs 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6

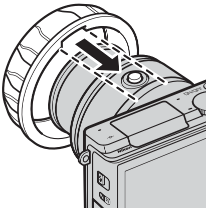
Fixez la bague de zoom pour couronne WP-ZG1010 et la bague anti-reflet WP-IR1010.

1 Fixez l'objectif et sortez-le.

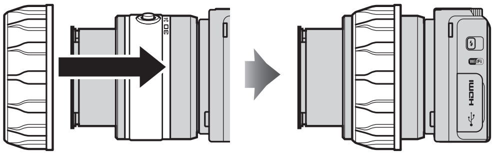
En maintenant appuyée la commande de déverrouillage de l'objectif rétractable (①), tournez la bague de zoom pour faire sortir l'objectif (②). Notez que l'appareil photo se met automatiquement sous tension une fois l'objectif sorti ; mettez l'appareil photo hors tension avant de passer à l'étape 2.



2 Fixez la bague de zoom pour couronne.



Alignez l'encoche située à l'intérieur de la bague sur la commande de déverrouillage de l'objectif rétractable.

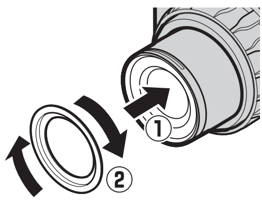


Positionnez la bague sur l'objectif en la faisant glisser jusqu'en butée.

Après avoir fixé la bague de zoom pour couronne, positionnez-la de sorte que la bague de zoom tourne aisément.

3 Fixez la bague anti-reflet.

Fixez la bague à l'avant de l'objectif comme illustré. Si vous ne la fixez pas, les lettres figurant à l'avant de l'objectif risquent d'apparaître sur les photos (elles sont reflétées par l'intérieur de la fenêtre de l'objectif du caisson).

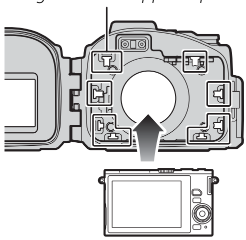


Insertion de l'appareil photo dans le caisson

Préparez l'appareil photo avant la prise de vue sous-marine.

1 Insérez l'accumulateur et la carte mémoire.
Insérez une carte mémoire et un accumulateur entièrement chargé.

2 Insérez l'appareil photo.
Centrez l'appareil photo dans son logement en positionnant l'objectif dans la fenêtre correspondante.

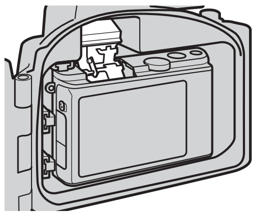


Courroie de l'appareil photo

Pour empêcher que la courroie de l'appareil photo ne se coince dans la jointure et provoque ainsi une fuite, veillez à la retirer avant de placer l'appareil photo dans le caisson.

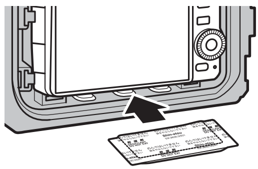
Flashes sous-marins

Si vous avez l'intention d'utiliser un flash sous-marin SB-N10 (en option), sortez le flash intégré de l'appareil photo avant d'insérer ce dernier dans le caisson, car une fois dans le caisson, le flash risque de ne pas pouvoir sortir automatiquement.



Fr

3 Insérez l'absorbeur d'humidité.
Pour éviter la formation de condensation à l'intérieur du caisson, placez le gel de silice (fourni) entre le bas de l'appareil photo et le caisson. Faites glisser l'absorbeur d'humidité vers l'avant du caisson, où il ne pourra pas gêner sa fermeture. Le placer à un endroit non approprié peut affecter l'étanchéité du caisson.



Remplacement de l'absorbeur d'humidité

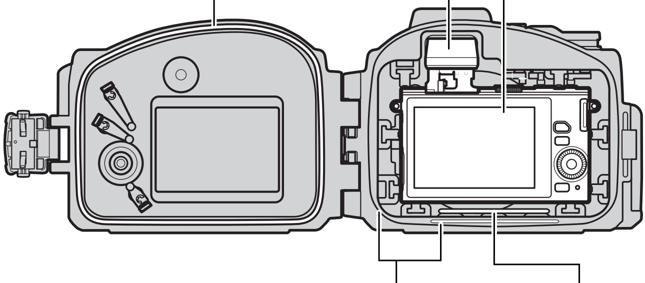
Un absorbeur d'humidité usagé n'est plus capable d'absorber l'humidité. Nous recommandons de le remplacer après chaque utilisation du caisson (📖 25).

4 Effectuez une dernière vérification.

Vérifiez le joint torique :
- *Est-il craquelé ou endommagé ? Remplacez-le.*
- *Est-il tordu ou mal positionné ? Repositionnez-le.*
- *Retirez tout cheveu, poussière, sable ou autre corps étranger.*

Vérifiez le flash intégré : *Si vous utilisez un flash sous-marin, vérifiez que le flash intégré est sorti. Si vous n'utilisez pas de flash sous-marin, veillez à ce que le flash soit abaissé.*

Vérifiez l'appareil photo :
- *Veillez à ce que l'appareil photo soit orienté correctement (📖 14).*
- *Retirez la courroie de l'appareil photo.*



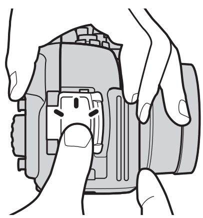
Vérifiez le raccord du joint torique et la rainure d'étanchéité : *Retirez toute trace de liquide, tout cheveu, poussière, sable ou autre corps étranger.*

Vérifiez l'absorbeur d'humidité : *Vérifiez que l'absorbeur d'humidité est positionné correctement (📖 14).*

Vérifiez l'objectif :
- *La bague de zoom pivote-t-elle facilement et permet-elle de régler le zoom ? Si ce n'est pas le cas, repositionnez la bague de zoom pour couronne.*
- *Vérifiez que l'autocollant ou la bague anti-reflet est en place (📖 12, 13).*

5 Fermez le caisson.

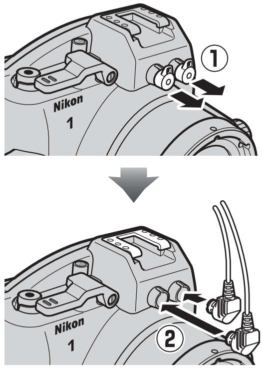
Fermez le caisson.



Fr

Flashes sous-marins

Le caisson étanche dispose de 2 prises pour câbles en fibre optique, ce qui permet de raccorder des flashes sous-marins SB-N10 (en option) à l'aide des câbles en fibre optique sous-marins SC-N10A (en option) ; les flashes sont commandés par le flash intégré de l'appareil photo. Lors de l'utilisation d'un flash sous-marin, retirez l'un des protecteurs des prises pour câbles en fibre optique (① ; remarque : bien qu'il n'y ait pas de risque de fuites lorsque les protecteurs ne sont pas en place, les protecteurs des prises non utilisées doivent être maintenus en place) et raccordez le câble en fibre optique sous-marin (②). Avant d'utiliser le flash sous l'eau, prenez une photo test et vérifiez que le flash fonctionne normalement. Pour en savoir plus, reportez-vous au manuel de l'appareil photo et à la documentation fournie avec le flash.



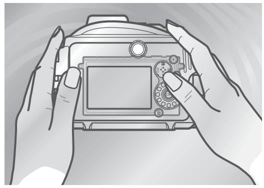
Fr

Dernier test d'étanchéité

Après avoir inséré l'appareil photo et fermé le caisson, effectuez une dernière vérification de l'étanchéité.

Important !

Avant toute utilisation, vérifiez que l'appareil photo fonctionne normalement et que le caisson est bien étanche. Si vous ne vérifiez pas l'étanchéité du caisson avant de l'utiliser, vous risquez d'endommager de manière définitive l'appareil photo.



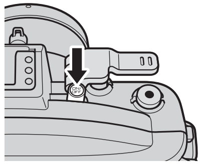
Plongez le caisson dans l'eau pour vérifier son étanchéité comme expliqué dans "Test préliminaire d'étanchéité" (📖 11). Après avoir effectué le test, ouvrez le caisson et vérifiez que l'absorbeur d'humidité est sec et qu'il n'y a pas d'eau à l'intérieur du caisson. Si vous détectez une fuite, séchez immédiatement et méticuleusement l'appareil photo et le caisson et vérifiez que le joint torique est intact et que le caisson est hermétique. Si vous ne parvenez pas à déterminer la cause de la fuite, apportez le caisson à un représentant Nikon agréé.

Fr

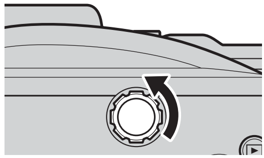
Prise de vue

Suivez les étapes ci-dessous pour prendre des photos sous l'eau.

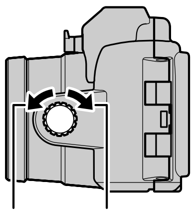
1 Mettez l'appareil photo sous tension.
Appuyez sur le commutateur marche-arrêt du caisson étanche pour mettre l'appareil photo sous tension. Le témoin de mise sous tension devient vert et le moniteur s'allume (pour mettre l'appareil photo hors tension, appuyez à nouveau sur le commutateur marche-arrêt et vérifiez que le moniteur est éteint).



2 Choisissez un mode.
Tournez le sélecteur de mode pour choisir un mode (J4) ou appuyez sur la commande MENU et choisissez un mode à partir des menus (S2). Pour en savoir plus sur la sélection d'un mode, reportez-vous au manuel de l'appareil photo.

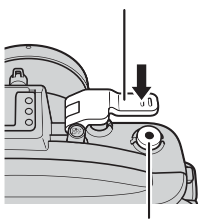


3 Cadrez la photo.
Tournez la molette de zoom pour effectuer un zoom avant ou arrière.



4 Prenez la photo.
Photos : appuyez légèrement sur le levier de déclenchement pour appuyer à mi-course sur le déclencheur de l'appareil photo afin d'effectuer la mise au point, puis appuyez sur le levier de déclenchement jusqu'en fin de course pour prendre la photo.

Vidéos : appuyez sur la commande d'enregistrement vidéo pour lancer ou arrêter l'enregistrement.



Fr

Photographie sous-marine

Lorsque le soleil est perpendiculaire à la surface de l'eau, les conditions sont idéales pour la photographie sous-marine (notez que les photos sous-marines risquent d'avoir une dominante bleue). Les sources lumineuses intenses risquent de faire apparaître des reflets sur les photos ; vérifiez le moniteur avant la prise de vue et modifiez l'angle le cas échéant. Lorsque vous photographiez, maintenez vos doigts et tout autre objet loin de la fenêtre de l'objectif et évitez de produire des bulles dans le champ photographique. Fixez le bouchon avant sur la fenêtre de l'objectif lorsque vous n'utilisez pas l'appareil photo.

Illuminateur d'assistance AF

Il n'est pas possible d'utiliser l'illuminateur d'assistance AF lorsque l'appareil photo est dans le caisson étanche.

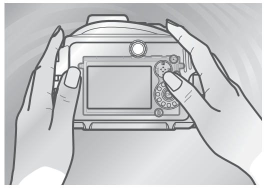
Extinction automatique

Si aucune opération n'est effectuée pendant une période donnée, le moniteur s'éteint et le témoin de mise sous tension clignote. Si aucune autre opération n'est effectuée pendant une période donnée après l'extinction du moniteur, l'appareil photo se met automatiquement hors tension. Reportez-vous au manuel de l'appareil photo pour en savoir plus.

Après toute utilisation

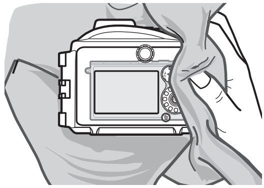
Nettoyez le caisson et retirez l'appareil photo.

1 Rincez le caisson.
Nettoyez le caisson dès que possible après toute utilisation. Sans l'ouvrir et sans retirer l'appareil photo, rincez le caisson dans une bassine d'eau douce.



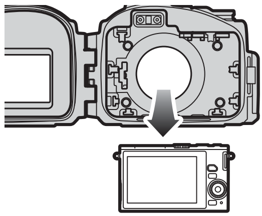
2 Essuyez.
Séchez méticuleusement l'extérieur du caisson avec un chiffon doux et sec.

Séchage du caisson
Veillez à essuyer l'eau qui aurait pu éventuellement s'infiltrer dans le volet, les commandes ou l'œillet pour dragonne.



Fr

3 Retirez l'appareil photo.
Retirez l'appareil photo et essuyez l'intérieur du caisson avec un chiffon doux et sec. Ne rincez pas l'intérieur du caisson avec de l'eau.

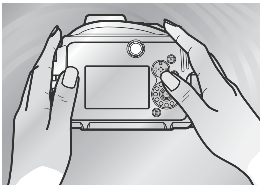


Retrait de l'appareil photo
N'actionnez jamais le volet ou la commande de déverrouillage du volet sous l'eau. Avant d'ouvrir le caisson, veillez à ce que vos mains soient sèches et exemptes de sel ou de sable ; n'ouvrez pas le caisson dans des lieux où il serait exposé à du sable soulevé par le vent ou à des éclaboussures. Lorsque vous retirez l'appareil photo, faites attention de ne pas le laisser tomber et veillez à ce qu'aucune goutte ne tombe de vos cheveux, de votre corps ou qu'aucun objet ne tombe sur le caisson ou sur l'appareil photo. Si des gouttes tombent sur l'appareil photo ou dans le caisson étanche, essuyez-les immédiatement avec un chiffon doux. Veillez à ce que vos mains soient sèches et exemptes de sel ou de sable avant de manipuler l'appareil photo ou l'accumulateur.

Maintenez le caisson debout ; ne le positionnez pas ouvert en appui sur le joint torique ou sur son raccord.

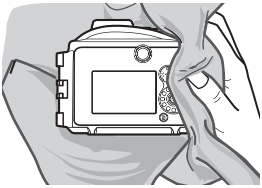
4 Plongez le caisson dans de l'eau douce.

Refermez hermétiquement le caisson et laissez-le tremper dans une bassine d'eau douce pendant deux à trois heures. Actionnez chaque commande plusieurs fois pour enlever le sel. Si vous laissez le sel sécher sur les commandes, celles-ci risquent de ne plus fonctionner ou leurs composants métalliques risquent de rouiller, ayant pour conséquence d'affecter l'étanchéité du caisson.



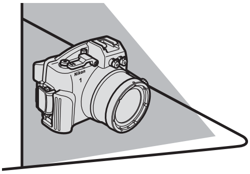
5 Essuyez.

Essuyez méticuleusement le caisson avec un chiffon doux et sec. N'utilisez pas un chiffon qui a été en contact avec le sel.



6 Laissez le caisson sécher à l'ombre.

Laissez sécher le caisson à l'air libre à l'ombre, dans un endroit bien aéré.



☑ Ne pas exposer au soleil ou à la chaleur

N'utilisez pas de sèche-cheveux ou une autre source de chaleur et n'exposez pas le caisson aux rayons directs du soleil. La chaleur est susceptible de détériorer le caisson ou le joint torique, ayant pour conséquence d'affecter l'étanchéité.

☑ Nettoyage de l'intérieur du caisson

Utilisez une soufflette, un pinceau ou un chiffon doux et humide pour retirer tout corps étranger éventuellement présent à l'intérieur du caisson. Vous pouvez retirer toute trace de liquide avec un chiffon doux et humide. Lorsque vous utilisez un chiffon, faites attention de ne pas rayer le caisson ; n'exercez pas de pression inutile. N'utilisez pas d'eau, de détergents ou tout autre produit chimique. L'eau risque d'endommager le revêtement situé à l'intérieur de la fenêtre de l'objectif.

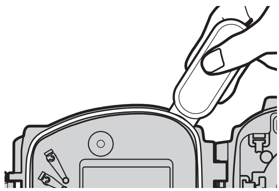
Entretien

Cette section explique comment entretenir le joint torique et le caisson étanche.

Entretien du joint torique

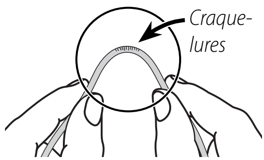
Le WP-N3 recourt à un joint torique pour former un joint d'étanchéité. Si le joint torique n'est pas manipulé correctement, le caisson risque de perdre son étanchéité. Vérifiez l'état du joint torique comme décrit ci-dessous avant chaque utilisation et veillez à ce qu'aucun corps étranger n'entre en contact avec le joint torique à chaque ouverture du caisson, même s'il reste ouvert brièvement.

1 Retirez le joint torique.
Utilisez l'extracteur de joint torique pour retirer le joint torique comme illustré.

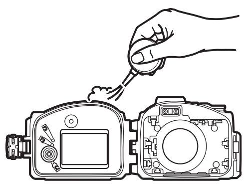


✔ Ne pas forcer et ne pas utiliser d'objets tranchants
Le caisson risque de perdre son étanchéité si le joint torique est déformé ou endommagé suite à l'utilisation d'objets pointus ou tranchants, comme les ongles ou des outils métalliques.

2 Inspectez le joint torique.
Retirez la graisse de silicone résiduelle et autre corps étranger avec un chiffon doux, en prenant soin de ne pas laisser de peluches ou de fils sur le joint torique. Pliez-le avec délicatesse pour vérifier qu'il ne présente pas de craquelures ou autre anomalie.



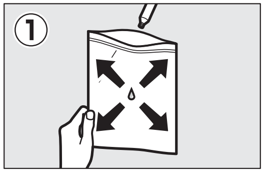
3 Inspectez le logement du joint torique.
Utilisez une soufflette ou un coton-tige pour retirer les corps étrangers éventuellement présents dans la rainure d'étanchéité et dans toutes les parties en contact avec le joint torique. Veillez également à enlever les peluches laissées par le coton-tige.

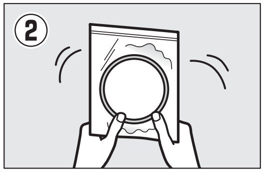


Fr

4 Appliquez de la graisse sur le joint torique.

Si le joint torique n'est pas lubrifié correctement, il risque de se fissurer ou de s'écailler et de provoquer ainsi des fuites. Lubrifiez le joint si sa surface semble sèche. Tout d'abord, mettez environ un centimètre de graisse de silicone dans un sac plastique et servez-vous de vos doigts pour l'étaler dans le sac (①). Ensuite, placez le joint torique dans le sac et malaxez l'ensemble pour appliquer la graisse sur le joint (②).



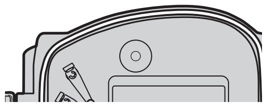


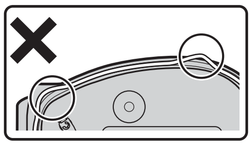
Utilisez uniquement la graisse destinée au WP-N3. N'appliquez pas la graisse avec un chiffon ou du papier car ils risquent de laisser des peluches sur le joint torique. Veillez cependant à ne pas le graisser excessivement car des corps étrangers sont alors plus susceptibles d'y adhérer. Le caisson risque alors de n'être pas fermé hermétiquement.

Fr

5 Remettez le joint torique en place.

Vérifiez d'abord qu'aucun corps étranger n'est présent sur le joint torique et dans son logement. Placez et étirez le joint torique de manière homogène, sans forcer et sans le tordre, en veillant à ce qu'il ne déborde pas de son logement.





☑ Joints toriques

Le joint torique nécessite d'être remplacé périodiquement. Remplacez-le immédiatement s'il est abîmé, craquelé, déformé ou a perdu son élasticité. Les joints toriques doivent être remplacés au moins une fois par an. Utilisez uniquement la graisse de silicone destinée à ce produit ; vous pouvez acheter des joints toriques de rechange et de la graisse de silicone auprès d'un revendeur d'appareils photo Nikon ou d'un représentant Nikon agréé. N'utilisez pas de la graisse pour joint torique destinée aux appareils photo COOLPIX ou NIKONOS.

☑ Nettoyage

N'utilisez pas de détergents ou autres produits chimiques volatils comme de l'alcool ou des diluants pour nettoyer le caisson ou le joint torique. Vous risquez sinon de les endommager.

Rangement

Rangez le caisson dans un endroit frais et bien aéré et laissez-le ouvert pour empêcher la détérioration du joint torique. Pour que le joint torique conserve son élasticité, retirez-le du caisson, enlevez la graisse de silicone résiduelle, appliquez de la graisse neuve et rangez-le dans un sac plastique propre lorsque vous n'avez pas l'intention d'utiliser le caisson avant longtemps. Ne rangez pas le caisson en plein soleil ou dans un lieu où il serait exposé à de brusques changements de température ou de hauts niveaux d'humidité. Ne rangez pas le caisson ou le joint torique sous d'autres objets, à proximité d'un feu nu, d'objets inflammables ou avec de la naphtaline ou du camphre.

Entretien

Nikon recommande de faire réviser le caisson par un représentant Nikon agréé au moins une fois par an. Ce service est payant.

Caractéristiques techniques

Profondeur maximale	45 m
Température de fonctionnement de l'appareil photo	0 °C–40 °C
Dimensions (L × H × P)	Environ 156,4 × 115,8 × 113,0 mm, hors parties saillantes
Poids	Environ 735 g , corps uniquement

*Des améliorations peuvent être apportées aux caractéristiques et à l'aspect extérieur de ce produit sans avis préalable. Nikon ne peut être tenu pour responsable des dommages résultant d'erreurs éventuelles contenues dans ce manuel. Sauf indication contraire, toutes les mesures sont effectuées à la température indiquée par la CIPA (**C**amera and **I**maging **P**roducts **A**ssociation) : 23 ±3 °C.*

Accessoires vendus séparément

Nikon propose les accessoires suivants (accessoires de remplacement ou disponibles en option) :

- Bague de zoom pour couronne WP-ZG1020 destinée aux objectifs 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Bague de zoom pour couronne WP-ZG1010 destinée aux objectifs 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6
- Autocollant anti-reflet WP-IS1000 destiné aux objectifs 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Bague anti-reflet WP-IR1010 destinée aux objectifs 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6
- Joint torique WP-O1100
- Extracteur de joint torique WP-OR1000
- Bouchon avant WP-LC1000
- Dragonne WP-AN1000
- Cordon du bouchon avant WP-AN2000
- Graisse de silicone WP-G1000
- Gel de silice WP-S1000
- Flash sous-marin SB-N10
- Câble en fibre optique sous-marin SC-N10A
- Support sous-marin SK-N10A

Carcasa subacuática WP-N3

Manual del usuario

Colocar una Nikon 1 J4 o S2 en una carcasa subacuática WP-N3 protege la cámara contra la lluvia y nieve, y permite que pueda ser utilizada para la toma de fotografías bajo el agua a profundidades de hasta 45 m (147 pies). Mantenga este manual en un lugar donde todas las personas que utilicen el producto puedan leerlo, y asegúrese de leerlo detenidamente junto con el manual de la cámara antes del uso.

Símbolos y convenciones

Para facilitar la búsqueda de la información que necesite, se han utilizado los siguientes símbolos y convenciones:

✔	Este icono indica precauciones, información que debe leerse antes del uso para evitar dañar la cámara o la carcasa subacuática.
📎	Este icono indica avisos; información que debe leer antes de utilizar el producto.
📖	Este icono indica las referencias a otras páginas en este manual.

✔ Importante: Leer antes del uso

Antes de utilizar la carcasa subacuática en o cerca del agua, compruebe si existen fugas tal y como se describe en las páginas 11 y 17 de este manual.

Es

⚠ Por su seguridad

Antes de utilizar este producto por primera vez, lea las instrucciones de seguridad de la sección "Por su seguridad" (📖 iii–vii).

📎 Formación para toda la vida

Como parte del compromiso que Nikon ha asumido para ofrecer asistencia y formación permanente sobre sus productos bajo el lema "Formación para toda la vida", en los siguientes sitios web se puede acceder a información en línea que se actualiza de forma periódica:

- **Para los usuarios de EE. UU.**: *http://www.nikonusa.com/*
- **Para los usuarios de Europa y África**: *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **Para los usuarios de Asia, Oceanía y Oriente Medio**: *http://www.nikon-asia.com/*

Visite estos sitios para mantenerse actualizado y conocer la información más reciente sobre productos, consejos, respuestas a preguntas frecuentes y recomendaciones generales sobre fotografía e imágenes digitales. También puede pedir información adicional al representante Nikon de su zona. Visite la siguiente dirección URL para encontrar información de contacto: *http://imaging.nikon.com/*

Por su seguridad

Para evitar dañar el producto Nikon o lesionar a otras personas o a usted mismo, lea completamente las siguientes precauciones de seguridad antes de utilizar el equipo. Mantenga estas instrucciones de seguridad en un lugar donde todas las personas que utilicen el producto puedan leerlas.

Las consecuencias que pueden derivarse de un incumplimiento de las precauciones señaladas en esta sección se indican mediante el siguiente símbolo:

⚠ Este icono denota advertencias. Para evitar posibles lesiones, lea todas las advertencias antes de utilizar este producto Nikon.

ADVERTENCIAS

⚠ ***No desmontar***. Hacer caso omiso de esta precaución puede ocasionar lesiones o un funcionamiento incorrecto del producto. Si el producto se rompe a causa de una caída o cualquier otro accidente, llévelo a un representante del servicio técnico autorizado de Nikon para su inspección, teniendo cuidado de no lesionarse con las piezas rotas.

⚠ ***Apague inmediatamente la cámara en caso de mal funcionamiento***. Si el equipo desprende humo o un olor inusual, extraiga inmediatamente la batería de la cámara, teniendo cuidado de no quemarse. Continuar operando el equipo podría resultar en lesiones. Tras extraer la batería de la cámara, lleve el equipo a un representante del servicio técnico autorizado de Nikon para su inspección.

⚠ ***No utilizar en presencia de gas inflamable***. No utilice equipos electrónicos en presencia de gas inflamable, ya que podría producirse una explosión o un incendio.

⚠ ***No exponga el producto a altas temperaturas***. No deje el producto en un lugar donde pueda estar expuesto a temperaturas extremadamente elevadas, como por ejemplo en el interior de un vehículo cerrado o expuesto a la luz solar directa. Si hace caso omiso de esta precaución, podría provocar daños o un incendio.

⚠ ***Tenga cuidado al utilizar el flash***.
- Utilizar el flash cerca de los ojos de la persona que va a fotografiar puede causar problemas visuales temporales. Debe poner especial atención al fotografiar a niños, momento en el cual el flash no debe encontrarse a menos de 1 metro (39 pulg.) de distancia del sujeto.
- No apunte el flash al conductor de un vehículo. No cumplir con esta precaución podría causar accidentes.

⚠ ***Mantener fuera del alcance de los niños***. No cumplir con esta precaución puede causar lesiones. Igualmente, tenga en cuenta que las piezas pequeñas constituyen riesgo de asfixia. Si un niño ingiere una pieza de este equipo, póngase inmediatamente en contacto con un médico.

⚠ ***No coloque la correa alrededor del cuello de un bebé o de un niño***. Colocar la correa alrededor del cuello de un bebé o de un niño puede provocar estrangulación.

⚠ ***No se sumerja sujetando el producto***. Para evitar lesiones causadas por la carcasa golpeando el cuerpo, no salte ni se sumerja en el agua sujetando la carcasa subacuática.

⚠ ***Tome las precauciones debidas al manipular las baterías de la cámara***. La manipulación incorrecta de las baterías podría dar lugar a fugas o a la explosión de las mismas. Respete las siguientes precauciones al manipular las baterías de la cámara:

- Utilice únicamente las baterías aprobadas para su uso con la cámara.
- Cuando las baterías están totalmente descargadas son propensas a las fugas. Retire la cámara de la carcasa cuando no esté en uso.
- Si entra agua en el interior de la carcasa, retire inmediatamente la batería de la cámara.
- Mantenga secos los terminales de la batería. Hacer caso omiso de esta precaución puede ocasionar lesiones o un funcionamiento incorrecto del producto.

⚠ ***No la deje expuesta a la luz directa del sol***. La carcasa podría reflejar los rayos del sol, provocando un incendio.

⚠ ***No la utilice a profundidades superiores a los 45 m (147 pies)***. Si hace caso omiso de esta precaución podría provocar la aparición de fugas u otros funcionamientos incorrectos.

⚠ ***Mantenga la carcasa hermética***. No limpie la carcasa con chorros de alta presión. No abra la carcasa en lugares en los que pueda estar expuesta al polvo o arena, y asegúrese de extraer cualquier objeto extraño de la junta tórica y de cualquiera de las piezas de la carcasa que estén en contacto con la junta tórica antes de cerrar la carcasa. Hacer caso omiso de estas precauciones podría resultar en fugas.

⚠ ***No la exponga a altas temperaturas***. No exponga el producto a temperaturas superiores a 40 °C (104 °F). Si hace caso omiso de esta precaución podría causar que el producto se deforme, provocando fugas.

⚠ ***No cubra el producto durante el uso***. La acumulación de calor podría deformar la carcasa o provocar un incendio.

⚠ ***No guarde la cámara en la carcasa***. Los gases emitidos por la batería de la cámara podrían acumularse en la carcasa, lo que causaría una explosión o un incendio.

⚠ ***No ingiera grasa de silicona ni gel de sílice***. Estos productos no son comestibles.

Precauciones

Para garantizar el disfrute de su producto Nikon, cumpla las siguientes medidas de precaución al almacenar o utilizar el dispositivo.

▮▮ Impermeabilización

Respete las siguientes precauciones al utilizar la carcasa en el agua o sus proximidades:

- Antes del uso, compruebe la carcasa en busca de fugas tal y como se ha descrito en las páginas 11 y 17 de este manual.
- La carcasa sólo es a prueba de agua dulce (como por ejemplo, piscinas, ríos y lagos) y al agua salada. No la sumerja en aguas termales ni balnearios.
- No la exponga a profundidades superiores a 45 metros (147 pies) ni a rápidos, cascadas, chorros de agua de grifos abiertos a la máxima presión ni a cualquier otro tipo de agua bajo gran presión. Hacer caso omiso de estas precauciones podría exponer la carcasa a presiones lo suficientemente altas como para provocar daños, deformaciones y la entrada de agua.
- La exposición al agua dañará la cámara. Para evitar la entrada de agua, no abra la carcasa con las manos mojadas, si la carcasa está mojada o en el agua, sobre ella o sus proximidades ni en lugares en los que pueda estar expuesta a rociadores, al viento, a la arena o al polvo. Asegúrese de que la cámara esté seca antes de la inserción. Si la carcasa contiene fugas, deje de utilizarla inmediatamente, seque la cámara y el interior de la carcasa y lleve la cámara a un representante del servicio técnico autorizado de Nikon.
- Antes de sellar la carcasa o al instalar la junta tórica, asegúrese de que la junta tórica no esté retorcida ni descolada y examine cuidadosamente el interior de la carcasa y la junta tórica, el canal de estanqueidad y cualquier otra parte de la carcasa que esté en contacto con la junta tórica para asegurarse de que estén libres de líquidos, suciedad, cabellos, polvo, arena y otras materias extrañas. El agua y otros líquidos acumulados en estas superficies, deben ser inmediatamente retirados con un paño suave y seco. El resto de materia extraña debe ser retirada con una perilla, teniendo cuidado de retirar cualquier diminuta partícula de los laterales y esquinas del canal de estanqueidad. La materia extraña en el exterior de la carcasa se puede limpiar con un paño suave y seco. No utilice jabón, limpiadores ni otros productos químicos y asegúrese de extraer inmediatamente todo resto de crema solar, protector solar, sales de baño, detergente, jabón, disolventes orgánicos, alcohol y similares.
- No adhiera pegatinas a la carcasa ni utilice sellantes, químicos anti-vaho ni lubricantes para juntas tóricas o geles de sílice no específicamente diseñados para su uso con la WP-N3 (🕮 25).
- No deje la carcasa durante largos períodos de tiempo en lugares expuestos a temperaturas extremadamente bajas o en ubicaciones calientes, como por ejemplo en el interior de vehículos cerrados, embarcaciones, en la playa, expuesta a la luz directa del sol o cerca de aparatos de calefacción. Si se hace caso omiso de esta precaución puede ocasionar que la carcasa sea vulnerable a la entrada de agua.
- No se garantiza que la carcasa sea a prueba de agua si se ha caído, recibido golpes, colocado bajo objetos pesados o si ha sido sometida de cualquier otro modo a fuertes presiones o violentos impactos físicos o vibraciones. Si la carcasa sufre una caída u otro impacto físico, llévela al personal del servicio técnico autorizado de Nikon y haga que la comprueben para asegurarse de que aún es a prueba de agua. Tenga en cuenta que este servicio está sujeto a cargo.
- Los daños causados por los errores del usuario no están cubiertos por la garantía.

■■ A prueba de impactos

La carcasa subacuática no ha sido diseñada para proteger a la cámara contra golpes o vibraciones. No permita que la carcasa se caiga, no la golpee contra objetos duros, no la tire al agua, salte al agua sujetando la carcasa ni deje la carcasa en zonas sometidas a vibraciones extremas. Hacer caso omiso de estas precauciones podría dañar la cámara.

■■ Entorno operativo

Tenga en cuenta las siguientes precauciones:

- A bajas temperaturas, la cámara podría no funcionar con normalidad inmediatamente después de haberse encendido y el rendimiento de la batería podría disminuir. Lleve baterías de repuesto en un lugar templado y cámbielas si fuera necesario.
- En ambientes fríos, retire inmediatamente la nieve o la lluvia. Si los controles se congelan podría dificultar su operación.
- El contacto prolongado con metales fríos puede dañar la piel. Lleve guantes al manejar la carcasa durante largos períodos de tiempo a bajas temperaturas.
- No deje la carcasa en zonas expuestas a altas temperaturas, como por ejemplo en el interior de un coche, cerca de un calefactor, en una playa o expuesta a la luz directa del sol. Si se hace caso omiso de esta precaución podría debilitar o deformar la carcasa, lo que dañaría la cámara. Los cambios bruscos de temperatura podrían provocar la aparición de condensación en el interior de la carcasa, lo cual podría dañar igualmente la cámara. Para evitar la condensación:
  - Cuando se traslade de un sitio a otro con una notable diferencia de temperatura, deje la cámara en la carcasa hasta que se haya adaptado a la temperatura ambiente.
  - Coloque el desecante (gel de sílice) suministrado en la carcasa con la cámara, tal y como se indica en página 14 de este manual.
  - No exponga la carcasa a altas temperaturas dejándola en la playa o expuesta a la luz directa del sol antes de sumergirse en el agua.

■ Juntas tóricas

Respete las siguientes precauciones al manipular juntas tóricas:

- La junta tórica debe ser reemplazada periódicamente. Sustituya inmediatamente la junta tórica si está dañada, rajada, retorcida o ha perdido su elasticidad. Las juntas tóricas deben ser sustituidas al menos una vez al año; no utilice una junta tórica desgastada ni juntas tóricas que no hayan sido especialmente diseñadas para su uso con este producto.
- Para evitar dañar la junta tórica, utilice el extractor de juntas tóricas al extraer la junta de la carcasa. No utilice objetos metálicos ni objetos con extremos afilados al retirar la junta tórica.
- No aplique un exceso de fuerza al extraer o colocar la junta tórica. Si se ejerce una fuerza excesiva, es posible que la junta se estire permanentemente, causando fugas en la carcasa.
- Para evitar el desgaste, utilice únicamente grasa de silicona designada para su uso con este producto (📖 25). *No utilice lubricantes (grasas) para las juntas tóricas de la COOLPIX o NIKONOS ni otros tipos de grasa de silicona.*

■ Cambios de altitud

La modificación de la presión del aire provocada por cambios de altitud podría dañar la carcasa o evitar su apertura. Respete las siguientes precauciones:

- Si es posible, guarde la carcasa en su equipaje de mano cuando viaje en avión. Si factura la carcasa con su equipaje, déjela abierta o extraiga la junta tórica.
- Cuando se desplace de lugares con gran altitud a lugares con poca altitud, abra periódicamente la carcasa para ecualizar la presión.

✔ ¡Importante!

La carcasa subacuática WP-N3 es de uso exclusivo con cámaras compatibles. No introduzca ninguna otra cámara en la WP-N3.

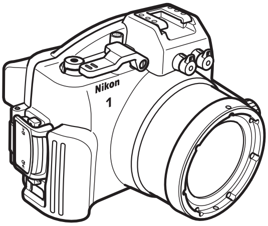
Tabla de contenido

Introducción

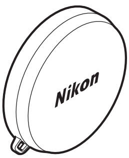
Consulte esta sección para más información acerca de los nombres de los accesorios suministrados y las piezas de la carcasa subacuática.

Contenido del paquete

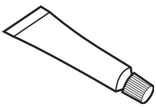
Compruebe que el paquete contiene todos los elementos que se indican a continuación. Póngase en contacto con su distribuidor si falta algo.



- ☐ *WP-N3 (con la junta tórica WP-O1100 instalada; antes del uso, compruebe que la junta tórica no ha sufrido daños tal y como se describe en página 22)*



- ☐ *Tapa frontal WP-LC1000*



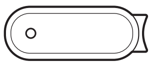
- ☐ *Grasa de silicona WP-G1000*



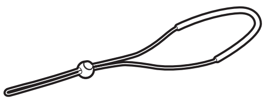
- ☐ *Engranaje del zoom WP-ZG1020 (para los objetivos 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*



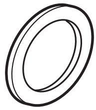
- ☐ *Engranaje del zoom WP-ZG1010 (para los objetivos 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6)*



- ☐ *Extractor de juntas tóricas WP-OR1000*



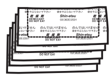
- ☐ *Correa WP-AN1000*



- ☐ *Pegatina de prevención de reflejos internos WP-IS1000 (para los objetivos 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*

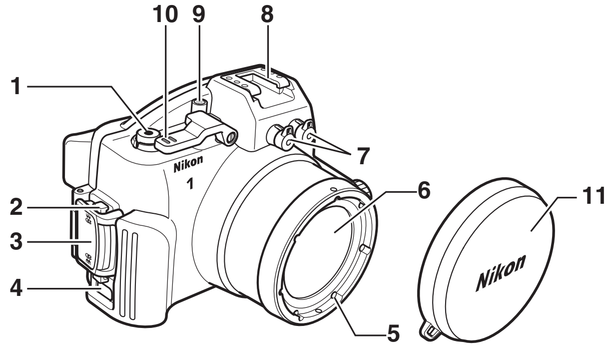


- ☐ *Junta WP-IR1010 anti-reflejos internos (para los objetivos 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6)*



- ☐ *Desecante de gel de sílice WP-S1000 (1 paquete de 5; vuelva a sellar después de abrir)*
- ☐ *Correa de la tapa frontal WP-AN2000*
- ☐ Manual del usuario *(este manual)*
- ☐ *Garantía*

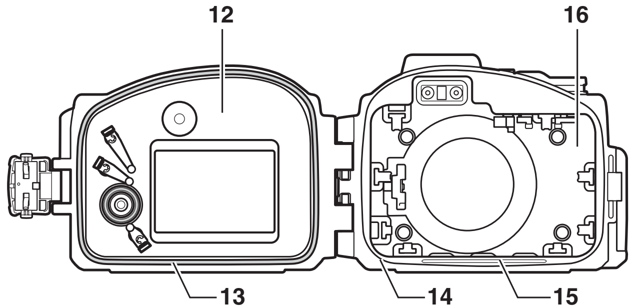
Partes de la WP-N3



- **1** Botón de grabación de vídeo............................18
- **2** Botón de liberación del cierre............................4
- **3** Cierre..4
- **4** Ojal para la correa..3
- **5** Rosca de instalación de filtro ⌀67 mm
- **6** Ventana del objetivo..14
- **7** Tapas de la toma de cable de fibra óptica*..16
- **8** Zapata de accesorios
- **9** Interruptor principal...18
- **10** Palanca del disparador.......................................18
- **11** Tapa frontal..3, 25

* Extraer al usar flashes subacuáticos opcionales SB-N10.

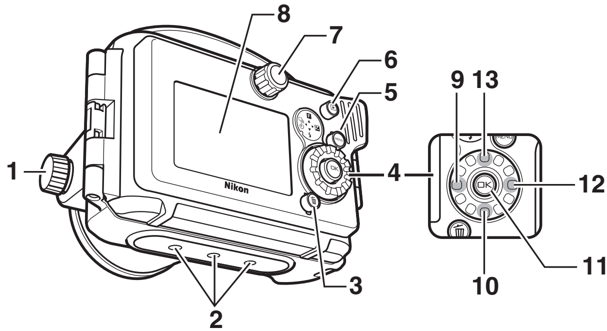
Es



- **12** Tapa posterior...4
- **13** Junta tórica/Guía de la junta tórica 15, 22, 25
- **14** Cierre hermético de la junta tórica......... 15, 22
- **15** Canal de estanqueidad................................ 15, 22
- **16** Tapa frontal...4

La zapata de accesorios

La zapata de accesorios se utiliza con flashes subacuáticos yotros accesorios; consulte la documentación suministrada con los accesorios para más información acerca de la instalación y extracción. Extraiga los accesorios de la zapata de accesorios al transportar la carcasa subacuática en tierra firme.



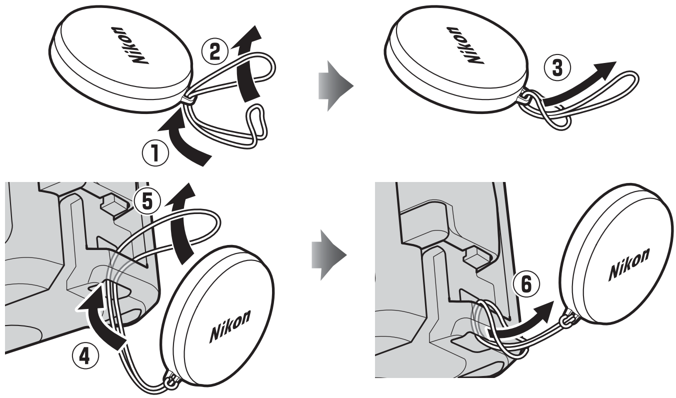
- **1** Dial de zoom.. 15, 18
- **2** Roscas para el trípode
- **3** Botón 🗑 (borrar)
- **4** Multiselector
- **5** Botón MENU
- **6** Botón ▶ (reproducir)
- **7** Dial de modo*...18

* De uso exclusivo con la J4

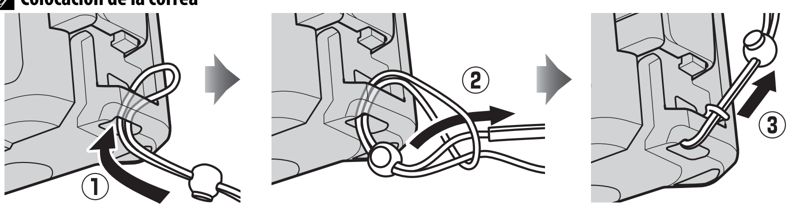
- **8** Ventana de la pantalla
- **9** Botón (disparo continuo/disparador automático)
- **10** Botón ⚡ (modo de flash)
- **11** Botón (aceptar) ⓄK
- **12** Botón ☒ (compensación de exposición)
- **13** Botón F (función)

Es

Colocación de la correa de la tapa frontal



Colocación de la correa

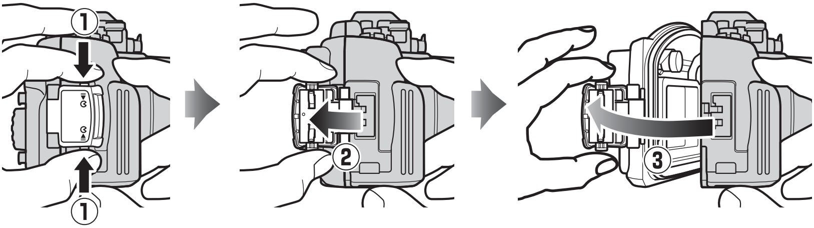


Uso del cierre

Siga los pasos indicados a continuación para desbloquear o bloquear la carcasa.

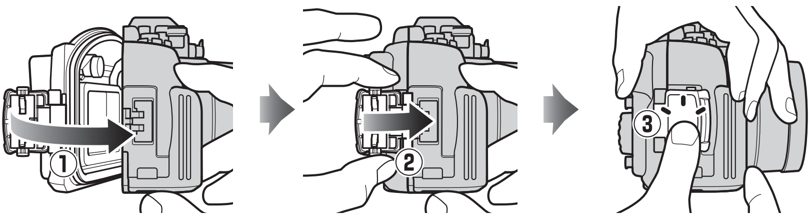
Desbloquear la carcasa

Manteniendo pulsado el botón de liberación del cierre (①), abra el cierre (②) y, a continuación, abra la tapa posterior (③).



Bloquear la carcasa

Cierre la carcasa (①) y gire el cierre hacia la mitad frontal (②), a continuación pulse el cierre cerrado hasta que encaje en su sitio (③). Compruebe que la carcasa esté debidamente sellada, que la junta tórica se encuentre en su lugar, y que no haya objetos extraños atrapados en el sello (□ 23).



✓ Apertura de la carcasa

Antes de abrir la carcasa, asegúrese de que esté completamente seca y libre de suciedad. Después de utilizar la carcasa bajo el agua, lávela con agua dulce para retirar los restos de arena u otros objetos extraños y, a continuación, séquela exhaustivamente con un paño suave y seco. Asegúrese de que cualquier resto de agua, arena u otras materias extrañas que permanezcan en la carcasa no caigan en el interior al abrirla. No accione nunca el cierre ni el botón de liberación del cierre bajo el agua.

Tenga cuidado de no dejar caer la cámara al extraerla de la carcasa.

Configuración

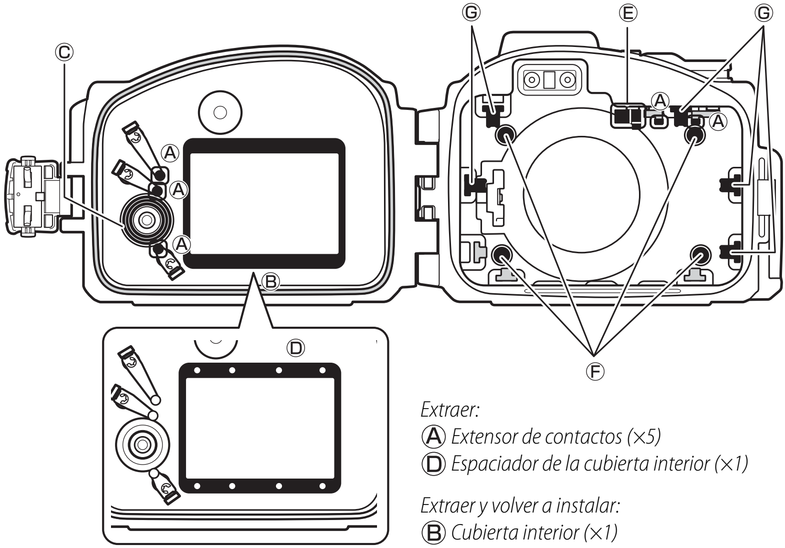
En el momento de envío, la carcasa ha sido configurada para ser utilizada con la J4. Las piezas extraíbles permiten configurar la carcasa para su uso con la S2. No deje caer las piezas durante la sustitución.

Configuración de la carcasa para la J4

La carcasa ha sido configurada en el momento de envío para ser utilizada con la J4. No modifique la configuración al utilizar la carcasa con la J4.

Configuración de la carcasa para la S2

Si desea utilizarla con la S2, configure la carcasa tal y como se indica a continuación.



Extraer:
Ⓐ *Extensor de contactos (×5)*
Ⓓ *Espaciador de la cubierta interior (×1)*

Extraer y volver a instalar:
Ⓑ *Cubierta interior (×1)*

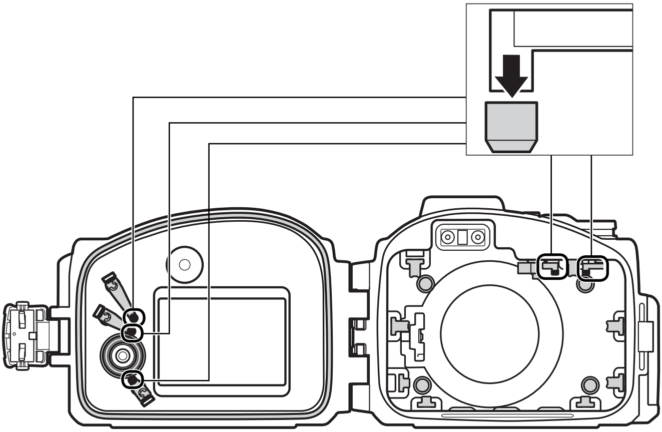
Extraer, invertir y volver a instalar:
Ⓒ *Contacto del multiselector (×1)*
Ⓔ *Contacto del interruptor principal (×1)*
Ⓕ *Almohadilla delantera (×4)*
Ⓖ *Almohadilla lateral (×5)*

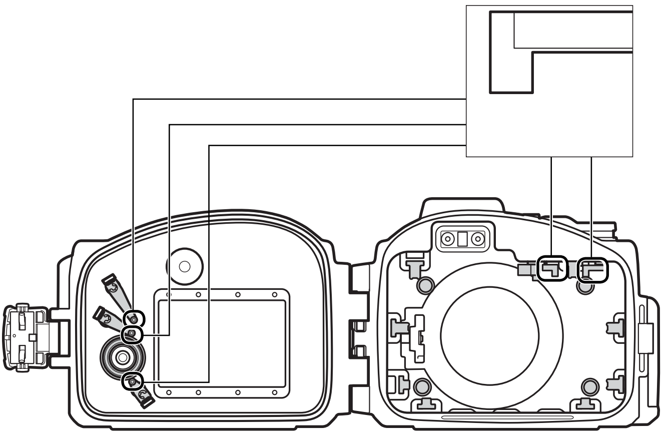
☑ ¡Importante!

Asegúrese de que todas las piezas estén correctamente instaladas. Si no introduce las piezas extraíbles completamente, podría causar pérdidas o fugas y daños en la cámara. Al sustituir las piezas, seleccione un lugar debidamente iluminado y tenga cuidado de no dañarse los dedos o las uñas.

Al utilizar la carcasa con la S2, retire los extensores de contacto, la cubierta interior y el espaciador de la cubierta interior y, a continuación, vuelva a introducir la cubierta interior.

Ⓐ **Extensor de contactos** (×5)
Extraiga los extensores de contactos.

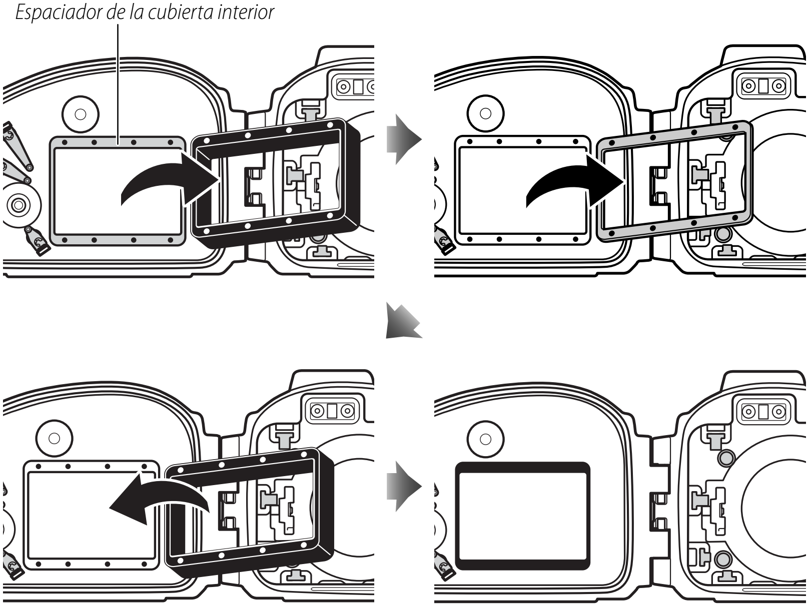




Es

Ⓑ Cubierta interior (×1)/Ⓓ Espaciador de la cubierta interior (×1)

Al utilizar la carcasa con la S2, retire la cubierta interior y el espaciador de la cubierta interior y, a continuación, vuelva a instalar la cubierta interior.



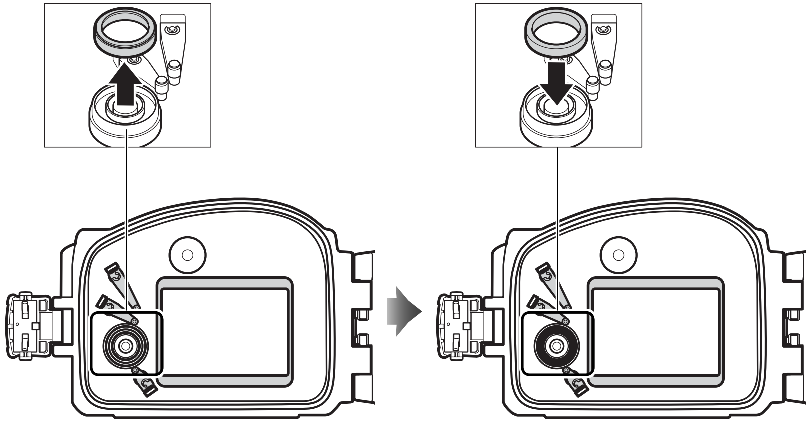
Es

¡Importante!

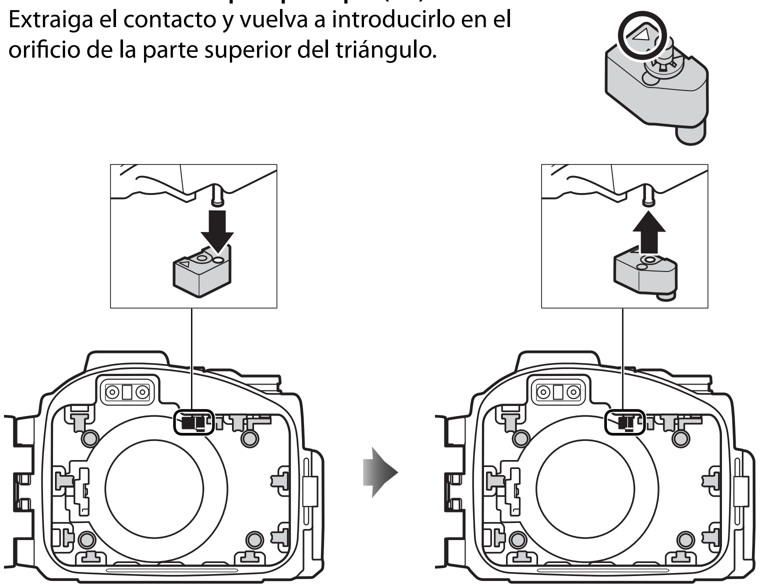
Los extensores de contactos y el espaciador de la cubierta interior no son necesarios al utilizar la carcasa con la S2. Extráigalos y guárdelos en un lugar seguro.

Los usuarios de la S2 también necesitarán extraer, invertir y volver a instalar el multiselector y los contactos del interruptor principal y las almohadillas lateral y delantera.

Ⓒ **Contacto del multiselector** (×1)
Extraiga y vuelva a colocar el contacto en la orientación indicada.

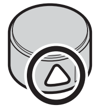


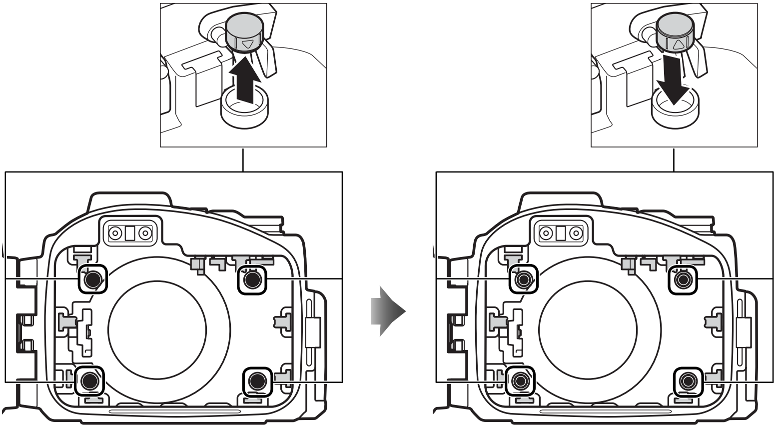
Ⓔ **Contacto del interruptor principal** (×1)
Extraiga el contacto y vuelva a introducirlo en el orificio de la parte superior del triángulo.



Ⓕ **Almohadilla delantera** (×4)

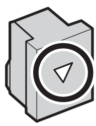
Extraiga y vuelva a colocar las almohadillas con la parte superior del triángulo orientada hacia arriba.

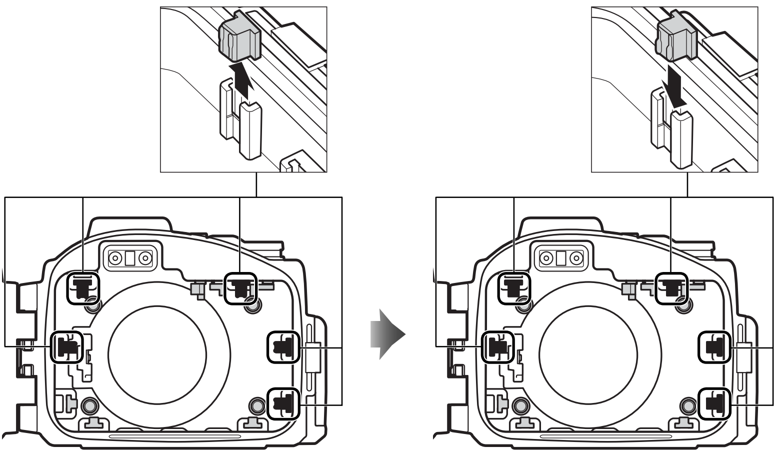




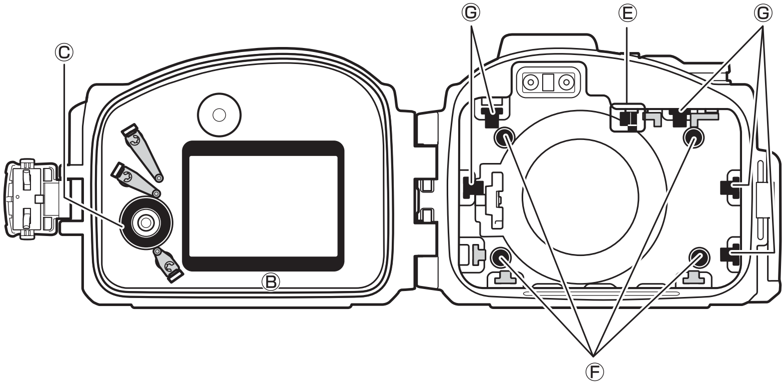
Ⓖ **Almohadilla lateral** (×5)

Extraiga y vuelva a colocar las almohadillas con la parte superior del triángulo orientada hacia abajo.





La siguiente imagen muestra la carcasa después de su configuración para el uso con la S2.



Ⓐ *Contacto del multiselector (×1)*
Ⓑ *Cubierta interior (×1)*
Ⓔ *Contacto del interruptor principal (×1)*
Ⓕ *Almohadilla delantera (×4)*
Ⓖ *Almohadilla lateral (×5)*

Para utilizar la carcasa con la J4, coloque las piezas en su configuración original.

La prueba de fugas preliminar

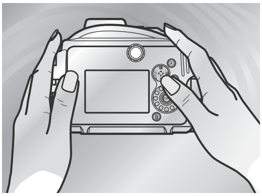
Antes de colocar la cámara en la carcasa, cierre la carcasa y sumérjala en agua para comprobar si existen fugas tal y como se describe a continuación.

¡Importante!

Antes de colocar la cámara en la carcasa, asegúrese de que la cámara funciona con normalidad y de que la carcasa no tiene fugas. No comprobar la existencia de fugas antes del uso puede causar daños irreparables en la cámara. Tenga en cuenta que podrían aparecer fugas si la carcasa está agrietada o dañada. Compruebe la carcasa en busca de grietas y otros daños antes del uso, y póngase en contacto con un representante del servicio técnico autorizado de Nikon en caso de encontrar grietas o daños.

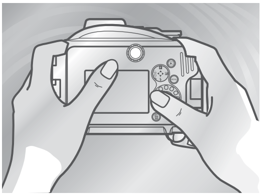
1 Cierre y sumerja la carcasa.

Cierre la carcasa y, a continuación, sumérjala lentamente en agua, detenga la inmersión si sale aire del interior de la carcasa. Mantenga la carcasa sumergida durante 2 o 3 segundos y compruebe la aparición de burbujas. Pruebe la carcasa en un área poco profunda de aproximadamente 1 m (3 pies) de profundidad o en una bañera o cubo. No utilice agua caliente, pues podría superar el rango de temperatura de funcionamiento 0–40°C (32–104 °F).



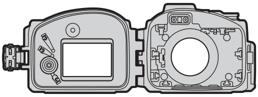
2 Compruebe los controles.

Sumerja la carcasa y accione los controles bajo el agua durante 2 a 3 minutos, comprobando si aparecen burbujas.



3 Compruebe si hay agua en el interior de la carcasa.

Saque la carcasa del agua y séquela exhaustivamente con un paño suave y seco, a continuación ábrala y compruebe si hay agua en su interior. Si ha penetrado agua en el interior de la carcasa, compruebe la junta tórica (📖 15, 22–23). Si la causa de la fuga no puede ser determinada, lleve la carcasa a un representante del servicio técnico autorizado de Nikon.



Es

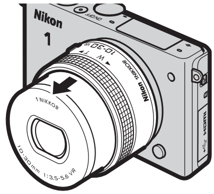
Preparación del objetivo

Utilice un objetivo 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM o 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6. No se pueden utilizar otros objetivos.

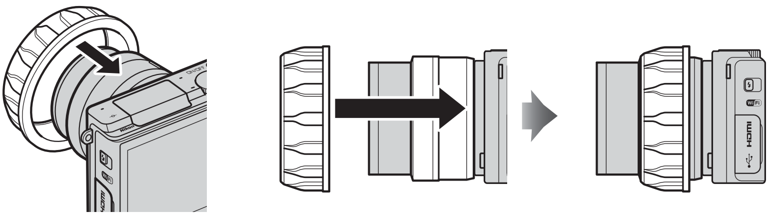
Objetivos 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM

Instale el engranaje del zoom WP-ZG1020 y la pegatina de prevención de reflejos internos WP-IS1000.

1 Coloque y extienda el objetivo.
El objetivo se extiende automáticamente al encender la cámara.

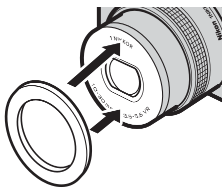


2 Instale el engranaje del zoom.
Deslice el engranaje directamente sobre el objetivo hasta que se detenga.



Después de instalar el engranaje, ajuste la posición de forma que el anillo del zoom gire libremente.

3 Coloque la pegatina de prevención de reflejos internos.
Pegue la pegatina en la parte delantera del objetivo, tal y como se indica (si la pegatina no se adhiere, limpie la superficie adhesiva con un paño húmedo o una toallita). Si no instala la pegatina, las letras de la parte delantera del objetivo podrían aparecer en las fotografías al reflejarse desde el interior de la ventana del objetivo de la carcasa subacuática. La pegatina es reusable; cuando no la utilice, vuelva a colocarla en su cubierta original.

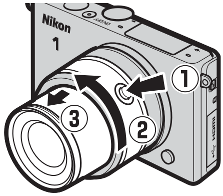


4 Apague la cámara.
El objetivo se retrae automáticamente.

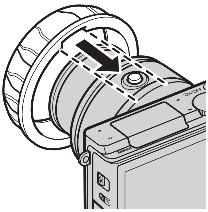
Objetivos 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6

Instale el engranaje del zoom WP-ZG1010 y el anillo de prevención de reflejos internos WP-IR1010.

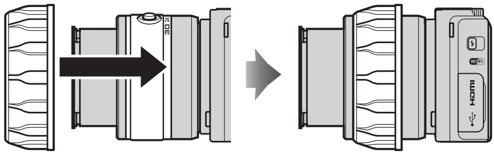
1 Coloque y extienda el objetivo.
Manteniendo pulsado el botón circular de objetivo retráctil (①), gire el anillo del zoom para extender el objetivo (②). Tenga en cuenta que la cámara se encenderá automáticamente al extender el objetivo; apague la cámara antes de proceder al paso 2.



2 Instale el engranaje del zoom.



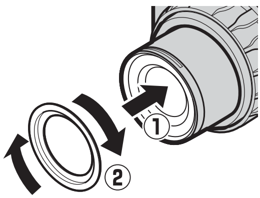
Alinee la ranura del interior del engranaje con el botón circular de objetivo retráctil.



Deslice el engranaje directamente sobre el objetivo hasta que se detenga.

Después de instalar el engranaje, ajuste la posición de forma que el anillo del zoom gire libremente.

3 Coloque el anillo de prevención de reflejos internos.
Instale el anillo en la parte delantera del objetivo tal y como se muestra. Si no instala el anillo, las letras de la parte delantera del objetivo podrían aparecer en las fotografías al reflejarse desde el interior de la ventana del objetivo de la carcasa subacuática.



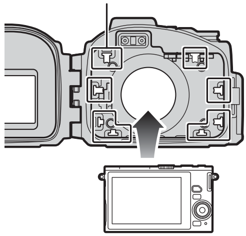
Es

Colocar la cámara en la carcasa

Prepare la cámara para la fotografía submarina.

1 Introduzca la batería y la tarjeta de memoria.
Introduzca una tarjeta de memoria y una batería completamente cargada.

2 Introduzca la cámara.
Centre la cámara en las guías de la cámara con el objetivo colocado en la ventana del objetivo.

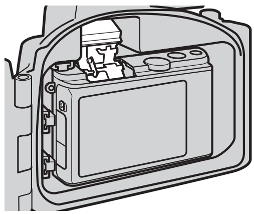


La correa de la cámara

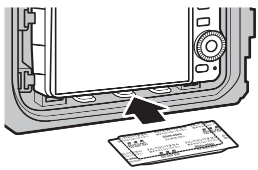
Para asegurarse de que la correa de la cámara no quede atrapada en el sello y provoque una fuga, asegúrese de retirar la correa antes de colocar la cámara en la carcasa.

Flashes subacuáticos

Si va a utilizar un flash subacuático SB-N10 opcional, eleve el flash incorporado de la cámara antes de colocar la cámara en la carcasa, ya que una vez en la carcasa el flash podría no elevarse solo.



3 Introduzca el desecante.
Para evitar la aparición de condensación en el interior de la carcasa, introduzca el desecante de gel de sílice suministrado entre la parte inferior de la cámara y la carcasa. Deslice el desecante hacia delante, donde no interferirá con el cierre de la carcasa. La colocación incorrecta podría provocar la aparición de fugas en la carcasa.



Sustitución del desecante

El desecante usado pierde su capacidad de absorber la humedad. Se recomienda sustituir el desecante cada vez que se utilice la carcasa (□ 25).

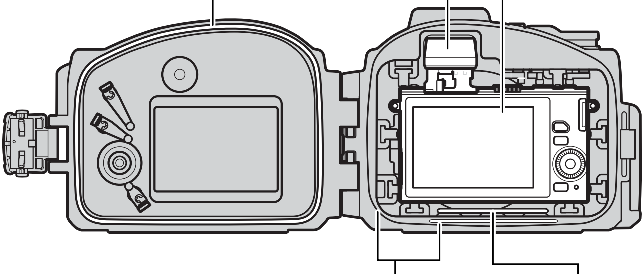
Es

4 Realice una comprobación final.

Compruebe la junta tórica:
- *¿Está agrietada o dañada? Sustitúyala.*
- *¿Está retorcida o descolocada? Vuelva a colocarla.*
- *Retire cualquier resto de cabellos, polvo, arena y demás materias extrañas.*

Compruebe el flash incorporado: *Si está utilizando un flash subacuático, compruebe que el flash incorporado esté elevado; de lo contrario, asegúrese de que el flash esté cerrado.*

Compruebe la cámara:
- *Asegúrese de que la cámara se encuentre en la orientacióncorrecta(📖14).*
- *Retire la correa de la cámara.*



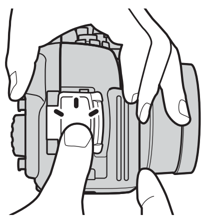
Compruebe el cierre hermético de la junta tórica y el canal de estanqueidad: *Retire cualquier resto de líquido, cabellos, polvo, arena y demás materias extrañas.*

Compruebe el desecante: *Compruebe que el desecante esté colocado correctamente (📖 14).*

Compruebe el objetivo:
- *¿El anillo del zoom gira suavemente y ajusta el zoom? Si no es así, vuelva a colocar el engranaje del zoom.*
- *Confirme que la pegatina de prevención de reflejos internos o la junta están en su lugar (📖 12, 13).*

5 Cierre la carcasa.

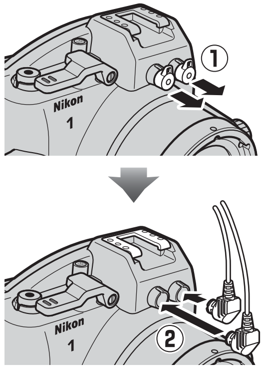
Cierre y bloquee la carcasa.



Es

Flashes subacuáticos

La carcasa subacuática está equipada con 2 tomas de cable de fibra óptica, permitiendo conectar los flashes subacuáticos opcionales SB-N10 mediante cables de fibra óptica SC-N10A subacuáticos y su control por el flash incorporado de la cámara. Al utilizar un flash subacuático, retire cualquiera de las tapas de la toma del cable de fibra óptica (①; tenga en cuenta que a pesar de que no existe riesgo de fugas cuando las tapas están extraídas, las tapas de las tomas no utilizadas deben dejarse en su lugar) y conecte el cable de fibra óptica subacuático (②). Antes de utilizar el flash bajo el agua, realice un disparo de prueba y confirme que el flash está funcionando normalmente. Para obtener más información, consulte el manual de la cámara y la documentación suministrada con el flash.



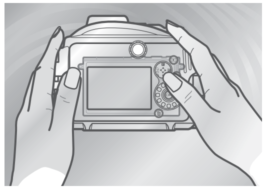
Es

La prueba de fugas final

Después de introducir la cámara y cerrar la carcasa, realice una comprobación final en busca de fugas.

✔ ¡Importante!

Antes del uso, asegúrese de que la cámara funciona con normalidad y que la carcasa no tiene fugas. No comprobar la existencia de fugas antes del uso puede causar daños irreparables en la cámara.



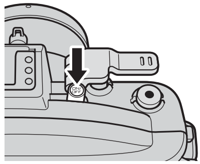
Sumerja la carcasa en agua y compruebe que no existan fugas tal y como se ha descrito en "La prueba de fugas preliminar" (📖 11). Después de completar la prueba, abra la carcasa y compruebe que el desecante esté seco y que no haya agua en el interior. Si detecta una fuga, seque inmediatamente la cámara y la carcasa concienzudamente y compruebe que la junta tórica está intacta y la carcasa debidamente sellada. Si la causa de la fuga no puede ser determinada, lleve la carcasa a un representante del servicio técnico autorizado de Nikon.

Es

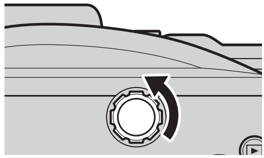
Toma de fotografías

Siga los pasos indicados a continuación para realizar fotografías bajo el agua.

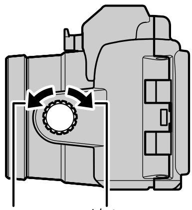
1 Encienda la cámara.
Pulse el interruptor principal de la carcasa subacuática para encender la cámara. El indicador de alimentación se iluminará en verde y la pantalla se encenderá (para apagar la cámara, pulse de nuevo el interruptor principal y confirme que la pantalla está apagada).



2 Seleccione un modo.
Gire el dial de modo para seleccionar un modo (J4) o pulse el botón MENU y seleccione un modo desde los menús (S2). Para más información sobre la selección de modos, consulte el manual de la cámara.

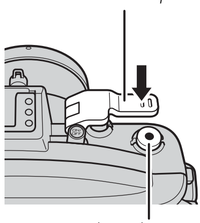


3 Encuadre la toma.
Gire el dial de zoom para acercar o alejar.



4 Tome la fotografía.
Fotografías: Presione ligeramente la palanca del disparador para presionar el disparador de la cámara hasta la mitad y enfoque, a continuación, pulse la palanca del disparador hasta el fondo para abrir el obturador y tomar una fotografía.

Vídeos: Pulse el botón de grabación de vídeo para comenzar o detener la grabación.



Es

Fotografía submarina

El mejor momento para la fotografía submarina es cuando el sol incide directamente por encima (tenga en cuenta que las imágenes realizadas bajo el agua podría tener un matiz azul). Las fuentes de luz intensas podrían causar la aparición de reflejos en las imágenes; compruebe la pantalla antes de disparar y cambie el ángulo si es necesario. Durante los disparos, mantenga sus dedos y otros objetos lejos de la ventana del objetivo y evite espirar burbujas dentro del encuadre. Coloque la tapa frontal en la ventana del objetivo cuando la cámara no esté en uso.

La luz de ayuda de AF

La luz de ayuda de AF no se puede utilizar cuando la cámara se encuentra en el interior de la carcasa subacuática.

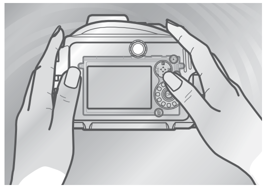
Apagado automático

Si no realiza ninguna operación durante un tiempo establecido, la pantalla se apagará y el indicador de alimentación comenzará a parpadear. Si no realiza ninguna operación durante un tiempo establecido una vez apagada la pantalla, la cámara se apagará automáticamente. Consulte el manual de la cámara para obtener más información.

Después del uso

Limpie la carcasa y extraiga la cámara.

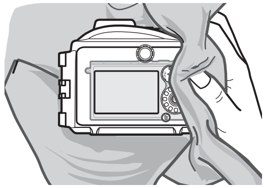
1 Lave la carcasa.
Limpie la carcasa tan pronto como sea posible después de su uso. Sin necesidad de abrir la carcasa ni de extraer la cámara, lave la carcasa en un recipiente con agua dulce.



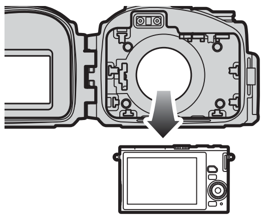
2 Seque con un paño.
Seque el exterior de la carcasa cuidadosamente con un paño suave y seco.

Secar la carcasa

Asegúrese de retirar el exceso de agua que se haya acumulado en el cierre, los controles o en el ojal de la correa.



3 Extraiga la cámara.
Extraiga la cámara y limpie el interior de la carcasa con un paño suave y seco. No lave el interior de la carcasa con agua.



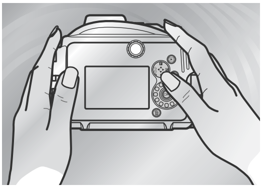
Extracción de la cámara

No accione nunca el cierre ni el botón de liberación del cierre bajo el agua. Antes de abrir la carcasa, asegúrese de que sus manos estén secas y libres de sal o arena; no abra la carcasa en zonas expuestas a la arena o pulverizadores. Al extraer la cámara, tenga cuidado de no dejar caer el dispositivo y asegúrese de que las gotas procedentes de su pelo, cuerpo u otros objetos no caigan en el interior de la carcasa ni en la cámara. Si cae agua sobre la cámara o en el interior de la carcasa subacuática, séquelas inmediatamente con un paño suave. Asegúrese de que sus manos estén secas y libres de sal o arena antes de manipular la cámara o la batería.

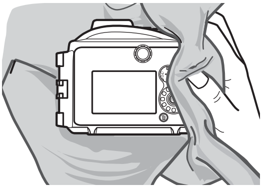
Mantenga la carcasa vertical; no coloque la carcasa abierta con la junta tórica o el cierre hermético de la junta tórica mirando hacia abajo.

Es

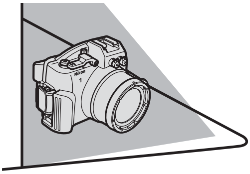
4 Sumerja la carcasa en agua dulce.
Vuelva a sellar la carcasa y déjela en un recipiente con agua dulce durante dos a tres horas. Accione todos los controles unas cuantas veces para retirar la sal. Si la sal se seca en los controles, podrían dejar de funcionar o sus piezas metálicas podrían oxidarse, causando fugas en la carcasa.



5 Seque con un paño.
Seque concienzudamente la carcasa con un paño suave y seco. No utilice un paño con sal adherida.



6 Deje que la carcasa se seque a la sombra.
Deje la carcasa secar a la sombra en una zona bien ventilada.



Es

✔ No la exponga a la luz del sol ni al calor
No utilice un secador de pelo ni ninguna otra fuente de calor ni deje la carcasa expuesta a la luz directa del sol. El calor podría causar que la carcasa o la junta tórica se deterioren, causando fugas.

✔ Limpieza del interior de la carcasa
Utilice una perilla, cepillo o un paño suave y húmedo para eliminar cualquier objeto extraño del interior de la carcasa. El líquido se puede limpiar con un paño suave y húmedo. Al utilizar un paño, tenga cuidado de no rayar la carcasa; no utilice demasiada fuerza. No utilice agua, detergentes ni productos químicos de ningún tipo. El agua podría dañar el revestimiento del interior de la ventana del objetivo.

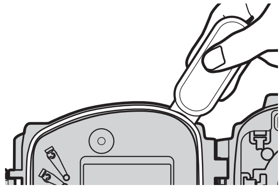
Mantenimiento

En esta sección se describen los procedimientos de mantenimiento de la junta tórica y de la carcasa subacuática.

Cuidados de la junta tórica

La WP-N3 utiliza una junta tórica para formar un sello hermético. La manipulación incorrecta de la junta tórica podría provocar fugas. Compruebe el estado de la junta tórica según lo descrito a continuación antes de cada uso, y compruebe la existencia de objetos extraños en la junta tórica cada vez que abra la carcasa, sin importar durante cuánto tiempo.

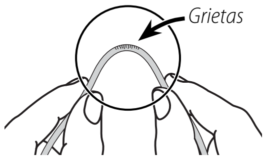
1 Extraiga la junta tórica.
Utilice el extractor de juntas tóricas para extraer la junta tórica tal y como se muestra.



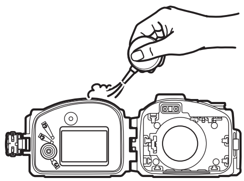
No utilice objetos puntiagudos ni la fuerza
Podrían aparecer fugas en la carcasa si estira forzosamente la junta tórica o si se daña al usar objetos afilados o puntiagudos, incluyendo las uñas y herramientas metálicas.

Es

2 Inspeccione la junta tórica.
Extraiga la antigua grasa de silicona y el resto de objetos extraños con un paño suave, teniendo cuidado de no dejar papel ni fibras en la junta tórica. Doble suavemente la junta tórica para comprobar si existen grietas u otros daños.

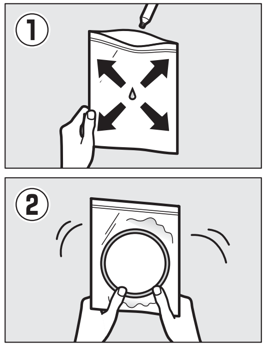


3 Inspeccione la guía de la junta tórica.
Utilice una perilla o un hisopo de algodón para eliminar cualquier objeto extraño del canal de estanqueidad y de todas las partes de la carcasa que entren en contacto con la junta tórica. Asegúrese de extraer las fibras que deje tras de sí el hisopo.



4 Engrase la junta tórica.

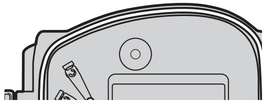
Si no engrasa correctamente la junta tórica, podría romperse o desprenderse, causando fugas. Engrase la junta si su superficie presenta sequedad. Primeramente, vierta aproximadamente un centímetro (media pulgada) de grasa de silicona en una bolsa de plástico y utilice los dedos para repartir la grasa por la bolsa (①). A continuación, introduzca la junta tórica y masajee la bolsa para recubrir la junta (②).

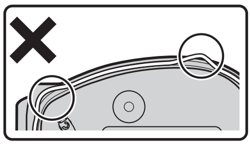


Utilice únicamente grasa designada para su uso con la WP-N3. No aplique grasa utilizando un paño o papel, ya que podrían dejar fibras en la junta tórica. Tenga en cuenta que aplicar demasiada grasa podría causar que objetos extraños se adhieran más fácilmente a la junta, evitando que la carcasa selle correctamente.

5 Vuelva a instalar la junta tórica.

Después de asegurarse de que la junta tórica y la guía están libres de objetos extraños, coloque la junta tórica de modo que se desplace equitativamente al mismo nivel por toda la guía de la junta tórica, sin estirarla o retorcerla demasiado y sin que se salga de la guía.





Es

☑ Juntas tóricas

La junta tórica debe ser reemplazada periódicamente. Sustituya inmediatamente la junta tórica si está dañada, rajada, retorcida o ha perdido su elasticidad. Las juntas tóricas deben ser sustituidas al menos una vez al año. Utilice únicamente grasa de silicona designada para su uso con este producto; las juntas tóricas y la grasa de silicona de repuesto pueden adquirirse en un distribuidor de cámaras Nikon o solicitarse a un agente del servicio técnico autorizado de Nikon. No utilice lubricante (grasa) para las juntas tóricas de la COOLPIX o la NIKONOS.

☑ Limpieza

No utilice detergentes ni productos químicos volátiles, como por ejemplo alcohol o disolvente para limpiar la carcasa o la junta tórica. Hacer caso omiso de esta precaución puede dañar la carcasa o la junta tórica.

Almacenamiento

Guarde la carcasa en un lugar fresco y bien ventilado, dejando la carcasa abierta para evitar el deterioro de la junta tórica. Si no va a utilizar la carcasa durante un período prolongado de tiempo, retire la junta tórica, elimine toda la antigua grasa de silicona, aplique grasa de silicona nueva y coloque la junta tórica en una bolsa de plástico limpia para asegurarse de que mantiene su elasticidad. No guarde la carcasa expuesta a la luz solar directa ni en un lugar donde pueda estar expuesta a cambios bruscos de temperatura o a altos niveles de humedad. No guarde la carcasa ni la junta tórica bajo otros objetos, cerca de llamas, cerca de objetos inflamables ni con naftalina o bolas antipolillas de alcanfor.

Servicio

Nikon recomienda que la carcasa sea inspeccionada por un representante del servicio técnico autorizado de Nikon al menos una vez al año. Este servicio está sujeto a cargos.

Especificaciones

Profundidad máxima	45 m (147 pies)
Temperatura de funcionamiento de la cámara	0 °C–40 °C (+32 °F–104 °F)
Dimensiones (An. × Al. × Pr.)	Aprox. 156,4 × 115,8 × 113,0 mm (6,2 × 4,6 × 4,4 pulg.), excluyendo las proyecciones
Peso	Aproximadamente 735 g (1 lb 9,9 oz), solamente el cuerpo

*La realización de mejoras en este producto puede provocar cambios no comunicados en las especificaciones y en el aspecto exterior. Nikon no se hará responsable de los daños derivados por los errores que pueda contener este manual. A menos que se indique lo contrario, todas las mediciones se realizan a la temperatura especificada por **C**amera and **I**maging **P**roducts **A**ssociation (CIPA): 23 ±3 °C (73,4 ±5,4 °F).*

Accesorios adquiribles por separado

Nikon ofrece las siguientes opciones y artículos de repuesto:

- Engranaje del zoom WP-ZG1020 para objetivos 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Engranaje del zoom WP-ZG1010 para objetivos 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6
- Pegatina de prevención de reflejos internos WP-IS1000 para objetivos 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Anillo de prevención de reflejos internos WP-IR1010 para objetivos 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6
- Junta tórica WP-O1100
- Extractor de juntas tóricas WP-OR1000
- Tapa frontal WP-LC1000
- Correa WP-AN1000
- Correa de la tapa frontal WP-AN2000
- Grasa de silicona WP-G1000
- Desecante de gel de sílice WP-S1000
- Flash subacuático SB-N10
- Cable de fibra óptica subacuático SC-N10A
- Empuñadura subacuática SK-N10A

Custodia subacquea WP-N3

Manuale d'uso

Il posizionamento di una fotocamera Nikon 1 J4 o S2 in una custodia subacquea WP-N3 protegge la fotocamera da pioggia e neve e consente di utilizzare la fotocamera per la fotografia subacquea a profondità fino a 45 m. Conservare il manuale in un luogo in cui chiunque faccia uso del prodotto possa consultarlo e leggere attentamente sia questo manuale sia quello della fotocamera prima dell'uso.

Simboli e convenzioni

Per facilitare la ricerca delle informazioni necessarie, sono stati adottati i seguenti simboli e convenzioni:

✔	Questa icona indica avvertenze, informazioni che devono essere lette prima dell'uso per evitare danni alla fotocamera o alla custodia subacquea.
📎	Questa icona indica le note, informazioni che devono essere lette prima di utilizzare il prodotto.
📖	Questa icona indica riferimenti ad altre pagine del presente manuale.

✔ Importante: leggere prima dell'uso

Prima di utilizzare la custodia subacquea in acqua o in prossimità di acqua, verificare la presenza di perdite come descritto alle pagine 11 e 17 del presente manuale.

It

⚠ Informazioni di sicurezza

Prima di usare questo prodotto per la prima volta, leggere le istruzioni sulla sicurezza nella sezione "Informazioni di sicurezza" (📖 iii–vii).

📎 Apprendimento costante

Come parte integrante dell'impegno di Nikon per un "apprendimento costante" nell'ambito dell'assistenza ai prodotti, sono disponibili informazioni in continuo aggiornamento sui seguenti siti Web:

- **Per utenti negli Stati Uniti**: *http://www.nikonusa.com/*
- **Per utenti in Europa e Africa**: *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **Per utenti in Asia, Oceania e Medio Oriente**: *http://www.nikon-asia.com/*

Visitare questi siti per tenersi aggiornati sulle informazioni più recenti riguardanti il prodotto, suggerimenti, risposte alle domande frequenti (FAQ) e consigli generali sulle tecniche fotografiche e di elaborazione digitale. Per ulteriori informazioni, rivolgersi al proprio rivenditore Nikon di fiducia. Per informazioni sui contatti, visitare ***http://imaging.nikon.com/***

Informazioni di sicurezza

Per evitare danni al prodotto Nikon o lesioni a se stessi o ad altri, leggere tutte le seguenti precauzioni di sicurezza prima di utilizzare questa attrezzatura. Conservare le istruzioni di sicurezza dove possano essere consultate da chiunque faccia uso del prodotto.

Le conseguenze che possono derivare da una mancata osservanza delle precauzioni elencate in questa sezione sono indicate dal seguente simbolo:

⚠ Questa icona indica avvertenze. Per evitare eventuali lesioni, leggere tutte le avvertenze prima dell'utilizzo di questo prodotto Nikon.

❚❚ AVVERTENZE

⚠ ***Non smontare***. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe causare lesioni o malfunzionamenti del prodotto. Qualora il prodotto dovesse rompersi in seguito a caduta o altri incidenti, portarlo presso un centro assistenza autorizzato Nikon per un controllo, facendo attenzione a non ferirsi con le parti rotte.

⚠ ***Spegnere immediatamente la fotocamera in caso di malfunzionamento***. Se si nota la fuoriuscita di fumo o un odore insolito proveniente dall'attrezzatura, rimuovere immediatamente la batteria dalla fotocamera, facendo attenzione a evitare ustioni. Continuare a utilizzare la fotocamera potrebbe provocare lesioni. Dopo aver rimosso la batteria dalla fotocamera, portare l'attrezzatura presso un centro assistenza autorizzato Nikon per un controllo.

⚠ ***Non usare in presenza di gas infiammabili***. Non utilizzare apparecchi elettronici in presenza di gas infiammabili, perché ciò potrebbe provocare esplosioni o incendi.

⚠ ***Non esporre a temperature elevate***. Non lasciare il prodotto in luoghi dove potrebbe essere esposto a temperature estremamente elevate, per esempio in un'automobile chiusa o alla luce diretta del sole. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe provocare danni o incendi.

⚠ ***Osservare le dovute precauzioni quando si usa il flash***.

- L'utilizzo del flash vicino agli occhi del soggetto può provocare danni temporanei alla vista. Prestare particolare attenzione quando si fotografano neonati, nel qual caso il flash non deve essere utilizzato a una distanza inferiore a un metro dal soggetto.
- Non puntare il flash verso l'operatore di un veicolo a motore. La mancata osservanza di questa precauzione può provocare incidenti.

⚠ ***Tenere fuori dalla portata dei bambini***. La mancata osservanza di questa precauzione può causare lesioni. Inoltre, si noti che parti piccole costituiscono un rischio di soffocamento. Se un bambino ingerisce una qualunque parte dell'apparecchio, consultare immediatamente un medico.

⚠ ***Non avvolgere la cinghia da polso attorno al collo di neonati o bambini***. Avvolgere la cinghia da polso attorno al collo di neonati o bambini può causare soffocamento.

⚠ ***Non tuffarsi mentre si regge la custodia***. Per evitare lesioni causate dalla custodia che colpisce il corpo, non saltare né tuffarsi in acqua mentre si regge la custodia subacquea.

⚠ ***Osservare le necessarie precauzioni nel maneggiare le batterie della fotocamera***. Le batterie possono perdere liquidi o esplodere se maneggiate in modo inopportuno. Osservare le seguenti precauzioni quando si maneggiano le batterie della fotocamera:

- Utilizzare esclusivamente batterie approvate per l'uso con la fotocamera.
- Le batterie possono essere soggette a perdite quando sono completamente scariche. Rimuovere la fotocamera dalla custodia quando non è in uso.
- In caso di penetrazione di acqua nella custodia, rimuovere immediatamente la batteria dalla fotocamera.
- Mantenere i terminali della batteria asciutti. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe causare lesioni o malfunzionamenti del prodotto.

⚠ ***Non lasciare in luoghi esposti alla luce diretta del sole***. La custodia potrebbe mettere a fuoco la luce solare, causando un incendio.

⚠ ***Non utilizzare a profondità superiori a 45 m***. La mancata osservanza di questa precauzione può provocare perdite o altri malfunzionamenti.

⚠ ***Mantenere impermeabile la custodia***. Non pulire la custodia con un getto ad alta pressione. Non aprire la custodia dove sarebbe esposta a polvere o sabbia, e assicurarsi di rimuovere qualsiasi oggetto estraneo dall'O-ring e dalle altre parti della custodia che sono a contatto con l'O-ring prima di chiudere la custodia. La mancata osservanza di queste precauzioni può provocare perdite.

⚠ ***Non esporre a temperature elevate***. Non esporre il prodotto a temperature superiori a 40 °C. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe causare la deformazione del prodotto, provocando perdite.

⚠ ***Non coprire il prodotto durante l'uso***. L'accumulo di calore potrebbe deformare la custodia o provocare un incendio.

⚠ ***Non conservare la fotocamera nella custodia***. I gas rilasciati dalla batteria della fotocamera possono accumularsi nella custodia, provocando incendi o esplosioni.

⚠ ***Non ingerire il grasso siliconico o il silicagel***. Questi prodotti non sono commestibili.

Precauzioni

Per garantire un utilizzo prolungato del prodotto Nikon, osservare le seguenti precauzioni per la conservazione o l'uso del dispositivo.

Impermeabilizzazione

Osservare le seguenti precauzioni quando si utilizza la custodia in acqua o vicino all'acqua:

- Prima dell'uso, testare la custodia per eventuali perdite, come descritto alle pagine 11 e 17 del presente manuale.
- La custodia resiste soltanto all'acqua dolce (come quella di piscine, fiumi o laghi) e all'acqua marina. Non portare in sorgenti o bagni termali caldi.
- Non esporre il prodotto a profondità superiori a 45 metri o a rapide, cascate, acqua che scorre a piena forza da un rubinetto o altri tipi di acqua ad alta pressione. La mancata osservanza di queste precauzioni potrebbe esporre la custodia a pressioni sufficientemente alte da causare danni, deformazioni e infiltrazioni di acqua.
- L'esposizione all'acqua danneggerà la fotocamera. Per evitare l'ingresso di acqua, non aprire la custodia con le mani bagnate, quando la custodia è bagnata o si trova in acqua, sull'acqua o vicino all'acqua o in luoghi esposti a spruzzi, vento, sabbia o polvere. Assicurarsi che la fotocamera sia asciutta prima dell'inserimento. In caso di perdite della custodia, interrompere immediatamente l'uso, asciugare la fotocamera e l'interno della custodia e portare la fotocamera e la custodia presso un centro assistenza autorizzato Nikon.
- Prima di sigillare la custodia o quando si installa l'O-ring, assicurarsi che l'O-ring non sia attorcigliato o fuori posizione ed esaminare l'interno della custodia e l'O-ring, la scanalatura di tenuta acqua e qualsiasi parte della custodia che sia a contatto con l'O-ring con attenzione per assicurarsi che siano liberi da liquidi, sporco, capelli, lanugine, polvere, sabbia e altre sostanze estranee. Acqua e altri liquidi su queste superfici devono essere rimossi immediatamente con un panno morbido e asciutto. Altre sostanze estranee devono essere rimosse con una pompetta, prestando attenzione a rimuovere eventuali piccole particelle dai lati e dagli angoli della scanalatura di tenuta acqua. Le sostanze estranee sulla parte esterna della custodia possono essere rimosse con un panno morbido e asciutto. Non usare sapone, detergenti o altri prodotti chimici, e assicurarsi di rimuovere olio abbronzante, solari, sali da bagno, detergenti, sapone, solventi organici, olio, alcol e simili immediatamente.
- Non applicare adesivi sulla custodia né usare sigillanti, sostanze chimiche antiappannanti oppure lubrificanti o silicagel per O-ring che non siano specificatamente progettati per l'uso con la custodia WP-N3 (📖 25).
- Non lasciare il prodotto per lunghi periodi in luoghi esposti a temperature di congelamento o in luoghi particolarmente caldi, come veicoli chiusi, a bordo di imbarcazioni, sulla spiaggia, al sole diretto o nelle vicinanze di apparecchi per il riscaldamento. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe rendere la custodia vulnerabile a infiltrazioni di acqua.
- La resistenza della custodia all'acqua non è garantita se viene colpita, fatta cadere, posizionata sotto oggetti pesanti o altrimenti sottoposta a forti pressioni, urti molto violenti o vibrazioni. Se la custodia dovesse subire una caduta o altri urti fisici, rivolgersi a tecnici autorizzati Nikon in modo che venga testata per assicurarsi che sia ancora impermeabile. Si noti che per questo servizio è previsto un costo.
- I danni dovuti a errore dell'utente non sono coperti dalla garanzia.

Resistenza agli urti

La custodia subacquea non è progettata per proteggere la fotocamera da colpi o vibrazioni. Non far cadere la custodia, non farla urtare contro oggetti duri, né gettarla in acqua, non saltare in acqua reggendo la custodia né lasciare la custodia in un'area soggetta a vibrazioni estreme. La mancata osservanza di queste precauzioni potrebbe provocare danni alla fotocamera.

Ambiente operativo

Osservare le seguenti precauzioni:

- A basse temperature, la fotocamera potrebbe non funzionare come previsto immediatamente dopo essere stata accesa e le prestazioni della batteria potrebbero ridursi. Conservare batterie di scorta in un luogo caldo e scambiarle se necessario.
- In ambienti freddi, rimuovere immediatamente eventuali depositi di neve o pioggia. I controlli potrebbero diventare difficili da azionare se viene loro consentito di congelare.
- Il contatto prolungato con metallo freddo può danneggiare la pelle esposta. Indossare guanti quando si maneggia la custodia per periodi di tempo prolungati a temperature basse.
- Non lasciare la custodia in luoghi dove sarà esposta a temperature elevate, per esempio all'interno di un'automobile, vicino a un dispositivo di riscaldamento o alla luce diretta del sole. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe indebolire o deformare la custodia, con conseguenti danni alla fotocamera. Gli sbalzi di temperatura improvvisi potrebbero provocare la formazione di condensa all'interno della custodia, provocando anche danni alla fotocamera. Per prevenire la formazione di condensa:
  - Quando ci si sposta da un luogo a un altro che è chiaramente più caldo o più freddo, lasciare la fotocamera nella custodia finché non ha raggiunto la stessa temperatura dell'ambiente circostante.
  - Posizionare l'essiccante in dotazione (silicagel) nella custodia con la fotocamera, come indicato a pagina 14 del presente manuale.
  - Non esporre la custodia a temperature elevate lasciandola sulla spiaggia o in luoghi esposti alla luce diretta del sole prima di entrare in acqua.

❚❚ O-Ring

Osservare le seguenti precauzioni quando si maneggiano gli O-ring:

- L'O-ring richiede una sostituzione periodica. Sostituire l'O-ring immediatamente se è danneggiato, incrinato, deformato o se ha perso elasticità. Gli O-ring devono essere sostituiti almeno una volta all'anno; non usare un O-ring usurato o un tipo di O-ring non progettato per l'uso in questo prodotto.
- Per prevenire danni all'O-ring, usare lo strumento di rimozione O-ring quando si rimuove l'anello dalla custodia. Non utilizzare oggetti metallici o oggetti appuntiti quando si rimuove l'O-ring.
- Non applicare forza quando si rimuove o si posiziona l'O-ring. L'applicazione di una forza eccessiva potrebbe allungare permanentemente l'anello, causando perdite della custodia.
- Per evitare l'usura, utilizzare soltanto il grasso siliconico progettato per l'uso con questo prodotto (📖 25). *Non utilizzare il lubrificante per O-ring (grasso) di COOLPIX o NIKONOS o altri tipi di grasso siliconico*.

❚❚ Variazioni dell'altitudine

La modifica della pressione dell'aria a causa di variazioni dell'altitudine potrebbe danneggiare la custodia o impedirne l'apertura. Osservare le seguenti precauzioni:

- Se possibile, inserire la custodia nel bagaglio a mano quando si viaggia in aereo. Quando si pone la custodia nel bagaglio da stiva, lasciare aperta la custodia o rimuovere l'O-ring.
- Quando si passa da altitudini elevate ad altitudini basse, aprire la custodia periodicamente per uniformare la pressione.

✔ Importante!

Il custodia subacquea WP-N3 è progettato solo per l'uso con fotocamere compatibili. Non porre altre fotocamere nel WP-N3.

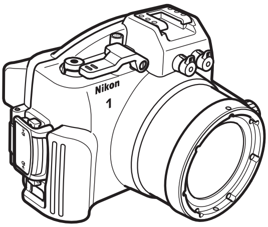
Sommario

Introduzione

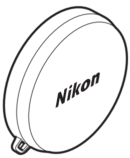
Fare riferimento a questa sezione per i nomi degli accessori in dotazione e delle parti della custodia subacquea.

Contenuto della confezione

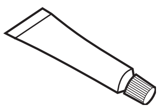
Confermare che la confezione contenga gli articoli elencati di seguito. Contattare il rivenditore se manca qualcosa.



☐ *WP-N3 (con O-ring WP-O1100 in posizione; prima dell'uso, controllare che l'O-ring sia intatto come descritto a pagina 22)*



☐ *Tappo anteriore WP-LC1000*



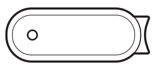
☐ *Grasso siliconico WP-G1000*



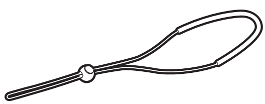
☐ *Ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1020 (per obiettivi 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*



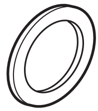
☐ *Ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1010 (per obiettivi 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6)*



☐ *Strumento di rimozione O-ring WP-OR1000*



☐ *Cinghia da polso WP-AN1000*



☐ *Adesivo anti riflesso interno WP-IS1000 (per obiettivi 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM)*



☐ *Anello anti riflesso interno WP-IR1010 (per obiettivi 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6)*



☐ *Essiccante silicagel WP-S1000 (1 pacchetto da 5; sigillare nuovamente dopo l'apertura)*

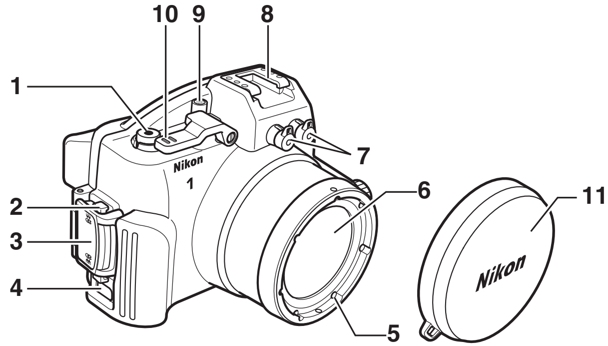
☐ *Cinghia per tappo anteriore WP-AN2000*

☐ Manuale d'uso *(questo manuale)*

☐ *Garanzia*

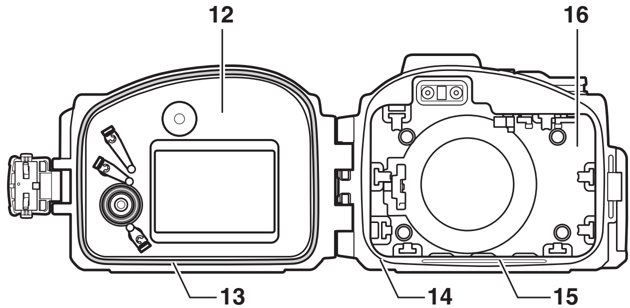
It

Parti della custodia WP-N3



1	Pulsante di registrazione filmato 18	7	Copri presa di innesto per cavo in fibra ottica* 16
2	Pulsante sblocca-fermaglio 4	8	Slitta accessori
3	Fermaglio 4	9	Interruttore di alimentazione 18
4	Occhiello per cinghia 3	10	Leva di scatto 18
5	⌀Filettatura fissaggio filtro 67 mm	11	Tappo anteriore 3, 25
6	Oblò per l'obiettivo 14		

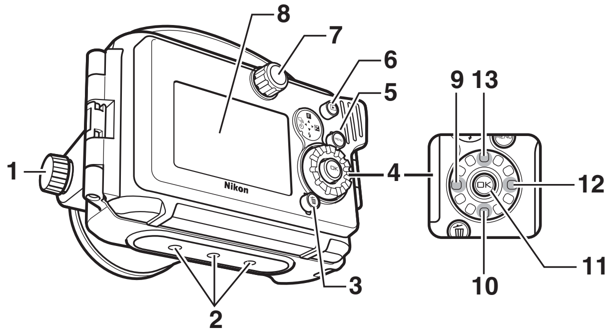
* Rimuovere quando si utilizzano unità opzionali di Speedlight subacqueo SB-N10.



12	Coperchio posteriore 4	15	Scanalatura di tenuta acqua 15, 22
13	O-ring/guida per l'O-ring 15, 22, 25	16	Calotta anteriore 4
14	Tenuta O-ring 15, 22		

La slitta accessori

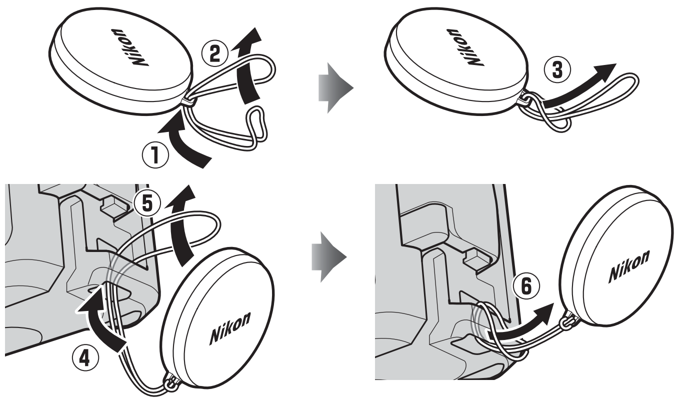
La slitta accessori è utilizzata per le unità flash subacquee eper altri accessori; vedere la documentazione fornita con gli accessori per informazioni sul collegamento e la rimozione. Rimuovere gli accessori dalla slitta accessori quando si trasporta la custodia subacquea a terra.



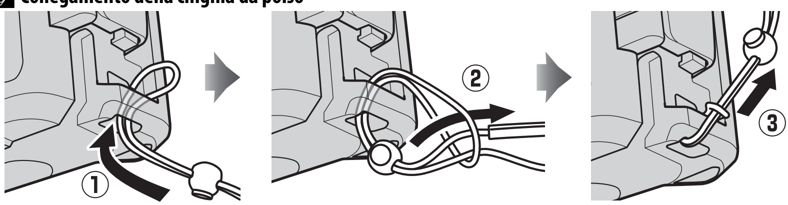
1 Ghiera zoom 15, 18	**8** Finestrella per monitor
2 Attacchi per treppiedi	**9** Pulsante ⧉ (ripresa in sequenza/autoscatto)
3 Pulsante 🗑 (cancella)	**10** Pulsante ϟ (modo flash)
4 Multi-selettore	**11** Pulsante OK (OK)
5 Pulsante MENU	**12** Pulsante ☒ (compensazione dell'esposizione)
6 Pulsante ▶ (riproduzione)	**13** Pulsante F (funzionalità)
7 Ghiera di selezione modo* 18	

* Solo per l’uso con J4

Collegamento della cinghia per tappo anteriore



Collegamento della cinghia da polso



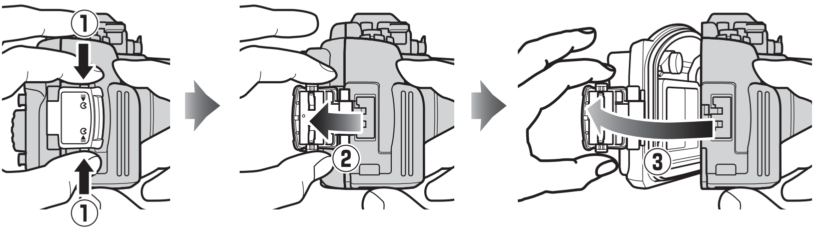
It

Uso del fermaglio

Seguire gli step di seguito per disserrare o serrare la custodia.

Disserrare la custodia

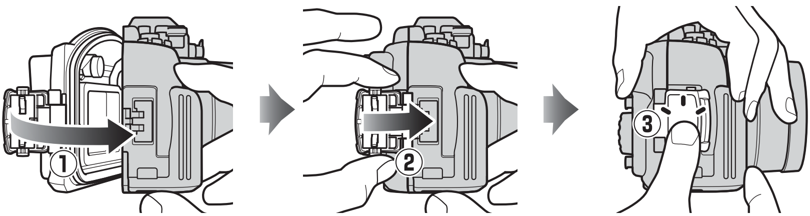
Tenendo premuto il pulsante sblocca-fermaglio (①), aprire il fermaglio (②) e quindi aprire il coperchio posteriore (③).



Serrare la custodia

Chiudere la custodia (①) e voltare il fermaglio sopra la metà anteriore (②), quindi premere il fermaglio per chiuderlo finché non scatta in posizione (③). Controllare che la custodia sia adeguatamente sigillata, che l'O-ring sia in posizione e che non ci siano oggetti estranei incastrati nella guarnizione (📖 23).

It



✔ Aprire la custodia

Prima di aprire la custodia, assicurarsi che sia completamente asciutta e priva di sporco. Dopo avere utilizzato la custodia sott'acqua, lavarla con acqua pulita per eliminare sabbia o altri oggetti estranei e quindi asciugarla accuratamente con un panno morbido e asciutto. Assicurarsi che acqua, sabbia o altri oggetti estranei rimasti sulla custodia non cadano all'interno quando la custodia viene aperta. Non azionare mai il fermaglio o il pulsante sblocca-fermaglio sott'acqua.

Fare attenzione a non far cadere la fotocamera quando la si rimuove dalla custodia.

Configurazione

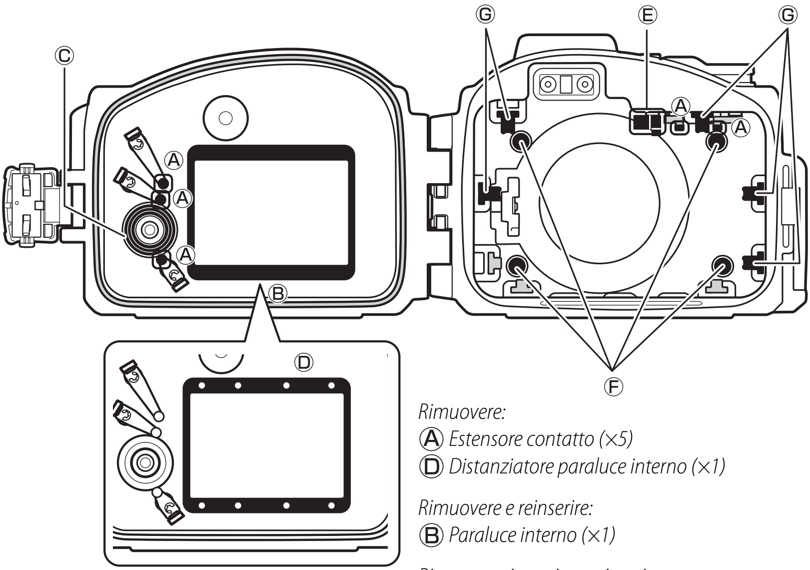
Al momento della spedizione, la custodia è configurata per l'uso con J4. Le parti rimovibili consentono alla custodia di essere configurata per l'uso con S2. Fare attenzione a non fare cadere le parti durante la sostituzione.

Configurazione della custodia per J4

La custodia è configurata per l'uso con J4 al momento della spedizione. Non cambiare la configurazione quando si usa la custodia con J4.

Configurazione della custodia per S2

Per l'uso con S2, configurare la custodia come mostrato di seguito.



Rimuovere:
Ⓐ *Estensore contatto (×5)*
Ⓓ *Distanziatore paraluce interno (×1)*

Rimuovere e reinserire:
Ⓑ *Paraluce interno (×1)*

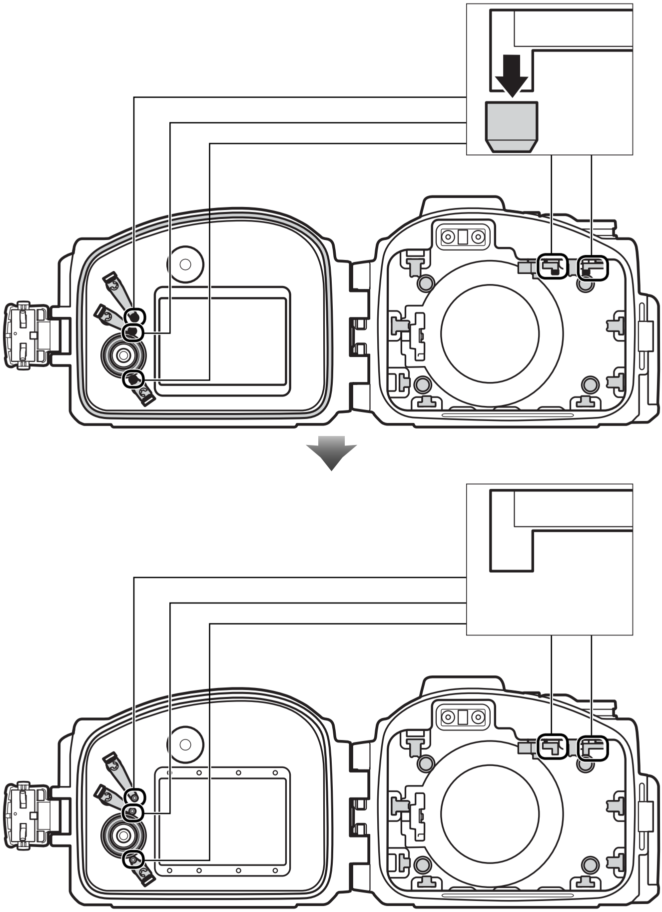
Rimuovere, invertire e reinserire:
Ⓒ *Contatto multi-selettore (×1)*
Ⓔ *Contatto dell'interruttore di alimentazione (×1)*
Ⓕ *Cuscinetto anteriore (×4)*
Ⓖ *Cuscinetto laterale (×5)*

Importante!

Assicurarsi che tutte le parti siano correttamente installate. Il mancato inserimento completo delle parti rimovibili potrebbe provocare perdite o perdite di liquidi e danneggiare la fotocamera. Quando si sostituiscono le parti, scegliere un luogo ben illuminato e fare attenzione a non ferirsi le dita o danneggiare le unghie.

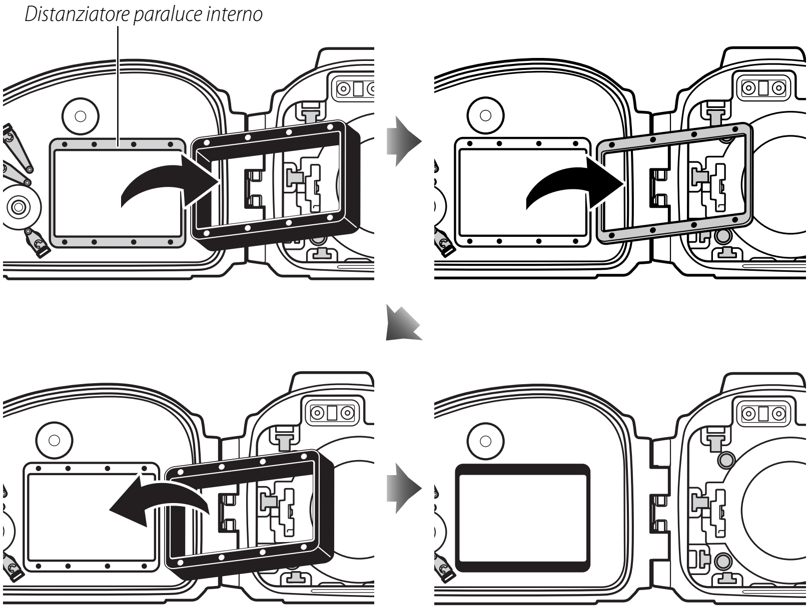
Quando si utilizza la custodia con la S2, rimuovere gli estensori contatto, il paraluce interno e il distanziatore paraluce interno, quindi reinserire il paraluce interno.

Ⓐ **Estensore contatto** (×5)
Rimuovere gli estensori contatto.



Ⓑ **Paraluce interno (×1)**/Ⓓ **Distanziatore paraluce interno (×1)**

Quando si utilizza la custodia con la S2, rimuovere il paraluce interno e il distanziatore paraluce interno, quindi reinserire il paraluce interno.



It

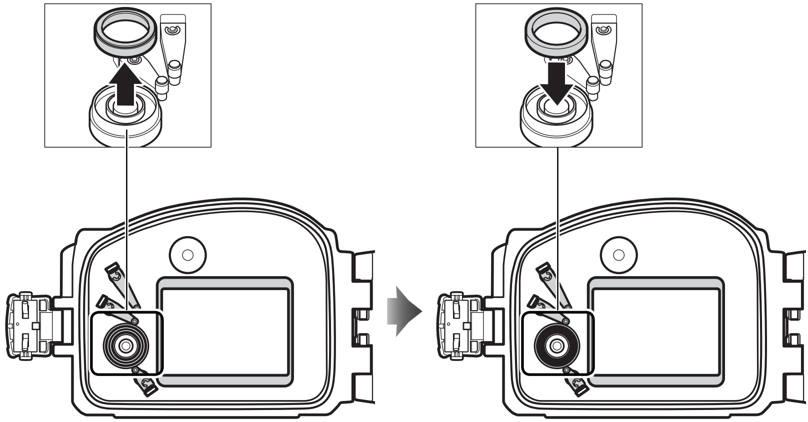
Importante!

Gli estensori contatto e il distanziatore paraluce interno non sono richiesti quando si usa la custodia con la S2. Rimuovere queste parti e conservarle in un luogo sicuro.

Gli utenti della S2 dovranno anche rimuovere, invertire e reinserire il multi-selettore, i contatti dell'interruttore di alimentazione e i cuscinetti laterali e frontali.

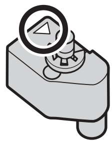
Ⓒ Contatto multi-selettore (×1)

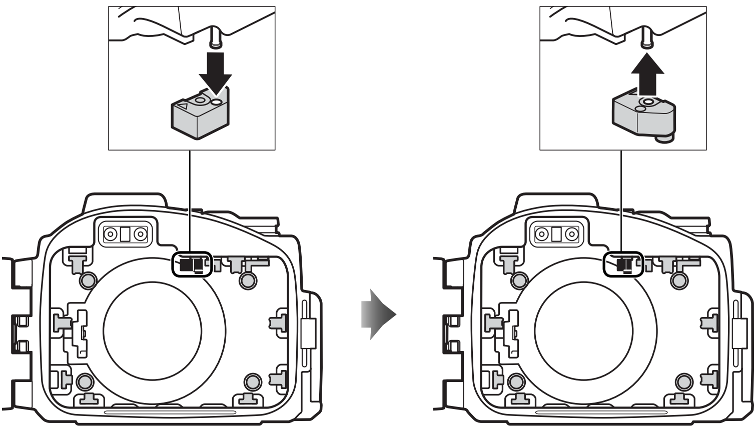
Rimuovere il contatto e reinserirlo nell'orientamento indicato.



Ⓔ Contatto dell'interruttore di alimentazione (×1)

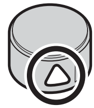
Rimuovere il contatto e reinserirlo nel foro sulla parte superiore del triangolo.

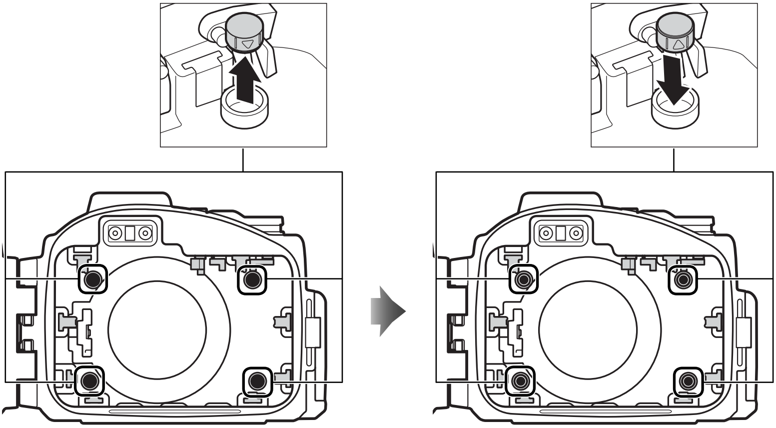




Ⓕ Cuscinetto anteriore (×4)

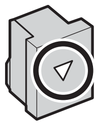
Rimuovere i cuscinetti e reinserirli con la parte superiore del triangolo rivolta verso l’alto.

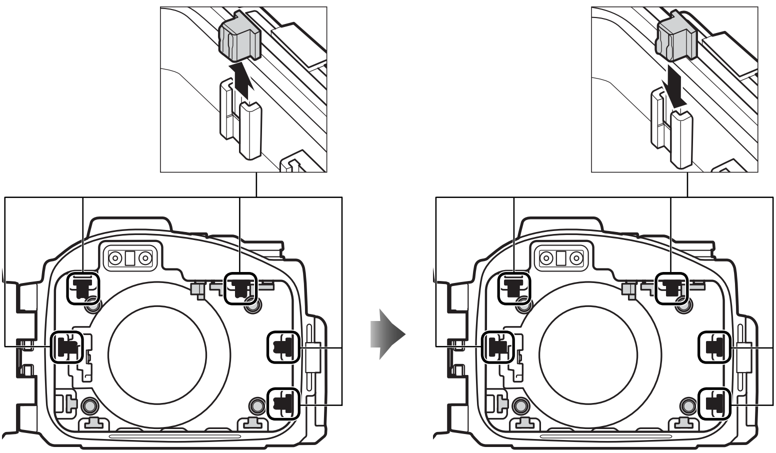




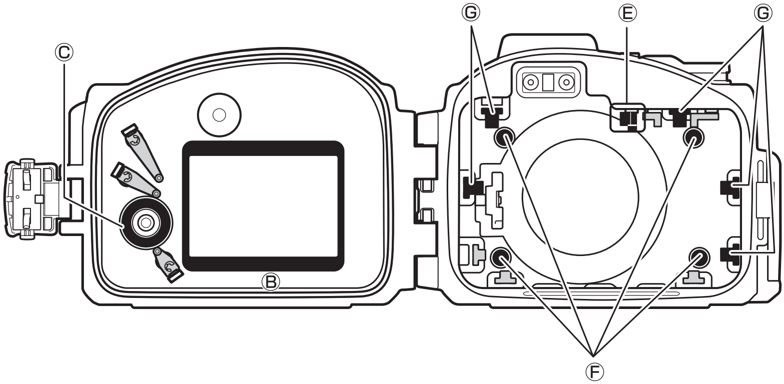
Ⓖ Cuscinetto laterale (×5)

Rimuovere i cuscinetti e reinserirli con la parte superiore del triangolo rivolta verso il basso.





La figura di seguito mostra la custodia quando è stata configurata per l'uso con S2.



Ⓐ *Contatto multi-selettore (×1)*
Ⓑ *Paraluce interno (×1)*
Ⓔ *Contatto dell'interruttore di alimentazione (×1)*
Ⓕ *Cuscinetto anteriore (×4)*
Ⓖ *Cuscinetto laterale (×5)*

It

Per usare la custodia con J4, riportare le parti alla loro configurazione iniziale.

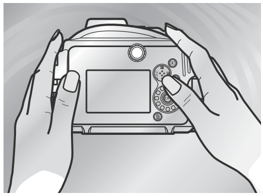
Il test preliminare delle perdite

Prima di posizionare la fotocamera nella custodia, serrare la custodia e immergerla nell'acqua per verificare la presenza di perdite, come descritto di seguito.

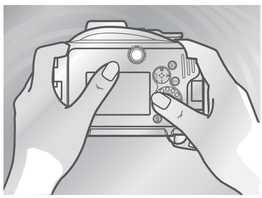
Importante!

Prima di posizionare la fotocamera nella custodia, assicurarsi che la fotocamera funzioni normalmente e che la custodia non abbia perdite. Il mancato controllo delle perdite prima dell'uso può causare danni irreparabili alla fotocamera. Si noti che potrebbero verificarsi delle perdite se la custodia è incrinata o danneggiata. Controllare la custodia per eventuali incrinature e altri danni prima dell'uso, e rivolgersi a un centro assistenza autorizzato Nikon nel caso si trovino incrinature o danni.

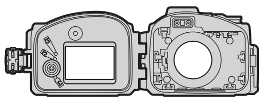
1 **Serrare e immergere la custodia.**
Serrare la custodia, quindi immergerla lentamente nell'acqua, fermandosi se viene emessa aria dall'interno della custodia. Mantenere la custodia immersa per 2 o 3 secondi e controllare se escono delle bolle d'aria. Testare la custodia in una zona poco profonda a una profondità di circa 1 m oppure in una vasca o in un secchio. Non utilizzare acqua bollente, perché questa potrebbe superare la gamma di temperature di esercizio di 0–40 °C.



2 **Testare i controlli.**
Immergere la custodia e azionare i controlli sott'acqua per 2 o 3 minuti, verificando se escono delle bolle d'aria.



3 **Verificare la presenza di acqua all'interno della custodia.**
Rimuovere la custodia dall'acqua e asciugarla completamente con un panno morbido e asciutto, quindi aprire la custodia per verificare la presenza di acqua. Se è entrata acqua nella custodia, controllare l'O-ring (📖 15, 22–23). Se la causa della perdita non può essere determinata, portare la custodia presso un centro assistenza autorizzato Nikon.



It

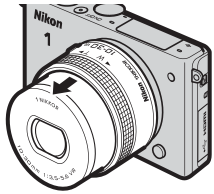
Preparazione dell'obiettivo

Utilizzare un obiettivo 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM o 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6. Altri obiettivi non possono essere utilizzati.

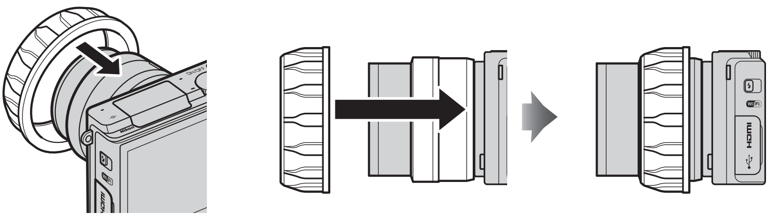
Obiettivi 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM

Collegare la ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1020 e l'adesivo anti riflesso interno WP-IS1000.

1 Collegare ed estendere l'obiettivo.
L'obiettivo si estende automaticamente quando la fotocamera viene accesa.

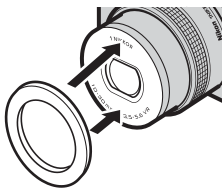


2 Collegare la ghiera dentata per regolazione zoom.
Far scorrere la ghiera dentata direttamente sull'obiettivo finché non si arresta.



Dopo aver fissato la ghiera dentata, regolarne la posizione in modo tale che l'anello zoom ruoti liberamente.

3 Collegare l'adesivo anti riflesso interno.
Fissare l'adesivo sulla parte anteriore dell'obiettivo come mostrato (se l'adesivo non aderisce, pulire la superficie adesiva con una salvietta o un panno umido). Se l'adesivo non è fissato, i caratteri sulla parte anteriore dell'obiettivo potrebbero apparire nelle foto, essendo stati riflessi dall'interno dell'oblò per l'obiettivo della custodia subacquea. Questo adesivo può essere riutilizzato; quando non è in uso, riapplicarlo alla base originale.

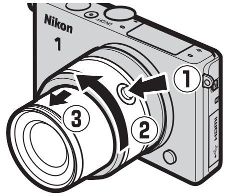


4 Spegnere la fotocamera.
L'obiettivo si ritrae automaticamente.

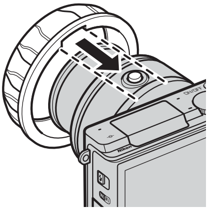
Obiettivi 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6

Collegare la ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1010 e l'anello anti riflesso interno WP-IR1010.

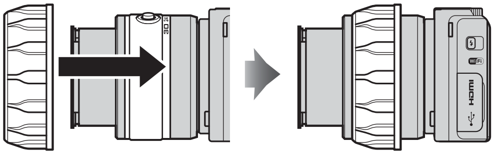
1 Collegare ed estendere l'obiettivo.
Tenendo premuto il pulsante barilotto per obiettivo ritraibile (①), ruotare l'anello zoom per estendere l'obiettivo (②). Si noti che la fotocamera si accende automaticamente quando l'obiettivo viene esteso; spegnere la fotocamera prima di procedere allo step 2.



2 Collegare la ghiera dentata per regolazione zoom.



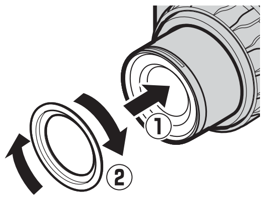
Allineare l'alloggiamento all'interno della ghiera dentata con il pulsante barilotto per obiettivo ritraibile.



Far scorrere la ghiera dentata direttamente sull'obiettivo finché non si arresta.

Dopo aver fissato la ghiera dentata, regolarne la posizione in modo tale che l'anello zoom ruoti liberamente.

3 Collegare l'anello anti riflesso interno.
Fissare l'anello alla parte anteriore dell'obiettivo, come mostrato. Se l'anello non è fissato, i caratteri sulla parte anteriore dell'obiettivo potrebbero apparire nelle foto, essendo stati riflessi dall'interno dell'oblò per l'obiettivo della custodia subacquea.



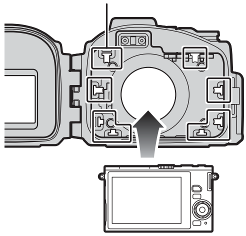
It

Posizionamento della fotocamera nella custodia

Preparare la fotocamera per la fotografia subacquea.

1 Inserire la batteria e la card di memoria.
Inserire una card di memoria e una batteria completamente carica.

2 Inserire la fotocamera.
Centrare la fotocamera nelle guide fotocamera con l'obiettivo posizionato nell'oblò per l'obiettivo.

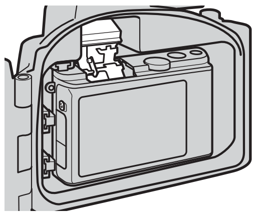


La cinghia della fotocamera

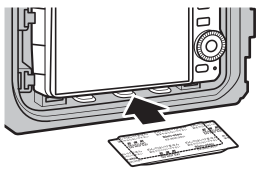
Per garantire che la cinghia della fotocamera non rimanga intrappolata nella tenuta causando perdite, assicurarsi di rimuovere la cinghia da polso prima di posizionare la fotocamera nella custodia.

Unità di Speedlight subacqueo

Se si intende utilizzare un'unità opzionale di Speedlight subacqueo SB-N10, sollevare il flash incorporato della fotocamera prima di posizionare la fotocamera nella custodia, in quanto una volta posizionata la fotocamera nella custodia, il flash potrebbe non riuscire a sollevarsi da solo.



3 Inserire l'essiccante.
Per prevenire la formazione di condensa all'interno della custodia, inserire l'essiccante silicagel in dotazione tra la parte inferiore della fotocamera e la custodia. Far scorrere l'essiccante verso la parte anteriore, dove non interferirà con la chiusura della custodia. Il posizionamento errato potrebbe causare perdite della custodia.



Sostituzione dell'essiccante

L'essiccante usato perde la propria capacità di assorbimento dell'umidità. Si consiglia di sostituire l'essiccante ogni volta che la custodia viene utilizzata (📖 25).

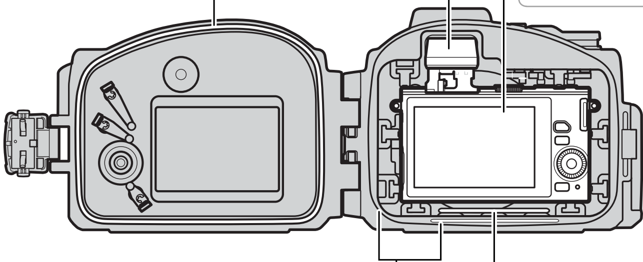
It

4 Eseguire un controllo finale.

Controllare l'O-ring:
- *È incrinato o danneggiato? Sostituirlo.*
- *È attorcigliato o in posizione sbagliata? Riposizionarlo.*
- *Rimuovere capelli, polvere, sabbia e altre sostanze estranee.*

Controllare il flash incorporato: *Se si usa un'unità di Speedlight subacqueo, controllare che il flash incorporato sia sollevato; altrimenti, assicurarsi che il flash sia abbassato.*

Controllare la fotocamera:
- *Assicurarsi che la fotocamera sia nell'orientamento corretto (📖 14).*
- *Rimuovere la cinghia della fotocamera.*



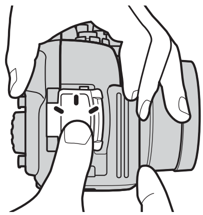
Controllare la tenuta O-ring e la scanalatura di tenuta acqua: *Rimuovere liquidi, capelli, polvere, sabbia e altre sostanze estranee.*

Controllare l'essiccante: *Controllare che l'essiccante sia posizionato correttamente (📖 14).*

Controllare l'obiettivo:
- *L'anello zoom ruota liberamente e riesce a regolare lo zoom? Nel caso contrario, riposizionare la ghiera dentata per regolazione zoom.*
- *Confermare che l'adesivo anti riflesso interno o l'anello sia in posizione (📖 12, 13).*

5 Chiudere la custodia.

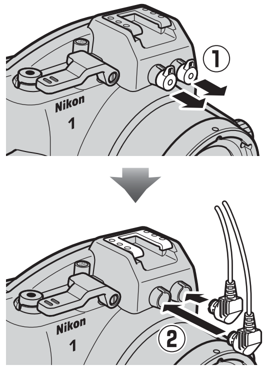
Chiudere e serrare la custodia.



It

Unità di Speedlight subacqueo

La custodia subacquea è dotata di 2 prese di innesto per cavo in fibra ottica, permettendo il collegamento delle unità opzionali di Speedlight subacqueo SB-N10 tramite i cavi in fibra ottica SC-N10A subacquei opzionali e il controllo mediante il flash incorporato della fotocamera. Quando si utilizza un'unità di Speedlight subacqueo, rimuovere uno dei copri presa di innesto per cavo in fibra ottica (①; si noti che, anche se non vi è alcun rischio di perdite quando vengono rimossi i coperchi, i copri presa per le prese non utilizzate devono essere lasciati in posizione) e collegare il cavo subacqueo in fibra ottica (②). Prima di usare il flash sott'acqua, eseguire uno scatto di prova e confermare che il flash funzioni normalmente. Per ulteriori informazioni, vedere il manuale della fotocamera e la documentazione fornita con l'unità flash.

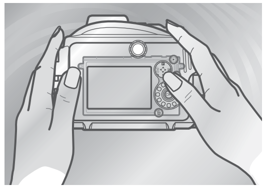


Il test finale delle perdite

Dopo aver inserito la fotocamera e aver chiuso la custodia, eseguire un controllo finale delle perdite.

Importante!

Prima dell'uso, assicurarsi che la fotocamera funzioni normalmente e che la custodia non presenti perdite. Il mancato controllo delle perdite prima dell'uso può causare danni irreparabili alla fotocamera.



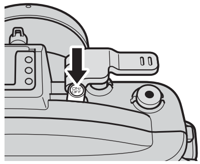
Immergere la custodia in acqua e controllare la presenza di perdite, come descritto in "Il test preliminare delle perdite" (□ 11). Dopo aver completato il test, aprire la custodia e verificare che l'essiccante sia asciutto e che l'acqua non sia entrata. Se viene rilevata una perdita, asciugare immediatamente e a fondo la fotocamera e la custodia e controllare che l'O-ring sia intatto e la custodia sigillata adeguatamente. Se la causa della perdita non può essere determinata, portare la custodia presso un centro assistenza autorizzato Nikon.

It

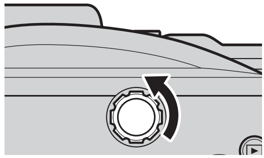
Scatto di immagini

Seguire gli step riportati di seguito per scattare foto subacquee.

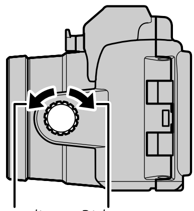
1 Accendere la fotocamera.
Premere l'interruttore di alimentazione sulla custodia subacquea per accendere la fotocamera. La spia di alimentazione si accende in verde e il monitor si accende (per spegnere la fotocamera, premere nuovamente l'interruttore di alimentazione e confermare che il monitor si sia spento).



2 Scegliere un modo.
Ruotare la ghiera di selezione modo per selezionare un modo (J4) o premere il pulsante MENU e scegliere un modo dai menu (S2). Per ulteriori informazioni sulla selezione di un modo, vedere il manuale della fotocamera.

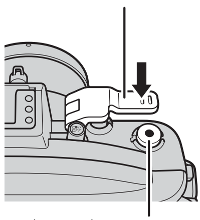


3 Inquadrare lo scatto.
Ruotare la ghiera zoom per ingrandire o ridurre l'immagine.



4 Scattare l'immagine.
Foto: premere leggermente la leva di scatto per premere il pulsante di scatto della fotocamera a metà corsa e mettere a fuoco, quindi premere la leva di scatto fino in fondo per rilasciare l'otturatore e scattare una foto.

Filmati: premere il pulsante di registrazione filmato per avviare e arrestare la registrazione.



Fotografia subacquea

Il momento migliore per la fotografia subacquea è quando il sole si trova direttamente in alto (si noti che le foto scattate sott'acqua possono avere una dominante blu). Fonti di luce molto forti potrebbero causare la comparsa di riflessi nelle foto; controllare il monitor prima della ripresa e cambiare l'angolo se necessario. Durante la ripresa, tenere le dita e altri oggetti lontani dall'oblò per l'obiettivo ed evitare di esalare bolle d'aria nell'inquadratura. Posizionare il tappo anteriore sopra l'oblò per l'obiettivo quando la fotocamera non è in uso.

L'illuminatore ausiliario AF

L'illuminatore ausiliario AF non può essere utilizzato quando la fotocamera si trova nella custodia subacquea.

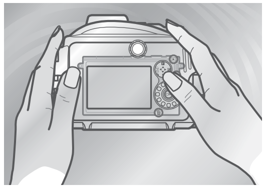
Autospegnimento

Se non vengono eseguite operazioni per un tempo impostato, il monitor si spegne e la spia di alimentazione lampeggia. Se non vengono eseguite operazioni per un tempo impostato dopo lo spegnimento del monitor, la fotocamera si spegne automaticamente. Fare riferimento al manuale della fotocamera per ulteriori informazioni.

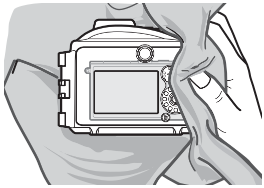
Dopo l'uso

Pulire la custodia e rimuovere la fotocamera.

1 Lavare la custodia.
Pulire la custodia appena possibile dopo l'uso. Senza aprire la custodia o rimuovere la fotocamera, lavare la custodia in un contenitore con acqua pulita.



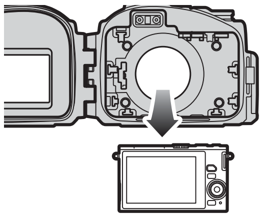
2 Asciugare.
Asciugare accuratamente la parte esterna della custodia con un panno morbido e asciutto.



✓ Asciugare la custodia

Fare attenzione a rimuovere l'acqua che potrebbe essersi accumulata nel fermaglio, nei controlli o nell'occhiello della cinghia da polso.

3 Rimuovere la fotocamera.
Estrarre la fotocamera e pulire l'interno della custodia con un panno morbido e asciutto. Non lavare l'interno della custodia con acqua.



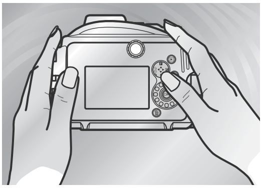
✓ Rimozione della fotocamera

Non azionare mai il fermaglio o il pulsante sblocca-fermaglio sott'acqua. Prima di aprire la custodia, assicurarsi che le mani siano asciutte e non siano sporche di sale o sabbia; non aprire la custodia in zone esposte a sabbia o spruzzi portati dal vento. Quando si rimuove la fotocamera, fare attenzione a non far cadere il dispositivo e assicurarsi che goccioline provenienti dai propri capelli, dal corpo o da altri oggetti non cadano nella custodia o sulla fotocamera. Se dell'acqua cade sulla fotocamera o nella custodia subacquea, asciugarla immediatamente con un panno morbido. Assicurarsi che le mani siano asciutte e non siano sporche di sale o sabbia prima di maneggiare la fotocamera o la batteria.

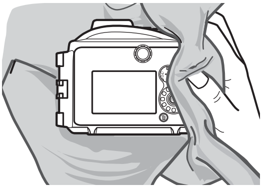
Mantenere la custodia in posizione verticale; non posizionare la custodia aperta con l'O-ring o la tenuta O-ring rivolti verso il basso.

It

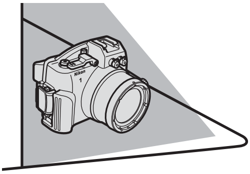
4 Immergere la custodia in acqua pulita.
Sigillare di nuovo la custodia e lasciarla in un contenitore con acqua pulita per due o tre ore. Azionare tutti i controlli alcune volte per rimuovere il sale. Se il sale si asciuga sui controlli, questi potrebbero non funzionare o le loro parti metalliche potrebbero arrugginirsi, causando perdite della custodia.



5 Asciugare.
Asciugare accuratamente la custodia con un panno morbido e asciutto. Non utilizzare un panno su cui sia presente del sale.



6 Lasciare asciugare la custodia all'ombra.
Lasciare la custodia ad asciugare all'ombra, in una zona ben ventilata.



☑ Non esporre alla luce del sole o al calore
Non utilizzare un asciugacapelli o altre fonti di calore e non posizionare la custodia in luoghi esposti alla luce diretta del sole. Il calore può provocare il deterioramento della custodia o dell'O-ring, provocando perdite.

☑ Pulire l'interno della custodia
Utilizzare una pompetta, una spazzola o un panno morbido e umido per rimuovere le sostanze estranee dall'interno della custodia. I liquidi possono essere rimossi con un panno morbido e umido. Quando si utilizza un panno, prestare attenzione a non graffiare la custodia; non usare forza eccessiva. Non utilizzare acqua, detergenti o agenti chimici di qualsiasi tipo. L'acqua può danneggiare il rivestimento all'interno dell'oblò per l'obiettivo.

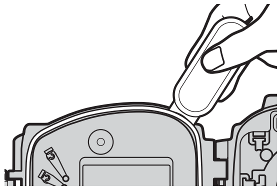
Manutenzione

Questa sezione descrive come eseguire la manutenzione dell'O-ring e della custodia subacquea.

Cura dell'O-ring

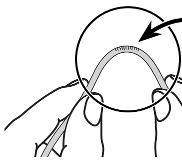
La WP-N3 utilizza un O-ring per formare un sigillo impermeabile. La manipolazione impropria dell'O-ring può produrre perdite. Controllare le condizioni dell'O-ring come descritto di seguito prima di ogni uso, e controllare l'eventuale presenza di sostanze estranee sull'O-ring ogni volta che si apre la custodia, anche per breve tempo.

1 Rimuovere l'O-ring.
Utilizzare lo strumento di rimozione O-ring per rimuovere l'O-ring come mostrato.

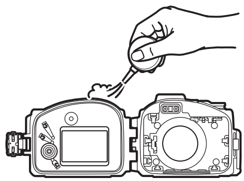


Non forzare né usare oggetti appuntiti
La custodia potrebbe avere perdite se l'O-ring viene allungato forzatamente o danneggiato per l'utilizzo di oggetti affilati o appuntiti, compresi unghie e utensili metallici.

2 Ispezionare l'O-ring.
Rimuovere il grasso siliconico vecchio e altre sostanze estranee con un panno morbido, prestando attenzione a non lasciare tessuto o fili sull'O-ring. Piegare delicatamente l'O-ring per controllare che non vi siano incrinature o altri danni.



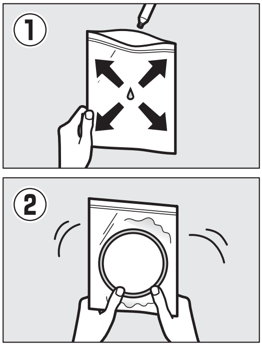
3 Ispezionare la guida per l'O-ring.
Utilizzare una pompetta o un tamponcino di cotone per rimuovere qualsiasi sostanza estranea dalla scanalatura di tenuta acqua e da tutte le parti della custodia che entrano in contatto con l'O-ring. Accertarsi di rimuovere qualsiasi filo lasciato dal tamponcino.



It

4 Ingrassare l'O-ring.

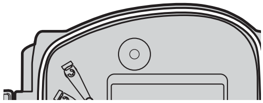
Se l'O-ring non è stato ingrassato in modo corretto, potrebbe incrinarsi o spellarsi, causando perdite. Ingrassare l'anello se la superficie appare secca. Innanzitutto spremere circa un centimetro di grasso siliconico in un sacchetto di plastica e utilizzare le dita per spalmare il grasso in tutto il sacchetto (①). Quindi, inserire l'O-ring e massaggiare il sacchetto per rivestire l'O-ring (②).

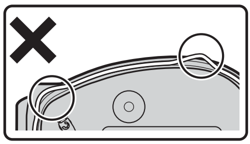


Utilizzare soltanto il grasso siliconico progettato per l'uso con la WP-N3. Non ingrassare utilizzando un panno o carta, perché questi potrebbero lasciare delle fibre sull'O-ring. Si noti che l'applicazione di una quantità eccessiva di grasso potrebbe rendere più facile l'adesione di sostanze estranee sull'anello, impedendo la sigillatura corretta della custodia.

5 Sostituire l'O-ring.

Assicurandosi che l'O-ring e la guida siano liberi da sostanze estranee, posizionare l'O-ring in modo che possa scorrere uniformemente allo stesso livello tutt'intorno alla guida per l'O-ring, senza allungarsi in modo eccessivo o torcersi e senza sporgere dalla guida.





It

☑ O-Ring

L'O-ring richiede una sostituzione periodica. Sostituire l'O-ring immediatamente se è danneggiato, incrinato, deformato o se ha perso elasticità. L'O-ring deve essere sostituito almeno una volta all'anno. Utilizzare soltanto il grasso siliconico progettato per l'uso con questo prodotto; O-ring sostitutivi e grasso siliconico possono essere acquistati presso un rivenditore di fotocamere Nikon o un tecnico di assistenza autorizzato Nikon. Non utilizzare lubrificante per O-ring (grasso) di COOLPIX o NIKONOS.

☑ Pulizia

Non utilizzare detergenti o sostanze chimiche volatili come alcol o diluente quando si pulisce la custodia o l'O-ring. La mancata osservanza di questa precauzione potrebbe provocare danni alla custodia o all'O-ring.

Conservazione

Conservare la custodia in un luogo fresco e ben ventilato, lasciandola aperta per evitare il deterioramento dell'O-ring. Quando si lascia la custodia inutilizzata per un periodo di tempo prolungato, rimuovere l'O-ring, rimuovere tutto il grasso siliconico vecchio, applicare grasso siliconico fresco e collocare l'O-ring in una borsa di plastica pulita per garantire che mantenga l'elasticità. Non conservare la custodia in luoghi esposti alla luce diretta del sole o in luoghi dove sarà esposta a sbalzi improvvisi di temperatura o ad alti livelli di umidità. Non conservare la custodia o l'O-ring sotto altri oggetti, vicino a fiamme libere, in prossimità di oggetti infiammabili o con palline di naftalina o canfora.

It

Assistenza

Nikon consiglia che la custodia sia sottoposta a manutenzione presso un centro assistenza autorizzato Nikon almeno una volta all'anno. Questo servizio è a pagamento.

Specifiche

Profondità massima	45 m
Temperatura operativa della fotocamera	0 °C–40 °C
Dimensioni (L × A × P)	Circa 156,4 × 115,8 × 113,0 mm, escluse le sporgenze
Peso	Circa 735 g, solo corpo

*Eventuali miglioramenti di questo prodotto potrebbero portare a variazioni non annunciate delle specifiche e dell'aspetto esterno. Nikon declina ogni responsabilità per eventuali danni provocati da possibili errori contenuti in questo manuale. Se non diversamente specificato, tutte le misure sono eseguite alla temperatura specificata da **C**amera and **I**maging **P**roducts **A**ssociation (CIPA): 23 ±3 °C.*

Accessori disponibili per l'acquisto separato

Nikon offre le opzioni e gli articoli di sostituzione seguenti:

- Ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1020 per obiettivi 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Ghiera dentata per regolazione zoom WP-ZG1010 per obiettivi 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6
- Adesivo anti riflesso interno WP-IS1000 per obiettivi 1 NIKKOR VR 10–30 mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM
- Anello anti riflesso interno WP-IR1010 per obiettivi 1 NIKKOR 11–27,5 mm f/3.5–5.6
- O-ring WP-O1100
- Strumento di rimozione O-ring WP-OR1000
- Tappo anteriore WP-LC1000
- Cinghia da polso WP-AN1000
- Cinghia per tappo anteriore WP-AN2000
- Grasso siliconico WP-G1000
- Essiccante silicagel WP-S1000
- Speedlight subacqueo SB-N10
- Cavo in fibra ottica subacqueo SC-N10A
- Unità di supporto subacquea SK-N10A

It

保留备用

WP-N3防水罩

使用说明书

Sc

使用产品前请仔细阅读本使用说明书。

将Nikon 1 J4或S2装入WP-N3防水罩中可保护照相机以防止其淋雨和淋雪，并使其可在最深45m的水下进行拍摄。请妥善保管本说明书，以便本产品的所有使用者可以随时查阅，并请务必在使用前仔细阅读本说明书和照相机说明书。

图标和惯例

为便于您获取所需信息，本说明书使用了以下图标和惯例：

✔	该图标表示警告，提醒您应该在使用前阅读这些信息，以避免损坏照相机或防水罩。
🖉	该图标表示注意，提醒您应该在使用本产品前阅读这些信息。
📖	该图标表示本说明书中的其他参考页码。

✔ 重要事项：请在使用前阅读

在水中或水边使用防水罩之前，请先按照本说明书第11和17页中所述进行渗漏测试。

⚠ 安全须知

初次使用本产品之前，请先阅读“安全须知”（📖 iii-ix）中的安全使用说明。

Sc

🖉 终身学习

作为尼康“终身学习”保证的一部分，下列网站将持续提供最新在线产品支持、教育及不断更新的各类信息：

- **中国大陆的用户：** *http://www.nikon.com.cn/*

中国大陆地区用户可点击以上网址，登录尼康官方网站，点击“支持及下载”栏目下的“知识库和下载”，获得常见问题回答（FAQ）和在线的技术支持；点击“如何购买”栏目下的“代理商”或“经销商”，可获得本地尼康代理商或经销商的联络信息。

- **美国用户：** *http://www.nikonusa.com/*
- **欧洲与非洲用户：** *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **亚洲、大洋洲和中东用户：** *http://www.nikon-asia.com/*

浏览这些网站，可持续获得最新产品信息、提示、常见问题回答（FAQ）以及有关数码成像和拍摄的一般性建议。您也可向本地尼康代理获取更详细的信息。有关联络信息，请访问以下网址：

http://imaging.nikon.com/

http://www.nikon.com.cn/

安全须知

请在使用前仔细阅读“安全须知”，并以正确的方法使用。

本“安全须知”中记载了重要的内容，可使您能够安全、正确地使用产品，并预防对您或他人造成人身伤害或财产损失。请在理解本部分的内容后阅读使用说明书正文，并在阅读之后妥善保管，以便本产品的所有使用者可以随时查阅。

本节中标注的指示和含义如下。

⚠ **警告**	表示若不遵守该项指示或操作不当，则有可能造成人员死亡或负重伤的内容。
⚠ **注意**	表示若不遵守该项指示或操作不当，则有可能造成人员伤害以及有可能造成物品损害的内容。

本节使用以下图示和符号对必须遵守的内容作以分类和说明。

图示和符号的实例

△ 符号表示唤起注意（包括警告）的内容。在图示中或图示附近标有具体的注意内容（左图之例为当心触电）。

⃠ 符号表示禁止（不允许进行）的行为。在图示中或图示附近标有具体的禁止内容（左图之例为禁止拆解）。

● 符号表示强制执行（必须进行）的行为。在图示中或图示附近标有具体的强制执行内容（左图之例为取出电池）。

Sc

⚠警告	
禁止拆解	**切勿自行拆解、修理或改装。** 否则将会因破损等而导致受伤。
禁止触碰 立即委托修理	**当产品由于跌落而破损时，切勿用手触碰破损部分。** 否则破损部分将导致受伤。 请委托尼康授权的维修服务中心进行修理。
取出电池 立即委托修理	**当发现产品变热、冒烟或发出焦味等异常时，请立刻停止使用并取出内部照相机中的电池。** 若在此情况下继续使用，将会导致火灾或烫伤。 取出电池时，请小心勿被烫伤。取出电池，并委托尼康授权的维修服务中心进行修理。
禁止使用	**切勿在有可能起火、爆炸的场所使用。** 在有丙烷气、汽油、可燃性喷雾剂等易燃性气体、粉尘的场所使用产品，将会导致爆炸或火灾。
禁止使用	**切勿向产品喷射可燃性喷雾剂，也不要在可燃性气体环境中使用。** 否则将会导致爆炸或火灾。
禁止闪光	**切勿朝驾驶员闪光。** 否则将会造成事故。
禁止闪光	**切勿将闪光灯贴近人眼进行闪光。** 否则将会导致视觉损伤。拍摄时，闪光灯应距离拍摄对象 1m 以上。对婴幼儿进行拍摄时若使用闪光灯，尤其需要注意。
妥善保管	**切勿在婴幼儿伸手可及之处保管婴幼儿可能会放入口中的细小部件。** 否则将会导致婴幼儿将部件吞入口中。 意外吞入口中时，请立即向医生咨询。

Sc

⚠ 警告

⚠ 警告	**切勿将照相机背带缠绕在颈部。** **特别注意勿将照相机背带缠绕在婴幼儿或儿童的颈部。** 将照相机背带缠绕在颈部会导致窒息。
⊘ 禁止	**切勿持拿着本产品跳入水中。** 跳入水中时本产品会碰撞您的身体，导致受伤。
⚠ 警告	**切勿在装于本产品内的数码照相机中使用破损的电池。** 请使用完好无损的尼康可充电电池 EN-EL22。由于本产品为密封结构，若使用破损的电池，异常气体会充斥产品的内部，从而导致破裂或起火。
⚠ 妥善保管	**存放本产品时，请务必从中取出数码照相机。** 由于本产品为密封结构，数码照相机中的电池所释放的气体会充斥产品的内部，从而导致破裂或起火。
⚠ 警告	**若产品进水，请立即停止使用。** 否则照相机的电源部位将释放气体，从而导致破裂或爆炸。 请取出照相机并从照相机中取出电池。
⊘ 禁止	**切勿吞食用于本产品的固体干燥剂和硅润滑脂。** 这些物品不可食用。

Sc

⚠注意

妥善保管	**切勿在婴幼儿伸手可及之处保管产品。** 否则将有可能导致受伤。
妥善保管	**不使用时请取出照相机，并存放在没有阳光照射处。** 阳光会聚焦，并有可能导致火灾。
小心移动	**进行移动时，切勿将本产品安装在三脚架上。** 摔倒、碰撞时将有可能导致受伤。
禁止	**使用时切勿用被褥遮盖、包裹。** 否则将有可能无法散热，使得外壳变形，并导致火灾。
禁止放置	**切勿放置于封闭的车辆中、直射阳光下或其他异常高温之处。** 否则将可能导致故障或火灾。
禁止	**切勿在深于 45m 的水下使用。** 否则可能会导致操作故障或进水。
禁止	**清洗时，切勿将防水罩置于水势很急的自来水下。** 否则可能会导致进水。
禁止	**请务必确保 O 型环或其接触部位上没有任何损伤，也没有夹着沙子、灰尘或毛发等杂质。** 否则可能会导致进水。
禁止	**切勿在水温超过 40℃的热水中使用。** 高温可能会引起变形，导致进水。
禁止接触水	**切勿弄湿电池端子。** 否则可能会导致故障或发生事故。
禁止	**切勿在沙子或灰尘很多的环境中开关本产品。** 否则可能会损坏防水性能，导致进水。

Sc

注意事项

为确保您能持续享受尼康产品所带来的乐趣，在存放或使用该设备时请注意以下事项。

▮▮防水

在水下或水附近使用本防水罩时请注意以下事项：

- 使用之前，请先按照本说明书第11和17页中所述对防水罩进行渗漏测试。
- 本防水罩仅可阻挡淡水（例如水池、河流和湖泊中的水）和海水。请勿带入温泉或浴室。
- 切勿将其置于深度超过45m的水下，也不要放置于急流、瀑布、阀门被开到最大的自来水或其他高压的水中，否则将使本防水罩承受过高的压力从而导致损坏、变形以及进水。
- 照相机接触到水将会遭受损坏。为防止进水，请勿用湿手打开防水罩，也不要在防水罩被弄湿或者在水下、水上、水边或处于有水雾、大风、沙子或灰尘的环境中时将其打开。装入防水罩之前请确保照相机完全干燥。若防水罩进水，请立刻停止使用，擦干照相机和防水罩内侧，并将照相机和防水罩送至尼康授权的维修服务中心。
- 密封防水罩之前或者安装O型环时，请确保O型环未扭曲或错位，并仔细检查防水罩内侧和O型环、水密槽以及防水罩上与O型环接触的所有部位，确认这些部位均没有粘上液体、脏物、毛发、浮屑、灰尘、沙子以及其他杂质。这些部位的水和其他液体应立即使用一块干的软布清除干净。其他杂质应使用吹气球去除，同时请注意去除水密槽边边角角中的所有小颗粒。防水罩外部的杂质可使用一块干的软布进行清除。切勿使用肥皂、去污粉或其他化学制品，并请确保立即清除防晒油、防晒霜、沐浴盐、清洁剂、肥皂、有机溶剂、油、酒精以及类似物质。
- 切勿在防水罩上贴标签，也不要使用密封胶、防雾化学物质或者非专门指定用于WP-N3的O型环润滑剂或固体干燥剂（📖 25）。
- 切勿将防水罩长时间放置于冰点温度下或炎热的场所（例如，封闭的车内、船上、沙滩上、直射阳光下或靠近暖气设备的地方），否则可能会使其容易进水。
- 若防水罩跌落，置于重物之下，遭受到打击、强压或者强烈的碰撞或震动，将不能保证其防水效果。若防水罩跌落或受到其他碰撞，请将其送交尼康授权的服务人员，并请他们测试产品以确认其是否仍具防水性能。请注意，此服务需付费。
- 由于用户的过错而导致的损坏不包含在保修范围内。

■■防震

本防水罩不是为保护照相机免受碰撞或震动而设计的。请勿跌落防水罩，用防水罩撞击硬物，将其投入水中，持拿着防水罩跳入水中或将其置于遭受剧烈震动的地方，否则可能会损坏照相机。

■■操作环境

请注意以下事项：

- 在低温环境中，照相机刚开启时可能无法立即正常工作，并且电池性能可能会降低。请将备用电池存放在温暖的地方并在需要时进行更换。
- 在寒冷的环境中，应立即清除所有雪花或雨水。若任其凝固，控制可能会变得难以操作。
- 长时间接触冰冷的金属会损伤裸露的皮肤。在低温环境下长时间操作防水罩时，请戴上手套。
- 请勿将防水罩置于高温场所，如车内、加热器旁、沙滩上或直射阳光下，否则可能使防水罩受损或变形，导致照相机损坏。温度的突变可能会造成防水罩内部结露，从而也可能损坏照相机。为避免结露，您可：
  - 将照相机带入温度明显更暖或更冷的场所之前，请将其保留在防水罩中直至其温度与周围温度持平。
  - 按照本说明书第14页中所述将附送的干燥剂（固体干燥剂）放置在装有照相机的防水罩中。
  - 入水前，请勿将防水罩置于高温环境中，例如将其置于沙滩上或直射阳光下。

Sc

O型环

在使用O型环时请注意以下事项：

- O型环需要定期更换。若O型环损坏、破裂、变形或失去弹性，请立即更换。O型环需至少一年更换一次；请勿使用旧的O型环或者某些非指定用于本产品的O型环。
- 将O型环从防水罩上取下时，为防止损坏O型环，请使用O型环拆除器。勿使用金属物品或者锐器取下O型环。
- 取下或安放O型环时切勿用力过度，否则可能使O型环永久性拉伸变形，导致防水罩进水。
- 为防止磨损，请仅使用指定用于本产品的硅润滑脂（📖25）。*勿使用COOLPIX或NIKONOS O型环润滑剂（润滑脂）或其他类型的硅润滑脂。*

海拔高度改变

由于海拔高度改变而导致的气压变化可能会损坏防水罩或使其无法打开，请注意以下事项：

- 航空旅行时，请尽量把防水罩放在您随身携带的背包中。将防水罩打包于托运行李中时，请将其打开或取下O型环。
- 从海拔高的地方旅行至海拔低的地方时，请定期打开防水罩以使气压均衡。

✓ 重要！

WP-N3防水罩仅适用于兼容的照相机。切勿将其他照相机装入WP-N3。

Sc

目录

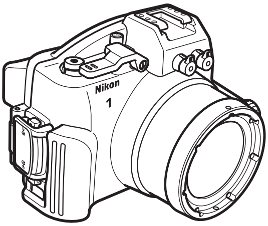
Sc

简介

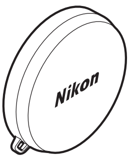
有关附送配件和防水罩部件的名称，您可查阅本部分。

包装内物品

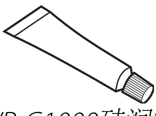
请确认包装内包含下列物品。若缺少任何物品请与零售商联系。



☐ *WP-N3（已装好WP-O1100 O型环；使用之前，请按照第22页中所述确认O型环未损坏）*



☐ *WP--LC1000前盖*



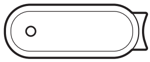
☐ *WP-G1000硅润滑脂*



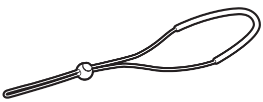
☐ *WP-ZG1020变焦齿轮套*
（用于1尼克尔VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM镜头）



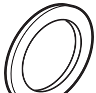
☐ *WP-ZG1010变焦齿轮套*
（用于1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头）



☐ *WP-OR1000 O型环拆除器*



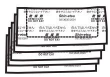
☐ *WP-AN1000腕带*



☐ *WP-IS1000防内部反射贴纸*
（用于1尼克尔VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM镜头）



☐ *WP-IR1010防内部反射环*
（用于1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头）



☐ *WP-S1000固体干燥剂（1包5份；打开后重新密封）*

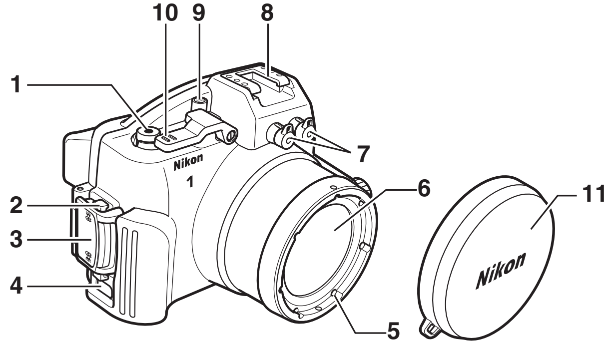
☐ *WP-AN2000前盖挂绳*

☐ *使用说明书*
（本说明书）

☐ *保修卡*

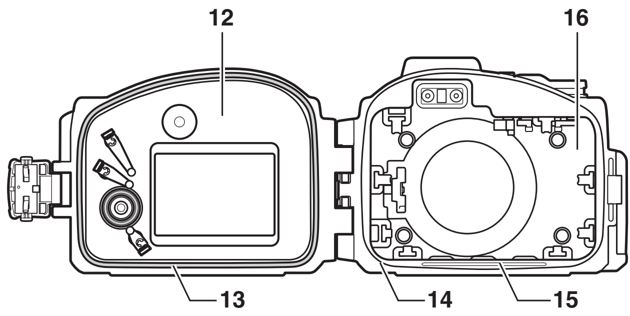
Sc

WP-N3部件



1 动画录制按钮......18
2 锁扣释放按钮......4
3 锁扣......4
4 腕带孔......3
5 ⌀67mm滤镜安装螺纹
6 镜头窗口......14
7 光纤连接线接口盖*......16
8 配件热靴
9 电源开关......18
10 快门操作杆......18
11 前盖......3、25

* 使用另购的SB-N10水下闪光灯组件时请取下。

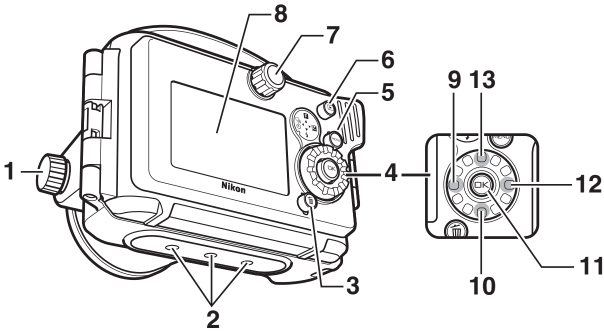


12 后盖......4
13 O型环/O型环导槽...15、22、25
14 O型环密封盖......15、22
15 水密槽......15、22
16 前盖......4

Sc

配件热靴

配件热靴用于水下闪光灯组件以及其他配件；有关安装和取下的信息，请参阅配件随附的文档。在陆地上运输防水罩时，请将配件从配件热靴上取下。

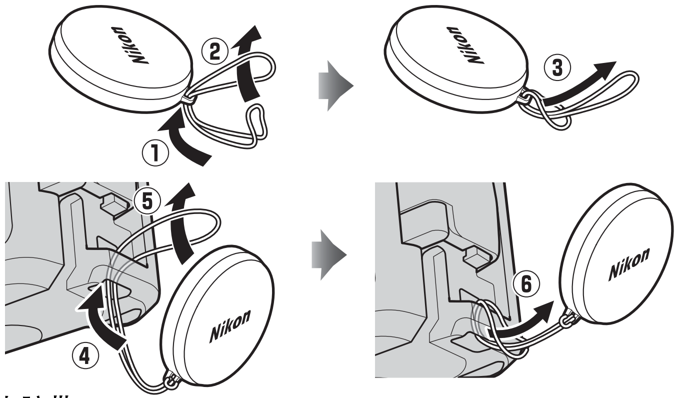


1 变焦拨盘................................ 15、18
2 三脚架连接孔
3 🗑（删除）按钮
4 多重选择器
5 MENU 按钮
6 ▶（播放）按钮
7 模式拨盘* 18

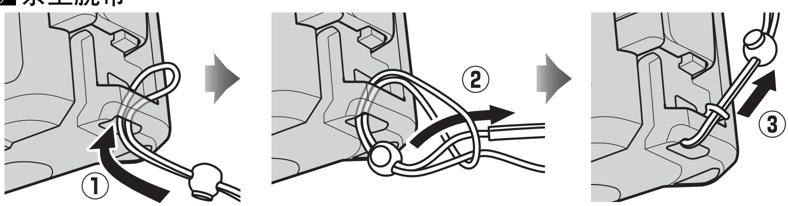
8 显示屏窗口
9 连拍/自拍图标（连拍/自拍）按钮
10 ⚡（闪光模式）按钮
11 OK（确定）按钮
12 曝光补偿图标（曝光补偿）按钮
13 F（特色功能）按钮

* 仅适用于J4

安装前盖挂绳



系上腕带

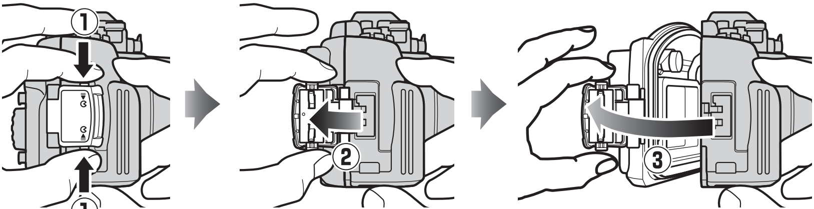


使用锁扣

按照以下步骤可解锁或锁定防水罩。

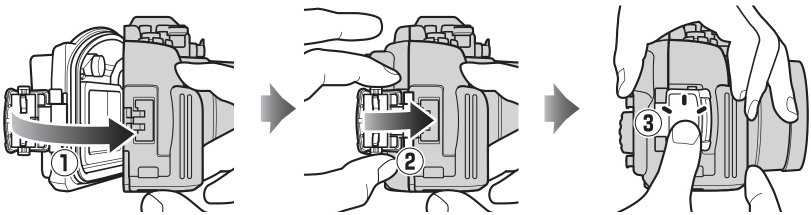
解除防水罩的锁定

按住锁扣释放按钮（①），同时打开锁扣（②），然后打开后盖（③）。



锁定防水罩

关闭防水罩（①）并将锁扣翻转至前半部分（②），然后按下锁扣将其关闭直至卡入正确位置发出咔嗒声（③）。检查防水罩已密封好，O型环安装到位，密封盖（📖 23）中没有杂质。



Sc

✔打开防水罩

打开防水罩之前，请确保其完全干燥且没有灰尘。在水下使用防水罩后，请用清水清洗以去除所有沙尘或其他杂质，然后用一块干的软布将其完全擦干。因为您必须确保防水罩打开时其外部余留的水珠、沙尘或其他杂质不会掉进防水罩内。切勿在水下操作锁扣或锁扣释放按钮。

从防水罩中取出照相机时，请小心不要将其跌落。

配置

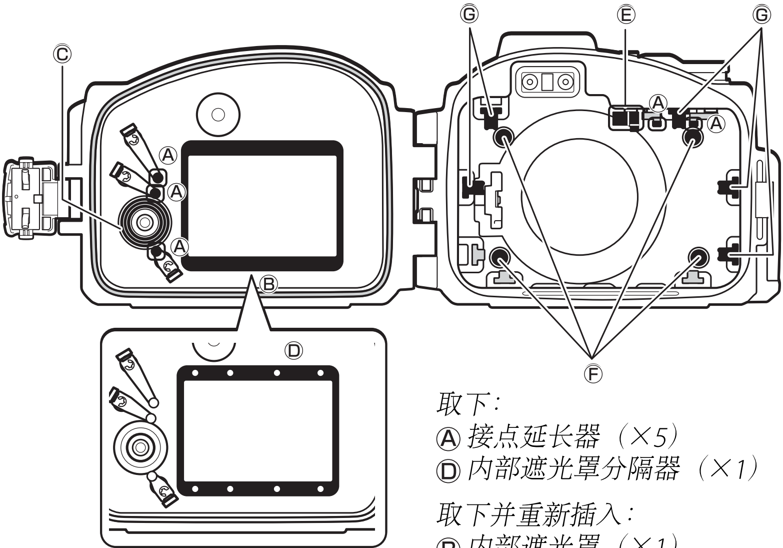
出厂时，本防水罩是为用于J4所进行的配置。您可通过可移动部件配置防水罩以用于S2。更换时请注意不要摔落部件。

为J4配置防水罩

本防水罩在出厂时已为用于J4进行配置。将其用于J4时请不要更改配置。

为S2配置防水罩

用于S2时，请如下所示配置防水罩。



取下：
Ⓐ *接点延长器（×5）*
Ⓓ *内部遮光罩分隔器（×1）*

取下并重新插入：
Ⓑ *内部遮光罩（×1）*

取下、反转并重新插入：
Ⓒ *多重选择器接点（×1）*
Ⓔ *电源开关接点（×1）*
Ⓕ *前垫（×4）*
Ⓖ *侧垫（×5）*

重要提示！

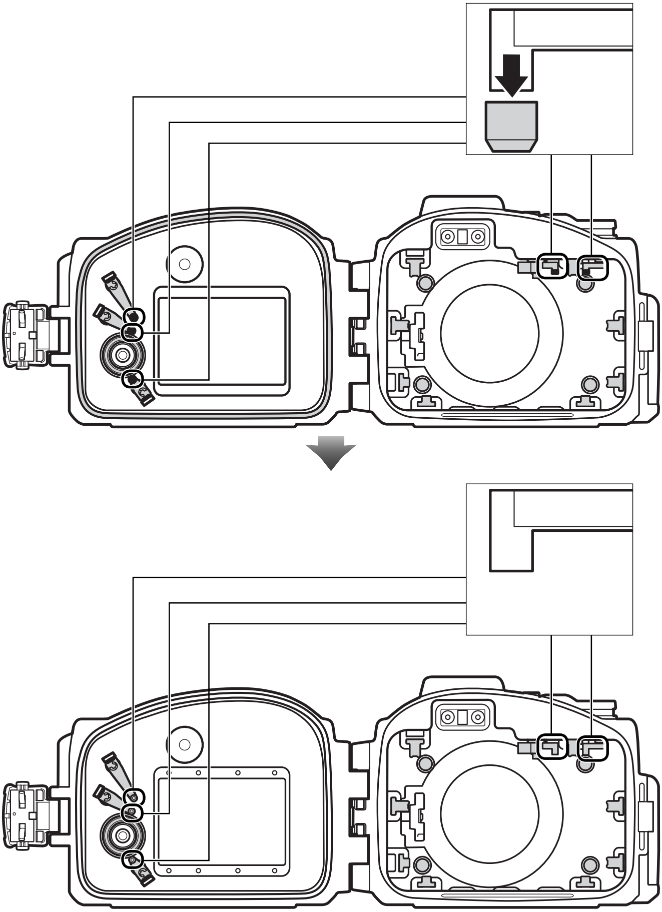
请确保所有部件都已牢固安装。可移动部件若未完全插入，将可能导致损伤或者漏水而损坏照相机。更换部件时，请选择一个明亮的场所，并小心不要使您的手指受伤或指甲受损。

Sc

将防水罩用于S2时，请取下接点延长器、内部遮光罩和内部遮光罩分隔器，然后再重新插入内部遮光罩。

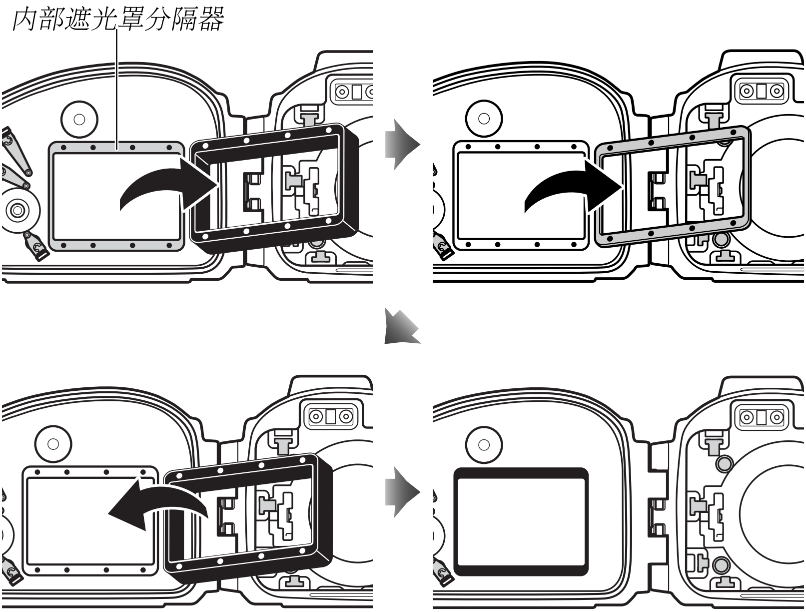
Ⓐ **接点延长器（×5）**

取下接点延长器。



Ⓑ 内部遮光罩（×1）/Ⓓ 内部遮光罩分隔器（×1）

将防水罩用于S2时，请取下内部遮光罩和内部遮光罩分隔器，然后再重新插入内部遮光罩。



Sc

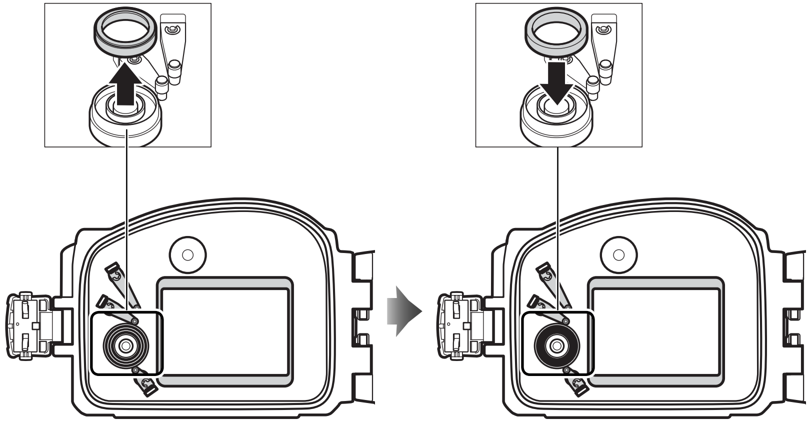
☑ 重要提示！

防水罩用于S2时不需要接点延长器和内部遮光罩分隔器。请将它们取下并存放在安全的地方。

S2用户还将需要取下、反转并重新插入多重选择器和电源开关接点以及前垫和侧垫。

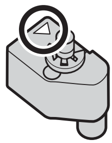
Ⓒ 多重选择器接点（×1）

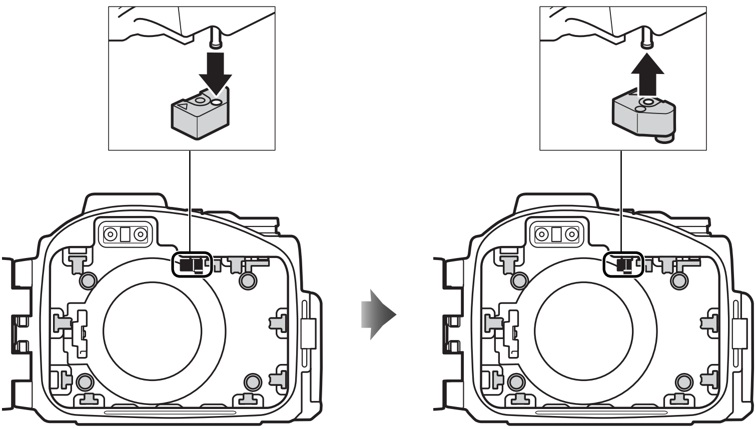
取下接点并按照图示方向重新插入。



Ⓔ 电源开关接点（×1）

取下接点并将其重新插入三角形顶端的小孔中。

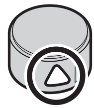


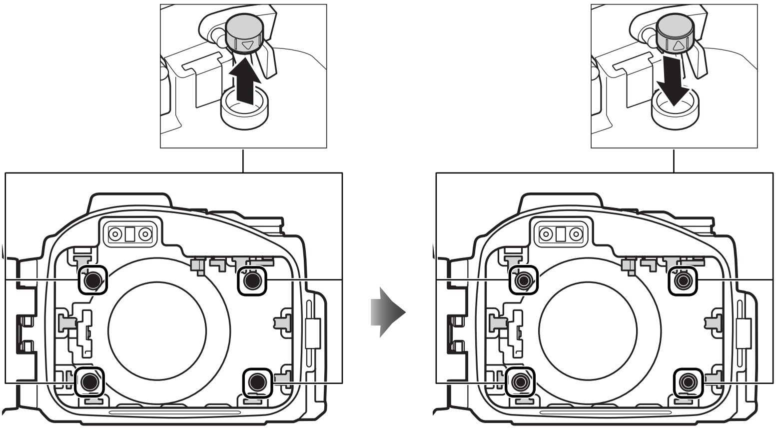


Sc

Ⓕ 前垫（ ×4 ）

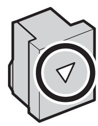
取下前垫并以三角形顶端朝上的方向将它们重新插入。

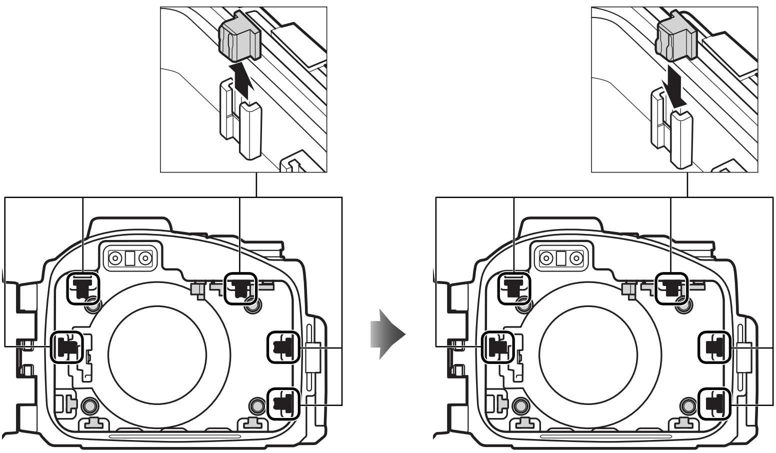




Ⓖ 侧垫（ ×5 ）

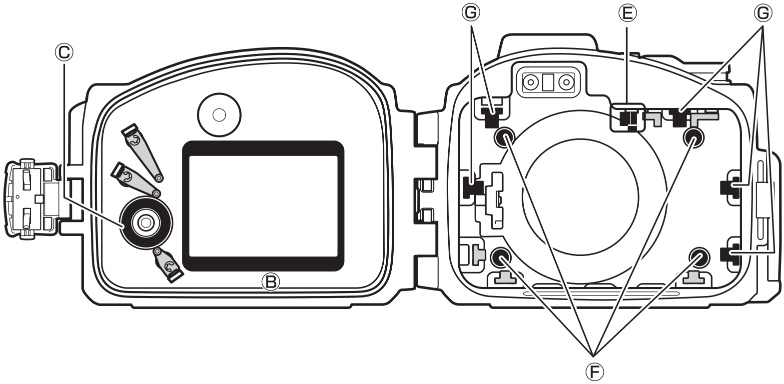
取下侧垫并以三角形倒置的方向将它们重新插入。





Sc

下图展示了为用于S2进行配置后的防水罩。



Ⓐ *多重选择器接点（×1）*
Ⓑ *内部遮光罩（×1）*
Ⓔ *电源开关接点（×1）*
Ⓕ *前垫（×4）*
Ⓖ *侧垫（×5）*

若要将防水罩用于J4，请将各部件还原为它们的原始配置。

初步渗漏测试

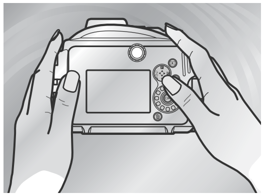
将照相机装入防水罩之前，请按照下文所述锁定防水罩并将其浸入水中进行渗漏检测。

☑ 重要！

将照相机装入防水罩之前，请确认照相机是否操作正常且防水罩不会进水。使用前若不进行渗漏检测，将可能对照相机造成无法挽回的损坏。请注意，若防水罩破裂或损坏，将可能导致进水。使用前请检查防水罩是否有裂痕或其他损坏，一旦发现，请咨询尼康授权的维修服务中心。

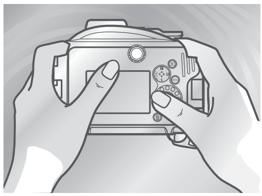
1 锁定防水罩并将其浸入水中。

锁定防水罩，然后慢慢将其浸入水中，若有空气从防水罩内排出，请立即停止。将防水罩浸入水中2、3秒并检查是否有气泡冒出。请在水深约1m的浅水区，或者在浴缸或水桶里进行检测。切勿使用热水，因为水温可能会超过0-40℃的操作温度范围。



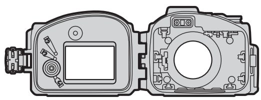
2 检测控制。

将防水罩浸入水中并在水下操作控制2至3分钟，检查是否有气泡冒出。



3 检查防水罩中是否有水进入。

从水中拿出防水罩并用一块干的软布将其完全擦干，然后打开防水罩检查是否有水进入。若有水进入防水罩，请检查O型环（📖15、22-23）。如果无法确定进水的原因，请将防水罩送至尼康授权的维修服务中心。



Sc

准备镜头

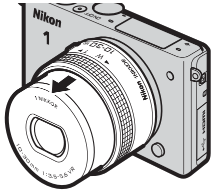
请使用1尼克尔VR　10-30mm　f/3.5-5.6　PD-ZOOM或1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头。其他镜头不可使用。

1尼克尔VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM镜头

安装WP-ZG1020变焦齿轮套和WP-IS1000防内部反射贴纸。

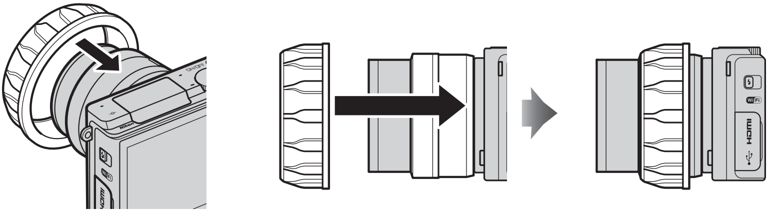
1 安装并伸出镜头。

开启照相机时，镜头自动伸出。



2 安装变焦齿轮套。

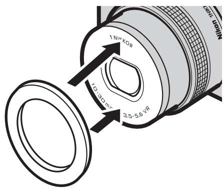
将变焦齿轮套径直滑上镜头直至其安装到位。



安装变焦齿轮套后，调整其位置以使变焦环可转动自如。

3 安装防内部反射贴纸。

如图所示将贴纸粘贴至镜头前端（若贴纸没有粘性，请使用一块湿布清洁粘接面）。若在未安装该贴纸的情况下进行拍摄，镜头前部的文字可能会从防水罩镜头窗口的内面反射回来出现在照片中。贴纸可重复使用；不使用时，请将其贴回原来的背纸上。



4 关闭照相机。

镜头将自动缩回。

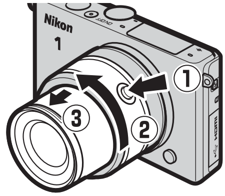
Sc

1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头

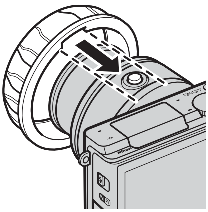
安装WP-ZG1010变焦齿轮套和WP-IR1010防内部反射环。

1 安装并伸出镜头。

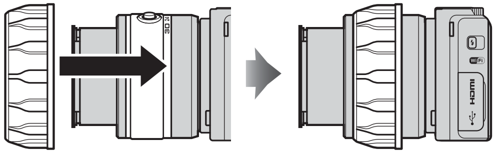
按住可伸缩镜头镜筒按钮（①），同时旋转变焦环以伸出镜头（②）。请注意，镜头伸出时照相机将会自动开启；继续步骤2前请先关闭照相机。



2 安装变焦齿轮套。



将变焦齿轮套内侧的凹槽和可伸缩镜头镜筒按钮对齐。

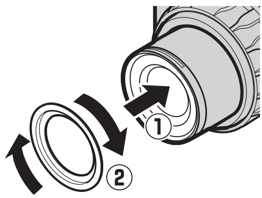


将变焦齿轮套径直滑上镜头直至其安装到位。

安装变焦齿轮套后，调整其位置以使变焦环可转动自如。

3 安装防内部反射环。

如图所示将防内部反射环安装至镜头前部。若在未安装该环的情况下进行拍摄，镜头前部的文字可能会从防水罩镜头窗口的内面反射回来出现在照片中。



Sc

将照相机装入防水罩

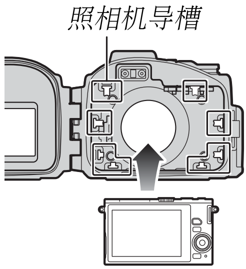
准备好照相机进行水下拍摄。

1 **插入电池和存储卡。**

插入一张存储卡和一块充满电的电池。

2 **装入照相机。**

将照相机放在照相机导槽的中央，同时使镜头处于镜头窗口的位置。

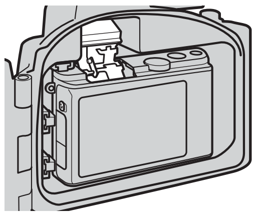


☑ 照相机背带

为确保照相机背带不会夹在密封盖中而导致进水，将照相机装入防水罩之前请务必取下背带。

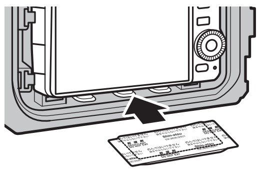
☑ 水下闪光灯组件

若您将使用另购的SB-N10水下闪光灯组件，将照相机装入防水罩之前请升起照相机内置闪光灯，因为一旦装入防水罩，闪光灯将可能无法自动弹出。



3 **插入干燥剂。**

为避免在防水罩内部形成结露，请将附送的固体干燥剂插入照相机底部和防水罩之间。注意将干燥剂滑入前方，使其不影响防水罩的关闭。放置不当将可能导致防水罩进水。



更换干燥剂

用过的干燥剂会丧失吸湿能力。我们建议您每次使用防水罩后都更换干燥剂（□ 25）。

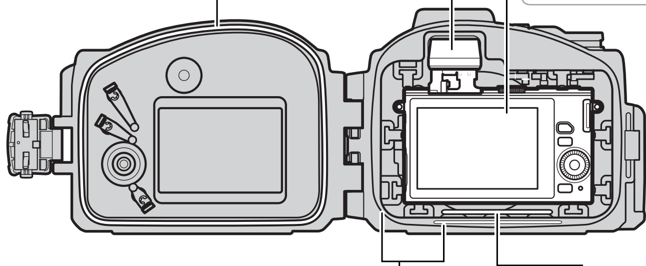
Sc

4 执行最终检查。

检查O型环：
- *破裂或损坏？请更换。*
- *扭曲或错位？请重新放置。*
- *清除所有毛发、灰尘、沙子和其他杂质。*

检查内置闪光灯：若您正在使用水下闪光灯组件，请确保内置闪光灯升起；否则，请务必降下闪光灯。

检查照相机：
- *确保照相机方向正确（**14**）。*
- *取下照相机背带。*



检查O型环密封盖和水密槽：清除所有液体、毛发、灰尘、沙子和其他杂质。

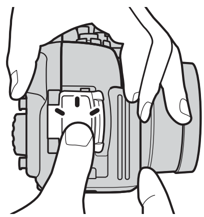
*检查干燥剂：确认干燥剂已正确放置（**14**）。*

检查镜头：
- *变焦环是否旋转顺利并能够调整变焦？如果不行，请重新定位变焦齿轮套。*
- *确认防内部反射贴纸或防内部反射环已正确安装（**12、13**）。*

Sc

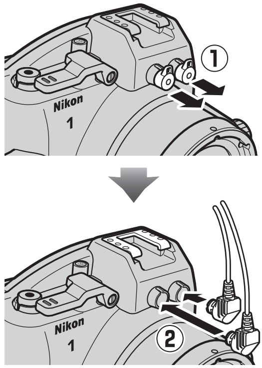
5 关闭防水罩。

关闭并锁定防水罩。



水下闪光灯组件

防水罩配有2个光纤连接线接口，从而可通过另购的SC-N10A水下光纤连接线连接另购的SB-N10水下闪光灯组件并使用照相机内置闪光灯进行控制。使用水下闪光灯组件时，请取下任一光纤连接线接口盖（①；请注意，虽然取下接口盖并不会有进水的风险，但是不使用的接口应盖好盖子）并连接水下光纤连接线（②）。在水下使用闪光灯之前，请先试拍一张照片以确认闪光灯是否正常运作。有关详细信息，请参阅照相机的说明书以及闪光灯组件随附的文档。



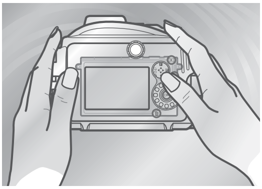
Sc

最终渗漏测试

将照相机装入并关闭防水罩后，请执行最终渗漏检测。

重要！

使用之前，请确定照相机操作正常且防水罩不会进水。使用前若不进行渗漏检测，将可能对照相机造成无法挽回的损坏。



请按照“初步渗漏测试”（📖11）中所述将防水罩浸入水中进行渗漏检测。完成测试后，打开防水罩并检查干燥剂是否干燥且是否有水进入。若检测到进水，请立即完全擦干照相机和防水罩，并检查O型环是否完好无损，防水罩是否密封好。如果无法确定进水的原因，请将防水罩送至尼康授权的维修服务中心。

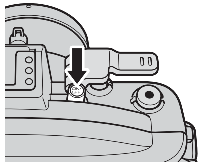
Sc

拍摄照片

请按照以下步骤在水下拍摄照片。

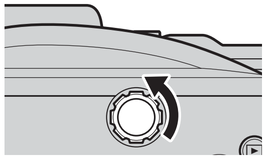
1 开启照相机。

按下防水罩上的电源开关开启照相机。电源灯将点亮绿色，并且显示屏将会开启（若要关闭照相机，请再次按下电源开关并确认显示屏已关闭）。



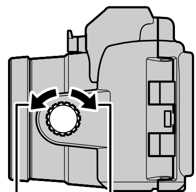
2 选择一种模式。

旋转模式拨盘选择一种模式（J4）；或者按MENU按钮，然后从菜单中选择一种模式（S2）。有关选择模式的详细信息，请参阅照相机的说明书。



3 构图。

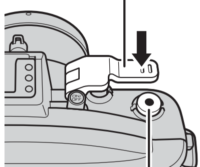
旋转变焦拨盘进行放大或缩小。



4 拍摄照片。

照片：轻轻按下快门操作杆以半按照相机快门释放按钮并对焦，然后完全按下快门操作杆以释放快门并拍摄照片。

动画：按下动画录制按钮可开始或结束录制。



水下拍摄
水下拍摄的最佳时间是太阳直射的时候（请注意，在水下所拍的照片可能具有蓝色氛围）。强光源可能导致照片中出现反射；请在拍摄前检查显示屏并根据需要更改角度。拍摄期间，请保持手指和其他物体远离镜头窗口并避免呼出的气泡进入构图画面范围中。不使用照相机时，请在镜头窗口上盖上前盖。

AF辅助照明器
照相机装于防水罩中时，AF辅助照明器无法使用。

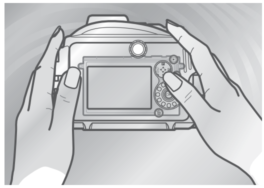
自动关机
若在设定的时间内未执行任何操作，显示屏将关闭且电源灯将闪烁。若显示屏关闭后在设定的时间内未执行任何操作，照相机将自动关闭。有关详细信息，请参阅照相机的说明书。

使用之后

清洁防水罩并取出照相机。

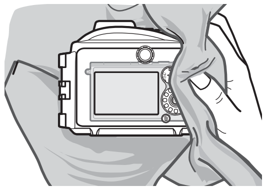
1 清洗防水罩。

使用过后尽快清洁防水罩。请在一盆清水中直接清洗防水罩，不要打开防水罩也不要取出照相机。



2 擦干水。

用一块干的软布将防水罩的外部完全擦干。

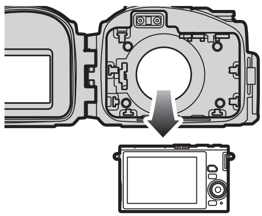


☑ 擦干防水罩

请注意擦去锁扣、控制、腕带孔或挂绳孔中可能集结的水珠。

3 取出照相机。

取出照相机并用一块干的软布将防水罩的内部擦干。切勿用水清洗防水罩内部。



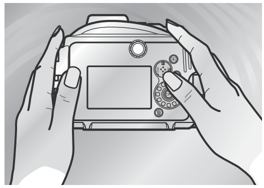
☑ 取出照相机

切勿在水下操作锁扣或锁扣释放按钮。打开防水罩之前，请确保您的双手干燥且不沾有盐分或沙子；切勿在有飞沙或水雾的地方打开防水罩。取出照相机时，请注意不要跌落设备，并确保您的头发、身体或其他物体上的水珠不要滴落在防水罩内或照相机上。若水珠滴落在照相机上或防水罩内，请立即用软布擦干。操作照相机或电池之前，请确保您的双手干燥且不沾有盐分或沙子。

请保持防水罩垂直；勿以O型环或O型环密封盖朝下的方式放置打开的防水罩。

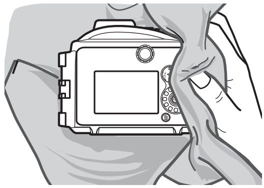
Sc

4 用清水浸泡防水罩。



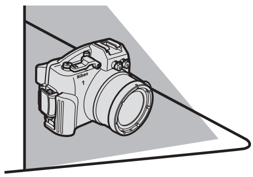
重新密封好防水罩并置于一盆清水中2至3小时。将每个控制操作几次以去除盐分。若盐分残留在控制上并变干，这些控制可能会失去作用，或者它们的金属部分可能生锈，导致防水罩进水。

5 擦干水。



用一块干的软布将防水罩完全擦干。勿使用沾有盐分的布。

6 在阴凉处晾干防水罩。



将防水罩置于阴凉、通风良好的地方晾干。

Sc

☑切勿置于阳光底下或靠近热源

切勿使用吹风机或其他热源，也不要将防水罩置于直射阳光下。热量可能使防水罩或O型环受损，导致进水。

☑清洁防水罩的内部

请使用吹气球、刷子或湿软布去除防水罩内部的杂质。液体可用湿软布清除。使用软布时，请小心不要刮擦防水罩；切勿用力过度。切勿使用清水、清洁剂或任何一种化学试剂。清水会损坏镜头窗口内面的涂层。

保养

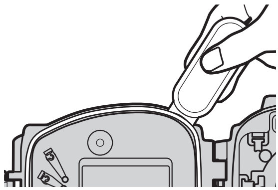
本部分介绍了如何保养O型环和防水罩。

O型环的保养

WP-N3使用O型环以形成防水密封盖。O型环操作不当将可能导致进水。每次使用前请按照以下所述检查O型环的状况，并在每次打开防水罩时检查O型环上是否有杂质，即使是短暂使用时这些检查也必不可少。

1 取下O型环。

如图所示使用O型环拆除器取下O型环。

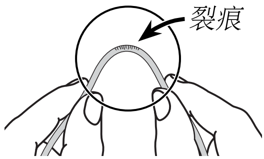


☑ 切勿用力过度或使用尖锐物品

若O型环被过度用力拉伸或者由于使用锋利或尖锐的物品（包括指甲和金属工具）而损坏，防水罩将可能进水。

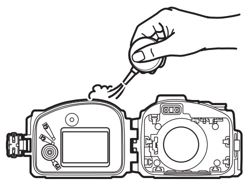
2 检查O型环。

使用软布去除旧的硅润滑脂和其他杂质，同时注意不要遗留布屑或线头在O型环上。轻轻弯曲O型环以检查是否有裂痕或其他损坏。



3 检查O型环导槽。

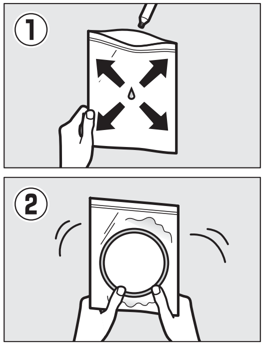
使用吹气球或棉签去除水密槽以及防水罩上与O型环接触的所有部位上的杂质。请务必去除棉签遗留下的所有棉丝。



Sc

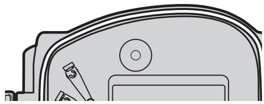
4 润滑O型环。

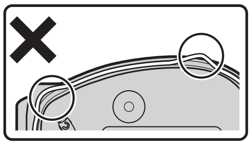
若O型环没有得到适当的润滑，其可能破裂或脱落，导致进水。若表面看起来比较干燥，请将其润滑。首先，将约1cm长的硅润滑脂挤入塑料袋，然后用手指轻捏塑料袋使润滑脂涂遍整个塑料袋（①）。接下来，装入O型环并轻揉塑料袋将润滑脂涂在环上（②）。请仅使用指定用于WP-N3的润滑脂。切勿使用布或纸巾涂抹润滑脂，因为它们可能会在O型环上留下纤维。请注意，涂抹过多的润滑脂可能导致杂质更容易粘附在O型环上，从而妨碍防水罩完全密封。



5 套上O型环。

确认O型环和导槽中没有杂质后，将O型环沿O型环导槽均匀水平地装于防水罩上，注意勿过度拉伸或扭曲也不要从导槽突出。





☑O型环

O型环需要定期更换。若O型环损坏、破裂、变形或失去弹性，请立即更换。O型环应每年至少更换一次。请仅使用指定用于本产品的硅润滑脂；用来更换的O型环和硅润滑脂可从尼康照相机零售商或尼康授权的服务代理商处购买。勿使用COOLPIX或NIKONOS O型环润滑剂（润滑脂）。

☑清洁

清洁防水罩或O型环时切勿使用清洁剂或挥发性化学物质（如酒精或稀释剂），否则可能会损坏防水罩或O型环。

存放

请将防水罩存放在阴凉、通风良好的地方，同时让防水罩保持打开状态以防止O型环损坏。若在较长时间内不使用防水罩，请取下O型环，去除所有旧的硅润滑脂，涂上新的硅润滑脂，然后将O型环放入干净的塑料袋中以确保其保持弹性。勿将防水罩存放在直射阳光下或者置于温度突变或高湿度的地方。勿将防水罩或O型环置于其他物体下方，勿将它们存放在明火、易燃物品附近，也不要将它们与石脑油或樟脑丸一起存放。

保养

尼康建议您，每年至少将防水罩送至尼康授权的维修服务中心进行一次保养。此服务需付费。

技术规格

最大水深	45m
照相机操作温度	0℃至40℃
尺寸（宽×高×厚）	约156.4×115.8×113.0mm（不包括突起部分）
重量	约735g（仅主体部分）

为改进本产品，我们有可能更改其技术规格和外观，恕不另行通知。对因本说明书可能包含的错误而造成的损害，尼康公司不承担法律责任。除非另有说明，否则所有测量都是在相机影像器材工业协会（CIPA）指定的温度23±3℃下进行的。

可单独购买的配件

尼康提供以下可选择和替代的物品：
- WP-ZG1020变焦齿轮套（用于1尼克尔VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM镜头）
- WP-ZG1010变焦齿轮套（用于1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头）
- WP-IS1000防内部反射贴纸（用于1尼克尔VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM镜头）
- WP-IR1010防内部反射环（用于1尼克尔11-27.5mm f/3.5-5.6镜头）
- WP-O1100 O型环
- WP-OR1000 O型环拆除器
- WP-LC1000前盖
- WP-AN1000腕带
- WP-AN2000前盖挂绳
- WP-G1000硅润滑脂
- WP-S1000固体干燥剂
- SB-N10水下闪光灯
- SC-N10A水下光纤连接线
- SK-N10A水下托架

Sc

尼康客户支持中心服务热线：400-820-1665
（周一至周日9:00-18:00，除夕下午休息）
http://www.nikon.com.cn/

尼康影像天地（上海）：+86-(0)21-6289-3322
（周一至周日9:30-20:30，春节休息）
上海市南京西路1363号，200040

尼康影像天地（北京）：+86-(0)10-8515-2268
（周一至周五9:30-18:00，国定假日休息）
北京市东城区东长安街1号东方广场W1平台层（11-12），
100738

进口商：尼康映像仪器销售（中国）有限公司
上海市西藏中路268号来福士广场50楼01-04室，200001

在日本印刷
出版日期2014年1月1日

WP-N3 防水罩

使用說明書

Tc

將Nikon 1 J4或S2裝入WP-N3防水罩中可保護相機以防止其淋雨和淋雪，並使其可在最深45 m的水底進行攝影。請妥善保管本說明書，以便本產品的所有使用者可以隨時查閱，並請務必在使用前仔細閱讀本說明書和相機說明書。

圖示和慣例

為便於您獲取所需資訊，本說明書使用了以下圖示和慣例：

☑	該圖示表示警告，提醒您應該在使用前閱讀這些資訊，以避免損壞相機或防水罩。
🖉	該圖示表示注意，提醒您應該在使用本產品前閱讀這些資訊。
🕮	該圖示表示本說明書中的其他參考頁碼。

☑ 重要事項：請在使用前閱讀

在水中或水邊使用防水罩之前，請先按照本說明書第11和17頁中所述進行滲漏測試。

⚠ 安全須知

初次使用本產品之前，請先閱讀“安全須知”（🕮iii-vii）中的安全使用說明。

Tc

🖉 終身學習

作爲尼康“終身學習”保證的一部分，下列網站將持續提供最新線上產品支援、教育及不斷更新的各類資訊：

- **美國用戶**：*http://www.nikonusa.com/*
- **歐洲與非洲用戶**：*http://www.europe-nikon.com/support/*
- **亞洲、大洋洲與中東用戶**：*http://www.nikon-asia.com/*

瀏覽這些網站，可持續獲得最新產品資訊、提示、常見問題回答（FAQ）以及有關數碼成像和攝影的一般性建議。您也可向本地尼康代表人員獲取更詳細的資訊。有關聯絡資訊，請瀏覽：

http://imaging.nikon.com/

安全須知

爲了防止您的尼康產品受到任何損害或者您自己或他人受傷，在使用本裝置以前，請全面閱讀以下安全注意事項，並妥善保管這些安全指南，以便本產品的所有使用者可以隨時查閱。

請遵守本節中列舉的用以下符號所標註的各項預防措施，否則可能損壞產品。

⚠ 該圖示表示警告。爲防止任何可能的傷害，在使用本尼康產品前，請先閱讀所有警告。

■ 警告

⚠ ***勿自行拆解***。若不遵守此注意事項，可能會導致受傷或產品故障。若本產品因爲跌落或其他意外事故造成破損，請將其送至尼康授權服務代表處進行檢查維修，注意不要被破損部件劃傷。

⚠ ***發生故障時立刻關閉相機***。當您發現本裝置冒煙或發出異味時，請立刻從相機中取出電池，注意避免被灼傷。若在此情形下繼續使用，將可能導致受傷。從相機中取出電池後，請將裝置送至尼康授權服務代表處進行檢查維修。

⚠ ***勿在易燃氣體環境中使用***。請勿在易燃氣體環境中使用電子裝置，以避免發生爆炸或火災。

⚠ ***勿將本產品置於高溫環境中***。請勿將本產品放置在極其高溫的地方，如封閉的車內或直射陽光下，否則可能會導致產品受損或引起火災。

⚠ ***使用閃光燈時的注意事項***。
- 若將閃光燈貼近主體的眼部，可能造成暫時的視覺損傷。請特別注意在給嬰幼兒拍照時，閃光燈與主體間的距離不得少於 1 m。
- 勿將閃光燈對準機動車司機進行閃光，否則可能會導致交通事故。

⚠ ***勿在兒童伸手可及之處保管本產品***。若不遵守此注意事項，可能會導致兒童受傷。另外，請注意細小部件有導致窒息的危險。若兒童誤吞了本裝置上的任何部件，請立即諮詢醫生。

⚠ ***勿將相機帶纏繞在嬰兒或兒童的頸部***。相機帶纏繞在嬰兒或兒童的頸部將可能導致窒息。

⚠ ***勿持拿著防水罩跳水***。爲避免防水罩碰撞您的身體導致受傷，請勿持拿著防水罩跳入水中。

⚠ ***使用相機電池時的注意事項***。操作不當可能導致電池漏液或爆裂。在使用相機電池時請注意以下事項：

- 只能使用已被驗證可用於本相機的電池。
- 當電量用盡後，電池很容易漏液。不使用時請將相機從防水罩中取出。
- 若有水進入防水罩，請立刻從相機中取出電池。
- 保持電池終端的乾爽，否則可能導致受傷或產品故障。

⚠ ***勿放置於直射陽光下***。防水罩可能聚焦陽光，導致火災。

⚠ ***勿在深於 45 m 的水底使用***。若不遵守此注意事項，可能會導致進水或其他故障。

⚠ ***保持防水罩的防漏性***。請勿使用高壓噴嘴清潔防水罩。勿在可能接觸到灰塵或沙子的場所打開防水罩，關閉防水罩前，請務必清除 O 型環上以及防水罩上與 O 型環接觸的任何部位上的所有雜質。若不遵守這些注意事項，可能會導致進水。

⚠ ***勿將本產品置於高溫環境中***。請勿將本產品置於溫度高於 40 ℃ 的場所，否則可能使產品變形，導致進水。

⚠ ***使用期間勿蓋住本產品***。積聚的熱量可能使防水罩變形或導致火災。

⚠ ***勿將相機存放在防水罩中***。相機電池所釋放的氣體可能會在防水罩中不斷積聚，導致爆炸或火災。

⚠ ***勿吞食矽潤滑油或二氧化矽膠狀乾燥劑***。這些產品不可食用。

Tc

注意事項

爲確保您能持續享受尼康產品所帶來的樂趣，在存放或使用該裝置時請注意以下事項。

■■ 防水

在水底或水附近使用本防水罩時請注意以下事項：

- 使用之前，請先按照本說明書第 11 和 17 頁中所述對防水罩進行滲漏測試。
- 本防水罩僅可阻擋淡水（例如水池、河流和湖泊中的水）和海水。請勿帶入溫泉或浴室。
- 勿將其置於深度超過 45 m 的水底，也不要放置於急流、瀑布、閥門被開到最大的自來水或其他高壓的水中，否則將使本防水罩承受過高的壓力從而導致損壞、變形以及進水。
- 相機接觸到水將會遭受損壞。爲防止進水，請勿用濕手打開防水罩，也不要在防水罩被弄濕或者在水底、水上、水邊或處於有水霧、大風、沙子或灰塵的環境中時將其打開。裝入防水罩之前請確保相機完全乾爽。若防水罩進水，請立刻停止使用，擦乾相機和防水罩內側，並將相機和防水罩送至尼康授權服務代表處。
- 密封防水罩之前或者安裝 O 型環時，請確保 O 型環未扭曲或錯位，並仔細檢查防水罩內側和 O 型環、防漏凹槽以及防水罩上與 O 型環接觸的所有部位，確認這些部位均沒有粘上液體、髒物、毛髮、浮屑、灰塵、沙子以及其他雜質。這些部位的水和其他液體應立即使用一塊乾的軟布清除乾淨。其他雜質應使用吹氣球去除，同時請注意去除防漏凹槽邊邊角角中的所有小顆粒。防水罩外部的雜質可使用一塊乾的軟布進行清除。勿使用肥皂、去污粉或其他化學製品，並請確保立即清除防曬油、防曬霜、沐浴鹽、清潔劑、肥皂、有機溶劑、油、酒精以及類似物質。
- 勿在防水罩上貼標籤，也不要使用密封膠、防霧化學物質或者非專門指定用於 WP-N3 的 O 型環潤滑劑或二氧化矽膠狀乾燥劑（🕮 25）。
- 勿將防水罩長時間放置於冰點溫度下或炎熱的場所（例如，封閉的車內、船上、沙灘上、直射陽光下或靠近暖氣裝置的地方），否則可能會使其容易進水。
- 若防水罩跌落，置於重物之下，遭受到打擊、強壓或者強烈的碰撞或震動，將不能保證其防水效果。若防水罩跌落或受到其他碰撞，請將其送交尼康授權服務人員，並請他們測試產品以確認其是否仍具防水效能。請注意，此服務需付費。
- 由於用戶的過錯而導致的損壞不包含在保修範圍內。

■ 防震

本防水罩不是爲保護相機免受碰撞或震動而設計的。請勿跌落防水罩，用防水罩撞擊硬物，將其投入水中，持拿著防水罩跳入水中或將其置於遭受劇烈震動的地方，否則可能會損壞相機。

■ 操作環境

請注意以下事項：

- 在低溫環境中，相機剛開啓時可能無法立即正常工作，並且電池效能可能會降低。請將備用電池存放在溫暖的地方並在需要時進行更換。
- 在寒冷的環境中，應立即清除所有雪花或雨水。若任其凝固，控制可能會變得難以操作。
- 長時間接觸冰冷的金屬會損傷裸露的皮膚。在低溫環境下長時間操作防水罩時，請戴上手套。
- 請勿將防水罩置於高溫場所，如車內、加熱器旁、沙灘上或直射陽光下，否則可能使防水罩受損或變形，導致相機損壞。溫度的突變可能會造成防水罩內部結露，從而也可能損壞相機。爲避免結露，您可：
  - 將相機帶入溫度明顯更暖或更冷的場所之前，請將其保留在防水罩中直至其溫度與周圍溫度持平。
  - 按照本說明書第14頁中所述將隨附的乾燥劑（二氧化矽膠狀乾燥劑）放置在裝有相機的防水罩中。
  - 入水前，請勿將防水罩置於高溫環境中，例如將其置於沙灘上或直射陽光下。

Tc

■ O 型環

在使用 O 型環時請注意以下事項：

- O 型環需要定期更換。若 O 型環損壞、破裂、變形或失去彈性，請立即更換。O 型環需至少一年更換一次；請勿使用舊的 O 型環或者某些非指定用於本產品的 O 型環。
- 將 O 型環從防水罩上取下時，爲防止損壞 O 型環，請使用 O 型環取出器。勿使用金屬物品或者銳器取下 O 型環。
- 取下或安放 O 型環時切勿用力過度，否則可能使 O 型環永久性拉伸變形，導致防水罩進水。

爲防止磨損，請僅使用指定用於本產品的矽潤滑油（🕮 25）。*勿使用 COOLPIX 或 NIKONOS O 型環潤滑劑（潤滑油）或其他類型的矽潤滑油。*

■ 高度改變

由於高度改變而導致的氣壓變化可能會損壞防水罩或使其無法打開，請注意以下事項：

- 航空旅行時，請儘量把防水罩放在您隨身攜帶的背包中。將防水罩打包於托運行李中時，請將其打開或取下 O 型環。
- 從海拔高的地方旅行至海拔低的地方時，請定期打開防水罩以使氣壓均衡。

☑ 重要！

WP-N3 防水罩僅適用於兼容的相機。勿將其他相機裝入 WP-N3。

Tc

目錄

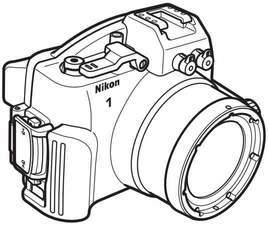
Tc

簡介

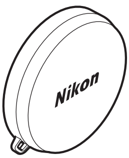
有關隨附配件和防水罩部件的名稱，您可查閱本部分。

包裝內物品

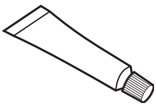
請確認包裝內包含下列物品。若缺少任何物品請與零售商聯絡。



☐ *WP-N3（已裝好 WP-O1100 O 型環；使用之前，請按照第22頁中所述確認 O 型環未損壞）*



☐ *WP-LC1000 前蓋*



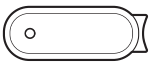
☐ *WP-G1000 矽潤滑油*



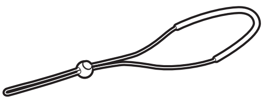
☐ *WP-ZG1020 變焦齒輪套環（用於 1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 鏡頭）*



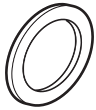
☐ *WP-ZG1010 變焦齒輪套環（用於 1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭）*



☐ *WP-OR1000 O 型環取出器*



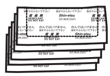
☐ *WP-AN1000 腕帶*



☐ *WP-IS1000 防內反射貼膜（用於 1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 鏡頭）*



☐ *WP-IR1010 防內反射環（用於 1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭）*



☐ *WP-S1000 二氧化矽膠狀乾燥劑（1 包 5 份；打開後重新密封）*

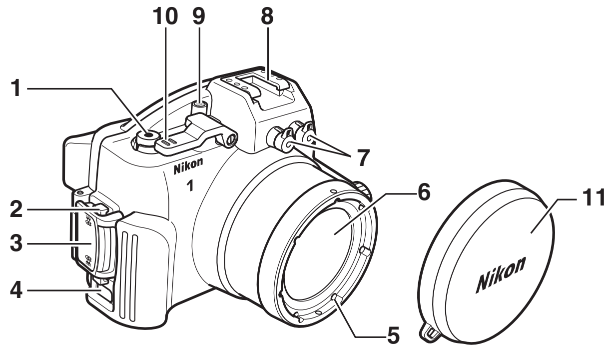
☐ *WP-AN2000 前蓋繩*

☐ *使用說明書（本說明書）*

☐ *保修卡*

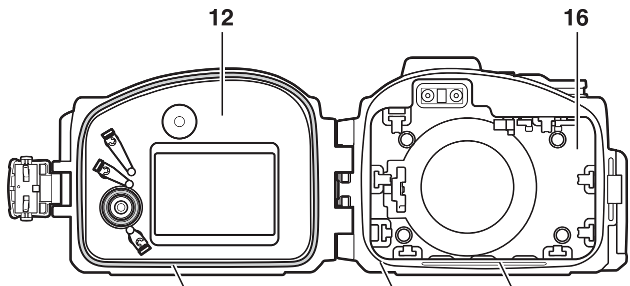
Tc

WP-N3 部件



1 短片記錄按鍵 18
2 鎖扣鬆開鍵 4
3 鎖扣 4
4 腕帶孔 3
5 ⌀67 mm 濾鏡安裝螺紋
6 鏡頭窗 14
7 光纜插口蓋* 16
8 配件插座
9 電源開關 18
10 快門撥桿 18
11 前蓋 .... 3、25

* 使用另購的 SB-N10 水底閃光燈元件時請取下。

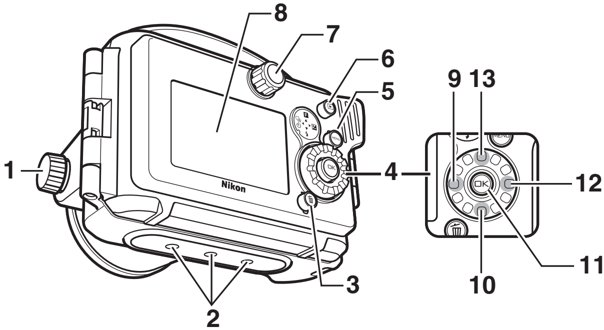


12 後蓋 4
13 O 型環/O 型環導槽 .... 15、22、25
14 O 型環密封蓋 .... 15、22
15 防漏凹槽 .... 15、22
16 前蓋 4

配件插座

配件插座用於水底閃光燈元件以及其他配件；有關安裝和取下的資訊，請參見配件隨附的文件。在陸地上運輸防水罩時，請將配件從配件插座上取下。

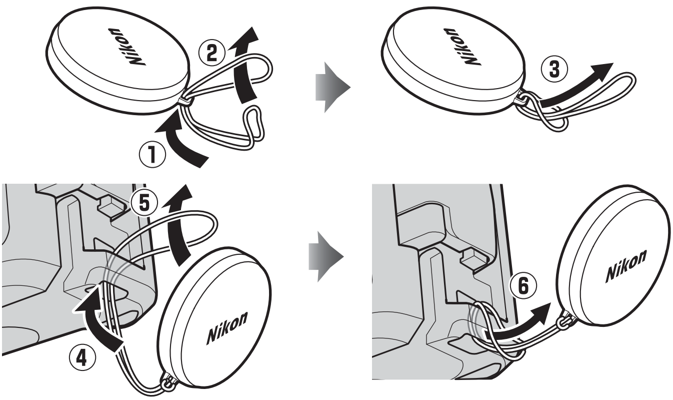
Tc



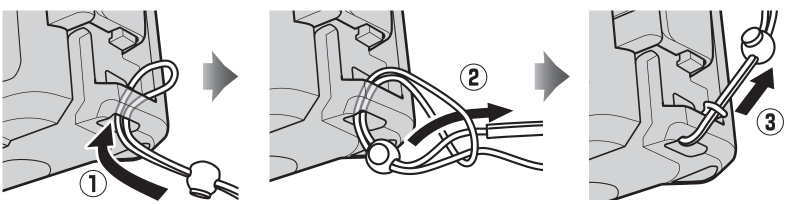
1 變焦撥盤..15、18	8 螢幕窗
2 三腳架插孔	9 連拍/自拍（連拍/自拍）按鍵
3 🗑（刪除）按鍵	10 ⚡（閃光模式）按鍵
4 多重選擇器	11 ㊎（確定）按鍵
5 MENU 按鍵	12 ☒（曝光補償）按鍵
6 ▶（重播）按鍵	13 F（特點）按鍵
7 模式撥盤 *...18	

* 僅適用於 J4

安裝前蓋繩



繫上腕帶



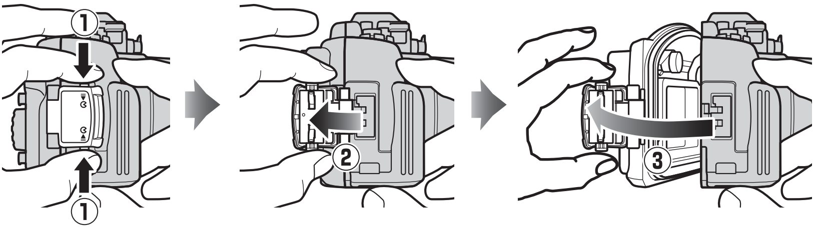
Tc

使用鎖扣

按照以下步驟可解鎖或鎖定防水罩。

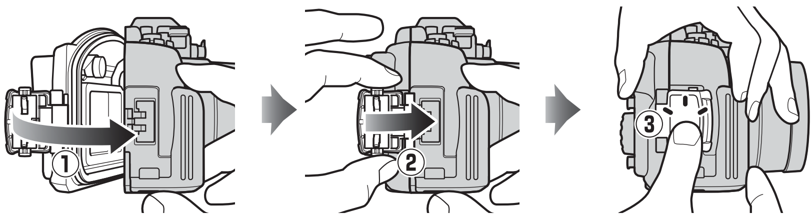
解除防水罩的鎖定

按住鎖扣鬆開鍵（①），同時打開鎖扣（②），然後打開後蓋（③）。



鎖定防水罩

關閉防水罩（①）並將鎖扣翻轉至前半部分（②），然後按下鎖扣將其關閉直至卡入正確位置發出喀嚓聲（③）。檢查防水罩已密封好，O 型環安裝到位，密封蓋（□ 23）中沒有雜質。



✔ 打開防水罩

打開防水罩之前，請確保其完全乾爽且沒有灰塵。在水底使用防水罩後，請用清水清洗以去除所有沙塵或其他雜質，然後用一塊乾的軟布將其完全擦乾。因爲您必須確保防水罩打開時其外部餘留的水珠、沙塵或其他雜質不會掉進防水罩內。切勿在水底操作鎖扣或鎖扣鬆開鍵。

從防水罩中取出相機時，請小心不要將其跌落。

設定

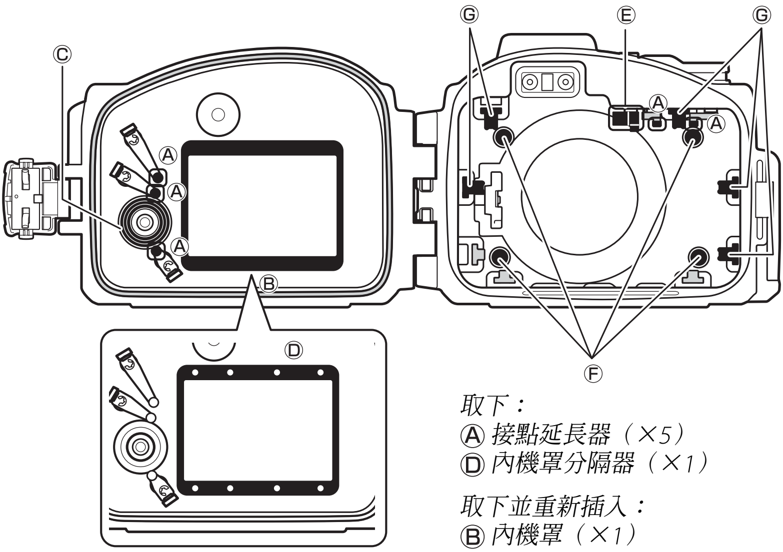
出廠時，本防水罩是為用於 J4 所進行的設定。您可透過可移動部件設定防水罩以用於 S2。更換時請注意不要摔落部件。

為 J4 設定防水罩

本防水罩在出廠時已為用於 J4 進行設定。將其用於 J4 時請不要更改設定。

為 S2 設定防水罩

用於 S2 時，請如下所示設定防水罩。



取下：
Ⓐ 接點延長器（×5）
Ⓓ 內機罩分隔器（×1）

取下並重新插入：
Ⓑ 內機罩（×1）

取下、反轉並重新插入：
Ⓒ 多重選擇器接點（×1）
Ⓔ 電源開關接點（×1）
Ⓕ 前墊（×4）
Ⓖ 側墊（×5）

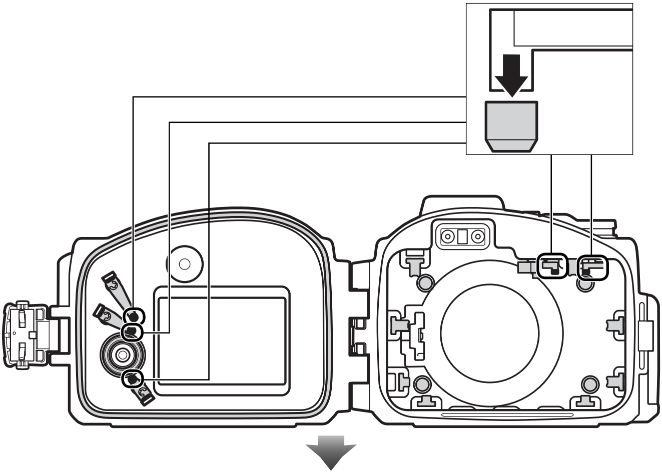
☑ 重要提示！

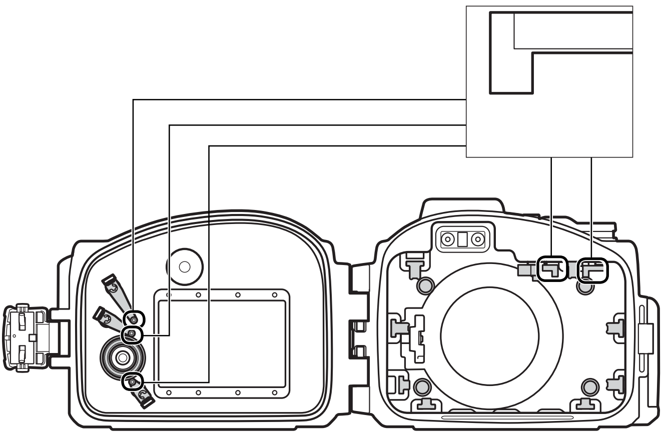
請確保所有部件都已牢固安裝。可移動部件若未完全插入，將可能導致損傷或者漏水而損壞相機。更換部件時，請選擇一個明亮的場所，並小心不要使您的手指受傷或指甲受損。

Tc

將防水罩用於 S2 時，請取下接點延長器、內機罩和內機罩分隔器，然後再重新插入內機罩。

Ⓐ 接點延長器（×5）
取下接點延長器。

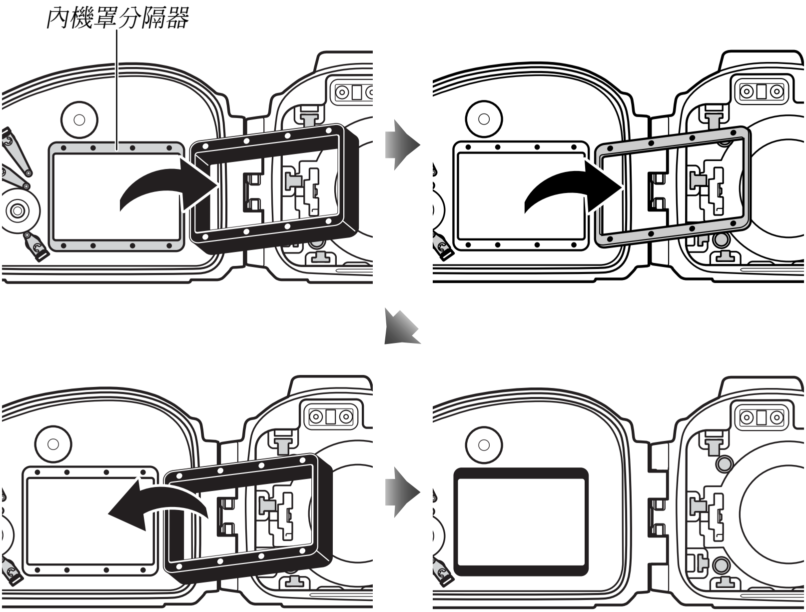




Tc

Ⓑ 內機罩（×1）/Ⓓ 內機罩分隔器（×1）

將防水罩用於 S2 時，請取下內機罩和內機罩分隔器，然後再重新插入內機罩。



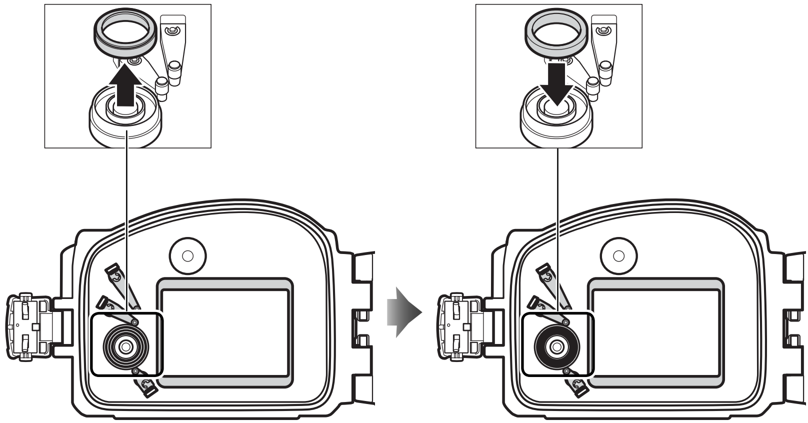
☑ 重要提示！

防水罩用於 S2 時不需要接點延長器和內機罩分隔器。請將它們取下並存放在安全的地方。

S2 用戶還將需要取下、反轉並重新插入多重選擇器和電源開關接點以及前墊和側墊。

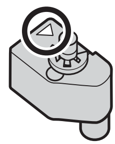
Ⓒ 多重選擇器接點（×1）

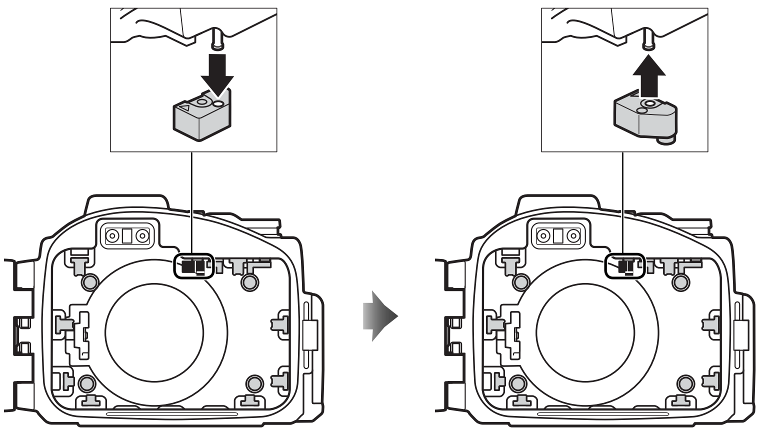
取下接點並按照圖示方向重新插入。



Ⓔ 電源開關接點（×1）

取下接點並將其重新插入三角形頂端的小孔中。

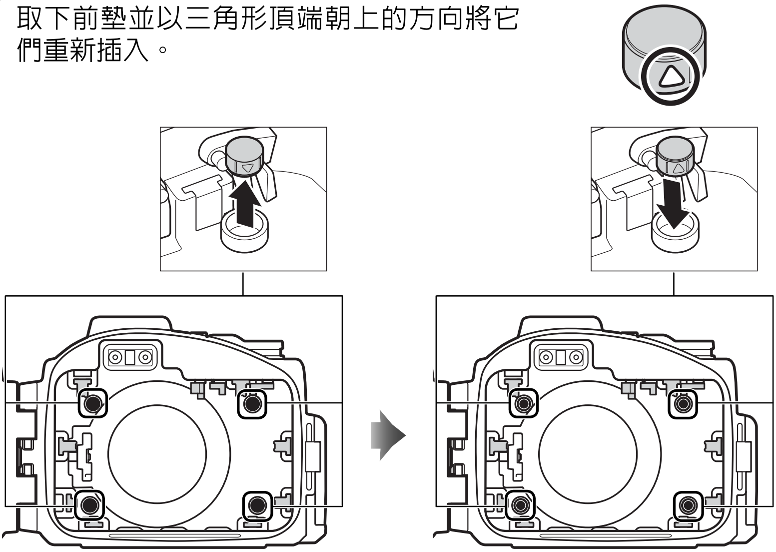




Tc

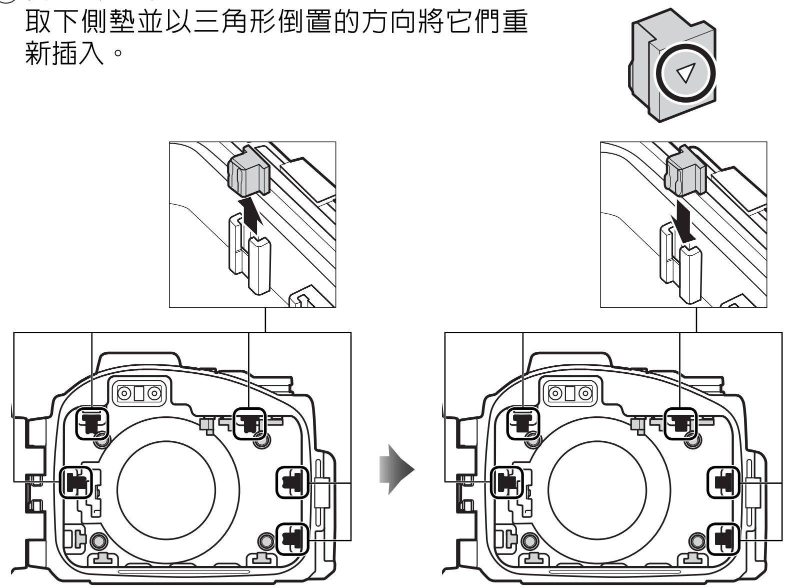
Ⓕ **前墊（×4）**

取下前墊並以三角形頂端朝上的方向將它們重新插入。



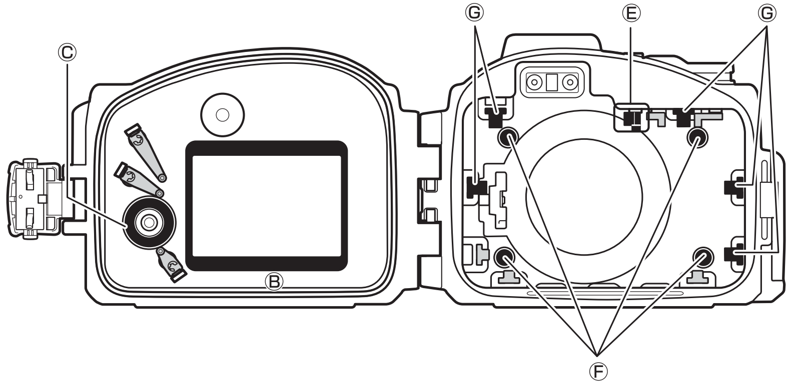
Ⓖ **側墊（×5）**

取下側墊並以三角形倒置的方向將它們重新插入。



Tc

下圖展示了為用於 S2 進行設定後的防水罩。



Ⓐ *多重選擇器接點（×1）*
Ⓑ *內機罩（×1）*
Ⓔ *電源開關接點（×1）*
Ⓕ *前墊（×4）*
Ⓖ *側墊（×5）*

若要將防水罩用於 J4，請將各部件還原為它們的原始設定。

初步滲漏測試

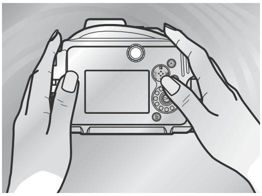
將相機裝入防水罩之前，請按照下文所述鎖定防水罩並將其浸入水中進行滲漏檢測。

☑ 重要！

將相機裝入防水罩之前，請確認相機是否操作正常且防水罩不會進水。使用前若不進行滲漏檢測，將可能對相機造成無法挽回的損壞。請注意，若防水罩破裂或損壞，將可能導致進水。使用前請檢查防水罩是否有裂痕或其他損壞，一旦發現，請諮詢尼康授權服務代表。

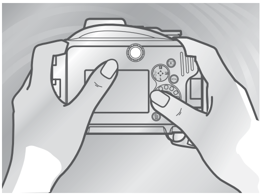
1 鎖定防水罩並將其浸入水中。

鎖定防水罩，然後慢慢將其浸入水中，若有空氣從防水罩內排出，請立即停止。將防水罩浸入水中 2、3 秒並檢查是否有氣泡冒出。請在水深約 1 m 的淺水區，或者在浴缸或水桶中進行檢測。勿使用熱水，因為水溫可能會超過 0–40 ℃ 的操作溫度範圍。



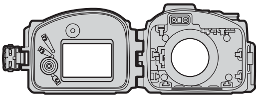
2 檢測控制。

將防水罩浸入水中並在水底操作控制 2 至 3 分鐘，檢查是否有氣泡冒出。



3 檢查防水罩中是否有水進入。

從水中拿出防水罩並用一塊乾的軟布將其完全擦乾，然後打開防水罩檢查是否有水進入。若有水進入防水罩，請檢查 O 型環（📖 15、22-23）。如果無法確定進水的原因，請將防水罩送至尼康授權服務代表處。



Tc

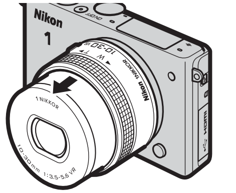
準備鏡頭

請使用 1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 或 1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭。其他鏡頭不可使用。

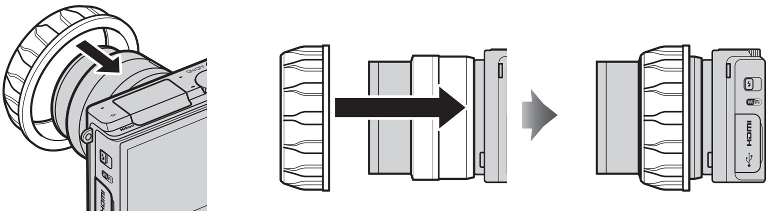
1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 鏡頭

安裝 WP-ZG1020 變焦齒輪套環和 WP-IS1000 防內反射貼膜。

1 安裝並拉長鏡頭。
開啓相機時，鏡頭自動拉長。

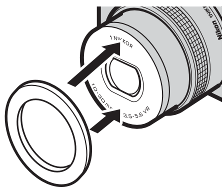


2 安裝變焦齒輪套環。
將變焦齒輪套環徑直滑上鏡頭直至其安裝到位。



安裝變焦齒輪套環後，調整其位置以使變焦環可轉動自如。

3 安裝防內反射貼膜。
如圖所示將貼膜粘貼至鏡頭前端（若貼膜沒有粘性，請使用一塊濕布清潔粘接面）。若在未安裝該貼膜的情況下進行拍攝，鏡頭前部的文字可能會從防水罩鏡頭窗的內面反射回來出現在相片中。貼膜可重複使用；不使用時，請將其貼回原來的背紙上。



4 關閉相機。
鏡頭將自動縮回。

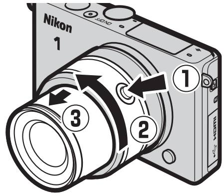
Tc

1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭

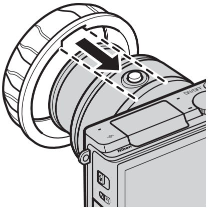
安裝 WP-ZG1010 變焦齒輪套環和 WP-IR1010 防內反射環。

1 **安裝並拉長鏡頭。**

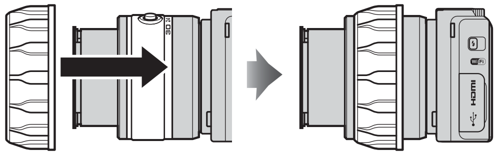
按住可伸縮鏡頭筒按鍵（①），同時旋轉變焦環以拉長鏡頭（②）。請注意，鏡頭拉長時相機將會自動開啓；繼續步驟 2 前請先關閉相機。



2 **安裝變焦齒輪套環。**



將變焦齒輪套環內側的凹槽和可伸縮鏡頭筒按鍵對齊。

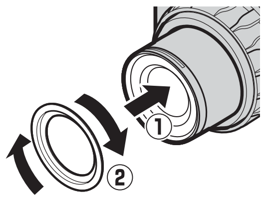


將變焦齒輪套環徑直滑上鏡頭直至其安裝到位。

安裝變焦齒輪套環後，調整其位置以使變焦環可轉動自如。

3 **安裝防內反射環。**

如圖所示將防內反射環安裝至鏡頭前部。若在未安裝該環的情況下進行拍攝，鏡頭前部的文字可能會從防水罩鏡頭窗的內面反射回來出現在相片中。



將相機裝入防水罩

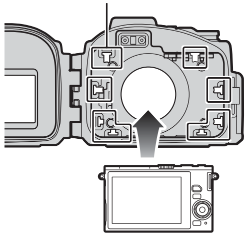
準備好相機進行水底攝影。

1 插入電池和記憶卡。

插入一張記憶卡和一枚充滿電的電池。

2 裝入相機。

將相機放在相機導槽的中央，同時使鏡頭處於鏡頭窗的位置。

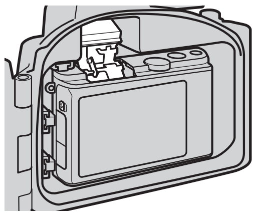


☑ 相機帶

爲確保相機帶不會夾在密封蓋中而導致進水，將相機裝入防水罩之前請務必取下相機帶。

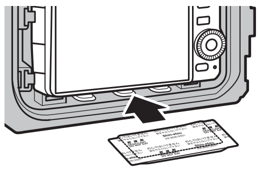
☑ 水底閃光燈元件

若您將使用另購的 SB-N10 水底閃光燈元件，將相機裝入防水罩之前請升起相機內置閃光燈，因爲一旦裝入防水罩，閃光燈將可能無法自動彈出。



3 插入乾燥劑。

為避免在防水罩內部形成結露，請將隨附的二氧化矽膠狀乾燥劑插入相機底部和防水罩之間。注意將乾燥劑滑入前方，使其不影響防水罩的關閉。放置不當將可能導致防水罩進水。



更換乾燥劑

用過的乾燥劑會喪失吸濕能力。我們建議您每次使用防水罩後都更換乾燥劑（□ 25）。

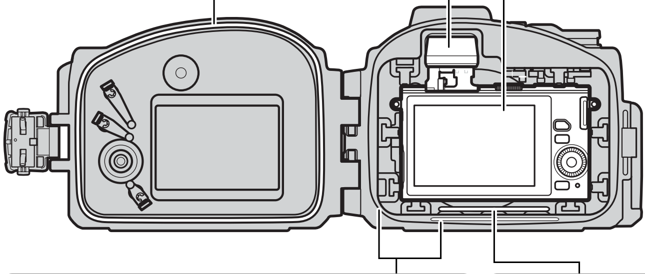
Tc

4 執行最終檢查。

檢查 O 型環：
- *破裂或損壞？請更換。*
- *扭曲或錯位？請重新放置。*
- *清除所有毛髮、灰塵、沙子和其他雜質。*

檢查內置閃光燈：若您正在使用水底閃光燈元件，請確保內置閃光燈升起；否則，請務必降下閃光燈。

檢查相機：
- *確保相機方向正確（🕮 14）。*
- *取下相機帶。*



檢查 O 型環密封蓋和防漏凹槽：清除所有液體、毛髮、灰塵、沙子和其他雜質。

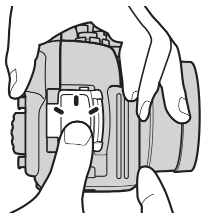
檢查乾燥劑：確認乾燥劑已正確放置（🕮 14）。

檢查鏡頭：
- *變焦環是否旋轉順利並能夠調整變焦？如果不行，請重新定位變焦齒輪套環。*
- *確認防內反射貼膜或防內反射環已正確安裝（🕮 12、13）。*

Tc

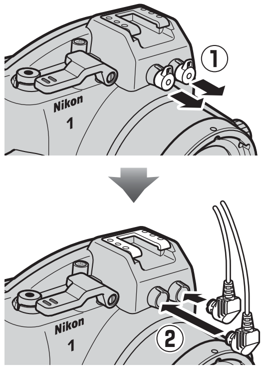
5 關閉防水罩。

關閉並鎖定防水罩。



水底閃光燈元件

防水罩配有2個光纜插口，從而可透過另購的SC-N10A 水底光纜連接另購的 SB-N10 水底閃光燈元件並使用相機內置閃光燈進行控制。使用水底閃光燈元件時，請取下任一光纜插口蓋（①；請注意，雖然取下插口蓋並不會有進水的風險，但是不使用的插口應蓋好蓋子）並連接水底光纜（②）。在水底使用閃光燈之前，請先試拍一張照片以確認閃光燈是否正常運作。有關詳情，請參見相機說明書以及閃光燈元件隨附的文件。



Tc

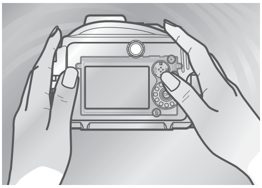
最終滲漏測試

將相機裝入並關閉防水罩後，請執行最終滲漏檢測。

重要！

使用之前，請確定相機操作正常且防水罩不會進水。使用前若不進行滲漏檢測，將可能對相機造成無法挽回的損壞。

請按照“初步滲漏測試”（📖 11）中所述將防水罩浸入水中進行滲漏檢測。完成測試後，打開防水罩並檢查乾燥劑是否乾燥且防水罩中是否有水進入。若檢測到進水，請立即完全擦乾相機和防水罩，並檢查 O 型環是否完好無損，防水罩是否密封好。如果無法確定進水的原因，請將防水罩送至尼康授權服務代表處。



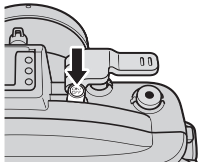
Tc

拍攝照片

請按照以下步驟在水底拍攝照片。

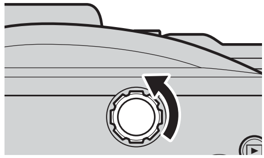
1 開啓相機。

按下防水罩上的電源開關開啓相機。電源燈將點亮綠色，並且螢幕將會開啓（若要關閉相機，請再次按下電源開關並確認螢幕已關閉）。



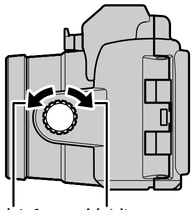
2 選擇一種模式。

旋轉模式撥盤選擇一種模式（J4）或者按下MENU按鍵並從選單中選擇一種模式（S2）。有關選擇模式的詳細資訊，請參見相機說明書。



3 構圖。

旋轉變焦撥盤進行拉近或拉遠。

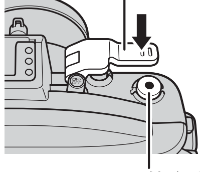


Tc

4 拍攝照片。

相片：輕輕按下快門撥桿以半按相機快門釋放按鍵並對焦，然後完全按下快門撥桿以釋放快門並拍攝相片。

短片：按下短片記錄按鍵可開始或結束記錄。



水底攝影

水底攝影的最佳時間是太陽直射的時候（請注意，在水底所拍的照片可能具有藍色氛圍）。強光源可能導致照片中出現反射；請在拍攝前檢查螢幕並根據需要更改角度。拍攝期間，請保持手指和其他物體遠離鏡頭窗並避免呼出的氣泡進入構圖畫面範圍中。不使用相機時，請在鏡頭窗上蓋上前蓋。

AF 輔助照明燈

相機裝於防水罩中時，AF 輔助照明燈無法使用。

自動關閉電源

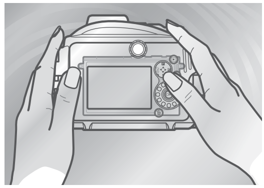
若在設定的時間內未執行任何操作，螢幕將關閉且電源燈將閃爍。若螢幕關閉後在設定的時間內未執行任何操作，相機將自動關閉。有關詳情，請參見相機說明書。

使用之後

清潔防水罩並取出相機。

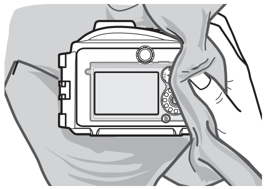
1 清洗防水罩。

使用過後儘快清潔防水罩。請在一盆清水中直接清洗防水罩，不要打開防水罩也不要取出相機。



2 擦乾水。

用一塊乾的軟布將防水罩的外部完全擦乾。

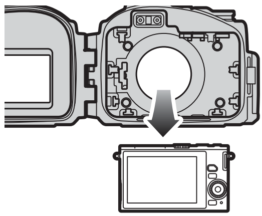


☑ 擦乾防水罩

請注意擦去鎖扣、控制、腕帶孔或前蓋繩孔中可能集結的水珠。

3 取出相機。

取出相機並用一塊乾的軟布將防水罩的內部擦乾。勿用水清洗防水罩內部。



Tc

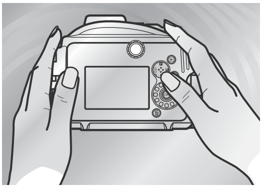
☑ 取出相機

切勿在水底操作鎖扣或鎖扣鬆開鍵。打開防水罩之前，請確保您的雙手乾燥且不沾有鹽分或沙子；勿在有飛沙或水霧的地方打開防水罩。取出相機時，請注意不要跌落裝置，並確保您的頭髮、身體或其他物體上的水珠不要滴落在防水罩內或相機上。若水珠滴落在相機上或防水罩內，請立即用軟布擦乾。操作相機或電池之前，請確保您的雙手乾燥且不沾有鹽分或沙子。

請保持防水罩垂直；勿以 O 型環或 O 型環密封蓋朝下的方式放置打開的防水罩。

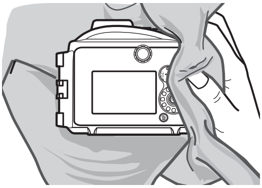
4 用清水浸泡防水罩。

重新密封好防水罩並置於一盆清水中 2 至 3 小時。將每個控制操作幾次以去除鹽分。若鹽分殘留在控制上並變乾，這些控制可能會失去作用，或者它們的金屬部分可能生銹，導致防水罩進水。



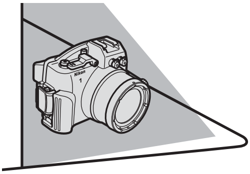
5 擦乾水。

用一塊乾的軟布將防水罩完全擦乾。勿使用沾有鹽分的布。



6 在陰涼處晾乾防水罩。

將防水罩置於陰涼、通風良好的地方晾乾。



Tc

☑ 切勿置於陽光底下或靠近熱源

勿使用吹風機或其他熱源，也不要將防水罩置於直射陽光下。熱量可能使防水罩或 O 型環受損，導致進水。

☑ 清潔防水罩的內部

請使用吹氣球、刷子或濕軟布去除防水罩內部的雜質。液體可用濕軟布清除。使用軟布時，請小心不要刮擦防水罩；切勿用力過度。勿使用清水、清潔劑或任何一種化學試劑。清水會損壞鏡頭窗內面的塗層。

保養

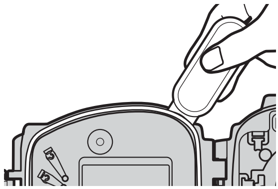
本部分介紹了如何保養 O 型環和防水罩。

O 型環的保養

WP-N3 使用 O 型環以形成防水密封蓋。O 型環操作不當將可能導致進水。每次使用前請按照以下所述檢查 O 型環的狀況，並在每次打開防水罩時檢查 O 型環上是否有雜質，即使是短暫使用時這些檢查也必不可少。

1 **取下 O 型環**。

如圖所示使用 O 型環取出器取下 O 型環。

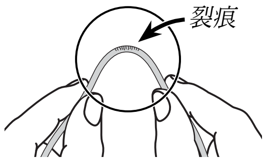


☑ 切勿用力過度或使用尖銳物品

若 O 型環被過度用力拉伸或者由於使用鋒利或尖銳的物品（包括指甲和金屬工具）而損壞，防水罩將可能進水。

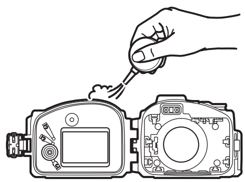
2 **檢查 O 型環**。

使用軟布去除舊的矽潤滑油和其他雜質，同時注意不要遺留布屑或線頭在 O 型環上。輕輕彎曲 O 型環以檢查是否有裂痕或其他損壞。



3 **檢查 O 型環導槽**。

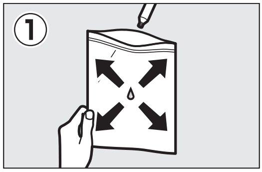
使用吹氣球或棉簽去除防漏凹槽以及防水罩上與 O 型環接觸的所有部位上的雜質。請務必去除棉簽遺留下的所有棉絲。

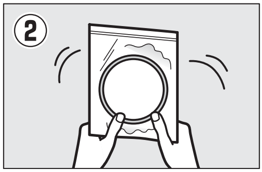


Tc

4 潤滑 O 型環。

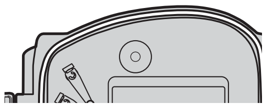
若 O 型環沒有得到適當的潤滑，其可能破裂或脫落，導致進水。若表面看起來比較乾燥，請將其潤滑。首先，將約 1 cm 長的矽潤滑油擠入塑膠袋，然後用手指輕捏塑膠袋使潤滑油塗遍整個塑膠袋（①）。接下來，裝入 O 型環並輕揉塑膠袋將潤滑油塗在環上（②）。請僅使用指定用於 WP-N3 的潤滑油。勿使用布或紙巾塗抹潤滑油，因為它們可能會在 O 型環上留下纖維。請注意，塗抹過多的潤滑油可能導致雜質更容易粘附在 O 型環上，從而妨礙防水罩完全密封。

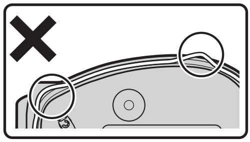




5 套上 O 型環。

確認 O 型環和導槽中沒有雜質後，將 O 型環沿 O 型環導槽均勻水平地裝於防水罩上，注意勿過度拉伸或扭曲也不要從導槽突出。





Tc

☑ O 型環

O 型環需要定期更換。若 O 型環損壞、破裂、變形或失去彈性，請立即更換。O 型環應每年至少更換一次。請僅使用指定用於本產品的矽潤滑油；用來更換的 O 型環和矽潤滑油可從尼康相機零售商或尼康授權服務代理商處購買。勿使用 COOLPIX 或 NIKONOS O 型環潤滑劑（潤滑油）。

☑ 清潔

清潔防水罩或 O 型環時勿使用清潔劑或揮發性化學物質（如酒精或稀釋劑），否則可能會損壞防水罩或 O 型環。

存放

請將防水罩存放在陰涼、通風良好的地方，同時讓防水罩保持打開狀態以防止 O 型環損壞。若在較長時間內不使用防水罩，請取下 O 型環，去除所有舊的矽潤滑油，塗上新的矽潤滑油，然後將 O 型環放入乾淨的塑膠袋中以確保其保持彈性。勿將防水罩存放在直射陽光下或者置於溫度突變或高濕度的地方。勿將防水罩或 O 型環置於其他物體下方，勿將它們存放在明火、易燃物品附近，也不要將它們與石腦油或樟腦丸一起存放。

Tc

☑ 保養

尼康建議您，每年至少將防水罩送至尼康授權服務代表處進行一次保養。此服務需付費。

技術規格

最大水深	45 m
相機操作溫度	0℃ 至 40℃
尺寸（寬×高×厚）	約 156.4 × 115.8 × 113.0 mm（不包括突起部分）
重量	約 735 g（僅主體部分）

爲改進本產品，我們有可能更改其技術規格和外觀，恕不另行通知。對因本說明書可能包含的錯誤而造成的損害，尼康公司不承擔法律責任。除非另有說明，否則所有測量都是在相機與影像產品協會（CIPA）指定的溫度 23 ±3 ℃下進行的。

可單獨購買的配件

尼康提供以下可選擇和替代的物品：

- WP-ZG1020 變焦齒輪套環（用於 1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 鏡頭）
- WP-ZG1010 變焦齒輪套環（用於 1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭）
- WP-IS1000 防内反射貼膜（用於 1 尼克爾 VR 10-30mm f/3.5-5.6 PD-ZOOM 鏡頭）
- WP-IR1010 防内反射環（用於 1 尼克爾 11-27.5mm f/3.5-5.6 鏡頭）
- WP-O1100 O 型環
- WP-OR1000 O 型環取出器
- WP-LC1000 前蓋
- WP-AN1000 腕帶
- WP-AN2000 前蓋繩
- WP-G1000 矽潤滑油
- WP-S1000 二氧化矽膠狀乾燥劑
- SB-N10 水底閃光燈
- SC-N10A 水底光纜
- SK-N10A 水底托架

WP-N3 방수 케이스

사용설명서

Kr

WP-N3 방수 케이스에 Nikon 1 J4나 S2를 넣으면 비와 눈으로부터 카메라를 보호하고 이 방수 케이스를 사용하여 수중 촬영을 수심 45 미터까지 할 수 있습니다. 이 제품을 사용하는 누구나 읽을 수 있는 곳에 본 설명서를 보관하고, 사용하기 전에 반드시 본 설명서와 카메라 설명서를 끝까지 읽어 주십시오.

설명서에 사용된 기호

필요한 정보를 손쉽게 찾으시도록 다음 기호를 사용합니다.

이 아이콘은 주의, 즉 카메라나 방수 케이스의 손상을 방지하기 위해 사용하기 전에 읽어야 하는 정보를 나타냅니다.

이 아이콘은 주(註), 즉 제품을 사용하기 전에 읽어야 하는 정보를 나타냅니다.

이 아이콘은 이 설명서의 다른 페이지를 참조하라는 의미입니다.

중요: 사용하기 전에 읽기

물 속이나 물 가까이에서 방수 케이스를 사용하기 전에, 본 설명서의 11 및 17 페이지 설명 대로 누수 확인을 해 주십시오.

⚠ 안전상의 주의

제품을 맨처음 사용하기 전에 먼저 "안전상의 주의" (iii–vii)에 기재된 안전 지침을 읽어보십시오.

Kr

평생 교육

지속적인 제품 지원과 교육에 대한 Nikon 의 "평생 교육" 의 일환으로 하기의 사이트에서 지속적으로 업데이트되는 온라인 정보를 보실 수 있습니다.

- **한국 사용자** : *http://www.nikon-image.co.kr/*
- **미국 사용자** : *http://www.nikonusa.com/*
- **유럽 및 아프리카 사용자** : *http://www.europe-nikon.com/support/*
- **아시아 , 오세아니아 , 중동 사용자** : *http://www.nikon-asia.com/*

최신 제품 정보 , 팁 , 자주 묻는 질문 (FAQ) 에 대한 답변 및 디지털 이미지와 사진촬영에 관한 일반 권고의 최신 정보를 확인하시려면 이 사이트를 방문하시기 바랍니다 . 그 밖의 정보는 가까운 Nikon 판매점에서 얻으실 수 있습니다 . 자세한 내용은 *http://imaging.nikon.com/* 을 방문하십시오.

안전상의 주의

Nikon 제품의 손상 또는 사용자나 타인의 부상을 미연에 방지하기 위해 본 제품을 사용하기 전에 안전상의 주의를 빠짐없이 읽어주십시오. 이 안전 지침은 모든 사용자가 언제든지 볼 수 있는 곳에 보관하여 주십시오.

여기에 기재된 안전상의 주의를 지키지 않아 초래될 수 있는 결과에 대해서는 다음과 같은 기호로 표시되어 있습니다.

⚠ 이 아이콘은 경고를 나타냅니다. 상해를 방지하기 위해 Nikon 제품을 사용하기 전에 모든 경고를 읽어 주십시오.

▮ 경고

⚠ ***분해하지 마십시오***. 이 주의사항을 지키지 않으면 부상이나 제품 오작동을 초래할 수 있습니다. 떨어뜨리거나 기타 사고로 인해 제품이 파손된 경우, 파손된 부품에 다치지 않도록 주의하면서 니콘 서비스 지정점에 수리를 의뢰하여 주십시오.

⚠ ***오작동 시 즉시 카메라를 끄십시오***. 장비에서 연기가 나거나 이상한 냄새가 날 때, 배터리를 카메라에서 바로 꺼내서 타지 않도록 하십시오. 계속 작업할 경우 다칠 수 있습니다. 카메라에서 배터리를 제거한 후 니콘 서비스 지정점에 장비 수리를 의뢰하여 주십시오.

⚠ ***인화성 가스가 있는 곳에서 사용하지 마십시오***. 인화성 가스가 있는 곳에서는 전자 장비를 사용하지 마십시오. 폭발이나 화재의 위험이 있습니다.

⚠ ***고온에 노출시키지 마십시오***. 밀폐된 차량이나 직사광선이 내리쬐는 곳과 같이 온도가 너무 높은 곳에 제품을 두지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 손상이나 화재의 위험이 있습니다.

⚠ ***플래시를 사용할 때 주의하십시오***.
- 플래시를 피사체의 눈 가까이에서 터뜨리면 일시적으로 눈이 보이지 않을 수 있습니다. 피사체에서 1m 이내에 플래시를 사용하여 유아를 촬영할 때는 특별한 주의를 기울여야 합니다.
- 플래시를 자동차 운전자를 향해 터뜨리지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 사고를 초래할 수 있습니다.

⚠ ***어린이의 손에 닿지 않게 하십시오***. 이 주의사항을 지키지 않으면 다칠 수 있습니다. 게다가 작은 부품은 삼킬 시 질식의 위험이 있습니다. 만일 어린이가 이 제품의 부품을 삼킨 경우에는 즉시 의사의 진료를 받아 주십시오.

⚠ ***유아나 어린이의 목 주위에 스트랩을 두지 마십시오***. 유아나 어린이의 목 주위에 스트랩을 둘 경우 질식사의 위험이 있습니다.

⚠ ***들고 있는 동안 물속으로 뛰어들지 마십시오***. 케이스에 몸이 부딪혀 다치지 않으려면, 방수 케이스를 들고 있는 동안 점프하거나 물속으로 뛰어들지 마십시오.

⚠ ***카메라 배터리를 다룰 때에는 적절한 주의를 기울여 주십시오***. 배터리를 잘못 다루면 누액이 생기거나 폭발할 수 있습니다. 카메라 배터리를 다룰 때에는 다음과 같은 주의사항을 지켜주십시오.

- 카메라에는 사용 승인된 배터리만 사용하십시오.
- 배터리는 완전 방전 시 누액이 발생하기 쉽습니다. 사용하지 않을 때는 카메라를 케이스에서 제거하십시오.
- 케이스에 물이 들어가면, 즉시 카메라에서 배터리를 제거하십시오.
- 배터리 단자를 건조한 상태로 유지하십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 부상이나 제품 오작동을 초래할 수 있습니다.

⚠ ***맑은 날에 직사광선 아래 두지 마십시오***. 케이스가 햇빛을 모아서 화재를 일으킬 수 있습니다.

⚠ ***45m 를 넘는 깊은 곳에서 사용하지 마십시오***. 이 주의사항을 지키지 않으면 누액이나 기타 오작동을 초래할 수 있습니다.

⚠ ***케이스를 방수상태로 유지하십시오***. 케이스를 고압 제트로 청소하지 마십시오. 먼지나 모래에 노출될 수 있는 곳에서 케이스를 열지 말고, 케이스를 닫기 전에 O 링 및 O 링과 접촉된 케이스의 부품에서 이물질을 반드시 제거하십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 누수가 생길 수 있습니다.

⚠ ***고온에 노출시키지 마십시오***. 제품을 40° C 이상의 온도에 노출시키지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 제품이 틀어져 누수될 수 있습니다.

⚠ ***사용 중 제품을 덮지 마십시오***. 열이 쌓이면 케이스가 틀어지거나 불이 날 수도 있습니다.

⚠ ***케이스에 카메라를 보관하지 마십시오***. 카메라 배터리에서 방출된 가스가 케이스에 쌓이면 폭발이나 불이 날 수 있습니다.

⚠ ***실리콘 그리스나 실리카겔(건조제)을 먹지 마십시오***. 이 제품들은 먹을 수 없습니다.

Kr

주의 사항

Nikon 제품을 지속적으로 사용하시려면 기기를 저장하거나 사용할 때 다음의 주의 사항을 지켜주십시오.

■ 방수

케이스를 수중이나 물 가까이에서 사용할 때에는 다음의 주의 사항을 준수하여 주십시오.

- 사용하기 전에, 본 설명서의 11 및 17 페이지 설명대로 누수가 되는지 케이스를 시험해 보십시오.
- 본 케이스는 (풀장, 강, 호수 등) 민물과 바닷물에서만 방수됩니다. 온천이나 목욕탕에서 사용하지 마십시오.
- 45미터 이상의 깊이나 급류, 폭포, 세게 틀어 놓은 수돗물, 또는 수압이 높은 물속에 노출하지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 손상, 변형, 누수의 원인이 되는 고압에 케이스가 노출될 수 있습니다.
- 물에 노출되면 카메라를 손상할 수 있습니다. 물이 들어 오지 않게 하려면, 케이스가 젖어 있을 때나 수중, 수상, 물가 또는 물보라, 바람, 모래, 먼지 등에 노출된 곳에서 젖은 손으로 케이스를 열지 마십시오. 삽입 전에 카메라가 말라 있는지 확인하십시오. 케이스가 누수되면, 즉시 사용을 중단하고, 카메라와 케이스 내부를 말리고, 니콘 서비스 지정점에 카메라와 케이스를 가지고 가십시오.
- 케이스를 밀봉하기 전 또는 O 링을 설치할 때, O 링이 뒤틀어져 있거나 제자리에 있지 않은지 확인하고 케이스 내부와 O 링, 방수가드, O 링과 접촉된 케이스의 어느 부품이라도 점검하고 액체, 흙, 머리카락, 보풀, 먼지, 모래 및 기타 이물질이 없는지 주의 깊게 살펴보십시오. 이 표면에 있는 물이나 다른 액체는 부드럽고 건조한 천으로 즉시 제거해야 합니다. 이물질을 블로어로 제거해야 하며, 방수 가드의 측면과 구석에서 반드시 작은 입자라도 제거해야 합니다. 케이스 외부의 이물질은 부드럽고 건조한 천으로 제거할 수 있습니다. 비누, 세제, 다른 화학 약품을 사용하지 말고, 반드시 선탠 오일, 자외선 차단제, 목욕 소금, 세제, 비누, 유기용제, 기름, 알코올 등을 즉시 제거해야 합니다.
- 스티커를 케이스에 바르지 말고 WP-N3 (📖 25)와 함께 사용하도록 특별히 고안되지 않은 실란트, 안티포그 화학 약품, O 링 윤활유, 실리카젤(건조제)을 사용하지 마십시오.
- 영하 추위에 노출된 곳 또는 밀폐된 차 안이나, 선박 갑판 위, 해변 위, 직사광선이 내리쬐는 곳이나 히터 근처 등 고온 지역에 케이스를 장기간 내버려두지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 방수 기능이 저해될 수 있습니다.
- 케이스를 때리거나 떨어뜨리거나, 무거운 물체 아래 두면 방수를 보증하지 않으며 제품에 강한 압력이나 심한 물리적 충격이나 진동이 가해지면, 방수가 보장되지 않습니다. 떨어뜨리거나 기타 물리적 충격이 가해지면 니콘 서비스 직원에게 케이스를 가지고 가서, 여전히 방수되는지 점검하도록 하십시오. 이 서비스는 유료일 수 있습니다.
- 사용자 실수로 인한 손상은 보증이 되지 않습니다.

■ 충격 방지
방수 케이스는 충격이나 진동에서 카메라를 보호하도록 설계되어 있지 않습니다. 케이스를 떨어뜨리거나 단단한 물체에 부딪히거나 물에 던지거나 케이스를 들고 물로 뛰어들거나 진동이 심한 곳에 두지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 카메라에 손상이 생길 수 있습니다.

■ 작동 환경
다음의 주의 사항 참고:

- 저온에서는 카메라가 켜진 후 예상대로 바로 작동하지 않을 수 있으며 배터리 성능이 떨어질 수 있습니다. 여분의 배터리는 따뜻한 곳에 두었다가 필요 시 교체하십시오.
- 추운 환경에서는 눈과 비를 바로 제거하십시오. 조작 컨트롤이 얼게 되면 조작하기가 어려울 수 있습니다.
- 차가운 금속에 장시간 노출되면 노출된 피부에 손상이 생길 수 있습니다. 저온에서 케이스를 장시간 사용할 때 장갑을 사용하십시오.
- 차 안이나, 히터 근처, 해변 위, 직사광선이 내리쬐는 곳 등 고온에 노출된 곳에 케이스를 두지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 케이스가 약해지거나 틀어져 카메라에 손상이 생길 수 있습니다. 온도가 급격하게 바뀌면 케이스 내부에 응결이 생겨 카메라에 손상이 생길 수 있습니다. 응결을 방지하려면:
  - 한 곳에서 현저하게 따뜻하거나 추운 다른 곳으로 이동할 때, 케이스가 주변 온도에 이를 때까지 카메라를 케이스 안에 넣어둡니다.
  - 본 설명서의 14 페이지 설명대로 제공된 건조제(실리카젤)를 카메라와 함께 케이스안에 넣어주십시오.
  - 물에 들어가기 전에 해변 위나 직사광선이 내리쬐는 곳에 두어서 케이스를 고온에 노출하지 마십시오.

Kr

▮▮ O 링
O 링을 다룰 때에는 다음과 같은 주의사항을 지켜주십시오.
- O 링은 주기적으로 교체해 주어야 합니다. O 링이 손상되었거나 금이 갔거나 틀어졌거나 탄력성을 잃었다면 즉시 교체하십시오. O 링은 적어도 1년에 한 번은 교체해야 하며, 낡은 O 링이나 본 제품 용도로 설계되지 않은 유사 O 링을 사용하지 마십시오.
- O 링에 손상을 방지하려면, 케이스에서 링을 제거할 때 O 링 리무버를 사용하십시오. O 링을 뺄 때 금속 물체나 뾰족한 끝이 있는 물체를 사용하지 마십시오.
- O 링을 빼거나 제자리에 놓기 위해 힘을 가하지 마십시오. 지나치게 힘을 가하면 링이 늘어나서 케이스에 누수가 생길 수 있습니다.
- 마모를 방지하기 위해 이 제품 용도로 설계된 실리콘 그리스만 사용하십시오(📖 25). *COOLPIX나 NIKONOS O 링 윤활제(그리스) 또는 다른 종류의 실리콘 그리스를 사용하지 마십시오.*

▮▮ 고도 변경
고도 변화로 인해 공기압이 변하면 케이스가 파손되거나 열리지 않을 수 있습니다. 다음과 같은 주의사항을 지켜주십시오.
- 가능하다면 항공 여행할 때 기내 휴대용 가방에 케이스를 넣어 두십시오. 맡기는 수하물 속에 케이스를 넣을 때에는 케이스를 열어 두거나 O 링을 제거합니다.
- 높은 고도에서 낮은 고도로 여행할 때 기압을 같게 하기 위해 케이스를 정기적으로 열어 줍니다.

☑ 중요!

WP-N3 방수 케이스은 호환 카메라와만 사용하십시오. 다른 카메라를 WP-N3에 넣지 마십시오.

차례

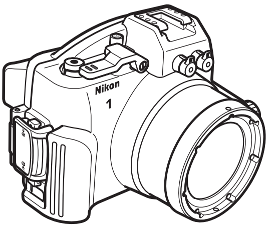
Kr

사용하기 전에

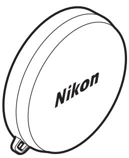
제공된 액세서리와 방수 케이스 부품의 명칭은 아래 부분을 참조하십시오.

포장 내용물

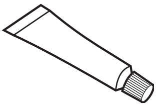
포장물이 아래 열거한 항목을 포함하고 있는지 확인하십시오. 빠진 것이 있다면 구입한 소매점에 연락하십시오.



☐ *WP–N3(WP–O1100 O 링 착용 상태, 사용하기 전에 22 페이지의 설명대로 O 링이 손상되지 않았는지 확인합니다)*



☐ *WP–LC1000 앞캡*



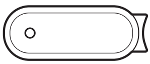
☐ *WP–G1000 실리콘 그리스*



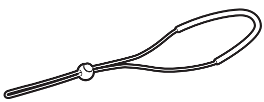
☐ *WP–ZG1020 줌 기어 슬리브 (1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD–ZOOM 렌즈용)*



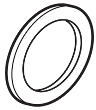
☐ *WP–ZG1010 줌 기어 슬리브 (1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 렌즈용)*



☐ *WP–OR1000 O 링 리무버*



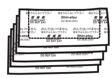
☐ *WP–AN1000 스트랩*



☐ *WP–IS1000 내부 반사 방지 스티커 (1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD–ZOOM 렌즈용)*



☐ *WP–IR1010 내부 반사 방지 링 (1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 렌즈용)*



☐ *WP–S1000 실리카겔(건조제) (5개 1 팩, 개봉 후 재밀봉)*

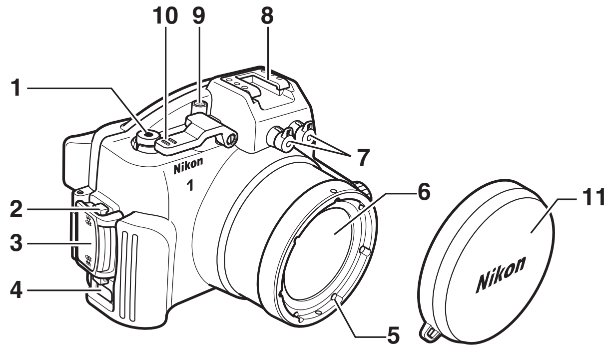
☐ *WP–AN2000 앞캡 스트랩*

☐ *사용설명서 (본 설명서)*

☐ *보증서*

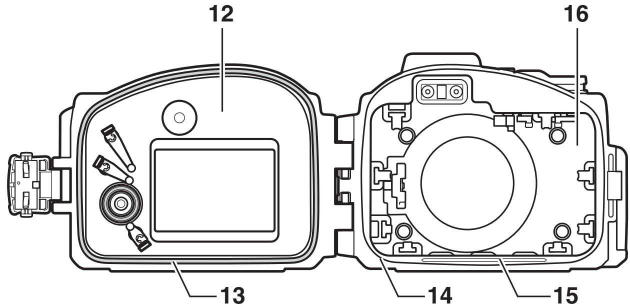
Kr

WP-N3의 부품



1 동영상 녹화 버튼 18
2 버클 분리 버튼...................... 4
3 버클 4
4 스트랩 연결부 3
5 ⌀67mm 필터 부착 쓰레드
6 렌즈 윈도우 14
7 광섬유 케이블 소켓 캡* 16
8 액세서리 슈
9 전원 스위치 18
10 셔터 레버...........................18
11 앞캡 3, 25

*별매 SB- N10 수중 플래시를 사용할 때 제거합니다.

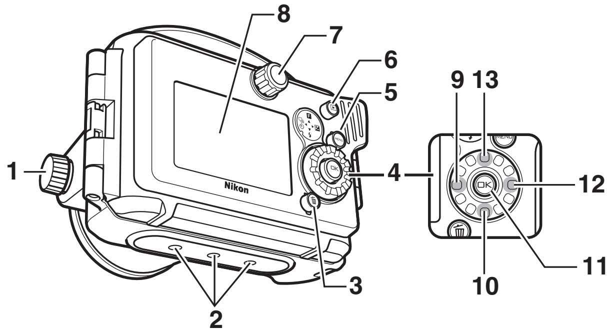


12 뒷 커버 4
13 O 링/O 링 홈 15, 22, 25
14 O 링 접촉면..................15, 22
15 방수가드.......................15, 22
16 앞 커버 4

액세서리 슈

액세서리 슈는 수중 플래시와 다른 액세서리용으로 사용됩니다. 탈부착에 관한 정보는 액세서리와 함께 제공된 설명서를 참조하십시오. 방수 케이스를 지상에서 운송할 때 액세서리 슈에서 액세서리를 제거합니다.

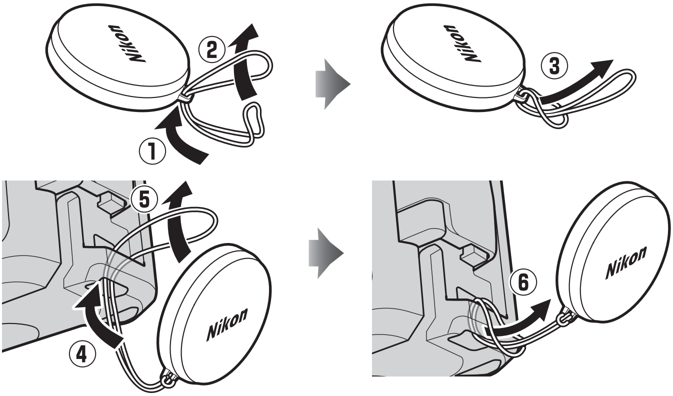
Kr



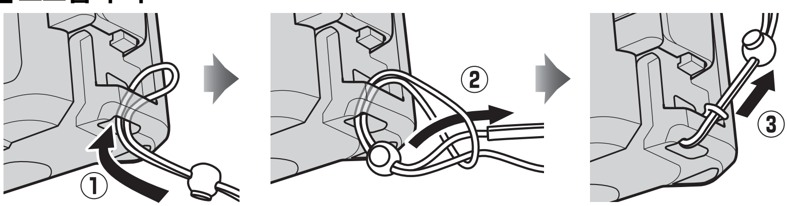
1 줌 다이얼 15, 18
2 삼각대 소켓
3 🗑 (삭제) 버튼
4 멀티 셀렉터
5 MENU (메뉴) 버튼
6 ▶ (재생) 버튼
7 모드 다이얼* 18
8 액정모니터 윈도우
9 (연사 촬영 / 셀프타이머) 버튼
10 (플래시 모드) 버튼
11 ⓞⓚ (OK) 버튼
12 (노출 보정) 버튼
13 F (특수기능) 버튼

* J4 전용

앞캡 스트랩 부착



스트랩 부착



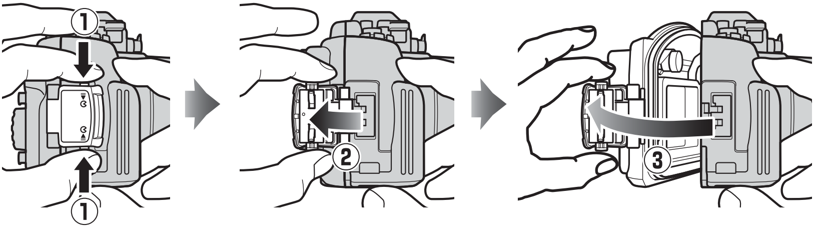
Kr

버클 사용

아래 단계에 따라 케이스를 열거나 잠급니다.

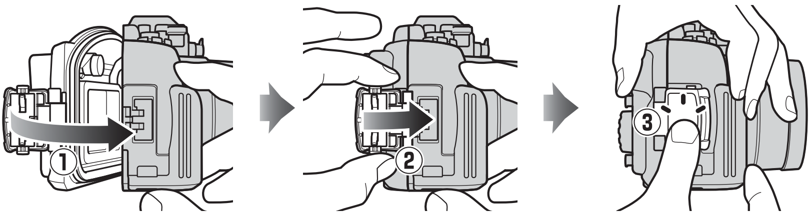
케이스 잠금 풀기

버클 분리 버튼을 누른 상태에서(①), 버클 열고(②) 그 다음에 뒷 커버를 엽니다(③).



케이스 잠그기

케이스를 닫고(①) 전면 반쪽으로 버클을 젖힌 다음(②), 제자리에 클릭하고 버클이 잠기도록 누릅니다(③). 케이스가 올바르게 밀봉되었는지, O 링이 제자리에 있는지, 이물질이 접촉면에 끼지 않았는지 확인합니다(📖 23).



☑ 케이스 열기

케이스를 열기 전에 완전히 건조되고 먼지가 없는지 확인하십시오. 수중에서 케이스를 사용한 후, 민물로 씻어 모래나 기타 이물질을 없애고 나서 부드럽고 마른 천으로 완전히 말립니다. 케이스에 남은 물이나 모래, 다른 이물질이 케이스를 열었을 때 내부로 들어가지 않도록 합니다. 수중에서 버클이나 버클 분리 버튼을 절대 조작하지 마십시오.

카메라를 케이스에서 뺄 때 떨어뜨리지 않도록 주의합니다.

구성

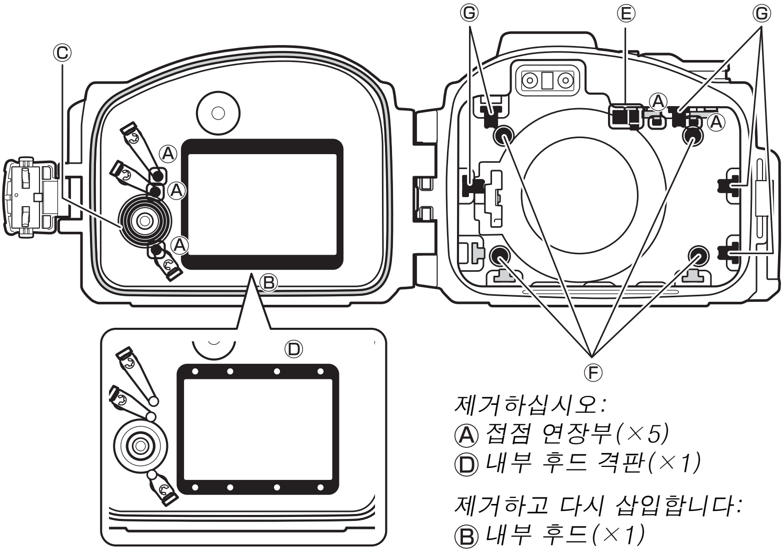
출하 시 케이스는 J4와 사용하도록 구성되었습니다. 이 케이스에는 떼어낼 수 있는 부품이 있어 S2과 사용하도록 구성될 수 있습니다. 교체하는 동안에 부품을 떨어뜨리지 않도록 주의하십시오.

J4용 케이스 구성

케이스는 출하 시 J4와 사용하도록 구성되었습니다. 케이스를 J4와 사용할 때 구성을 변경하지 마십시오.

S2용 케이스 구성

케이스를 S2과 사용하려면 아래와 같이 구성하십시오.



제거하십시오:
Ⓐ 접점 연장부(×5)
Ⓓ 내부 후드 격판(×1)

제거하고 다시 삽입합니다:
Ⓑ 내부 후드(×1)

제거하고 거꾸로 하고 다시 삽입합니다:
Ⓒ 멀티 셀렉터 접촉부(×1)
Ⓔ 전원 스위치 연결부(×1)
Ⓕ 전면 쿠션 (×4)
Ⓖ 측면 쿠션(×5)

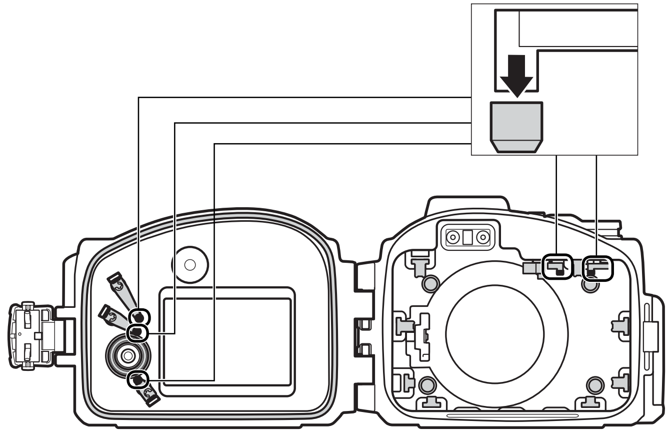
☑ 중요!

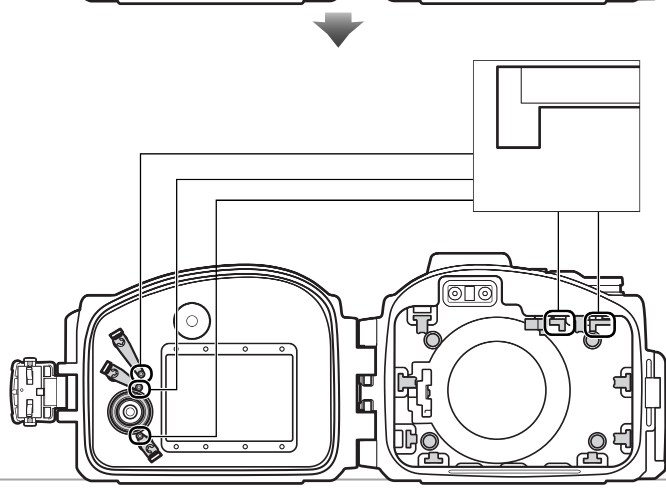
모든 부품이 단단히 설치되었는지 확인하십시오. 떼어낼 수 있는 부품을 완전히 삽입하지 않으면 카메라를 잃거나 누수나 손상을 초래할 수 있습니다. 부품을 교체할 때, 밝은 장소에서 작업하고 손가락이나 손톱이 다치지 않도록 주의하십시오.

Kr

케이스를 S2와 사용할 때, 접촉 연장부, 내부 후드, 내부 후드 격판을 뺀 다음 내부 후드를 다시 삽입하십시오.

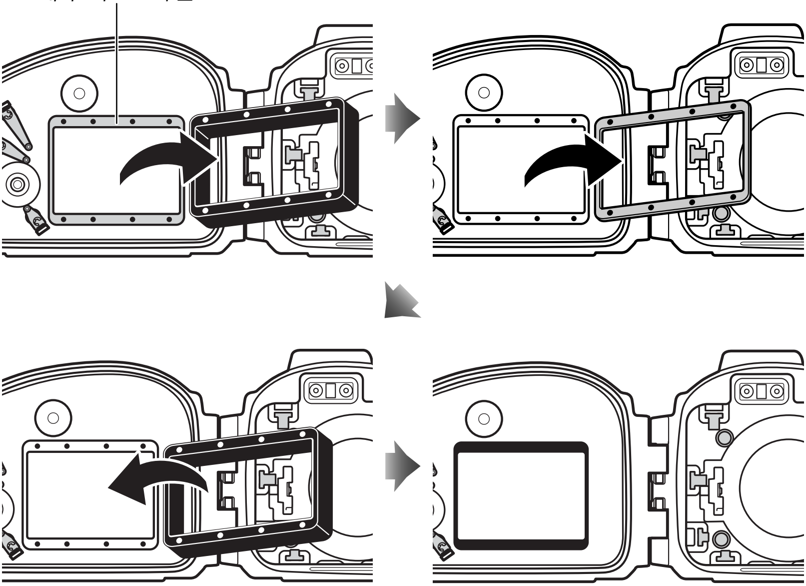
Ⓐ 접점 연장부(×5)
접점 연장부를 제거합니다.





Ⓑ 내부 후드(×1)/Ⓓ 내부 후드 격판(×1)

케이스를 S2와 사용할 때, 내부 후드와 내부 후드 격판을 뺀 다음 내부 후드를 다시 삽입하십시오.



✔ 중요!

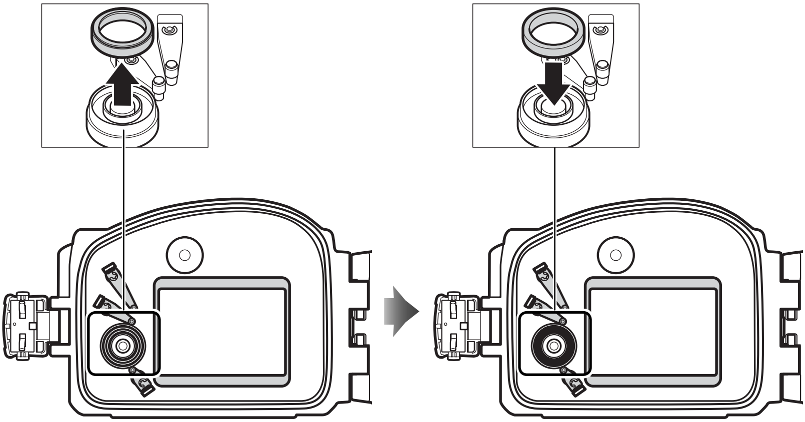
케이스를 S2와 사용할 때 접점 연장부와 내부 후드 격판은 필요하지 않습니다. 격판을 빼서 안전한 곳에 보관하십시오.

Kr

S2 사용자는 멀티 셀렉터 및 전원 스위치 연결부, 전면 측면 쿠션 등을 빼고, 거꾸로 하고 나서, 다시 삽입하십시오.

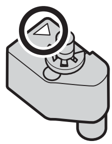
Ⓒ 멀티 셀렉터 접촉부(×1)

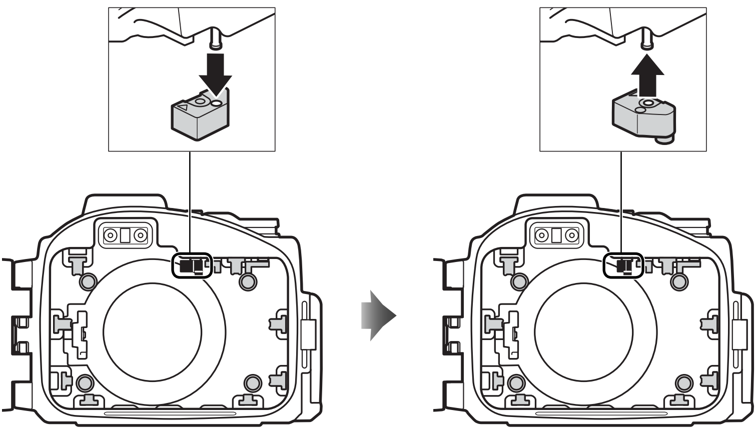
접촉부를 빼고 나서 보이는 방향대로 다시 삽입합니다.



Ⓔ 전원 스위치 연결부(×1)

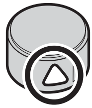
접점을 빼서 삼각형 맨 위 구멍에 다시 삽입하십시오.

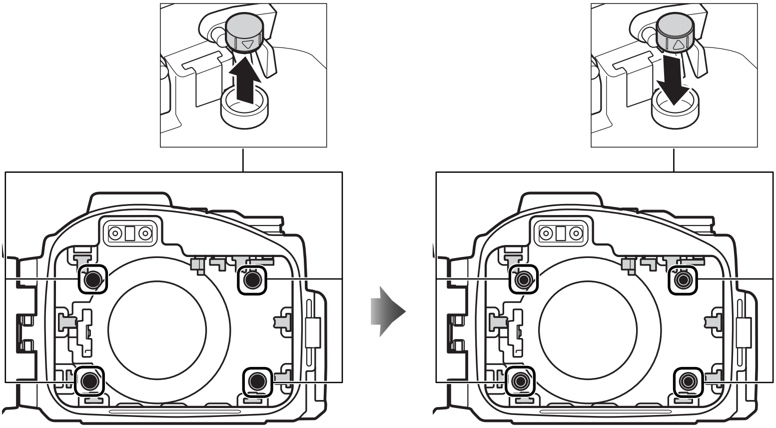




Ⓕ 전면 쿠션 (×4)

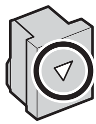
쿠션을 빼서 삼각형 꼭대기 모서리가 위를 향하도록 해서 다시 삽입합니다.

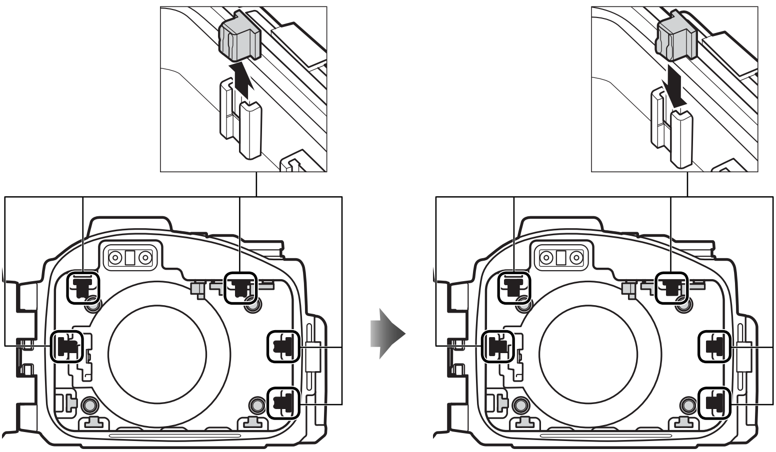




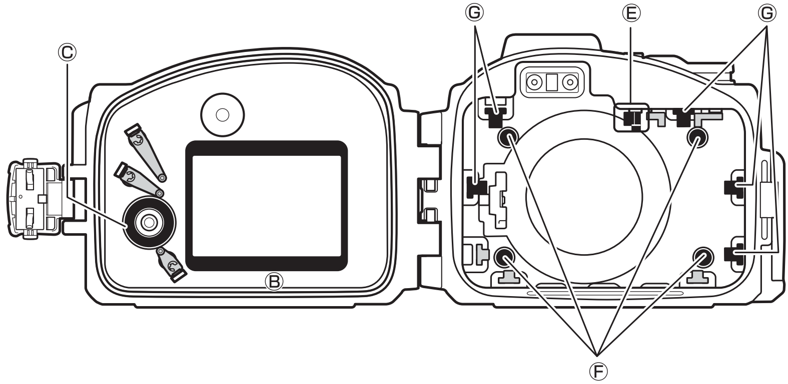
Ⓖ 측면 쿠션(×5)

쿠션을 빼서 삼각형 꼭대기 모서리가 아래를 향하도록 해서 다시 삽입합니다.





아래 그림은 S2과 사용하도록 구성된 후의 케이스를 보여주고 있습니다.



Ⓐ 멀티 셀렉터 접촉부(×1)
Ⓑ 내부 후드(×1)
Ⓔ 전원 스위치 연결부(×1)
Ⓕ 전면 쿠션(×4)
Ⓖ 측면 쿠션(×5)

케이스를 J4와 사용하려면, 부품을 원래 위치대로 복원하십시오.

예비 누수 확인

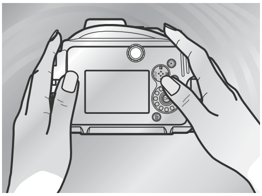
카메라를 케이스에 넣기 전에, 케이스를 잠그고 물속에 담그어 아래 설명대로 누수를 확인하십시오.

중요!

카메라를 케이스에 넣기 전에, 카메라가 정상적으로 작동하고 케이스가 누수되지 않은지 확인합니다. 사용하기 전에 누수를 확인하지 않으면 카메라에 수리할 수 없는 손상이 생길 수 있습니다. 케이스에 금이 가거나 손상되면 누수가 발생할 수 있습니다. 사용하기 전에 케이스에 균열이나 기타 손상이 있는지 확인하고 균열이나 손상이 발견되면 니콘 서비스 지정점에 문의하십시오.

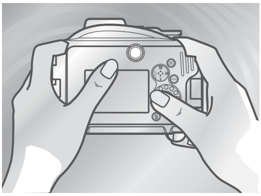
1 케이스를 잠그고 물속에 담급니다.

케이스를 잠그고 나서 서서히 물속에 담가 케이스에서 공기가 새어나가는지 확인합니다. 2, 3초간 케이스를 물에 담가 놓고 거품이 빠져나가는지 확인합니다. 약 1m 깊이나, 욕조, 양동이 등 물이 얕은 곳에서 케이스를 시험합니다. 작동 온도 범위 0–40° C를 초과할 수 있기 때문에 뜨거운 물을 사용하지 마십시오.



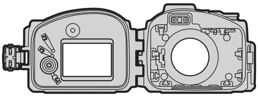
2 컨트롤을 시험합니다.

케이스를 물에 담그고 2, 3 분간 수중에서 컨트롤을 작동하여 거품이 빠져나가는지 확인합니다.



3 케이스 안에 물이 있는지 확인합니다.

케이스를 물 밖으로 꺼내 부드럽고 마른 천으로 완전히 말린 다음, 케이스를 열어 물이 있는지 확인합니다. 케이스 안에 물이 들어갔다면, O 링을 확인하십시오(📖 15, 22–23). 누수의 원인을 파악할 수 없는 경우 니콘 서비스 지정점에서 케이스를 점검하십시오.



Kr

렌즈 준비

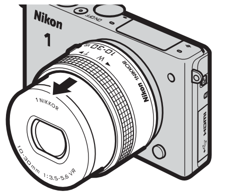
1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 또는 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 렌즈를 사용합니다. 다른 렌즈는 사용할 수 없습니다.

1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 렌즈

WP-ZG1020 줌 기어 슬리브와 WP-IS1000 내부 반사 방지 스티커를 부착합니다.

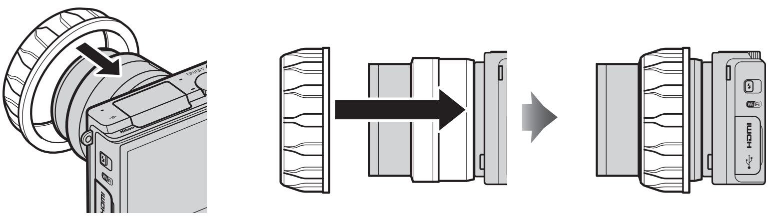
1 렌즈를 부착하고 펼칩니다.

카메라가 켜질 때 렌즈가 자동으로 펼쳐집니다.



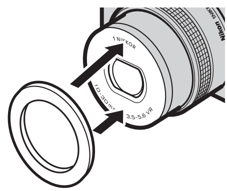
2 줌 기어 슬리브를 부착합니다.

멈출 때까지 슬리브를 렌즈쪽으로 곧장 밀어줍니다.



슬리브를 부착한 후 위치를 조정하여 줌 링을 자유롭게 돌릴 수 있도록 합니다.

3 내부 반사 방지 스티커를 부착합니다.



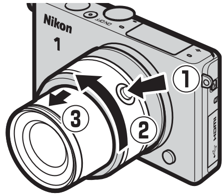
보이는 것처럼 스티커를 렌즈 전면에 부착합니다(스티커가 부착되지 않으면, 부착 면을 축축한 천으로 닦아줍니다). 스티커가 부착되지 않으면, 렌즈 앞쪽의 글씨가, 방수 케이스 렌즈 윈도우 안쪽에서 반사되어, 사진에 나타날 수 있습니다. 스티커를 다시 사용할 수 있습니다. 사용하지 않을 때 원래 자리에 다시 부착해 놓습니다.

4 카메라를 끕니다.
렌즈가 자동으로 수납됩니다.

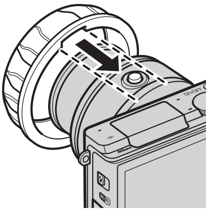
1 NIKKOR 11-27.5mm f/3.5-5.6 렌즈

WP-ZG1010 줌 기어 슬리브와 WP-IR1010 내부 반사 방지 링을 부착합니다.

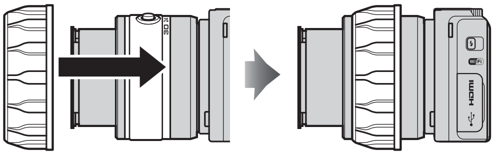
1 렌즈를 부착하고 펼칩니다.
수납식 렌즈 배럴 버튼을 누른 상태에서 (①), 줌 링을 돌려 렌즈를 펼칩니다(②). 렌즈가 펼쳐지면 카메라가 자동으로 켜집니다. 2 단계로 진행하기 전에 카메라를 끕니다.



2 줌 기어 슬리브를 부착합니다.



슬리브 안쪽의 슬롯과 수납식 렌즈 배럴 버튼을 일치시킵니다.

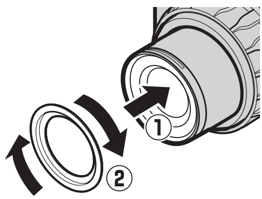


멈출 때까지 슬리브를 렌즈쪽으로 곧장 밀어줍니다.

슬리브를 부착한 후 위치를 조정하여 줌 링을 자유롭게 돌릴 수 있도록 합니다.

Kr

3 내부 반사 방지 링을 부착합니다.
그림처럼 링을 렌즈의 전면에 부착합니다. 링이 부착되지 않으면, 렌즈 앞쪽의 글씨가, 방수 케이스 렌즈 윈도우 안쪽에서 반사되어, 사진에 나타날 수 있습니다.

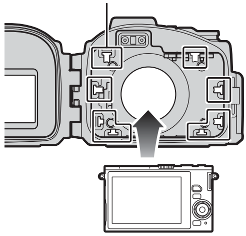


카메라를 케이스에 넣기

수중 촬영을 위해 카메라를 준비합니다.

1 배터리와 메모리 카드를 삽입합니다.
메모리 카드와 완전히 충전된 배터리를 삽입하십시오.

2 카메라를 삽입합니다.
렌즈 윈도우에 렌즈를 놓고 카메라 가이드에 카메라를 중앙에 오게 합니다.

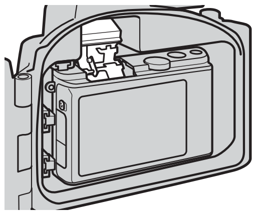


☑ 카메라 스트랩

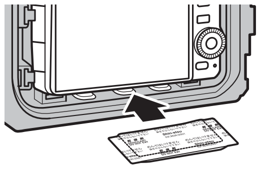
카메라 스트랩이 접촉면에 끼지 않도록 하기 위하여, 카메라를 케이스에 놓기 전에 스트랩을 반드시 제거하십시오.

☑ 수중 플래시

별매 SB−N10 수중 플래시를 사용하려면, 카메라를 케이스에 넣기 전에 카메라 내장 플래시를 올리십시오. 일단 카메라가 케이스에 놓인 상태에서는 플래시가 스스로 올라오지 않을 수 있습니다.



3 건조제를 삽입합니다.
케이스 내부에 생기는 응결을 방지하려면 카메라와 케이스의 바닥 사이에 제공된 실리카겔(건조제)을 삽입합니다. 건조제를 앞쪽으로 밀어 넣어 케이스를 닫을 때 끼지 않도록 합니다. 잘못 넣으면 케이스에 누수가 생길 수 있습니다.



건조제 바꾸기

사용된 건조제는 습기를 흡수하지 못합니다. 케이스를 사용할 때마다 매번 건조제를 바꾸시길 권장합니다(□ 25).

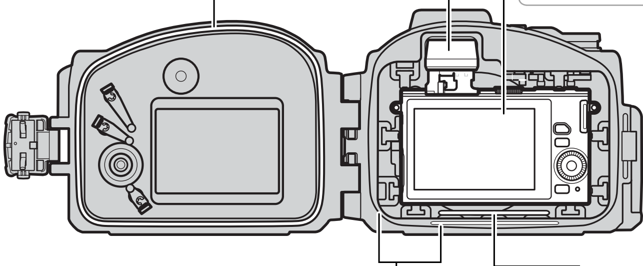
Kr

4 최종 확인을 확인합니다.

링을 확인하십시오.
- 갈라지거나 손상되었습니까? 교체하십시오.
- 뒤틀어져 있거나 제자리에 있지 않습니까? 다시 놓으십시오.
- 머리카락, 먼지, 모래, 기타 이물질을 제거합니다.

내장 플래시를 확인합니다.
If 수중 플래시를 사용할 때 내장 플래시가 올려지는지 확인합니다. 아니면 플래시가 내려져 있는지 확인합니다.

카메라를 확인합니다.
- 카메라가 올바른 방향인지 확인하십시오 (□ 14).
- 카메라 스트랩을 제거합니다.



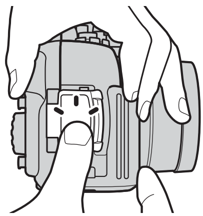
O 링 접촉면과 방수가드를 확인하십시오.
액체, 머리카락, 먼지, 모래, 기타 이물질을 제거합니다.

건조제를 확인합니다:
건조제가 정확하게 놓여 있는지 확인합니다 (□ 14).

렌즈를 확인합니다:
- 줌 링이 부드럽게 돌아가고 줌을 조절합니까? 그렇지 않다면, 줌 기어 슬리브를 다시 놓습니다.
- 내부 반사 방지 스티커나 링이 제자리에 있는지 확인합니다(□ 12, 13).

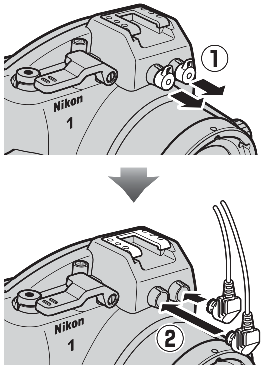
5 케이스를 닫습니다.

케이스를 닫고 잠급니다.



수중 플래시

방수 케이스는 광섬유 케이블 소켓이 2개 있어, 별매 SB-N10 수중 플래시를 별매 SC-N10A 수중 광섬유 케이블로 연결하여 이를 카메라의 내장 플래시로 작동시킬 수 있습니다. 수중 플래시를 사용할 때, 광섬유 케이블 소켓 캡 하나를 제거하고(①, 캡이 없더라도 누수의 위험은 없지만, 사용하지 않는 소켓의 캡은 제자리에 그대로 꽂아 두십시오), 수중 광섬유 케이블을 연결합니다(②). 플래시를 수중에서 사용하기 전에 시험 촬영을 하고 플래시가 정상적으로 작동하는지 확인하십시오. 자세한 내용은 카메라 설명서와 플래시와 함께 제공된 설명서를 참조하십시오.



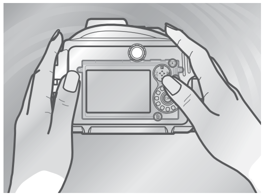
Kr

최종 누수 확인

카메라를 넣고 케이스를 닫은 후에 누수가 되는지 최종 확인을 합니다.

중요!

사용하기 전에, 카메라가 정상적으로 작동하고 케이스가 누수되지 않은지 확인합니다. 사용하기 전에 누수를 확인하지 않으면 카메라에 수리할 수 없는 손상이 생길 수 있습니다.



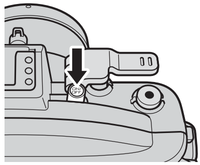
케이스를 물속에 담가 "예비 누수 시험"에 설명된 대로 누수를 확인하십시오 "예비 누수 확인"(📖 11). 확인을 마친 후, 케이스를 열어 건조제가 말라 있고 물이 들어가지 않았는지 확인합니다. 누수가 파악되면 카메라와 케이스를 즉시 완전히 말리고 O 링이 그대로인지 케이스가 제대로 봉인되었는지 확인합니다. 누수의 원인을 파악할 수 없는 경우 니콘 서비스 지정점에서 케이스를 점검하십시오.

Kr

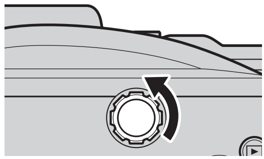
사진 촬영

아래의 단계를 따라 수중에서 사진을 촬영합니다.

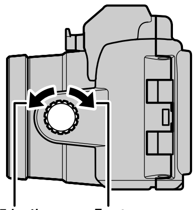
1 카메라를 켭니다.
방수 케이스에 있는 전원 스위치를 눌러 카메라를 켭니다. 전원 램프에 초록불이 들어오고 모니터가 켜집니다(카메라를 끄려면, 전원 스위치를 다시 눌러 모니터가 꺼졌는지 확인합니다).



2 모드를 선택합니다.
모드 다이얼을 돌려 모드를 선택하거나 (J4), MENU 버튼을 누르고 메뉴에서 모드를 선택합니다(S2). 모드를 선택하는 자세한 내용은 카메라 설명서를 참조하십시오.

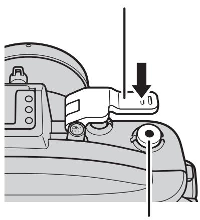


3 촬영 구도를 잡습니다.
줌 다이얼을 돌려 확대나 축소합니다.



4 사진을 촬영합니다.
사진: 셔터 레버를 부드럽게 눌러 카메라 셔터 버튼을 반누름하여 초점을 맞춘 다음 셔터 레버를 완전히 눌러 사진을 촬영합니다.

동영상: 동영상 녹화 버튼을 누르면 녹화가 시작되거나 종료됩니다.



Kr

수중 촬영

수중 촬영의 최적 시간은 태양이 바로 머리 위에 있을 때 입니다(수중에서 촬영한 사진은 푸른색을 띨 수 있습니다). 강한 광원으로 반사광이 화상에 나타날 수 있습니다. 촬영 전에 모니터를 확인하고 필요 시 각도를 변경합니다. 촬영하는 동안 손가락이나 다른 물체가 렌즈 창을 가리지 않도록 하며 내쉬는 기포가 구도 안에 들어오지 않도록 합니다. 카메라를 사용하지 않을 때 렌즈 윈도우 위에 앞캡을 갖다놓습니다.

AF 보조광

카메라가 방수 케이스 안에 있으면 AF 보조광을 사용할 수 없습니다.

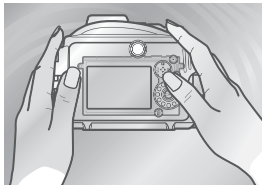
전원 자동 OFF

지정된 시간 동안 아무 작업도 하지 않으면 모니터가 꺼지고 전원 램프가 깜박입니다. 모니터가 꺼진 후 지정된 시간 동안 아무 작업도 하지 않으면, 카메라는 자동으로 꺼집니다. 자세한 내용은 카메라 설명서를 참조하십시오.

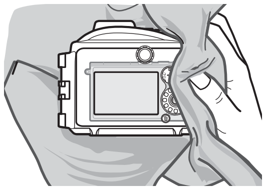
사용 후

케이스를 청소하고 카메라를 꺼냅니다.

1 케이스를 씻습니다.
사용 후 가능한 빨리 케이스를 청소합니다. 케이스를 열거나 카메라를 빼지 않은 상태로 민물로 케이스를 씻습니다.



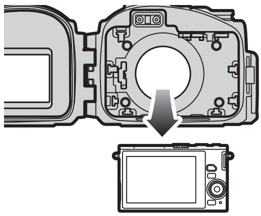
2 건조하게 말리십시오.
부드럽고 건조한 천으로 케이스 외부를 완전히 말립니다.



☑ 케이스 말리기

버클, 컨트롤이나 스트랩 연결부에 있을지 모르는 물도 주의 깊게 제거해주십시오.

3 카메라를 빼냅니다.
카메라를 빼낸 다음 부드럽고 마른 천으로 케이스 내부를 닦습니다. 케이스의 내부를 물로 씻지 마십시오.



☑ 카메라를 뺄 때

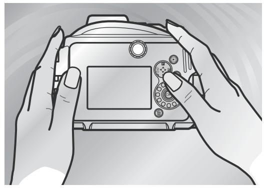
수중에서 버클이나 버클 분리 버튼을 절대 조작하지 마십시오. 케이스를 열기 전에 손이 말라 있고 소금이나 모래가 없는지 확인하십시오. 모래가 날리거나 물보라가 있는 곳에서 케이스를 열지 마십시오. 카메라를 뺄 때 기기를 떨어뜨리지 않도록 주의하며 머리, 신체, 다른 물체에서 물방울이 케이스 안으로나 카메라에 떨어지지 않도록 합니다. 물이 카메라나 수중 케이스 안으로 떨어지면, 부드러운 천으로 바로 물기를 제거합니다. 카메라나 배터리를 만지기 전에 손이 말라 있고 소금이나 모래가 없는지 확인하십시오.

케이스를 바른 자세로 둡니다. O 링이나 O 링 접촉면을 아래로 하고 케이스가 열린 채로 두지 마십시오.

Kr

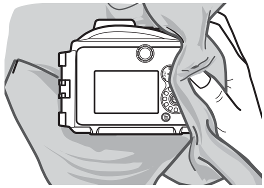
4 케이스를 민물에 담급니다.

케이스를 다시 봉하고 2–3 시간 동안 민물에 담가 둡니다. 소금을 제거하기 위해 컨트롤을 몇 차례 조작합니다. 소금이 컨트롤에서 말라버리면 컨트롤이 작동하지 않던가 금속 부분이 부식되어 케이스에 누수가 생길 수 있습니다.



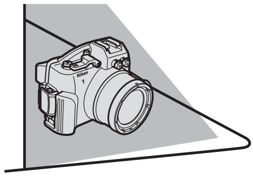
5 건조하게 말리십시오.

부드럽고 건조한 천으로 케이스를 완전히 말립니다. 소금이 묻은 천으로 닦지 마십시오.



6 케이스를 그늘에서 말리십시오.

그늘지고 환기가 잘 되는 곳에서 케이스를 말리십시오.



Kr

☑ 태양이나 열에 노출되지 않도록 하십시오.

헤어드라이기나 다른 열원을 사용하지 않거나 케이스를 직사광선에 노출하지 마십시오. 열로 인해 케이스나 O 링의 성능이 떨어져서 누수의 원인이 될 수 있습니다.

☑ 케이스의 내부 청소 시

블로어, 브러시, 또는 젖은 부드러운 천으로 케이스 내부에 있는 이물질을 제거합니다. 물기는 젖은 부드러운 천으로 제거할 수 있습니다. 천을 사용할 때는 케이스를 긁지 않도록 주의하고, 불필요한 힘을 가하지 마십시오. 물이나 세제, 특정 화학 약품을 사용하지 마십시오. 물 때문에 렌즈 윈도우 내부 코팅이 손상될 수 있습니다.

유지 보수

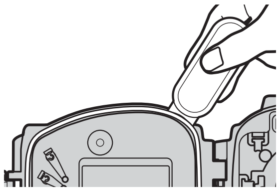
여기서는 O 링과 방수 케이스를 유지 보수하는 방법을 설명합니다.

O 링 취급

WP-N3은 O 링을 사용하여 방수 접촉면을 만듭니다. O 링을 잘못 취급하면 누수가 생길 수 있습니다. 매 번 사용한 후 아래 설명대로 O 링의 상태를 확인한 다음 케이스를 열 때마다 잠시라도 O 링에 이물질이 있는지 확인합니다.

1 O 링을 제거합니다.

O 링 리무버로 아래 그림처럼 O 링을 제거합니다.

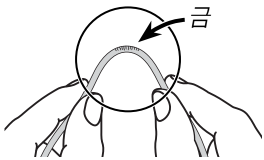


☑ 힘이나 뾰족한 물체를 사용하지 마십시오.

손톱이나 금속 도구 등 날이 있거나 뾰족한 물체를 사용해서 O 링이 강제적으로 늘어나거나 손상되었다면 케이스가 누수될 수 있습니다.

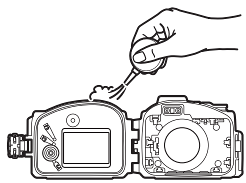
2 O 링을 점검합니다.

부드러운 천으로 오래된 실리콘 그리스와 기타 이물질을 제거하여 O 링에 작은 조직이나 실 등을 남기지 않도록 주의합니다. O 링을 부드럽게 구부려서 금이 가거나 다른 손상이 있는지 확인합니다.



3 O 링 홈을 점검합니다.

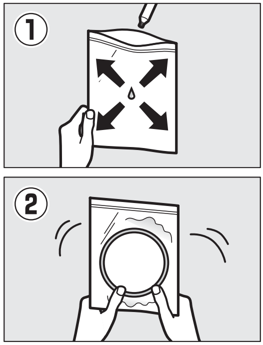
블로어나 면봉으로 방수가드 및 O 링과 접촉되어 있는 케이스의 모든 부품에서 이물질을 제거합니다. 면봉으로 남겨진 작은 실오라기도 반드시 제거하십시오.



Kr

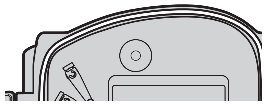
4 O링에 그리스를 바릅니다.

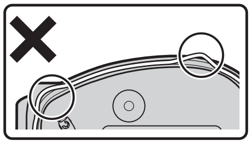
O 링에 적절하게 그리스를 바르지 않으면 금이 가거나 벗겨질 수 있어 누수의 원인이 됩니다. 표면이 말라 보이면 O 링에 그리스를 바릅니다. 먼저, 비닐봉지에 실리콘 그리스 1 cm 정도 짜서 넣고 손가락으로 비닐봉지 전체에 그리스를 바릅니다(①). 다음, O 링을 삽입하고 비닐봉지를 문질러 링에 그리스를 바릅니다(②). WP-N3 용도로 지정된 그리스만 사용하십시오. O 링에 섬유를 남길 수 있기 때문에 천이나 종이를 사용하여 그리스를 바르지 마십시오. 그리스를 너무 많이 바르면 이물질이 O 링에 더 쉽게 달라붙어 케이스가 제대로 봉인되지 않을 수 있습니다.



5 O 링을 제자리에 다시 놓습니다.

O 링과 홈에 이물질이 없는지 확인한 다음 O 링을 놓아, 홈에서 고르지 않게 늘어나거나 꼬이지 않게 또한 삐져 나오지 않게, O 링 홈 주의로 전반적으로 고르게 되도록 합니다.





✔ O 링

O 링은 주기적으로 교체해 주어야 합니다. O 링이 손상되었거나 금이 갔거나 틀어졌거나 탄력성을 잃었다면 즉시 교체하십시오. O 링은 적어도 1년에 한 번은 교체해야 합니다. 본 제품에 사용하도록 고안된 실리콘 그리스만 사용하십시오. 바꿀 O 링과 실리콘 그리스는 니콘 카메라 소매점이나 니콘 서비스 대리점에서 구입할 수 있습니다. COOLPIX나 NIKONOS O 링 윤활제(그리스)를 사용하지 마십시오.

✔ 청소

케이스나 O 링을 청소할 때 세제 또는 알코올이나 시너 같은 휘발성 약품은 사용하지 마십시오. 이 주의사항을 지키지 않으면 케이스나 O 링에 손상이 생길 수 있습니다.

저장

케이스를 시원하고 환기가 잘 되는 곳에 보관하고 케이스를 열어 O 링의 성능이 떨어지지 않게 하십시오. 장기간 케이스를 사용하지 않을 때는 O 링을 빼내어 오래된 모든 실리콘 그리스를 제거하고, 새 실리콘 그리스를 발라준 다음, O 링을 새 플라스틱 비닐봉지에 넣어 탄력성을 유지하도록 해줍니다. 직사광선이 내리쬐는 곳이나 온도가 급격히 변하거나 습도가 아주 높은 곳에 케이스를 보관하지 마십시오. 불꽃 가까이나 인화성 물질이 있는 곳, 또는 나프탈렌이나 좀약과 함께 보관하거나, 다른 물건 아래에 케이스나 O 링을 보관하지 마십시오.

Kr

서비스

적어도 1년에 한 번정도 니콘 서비스 지정점에서 케이스를 점검받는 것이 좋습니다. 이 서비스는 유료입니다.

사양

최대 수심	45m
카메라 사용 온도	0° C–40° C
크기(W × H × D)	돌출부를 제외하고 약 156.4 × 115.8 × 113.0 mm
무게	바디만 약 735 g

사양이나 외관이 이 제품에 대한 개선 사항으로 고지 없이 변경될 수 있습니다. Nikon은 본 설명서의 오류로 인해 발생할 수 있는 손해에 대해 책임지지 않습니다. 별도로 명시하지 않는 한, 모든 측정치는 CIPA(Camera and Imaging Products Association, 카메라영상기기공업회)가 지정한 온도에서 이루어집니다. 즉 23 ±3 ° C 입니다.

별도로 구매 가능한 액세서리

Nikon은 다음의 옵션과 교체 항목을 제공합니다.

- 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 렌즈용 WP-ZG1020 줌 기어 슬리브
- 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 렌즈용 WP-ZG1010 줌 기어 슬리브
- 1 NIKKOR VR 10–30mm f/3.5–5.6 PD-ZOOM 렌즈용 WP-IS1000 내부 반사 방지 스티커
- 1 NIKKOR 11–27.5mm f/3.5–5.6 렌즈용 WP-IR1010 내부 반사 방지 링
- WP-O1100 O 링
- WP-OR1000 O링 리무버
- WP-LC1000 앞캡
- WP-AN1000 스트랩
- WP-AN2000 앞캡 스트랩
- WP-G1000 실리콘 그리스
- WP-S1000 실리카젤 건조제
- SB-N10 수중 스피드라이트
- SC-N10A 수중 광섬유 케이블
- SK-N10A 수중 브라켓

NIKON CORPORATION

Printed in Japan

SB4A01(93)

6MHW0493-01 G13